

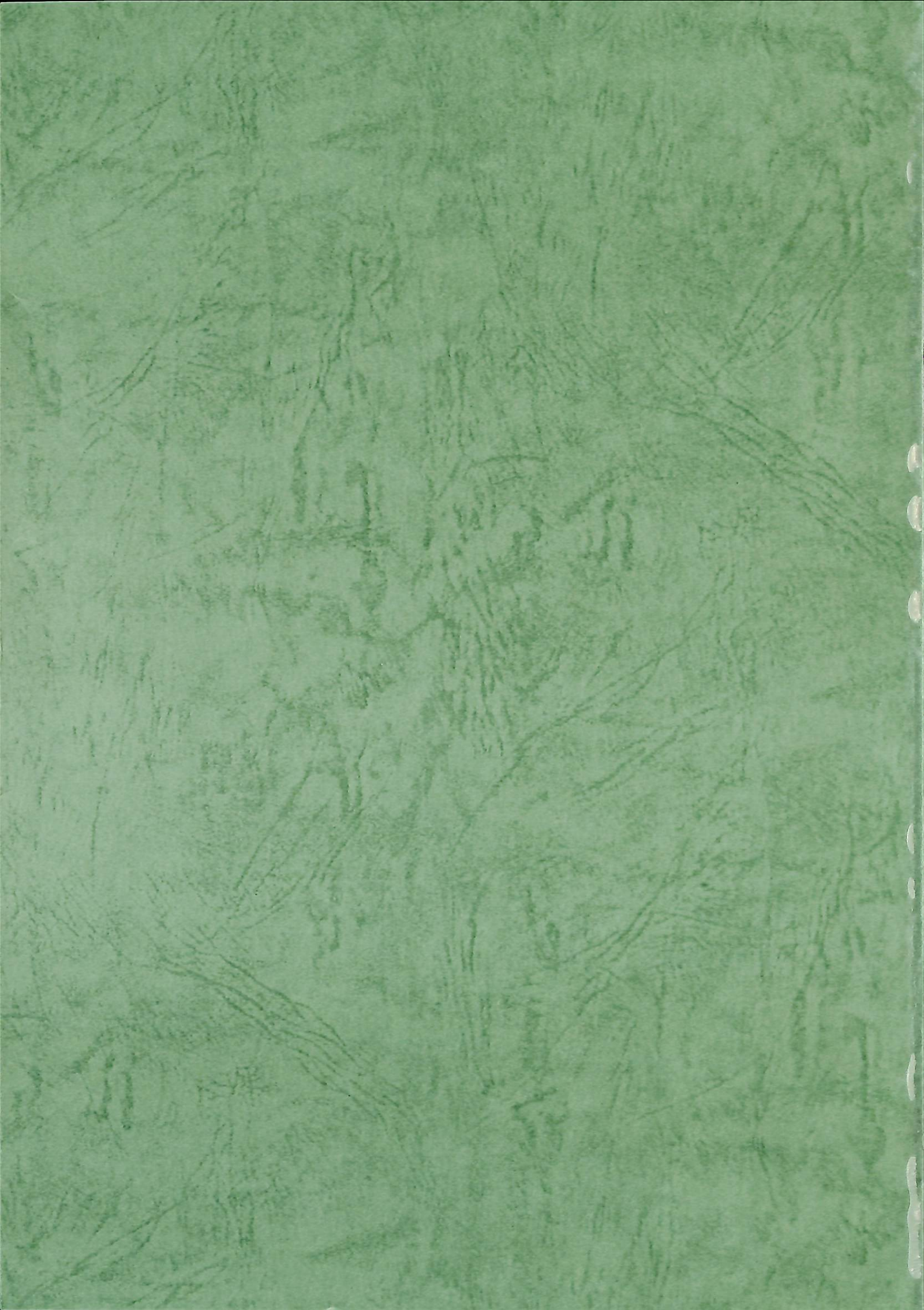
第3回

サラリーマンの生活と生きがいに関する調査

～サラリーマンシニアを中心として～

平成14年9月

財団法人 シニアプラン開発機構



ごあいさつ

当財団では、概ね 50 歳以上のサラリーマンおよびサラリーマンOBを「シニア」と位置付け、シニアの豊かで実りある生活の実現に資するため、各種の調査研究事業等を行っています。その一環として、精神的に豊かな生活を送るために重要とされる「生きがい」の研究を目的に平成3年度に「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査～サラリーマンシニアを中心として～」(第1回調査)を実施しました。その後も5年ごとの定期調査と位置付け、平成8年度に第2回調査を実施し、さらに今回、平成13年度に第3回調査を実施しました。

本報告書では過去10年間・3時点(第1回、第2回、第3回調査)の調査データに基づき、「生きがい」の3時点間の変化を把握することを主要な柱の一つとしています(本報告書「調査結果の詳細」第I部「生きがい変化のトレンド」)。前回調査報告書では2時点間(第1回、第2回調査)の変化しか把握できませんでしたが、今回調査により継続的な動向把握が可能となりました。

また、今回は、より深いデータ分析を目指して、ワーキンググループ(作業部会)の4名のメンバーに、仕事・会社、家庭、女性、心理的・内面的側面という4つの視点から分析・執筆をお願いしました(本報告書「調査結果の詳細」第II部第1章～第4章)。

今回の調査結果は基本的に第1回～第3回調査の蓄積データ(アンケート調査有効回収件数累計9千件強)に基くものであり、今後の超高齢社会における様々な問題を研究する際の資料として有用かつ貴重なものと考えられ、各方面でご活用いただければ幸いです。

本調査研究に対して、貴重な助言・指導をいただいた「第3回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」研究会(別掲)の東清和座長をはじめとする委員の方々、とくに分担執筆いただいた4名の委員の方々に厚く御礼申し上げます。

また、ご多忙中にもかかわらず今回の調査にご協力いただいた全国の厚生年金基金ならびにその加入者・受給者の皆様方に心から感謝申し上げます。

平成14年9月

財団法人シニアプラン開発機構

「第3回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」研究会メンバー(敬称略)

座長：	東 清和	早稲田大学教育学部教授
副座長：	西村 純一	東京家政大学文学部教授
	佐藤 眞一	明治学院大学文学部助教授
	佐藤 百合子	産能短期大学能率科教授
	亀山 直幸	日本労働研究機構常任参与
	濱口 晴彦	早稲田大学人間科学部教授
	古都 賢一	名古屋大学大学院法学研究科助教授
	五阿弥 宏安	読売新聞社論説委員
	小島 浩	アイ・ビー・エム・ワールド・トレード・アジア・コーポレーション人事担当ディレクター
	本田 一	厚生年金基金連合会企画事業部長
	町田 是年	三菱信託銀行厚生年金基金常務理事
	荒川 三郎	東京建築設計厚生年金基金常務理事

事務局：厚生年金基金連合会上席調査役 佐藤 仁之
財団法人シニアプラン開発機構主任研究員 喜田 勇作
主任研究員 正木 祐司
主任研究員 畑 敏夫(～平成14年1月)
主任研究員 仲山 大輔(～平成14年6月)
主任研究員 田村 健一(平成14年2月～)

- (注) 1. 各メンバーの所属・役職は研究会が発足した2001年8月時点のものである
2. 下線を付けたメンバーはワーキンググループ(作業部会)メンバーを兼務している。

○本報告書の執筆分担について:

・「調査結果の詳細」の第II部の第1章～第4章については、以下の通りワーキンググループのメンバー4名が執筆した。

第II部	第1章	亀山 直幸	日本労働研究機構常任参与
	第2章	西村 純一	東京家政大学文学部教授
	第3章	佐藤 百合子	産能短期大学能率科教授
	第4章	佐藤 眞一	明治学院大学文学部助教授

・その他の部分については、ワーキンググループ・メンバー等のご指導のもとに事務局が作成した。

○本報告書のタイトルについて:

男女共同参画社会の到来に伴い、本報告書タイトル中の「サラリーマン…」を「サラリーマンおよびサラリーウーマン…」等に変更するかどうかについて検討したが、①従来から本件調査では「マン(man)」を「人間・人類」(男性、女性の両方を含む)の意味で使用していること、②本件調査は定期・継続調査で、タイトルはいわば固有名詞であり、名称変更による識別の混乱を避けたいこと等から従来のタイトルを維持することとした。

目次

ごあいさつ

目次

調査の概要	1
1. 調査実施概要	3
(1) 実施概要	3
(2) 調査の内容	7
(3) 調査設計	10
(4) 回収結果	10
(5) 本報告書を読むにあたって	10
(6) 分析標本の基本属性	13
2. 調査結果の要約と示唆	19
はじめに	19
(1) 生きがい変化と生活の諸側面	20
①生きがいの変化	20
②生きがいと生活の諸側面	25
(2) 定年退職に向けて必要だと思うこと	30
①定年退職に向けて必要だと思うこと	30
②ニーズの傾向の多様性	31
③個別化へ向けた動き	32
(3) 21世紀のサラリーマンの生活と生きがいへの示唆	33
①21世紀の社会情勢	33
②21世紀のサラリーマンの生活と生きがいへの示唆	36
調査結果の詳細	39
第I部 生きがい変化のトレンド	41
はじめに	41
1. 生きがいの変化	42
2. 生きがいの多様性	63
3. 過去10年間における生きがい度の変化との関係	65
4. 世代による差の確認	69

第Ⅱ部 生活の諸側面と生きがい	75
第1章 仕事、企業、退職と生きがい(執筆:日本労働研究機構常任参与 亀山直幸)	75
1. 生きがい構成要素と「仕事・企業」	75
2. 組織・仕事・出世への志向類型	76
3. 4類型と退職準備	78
4. 小括	84
第2章 夫婦関係と生きがい(執筆:東京家政大学文学部教授 西村純一)	85
はじめに	85
1. 本人と配偶者との評定の一致度	85
2. 夫婦関係を示す尺度の構成	86
3. 夫婦の親密度の規定要因	87
4. 夫婦関係と生きがいとの関連	92
5. 介護意識と夫婦関係との関連	96
6. 小括	103
第3章 女性の生きがいと生活(執筆:産能短期大学能率科教授 佐藤百合子)	107
はじめに	107
1. 女性サンプルの特性(フェイス項目)	107
2. シングル女性の生きがい	109
3. 生きがいとそれを構成する場	111
4. 地域とのネットワーク	115
5. 個人のネットワークと活動	117
6. 女性配偶者とシングル女性との比較	119
7. 家族との関連—介護	121
8. 終わりに	122
第4章 心理的・内面的側面と生きがい(執筆:明治学院大学文学部助教授 佐藤眞一)	123
1. 性格特性の分析	123
2. 性格特性と生きがい	131
3. 生活満足度	134
4. まとめ	139
第Ⅲ部 定年退職に向けて必要だと思うこと	141
はじめに	141
1. 個人としての対応	141
2. 企業としての対応	148
3. 社会としての対応	151
4. まとめ	155
調査データ	159
1. 調査票(本人用および配偶者用)	161
2. 単純集計結果	183
3. 自由記述の回答の集計結果	311
4. 調査票質問項目一覧表	215

調査の概要

1. 調査実施概要

2. 調査結果の要約と示唆

1. 調査実施概要

(1)実施概要

①調査の背景と目的

当調査における目的は、定年移行期前後におけるサラリーマンの生活と生きがいを分析し、21世紀におけるサラリーマンの生活と生きがいのあり方を探り、対応を検討することである。

サラリーマンにとって定年は人生の大きな転換点であり、定年移行期前後の生活の変化、またそれに伴う生きがい観の変化は、その後の人生、あるいは家族との関係において大きな影響を与えるものと考えられる。特に世界有数の長寿大国であるわが国においては、超高齢社会を考えるうえで、重要な問題と言えるであろう。

当財団では、そのような観点から、すでに過去2回、この問題を調査研究テーマとして採りあげた。第1回調査を平成3年度に実施し、その5年後の平成8年度に第2回調査を実施している。

そして、第2回調査から5年後の平成13年度に、第3回目となる「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」を実施することとした。

このような流れの中で、今回の調査は、単に現時点におけるサラリーマンの生活と生きがいを分析するだけでなく、過去2回の調査結果との比較により、この10年間における軌跡、すなわち、社会環境等の変化との関係、世代の推移との関係の中での生活と生きがいの変化を追跡することを意図している。

換言すれば、今回の調査は、当財団における「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」の過去10年間の集大成としての意味を持つものであり、10年間の変化を動的に把握するものであり、21世紀におけるサラリーマンの生活と生きがいを予測する上で、有意義なものとなると考えられる。

具体的には、定年移行期前後のサラリーマン（以下、サラリーマンシニアという）の生きがいとそれに関連する生活上の要因（仕事、会社との関わり、友人、家族、近隣との関係など）をアンケートにより調査する。その際、定年移行期を中心とするライフステージをサラリーマンシニア前期（35～44歳）、定年準備期（45～54歳）、定年期（55～64歳）、年金生活期（65～74歳）の4つの階層に分け、バランスよく対象者を構成し年齢推移に伴う変化を追跡する枠組みとする。

また、この10年間の時代変動、世代の交代の中でこのような変化がどのように動いたかを分析し、21世紀のサラリーマンシニアの生活と生きがいのあり方を探り、対応の検討等を図っていく。

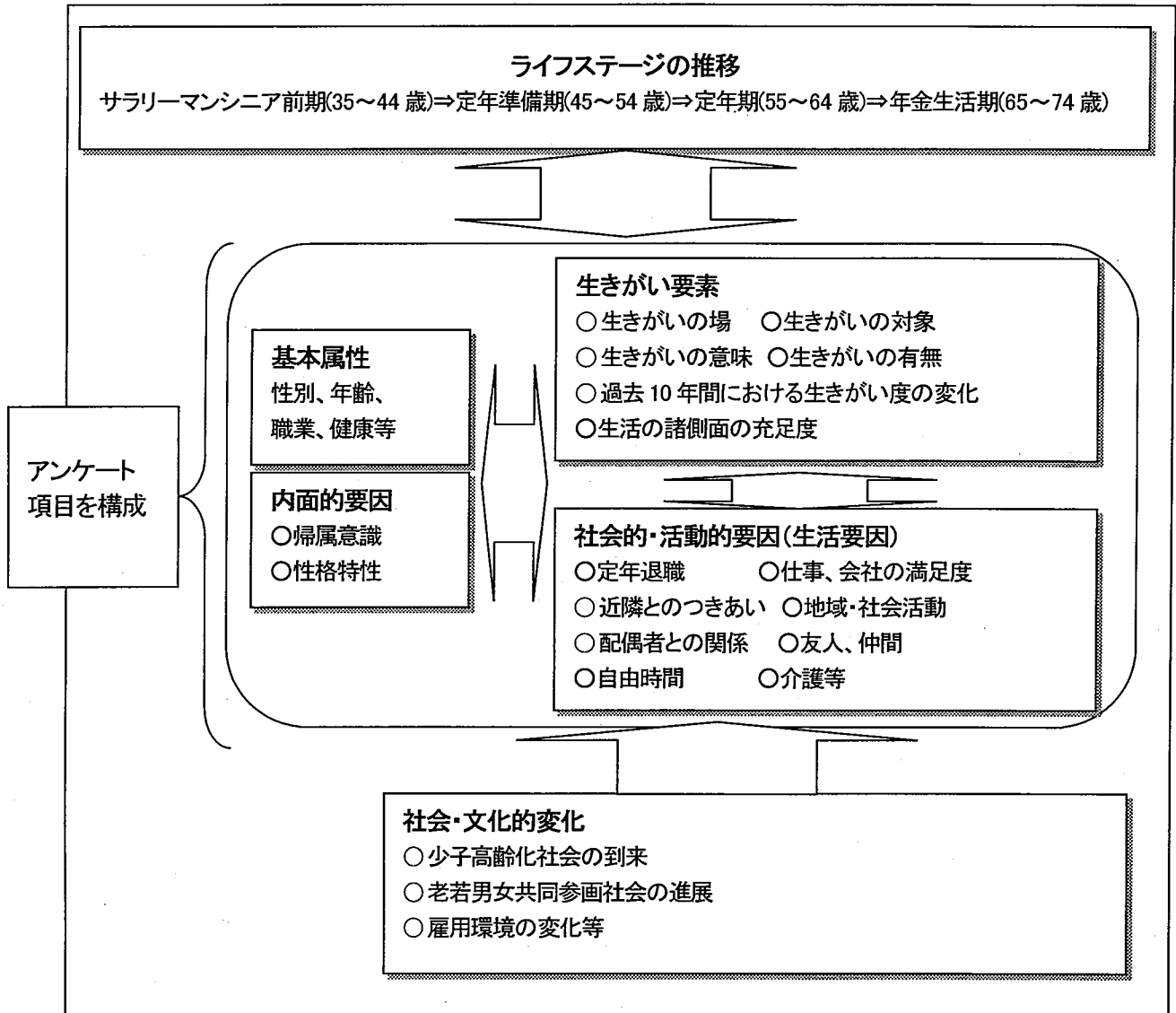
周知の通り、日本の社会環境はこの10年間で大きく変化し、サラリーマンの「生活」と「生きがい」も変化を余儀なくされている。この変化がどのような動きに帰結するのか、あるいは帰結すべきなのかを考えることは意義深いことである。

21世紀の高齢化社会が長寿社会と呼ばれるものであるならば、健康な壮年期がより長く続くことを前提に、サラリーマンシニアの「生活」と「生きがい」を再構築することが考えられる。すなわち、より長い壮年期の獲得により、仕事、家庭、社会活動、余暇、学習などをマルチに視野に置いたライフスタイルの多様化、個別化が可能となり、それに連動する「生きがい観」「生きがい対象」の多様化、個別化が予想される。

本調査では、このような21世紀のサラリーマンシニアの「生活」「生きがい」のあり方を探り、対応の検討、示唆等に結びつくものになりたいと考える。

②調査の枠組み

当調査の枠組みは以下の通りである。



調査の枠組みについては、「生きがい要素」と「社会的・活動的要因」、および「基本属性・内面的要因」の相互関係を見る構造としている。

これらの外枠として、サラリーマンシニア前期から年金生活期に至る35～74歳の「ライフステージの推移」、および調査時点間の「社会・文化的変化」を置き、「生きがい要素」、「社会的・活動的要因」、「基本属性・内面的要因」三者との関係を見ることとする。

a. 生きがい要素

本調査の中核であり、個人が感じている生きがいの意味とそのような生きがいの有無、生きがいの場、生きがいの対象を何に求めているか、また、生活面における充足度、過去10年間における生きがい度の変化の回想を聞くことにより、個々の生きがい像を具体化する。

b. 社会的・活動的要因(生活要因)

仕事、会社との関係、仕事以外の近隣とのつきあい、地域・社会活動、配偶者との関係、友人関係などを聞くことで、どのような生活上(社会関係や日常活動上)の要因が生きがい要素に影響するかを見る。

c. 基本属性、内面的要因

また、性別、年齢、職業、健康状態などの「基本属性」、および、会社人、家庭人などの立場のうちの立場を重視しているかという帰属意識、性格、行動特徴など個人の「内面的要因」が生きがい要素にどのように影響するかを見る。

d. ライフステージの推移

定年移行期前後におけるサラリーマンのライフステージを、サラリーマンシニア前期（35～44歳）、定年準備期（45～54歳）、定年期（55～64歳）、年金生活期（65～74歳）の4つの区間に分け、ライフステージの推移が、生きがい要素、関連する要因にどのように関係するかを見ていく。

e. 社会・文化的変化

調査時点間における社会環境および生活価値観などの文化的要素の変化を意味する。このような変化が生きがいの規定要因にどう関係するかを見ていく。

③分析の視点

この10年間における生活と生きがいの変化を、サラリーマンの主要な生活側面である以下の諸側面およびそれら事象の裏側にある心理的側面の4点から分析し、背景にあるライフステージの推移、社会・文化的変化との関係を探る。

- a. 仕事、会社の場との関係
- b. 家庭の場（配偶者、家族）との関係
- c. その他の場（地域・社会活動、余暇活動、友人関係等）との関係
- d. 心理的・内面的側面との関係

a. 仕事、会社の場との関係

仕事、会社面における生きがいの変化を、重要なライフイベントである「定年」を一つのメルクマールとして分析する。

この10年間において雇用環境は大きく変わった。例えば、早期退職制度、転籍・出向制度等もより低年齢に適用され、早い段階で選択が迫られ、定年の持つ意味も大きく変わっている。このような社会的変化との関係の中で、会社への帰属意識、仕事面の生きがい度はどう変わったかを考える。

b. 家庭の場との関係

配偶者との関係、その他家族との関係において、生きがいがどのように変化しているか。社会環境の変化、世代による文化的価値観の変化が、生きがいの変化にどう関係するかを考える。

c. その他の場との関係

仕事、会社面、家庭面以外での生きがいの変化を、地域への帰属の在り方、NPO等社会団体への帰属と活動、個人的友人等のネットワーク、自己啓発、趣味等の余暇活動との関係において分析する。

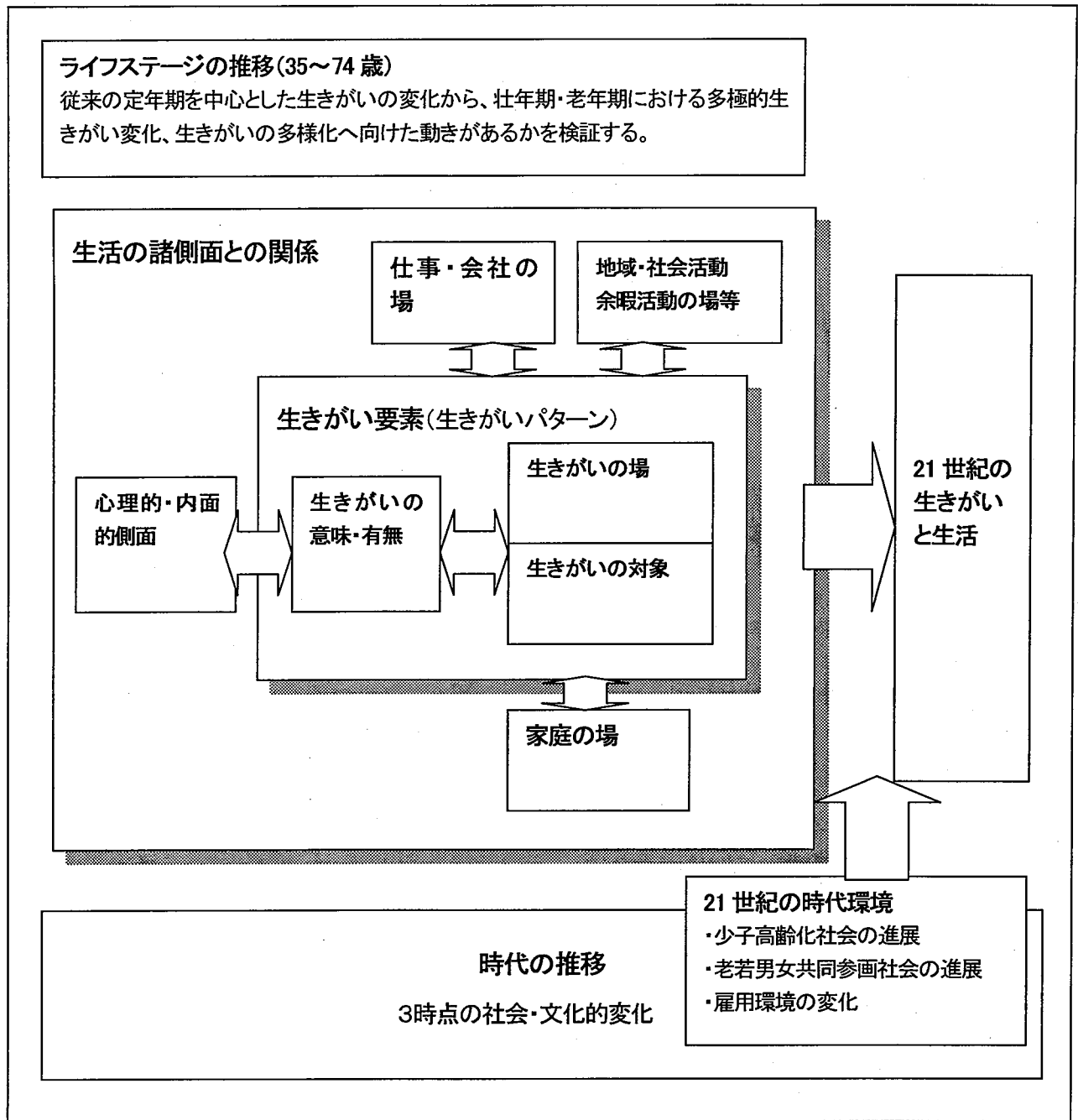
仕事とNPO活動との並立、定年準備期における価値観の変化など、従来の会社・仕事人間からの変化があるのか、あるいは会社、仕事以外の生きがいの対象として、どのようなものがあるのかを見ていく。

d. 心理的・内面的側面との関係

対人特性、行動特性と生きがいの関係を分析し、生きがいに心理的・内面的要因がどう関係するかを考察する。

以上の分析を通じて、過去10年間における生きがい要素と諸要因との関係、推移を明らかにし、21世紀に到来する高齢化社会の中でのサラリーマンシニアの「生活」と「生きがい」のあり方を予測していきたいと考える。

生きがい変化分析の枠組みは以下の通りである。



(2)調査の内容

本調査では前回調査・前々回調査と同様、サラリーマン本人に対する【本人調査】及びサラリーマンの配偶者に対する【配偶者調査】を実施している。今回調査の調査項目は以下の通りである。なお、5年ごとの継続調査であり、時点間比較を行う観点から、基本的な調査項目については変更を加えないことを原則としたが、長寿化・高齢化社会の到来を背景に介護、長寿化に関する質問を追加するなど、一部調査項目の追加・変更を行っている。

①本人調査

領域	問番号	調査項目
1. 生きがい要素		
(1)生活充足感	問 4	生活充足感(健康 / 時間的ゆとり/ 経済的ゆとり/ 精神的ゆとり等)
(2)生きがいの場	問 6	生きがいの構成要素取得の場(家庭/ 仕事・会社/ 地域・近隣等)
(3)生きがいの意味	問 9	生きがいの意味(生活の活力やほりあい/ 心の安らぎや気晴らし等)
(4)生きがいの有無	問 9 付	生きがいの有無
(5)生きがいの対象	問 10	生きがいの対象(仕事/ 趣味/ スポーツ/ 学習活動/ 社会活動等)
(6)生きがい度の変化	問 11	過去 10 年間ににおける生きがい度の変化
2. 社会的・活動的要因		
(1)近隣とのつきあい	問 1	近所づきあいの程度
(2)地域・社会活動	問 2	現在所属して、実際に活動しているグループ・団体
	問 2 付	役職、世話役、リーダーをしたことのあるグループ・団体
	問 3	地域活動やボランティアなど、社会に役立つ活動への参加の有無
	問 3 付 1	活動の分野
	問 3 付 2	活動に参加した理由
	問 3 付 3	現在参加していない理由
	問 3 付 4	今後の参加希望の有無
(3)自由時間	問 5	自由時間の有無
	問 5 付	自由時間の過ごし方
(4)友人関係	問 12	友人・仲間の有無
	問 12 付 1	友人・仲間と知り合った関係
	問 12 付 2	定年後につきあうようになった友人・仲間
(5)夫婦関係	問 13	夫婦関係の現状(頼りにしている/ 理解している/ 愛している等)
	問 14	夫婦関係で大切なこと(頼りにしあうこと/ 理解しあうこと等)
(6)家族の介護	問 15(1)	「自分の親」が寝たきり等になった場合の対応
	問 15(2)	「配偶者の親」が寝たきり等になった場合の対応
	問 15(3)	配偶者が寝たきり等になった場合の対応
	問 15(4)	自分が寝たきり等になった場合の対応
	問 15 付 1	介護により、自分の生活などを犠牲にしたくないかどうか
	問 15 付 2	介護が、自分自身の生きる喜びや目的になるかどうか
(7)長寿に対する意識	問 16(1)	長寿に対する意識(いつまでも生きたい/ 健康なうちだけでよい等)
	問 16(2)	何歳以上まで生きたら長生きと思うか
(8)定年	問 17	「定年退職」のイメージ
	問 18	職業生活からの引退時期についての年齢規範
	問 19	定年経験の有無、定年・退職年齢
	問 20(1)	定年後の生活設計の有無(現役)
	問 20(2)	定年後の経済基盤として重視するもの(現役)
	問 20(3)	定年後の不安(現役)
	問 20(4)	希望する定年後の生活(現役)

	問 20(5) 問 20(6) 問 20(7) 問 21(1) 問 21(2) 問 21(3) 問 21(4) 問 21(5) 問 21(6) 問 21(7) 問 21(8) 問 21(8)付 問 21(9) 問 22(1) 問 22(1)付 問 22(2) 問 22(3) 問 22(4) 問 23 問 23 付	定年までの勤務希望(現役) 退職後の就業希望(現役) 退職後の就業予想(現役) 退職前の職種(OB) 退職前の勤務先の企業規模(OB) 退職前の就業状況についての満足度(OB)(仕事内容/就業形態等) 退職後の就業の有無・形態(OB) 希望していた定年後の就業(OB) 定年後の生活設計の有無(OB) 定年後の不安(OB) 定年後の生活問題(OB) 定年が契機になっておこった生活問題(OB) 希望していた定年後の生活(OB) 定年退職へ向けて必要な個人的対応 定年退職へ向けて準備している(していた)こと 定年退職へ向けて必要な企業の対応 定年退職へ向けて必要な社会的対応 定年に関する意見・提案(自由記述形式) 仕事や会社とのかかわりについての考え方 現在の就業状況についての満足度(仕事内容/就業形態/地位等)
3. 内面的要因 (1)帰属意識 (2)性格	問 7 問 8	重視している立場(家庭人の立場/職業人の立場/地域人の立場等) 性格(人との関係を大切にする/自分の世界や個性を大切にする等)
4. 基本属性	F1 F2 F3 F4 F5 F6 F7 F7 付 F8 F9 F10 F10 付 1 F10 付 2 F11 F12 F13(1) F13(2) F13(3) F13(4)	性別、年齢 居住地 居住年数 最終学歴 未既婚 世帯構成 住居形態 住宅ローン支払の有無 現在の健康状態 過去5年間に経験したライフイベント(自分・家族の入院・逝去、転職等) 世帯年収 主な収入源 収入面での余裕の有無 現在の暮らし向き 現在の就業形態 現在の職種 現在の勤務先の企業規模 現在の1週間の勤務日数 現在の1日の勤務時間

②配偶者調査

領域	問番号	調査項目
1. 生きがい要素		
(1)生きがいの場	問4	生きがいの構成要素取得の場(家庭/仕事・会社/地域・近隣等)
(2)生きがいの意味	問5	生きがいの意味(生活の活力やはりあい/心の安らぎや気晴らし等)
(3)生きがいの有無	問5付	生きがいの有無
(4)生きがいの対象	問6	生きがいの対象(仕事/趣味/スポーツ/学習活動/社会活動等)
2. 社会的・活動的要因		
(1)近隣とのつきあい	問1	近所づきあいの程度
(2)地域・社会活動	問2	現在所属して、実際に活動しているグループ・団体
	問2付	役職、世話役、リーダーをしたことのあるグループ・団体
	問3	地域活動やボランティアなど、社会に役立つ活動への参加の有無
	問3付1	活動の分野
	問3付2	活動に参加した理由
	問3付3	現在参加していない理由
	問3付4	今後の参加希望の有無
(3)夫婦関係	問7	夫婦関係の現状(頼りにしている/理解している/愛している等)
	問8	夫婦関係で大切なこと(頼りにしあうこと/理解しあうこと等)
(4)家族の介護	問9(1)	「自分の親」が寝たきり等になった場合の対応
	問9(2)	「配偶者の親」が寝たきり等になった場合の対応
	問9(3)	配偶者が寝たきり等になった場合の対応
	問9(4)	自分が寝たきり等になった場合の対応
	問9付1	介護により、自分の生活などを犠牲にしたいかどうか
	問9付2	介護が、自分自身の生きる喜びや目的になるかどうか
(5)長寿に対する意識	問10(1)	長寿に対する意識(いつまでも生きたい/健康なうちだけでよい等)
	問10(2)	何歳以上まで生きたら長生きと思うか
(6)定年	問11	配偶者の職業生活からの引退時期についての年齢規範
	問12(1)	配偶者の定年後の生活設計についての夫婦での話合いの有無(現役)
	問12(2)	配偶者の定年後の不安(現役)
	問13(1)	配偶者の定年後の生活設計についての夫婦での話合いの有無(OB)
	問13(2)	配偶者の定年後の生活問題(OB)
	3. 基本属性	問14
	問15	現在の就業形態

(3) 調査設計

① 調査対象者と標本数

全国の厚生年金基金の加入者・受給者及びその配偶者。対象者の年齢を以下の4層に分け、各層1,100人強、計4,505人を対象とした。なお、性別構成は厚生年金基金加入者・受給者の性別構成比に準じて、各年齢層とも男性3：女性1の比率とした。

- ・35～44歳 サラリーマンシニア前期
- ・45～54歳 定年準備期
- ・55～64歳 定年期
- ・65～74歳 年金生活期

② 標本抽出

厚生年金基金の加入者・受給者から層化無作為抽出した。層は以下の3層である。

- ・厚生年金基金：企業の業態や設立形態など、基金の構成を反映させて175基金を選定した。
- ・年齢：基金ごとに、前記対象者の年齢区分4層。各層から同数を抽出。
- ・性別：基金・年齢層ごとに男女の2層。男性3：女性1の比率で抽出。

③ 調査実施方法 郵送配布・郵送回収法（無記名）。

④ 調査実施時期 平成13年10月17日～平成13年12月18日

⑤ 調査委託先 社団法人 中央調査社

(4) 回収結果

【本人調査】 有効回収数 3,189件、有効回収率70.8%。

【配偶者調査】 有効回収数 2,525件、配布数4,505件に対する有効回収率56.0%。

注：【配偶者調査】の有効回収数の内訳は、【本人調査】とも回収されたもの2,514件、
【配偶者調査】のみ回収されたもの11件である。
【本人調査】回答票中の有配偶者数2,597件に対して、96.8%が夫婦ともに回収された。

(5) 本報告書を読むにあたって

① 本報告書における用語について

・「サラリーマン」「現役」「OB」:

本調査においては、男女の企業在職者及びその経験者を「サラリーマン」と呼ぶ。

そのうち、現在企業に勤務中の現役の人を「サラリーマン現役」と呼び、定年等の退職経験者を「サラリーマンOB」と呼ぶ。なお、「サラリーマンOB」は、退職後の再就職の有無を問わない。

② 本報告書における数値の取り扱いについて

本報告書では、数値を以下のように扱っている。

- ・調査結果の数値は、原則としてパーセンテージ(%)で表記した。%値の母数は、原則としてその質問項目の該当標本数(回答すべき人の数)である。
- ・%値は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記してある。したがって、単数回答の合計が必ずしも100%でない場合(99.9%または100.1%など)がある。同様に、複数の選択肢をあわせた場合や小計等では、内訳の%値を単純加算した数値と0.1%異なる場合がある。

③標本誤差について

調査結果の数値（比率）を読む際に、比率の差が統計的に有意であるかどうかを考慮する目安として、以下の早見表を参照されたい。

a. 1つの回答比率(%)の誤差範囲

1つの回答比率における誤差の範囲は、以下の早見表に示すとおりである。

1つの回答比率における誤差範囲

n 比率	50	100	200	300	400	500	700	1000
10% or 90%	± 8.5%	± 6.0%	± 4.2%	± 3.5%	± 3.0%	± 2.7%	± 2.3%	± 1.9%
20% or 80%	±11.3%	± 8.0%	± 5.7%	± 4.6%	± 4.0%	± 3.6%	± 3.0%	± 2.5%
30% or 70%	±13.0%	± 9.2%	± 6.5%	± 5.3%	± 4.6%	± 4.1%	± 3.5%	± 2.9%
40% or 60%	±13.9%	± 9.8%	± 6.9%	± 5.7%	± 4.9%	± 4.4%	± 3.7%	± 3.1%
50%	±14.1%	±10.0%	± 7.1%	± 5.8%	± 5.0%	± 4.5%	± 3.8%	± 3.2%

n 比率	1250	1500	1750	2000	2500	3000	3200
10% or 90%	± 1.7%	± 1.5%	± 1.4%	± 1.3%	± 1.2%	± 1.1%	± 1.1%
20% or 80%	± 2.3%	± 2.1%	± 1.9%	± 1.8%	± 1.6%	± 1.5%	± 1.4%
30% or 70%	± 2.6%	± 2.4%	± 2.2%	± 2.0%	± 1.8%	± 1.7%	± 1.6%
40% or 60%	± 2.8%	± 2.5%	± 2.3%	± 2.2%	± 2.0%	± 1.8%	± 1.7%
50%	± 2.8%	± 2.6%	± 2.4%	± 2.2%	± 2.0%	± 1.8%	± 1.8%

b. 2つの回答比率(%)の差

(i) 1つの標本の場合

1つの標本において、2つの回答比率の間に差があるかどうかをみる場合、例えば、ある質問の全体の結果で、ある質問に対する回答「A」の比率p、回答「B」の比率qとで差があるといえるかどうかをみる場合に用いる。

<使い方> (注意) %で表示されているものを、100%=1として比率になおして用いる。

- 1) 比率p、qから、 $p+q$ 、及び $|p-q|$ を計算する。
- 2) 標本数nと $p+q$ により、表から誤差範囲を読み取る。
- 3) $|p-q|$ がその誤差範囲内であれば有意差（統計的に意味のある差）があるとはいえ、誤差範囲を超えていれば、有意差があるといえる。

2つの比率の差の検定表(1つの標本の場合、片側検定、 $\alpha=0.05$)

n p+q	50	100	200	300	400	500	700	1000	1250	1500	1750	2000	2500	3000	3200
0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.
0.10	074	052	037	030	026	023	020	016	015	013	012	012	010	009	009
0.20	104	074	052	042	037	033	028	023	021	019	018	016	015	013	013
0.30	127	090	064	052	045	040	034	028	025	023	022	020	018	016	016
0.40	147	104	074	060	052	047	039	033	029	027	025	023	021	019	018
0.50	164	116	082	067	058	052	044	037	033	030	028	026	023	021	021
0.60	180	127	090	074	064	057	048	040	036	033	030	028	025	023	023
0.70	195	138	097	079	069	062	052	044	039	036	033	031	028	025	024
0.80	208	147	104	085	074	066	056	047	042	038	035	033	029	027	026
0.90	221	156	110	090	078	070	059	049	044	040	037	035	031	028	028
1.00	233	164	116	095	082	074	062	052	047	042	039	037	033	030	029
	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.

(ii) 2つの標本の場合

異なる2つの標本における回答比率に差があるかどうかをみる場合、例えば、ある質問に対する回答「A」のサラリーマン現役の比率pとサラリーマンOBの比率qとの間に差があるといえるかどうかをみる場合に用いる。

<使い方>

- 1) 2つの標本 n_1 と n_2 から、調和平均表により調和平均(H)を求める。
- 2) 比率pとqの加重平均Pを算出する。ただし、サラリーマン現役とOBとの比較や男女別の比較などの場合には、全体の比率を近似的にPとして用いてもかまわない。
- 3) 検定表により、HとPから誤差範囲を読み取る。
- 4) $|p - q|$ がその誤差範囲内であれば有意差があるとはいえず、誤差範囲を超えていれば、有意差があるといえる。

調和平均表

$n_1 \backslash n_2$	50	100	200	300	400	500	700	1000	1250	1500	1750	2000	2500	3000	3200
50	50														
100	67	100													
200	80	133	200												
300	86	150	240	300											
400	89	160	267	343	400										
500	91	167	286	375	444	500									
700	93	175	311	420	509	583	700								
1000	95	182	333	462	571	667	824	1000							
1250	96	185	345	484	606	714	897	1111	1250						
1500	97	188	353	500	632	750	955	1200	1364	1500					
1750	97	189	359	512	651	778	1000	1273	1458	1615	1750				
2000	98	190	364	522	667	800	1037	1333	1538	1714	1867	2000			
2500	98	192	370	536	690	833	1094	1429	1667	1875	2059	2222	2500		
3000	98	194	375	545	706	857	1135	1500	1765	2000	2211	2400	2727	3000	
3200	98	194	376	549	711	865	1149	1524	1798	2043	2263	2462	2807	3097	3200

2つの比率の差の検定表(2つの標本の場合、片側検定、 $\alpha = 0.01$)

$H \backslash P$	50	100	200	300	400	500	700	1000	1250	1500	1750	2000	2500	3000	3200
0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.
0.10 or 0.90	099	070	049	040	035	031	026	022	020	018	017	016	014	013	012
0.20 or 0.80	132	093	066	054	047	042	035	029	026	024	022	021	019	017	016
0.30 or 0.70	151	107	075	062	053	048	040	034	030	028	025	024	021	019	019
0.40 or 0.60	161	114	081	066	057	051	043	036	032	029	027	025	023	021	020
0.50	164	116	082	067	058	052	044	037	033	030	028	026	023	021	021
0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.	0.

(6)分析標本の基本属性

分析標本（有効回答者）の基本属性は以下のとおりである。【本人調査】及び【配偶者調査】をともに記すが、とくに記載のない場合は【本人調査】の基本属性である。

○性・年齢・定年経験・学歴

①性・年齢

【本人調査】

(%)

	標本数	性別小計		35～ 44歳	45～ 54歳	55～ 64歳	65～ 74歳	年齢 無回答	性別 無回答
		男性	女性						
今回調査	3,189	男性	74.4	15.1	18.0	20.7	19.7	0.8	1.3
		女性	24.3	5.9	6.3	6.1	5.5	0.5	
前回調査	2,909	男性	78.9	15.8	17.7	22.1	20.8	2.5	2.3
		女性	18.8	4.4	4.7	5.3	4.0	0.4	
前々回調査	3,051	男性	80.0	17.7	18.9	23.3	18.7	1.4	1.1
		女性	18.9	5.0	4.7	5.0	4.0	0.2	

【配偶者調査】

(%)

	標本数	性別小計		34歳 以下	35～ 44歳	45～ 54歳	55～ 64歳	65～ 74歳	75歳 以上	年齢 無回答	性別 無回答
		男性	女性								
今回調査	2,525	男性	13.2	0.1	2.1	3.4	3.6	3.2	0.6	0.1	1.9
		女性	85.0	4.0	18.2	23.6	27.2	11.1	0.3	0.5	
前回調査	2,430	男性	9.9	0.2	1.8	3.0	2.3	2.1	0.3	0.2	1.8
		女性	88.3	4.5	17.9	24.4	29.4	10.9	0.2	0.9	
前々回調査	2,573	男性	10.5	-	2.3	2.9	3.0	1.7	-	0.5	0.2
		女性	89.3	-	22.4	23.9	27.5	10.1	-	5.3	

②定年経験の有無

(%)

	標本数	定年前 (現役)	OB			無回答	
			小計	定年を過ぎた	定年前に退職した		
今回調査	全体	3,189	60.2	39.4	32.4	7.1	0.3
	男性	2,372	59.9	40.1	33.5	6.5	0.0
	女性	776	63.1	36.0	27.6	8.4	0.9
	35～44歳	672	98.8	0.9	-	0.9	0.3
	45～54歳	777	97.3	2.7	0.6	2.1	-
	55～64歳	855	51.6	48.2	36.8	11.3	0.2
	65～74歳	804	4.4	95.1	82.7	12.4	0.5
前回調査	2,909	63.0	35.9	29.6	6.3	1.1	
前々回調査	3,051	58.3	35.2	28.7	6.5	6.5	

③学歴

(%)

	標本数	小学校・高 等小学校・ 新制中学校	旧制中学・ 旧制高女・ 旧制実業・ 新制高校	旧制高校・ 高等師範・ 新制短大	大学・大学 院	専門学校・ 専修学校・ その他	無回答	
		今回調査	全体	3,189	9.0	36.4	5.1	40.0
今回調査	現役	1,920	5.9	31.1	5.9	47.8	5.5	3.9
	OB	1,258	13.7	44.7	4.0	28.5	3.3	5.9
前回調査	2,909	11.9	41.0	5.8	32.7	5.1	3.5	
前々回調査	3,051	14.7	43.8	7.3	27.6	4.6	2.0	

○職業

④現在の就業形態

(%)

		標本数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パートタイマーなど	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター	無職	その他	無回答
今回調査	全体	3,189	60.1	10.4	2.1	0.2	0.8	17.4	0.1	8.8
	現役	1,920	91.7	3.9	0.7	-	-	0.2	0.1	3.4
	OB	1,258	12.2	20.5	4.2	0.5	2.1	43.8	0.2	16.6
前回調査		2,909	63.7	9.4	2.8	0.4	1.0	17.5	1.9	3.3
前々回調査		3,051	67.1	9.9	2.6	0.3	0.8	16.6	*	2.8

(注) *印は、前回調査で新たに設定した選択肢。

⑤職種

(%)

		標本数	専門技術職	管理職	事務職	販売職	技能職・技術補助・作業員	サービス職	その他	無回答
今回	現役	1,849	5.7	41.4	40.5	2.4	8.4	1.0	0.3	0.3
	OB(退職前)	1,258	4.0	52.7	20.7	2.5	12.8	0.9	4.0	2.5
	OB(現在)	496	8.7	31.3	23.6	3.4	15.1	7.3	3.0	7.7
前回	現役	1,789	4.0	43.8	36.2	1.7	9.2	1.3	2.5	1.3
	OB(退職前)	1,044	4.6	54.9	16.7	1.3	12.6	1.1	3.2	5.6
	OB(現在)	500	6.2	31.6	20.4	3.6	11.6	2.4	14.2	10.0
前々回	現役	1,778	5.0	48.5	31.6	2.1	8.9	1.0	1.7	1.2
	OB(退職前)	1,075	3.6	56.4	16.1	1.2	14.6	0.5	1.8	5.9
	OB(現在)	587	4.9	37.3	21.3	2.4	12.1	2.4	7.5	12.1

⑥勤務先の企業規模

(%)

		標本数	~29人	30~99人	100~299人	300~999人	1000人以上	無回答
今回	現役	1,849	12.8	9.6	9.0	10.7	57.5	0.4
	OB(退職前)	1,258	7.0	6.4	8.2	7.9	68.0	2.5
	OB(現在)	496	29.6	15.7	13.1	10.7	19.4	11.5
前回	現役	1,789	11.2	10.8	11.3	11.2	54.9	0.7
	OB(退職前)	1,044	5.3	7.3	8.7	10.5	63.3	4.9
	OB(現在)	371*	29.1	20.5	15.1	12.4	20.2	2.7
前々回	現役	1,778	11.7	8.4	12.8	14.0	52.9	0.2
	OB(退職前)	1,075	5.6	7.5	9.6	12.1	61.9	3.3
	OB(現在)	495*	26.9	21.4	16.8	11.3	19.8	3.8

(注) * :「正規の社員・従業員」および「派遣・嘱託・パートタイマーなど」。

⑦職業特性(現役については現在の職業、OBについては退職前の職業)

(%)

		標本数	ホワイトカラー小計				その他・不明	ホワイトカラー以外・不明
			*1	高学歴 小計 *2	大都市 *3	その他・不明		
今回	全体	3,189	81.3	42.2	20.8	21.4	39.0	18.7
	現役	1,920	84.3	50.3	24.4	25.9	34.1	15.7
	OB(退職前)	1,258	77.3	30.4	15.6	14.8	47.0	22.7
前回	全体	2,909	78.4	35.2	16.5	18.7	43.2	21.6
	現役	1,832	81.1	39.4	17.7	21.7	41.8	18.9
	OB(退職前)	1,044	76.1	29.0	14.8	14.2	47.1	23.9
前々回	全体	3,051	76.4	31.8	17.0	14.7	44.6	23.6
	現役	1,778	85.0	38.1	20.0	18.1	46.9	15.0
	OB(退職前)	1,075	76.1	27.2	15.3	11.9	48.9	23.9

(注) * 1: ホワイトカラーは、上記⑤職種のうち「専門技術職」「管理職」「事務職」の合計。

* 2: 高学歴は、③学歴のうち「旧制高校・高等師範・新制短大」「大学・大学院」の合計。

* 3: 大都市は、⑩都市規模の「都区部・政令指定都市」のほか、東京都・神奈川県・埼玉県在住者全員を加えたもの。

⑧配偶者の職業【配偶者調査】

(%)

		標本数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パート・タイマーなど	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター	無職	その他	無回答
	サラマン本人が現役	1,495	20.3	29.2	4.4	2.1	0.1	36.0	4.0	3.9
	OB	1,012	5.1	15.5	4.5	2.5	0.4	47.3	11.0	13.6
	配偶者が									
	男性	333	51.7	9.3	9.6	0.9	0.3	24.3	0.3	3.6
	女性	2,145	8.6	26.4	3.8	2.5	0.2	43.9	8.0	6.6
前回調査		2,430	15.9	22.3	4.1	3.1	0.5	36.6	9.8	7.7
前々回調査		2,573	13.9	21.4	5.1	4.3	0.1	52.6	*	2.6

(注) * 印は、前回調査で新たに設定した選択肢。

○居住地

⑨居住地域

(%)

	標本数	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	無回答
今回調査	3,189	7.8	41.5	15.2	18.0	7.4	7.9	2.3
前回調査	2,909	6.7	27.4	28.4	19.9	7.6	6.1	4.0
前々回調査	3,051	8.9	37.1	14.3	19.3	10.4	7.7	2.4

⑩居住地の都市規模

(%)

	標本数	都区部・政令指定都市	その他の市	町・村	無回答
今回調査	3,189	27.6	60.9	8.0	3.5
前回調査	2,909	27.6	57.1	9.4	5.8
前々回調査	3,051	28.4	58.3	9.8	3.5

⑪居住年数

(%)

	標本数	5年未満	5～10年未満	10～20年未満	20～30年未満	30年以上	無回答
今回調査	3,189	10.3	11.0	18.3	21.2	37.6	1.7
前回調査	2,909	10.5	8.4	22.7	21.9	33.3	3.3
前々回調査	3,051	11.4	10.3	26.8	18.0	32.5	1.1

○家族・世帯・住宅

⑫未既婚

(%)

		標本数	未婚	有配偶	離別	死別	無回答
今回調査	全体	3,189	11.6	81.4	2.2	3.3	1.5
	男性	2,372	4.0	93.0	1.1	1.3	0.6
	女性	776	35.3	46.0	5.7	9.3	3.7
前回調査	全体	2,909	8.5	85.1	1.5	3.4	1.4
	男性	2,296	2.5	96.6	0.5	1.7	1.6
	女性	547	34.7	47.3	5.9	11.0	1.1
前々回調査	全体	3,051	5.8	89.7	1.3	2.1	1.0
	男性	2,440	1.0	97.8	0.4	1.0	1.2
	女性	578	26.1	60.7	5.5	7.1	0.5

⑬世帯構成

(%)

		標本数	ひとり暮らし	自分たち夫婦のみ	自分たち夫婦と未婚の子	自分たち夫婦と子ども夫婦	自分たち夫婦と親	その他	無回答
今回調査	全体	3,189	8.8	23.8	38.4	4.5	17.7	2.3	4.5
	男性	2,372	4.0	26.6	45.2	4.5	14.8	1.0	3.9
	女性	776	23.7	15.5	18.0	4.4	26.8	5.9	5.7
	35～44歳	672	10.3	10.9	45.8	1.0	28.9	1.3	1.8
	45～54歳	777	8.9	9.5	49.5	1.4	25.5	1.9	3.2
	55～64歳	855	7.0	27.7	40.2	3.5	13.1	2.7	5.7
	65～74歳	804	9.5	44.4	21.1	11.3	6.0	2.6	5.1
前回調査	2,909	6.6	24.1	39.1	5.1	15.8	5.9	3.5	
前々回調査	3,051	5.7	25.6	42.0	6.4	13.5	2.8	4.1	

⑭住居形態

(%)

	標本数	持ち家(一戸建て)	持ち家(分譲マンション等)	社宅・会社の寮	公社・公団・公営の賃貸住宅	民間の借家・マンション・アパート	その他	無回答
今回調査	3,189	66.6	14.8	3.9	3.5	6.3	0.4	4.5
前回調査	2,909	70.7	11.6	3.4	3.5	6.4	1.0	3.3
前々回調査	3,051	72.4	9.3	4.6	3.7	7.5	0.9	1.6

⑮住宅ローンの有無

(%)

	標本数	払っている		払っていない	無回答
			残り支払年数平均		
今回調査	3,189	32.0	15.4年	61.5	6.5
前回調査	2,909	-	-	-	-
前々回調査	3,051	34.1	12.8年	45.0	2.6

(注)本設問は前々回調査の質問項目に含まれており、前回調査では削除されたが、今回復活したものの。

○健康状態・年収・その他

⑯現在の健康状態

(%)

		標本数	非常に健康	まあ健康	注意点はあ るが、生活 に支障はな い	注意点があ り、生活に 制限がある	病気がち・ 療養中	無回答
今回調査	全体	3,189	10.6	51.5	28.4	3.4	1.7	4.4
	現役	1,920	10.9	54.8	27.0	2.6	1.1	3.5
	OB	1,258	10.3	46.4	30.6	4.6	2.5	5.6
前回調査		2,909	14.1	50.0	28.9	2.4	1.3	3.2
前々回調査		3,051	12.7	49.6	31.1	2.9	1.8	1.8

⑰世帯の年収

(%)

		標本数	～ 200万 円未満	200～ 300万 円未満	300～ 400万 円未満	400～ 500万 円未満	500～ 600万 円未満	600～ 800万 円未満	800～ 1000万 円未満	1000～ 1500万 円未満	1500万 円以上	無回答
今回調査	全体	3,189	2.8	6.1	9.6	10.6	10.1	19.1	14.8	17.8	3.3	5.9
	現役	1,920	0.8	2.2	3.4	7.4	9.7	23.6	19.5	24.5	4.4	4.5
	OB	1,258	5.7	12.2	18.8	15.3	10.7	12.5	7.7	7.7	1.7	7.8
前回調査		2,909	1.4	5.0	9.4	9.5	10.2	20.8	16.0	19.1	4.2	4.4
前々回調査		3,051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注)本設問は前回調査において新たに設定されたもの。

⑱主な収入源

(%)

		標本数	給与	年金収入 (公的・企 業・個人年 金)	不動産収入	利息・配当 金収入	その他	無回答
今回調査	全体	3,189	68.4	25.8	0.7	-	0.5	4.5
	現役	1,920	95.8	0.5	0.2	-	0.2	3.4
	OB	1,258	27.0	64.3	1.6	-	1.0	6.0
前回調査		2,909	-	-	-	-	-	-
前々回調査		3,051	-	-	-	-	-	-

(注)本設問は今回調査において新たに設定されたもの。

⑱収入の充足程度

(%)

		標本数	十分で余裕がある	ほぼ十分である	やや不足する	非常に不足する	無回答
今回調査	全体	3,189	6.8	50.8	31.5	6.1	4.7
	現役	1,920	7.0	50.5	32.8	6.1	3.6
	OB	1,258	6.6	51.4	29.6	6.2	6.2
前回調査		2,909	-	-	-	-	-
前々回調査		3,051	-	-	-	-	-

(注)本設問は今回調査において新たに設定されたもの。

⑳現在の経済的な暮らし向き

(%)

		標本数	とても楽だ	少し楽だ	苦しい	とても苦しい	無回答
今回調査	全体	3,189	6.3	54.3	30.9	2.9	5.5
	現役	1,920	6.3	51.6	34.4	3.3	4.5
	OB	1,258	6.5	58.5	25.6	2.5	6.9
前回調査		2,909	-	-	-	-	-
前々回調査		3,051	-	-	-	-	-

(注)本設問は今回調査において新たに設定されたもの。

㉑過去5年間に経験したライフイベント(複数回答)

(%)

		標本数	子どもや孫の誕生	子どもの成人・就職	子どもや孫との別居	子どもの結婚	自分自身の入院	配偶者の入院	その他の家族の入院	配偶者の死
今回調査	全体	3,189	26.8	17.4	7.6	19.0	16.1	11.8	22.0	1.1
	現役	1,920	17.9	21.4	6.6	12.5	12.6	9.0	26.8	0.5
	OB	1,258	40.4	11.5	9.2	28.9	21.8	15.8	14.9	2.1
前回調査		2,909	27.3	19.3	7.5	19.2	16.8	12.1	18.4	1.5
前々回調査		3,051	-	-	-	-	-	-	-	-

		標本数	その他の家族の死	昇進・昇格	出向・転職・退職	災害等による資産の減少・経済的困難	自宅の購入・建て替え	いずれもない	無回答
今回調査	全体	3,189	20.5	22.0	20.4	1.7	16.0	10.6	5.1
	現役	1,920	22.0	34.3	14.2	1.3	19.1	9.9	4.0
	OB	1,258	18.2	3.4	30.0	2.4	11.4	11.6	6.7
前回調査		2,909	17.2	20.8	18.7	2.4	15.4	10.5	4.3
前々回調査		3,051	-	-	-	-	-	-	-

(注)本設問は前回調査において新たに設定されたもの。

2. 調査結果の要約と示唆

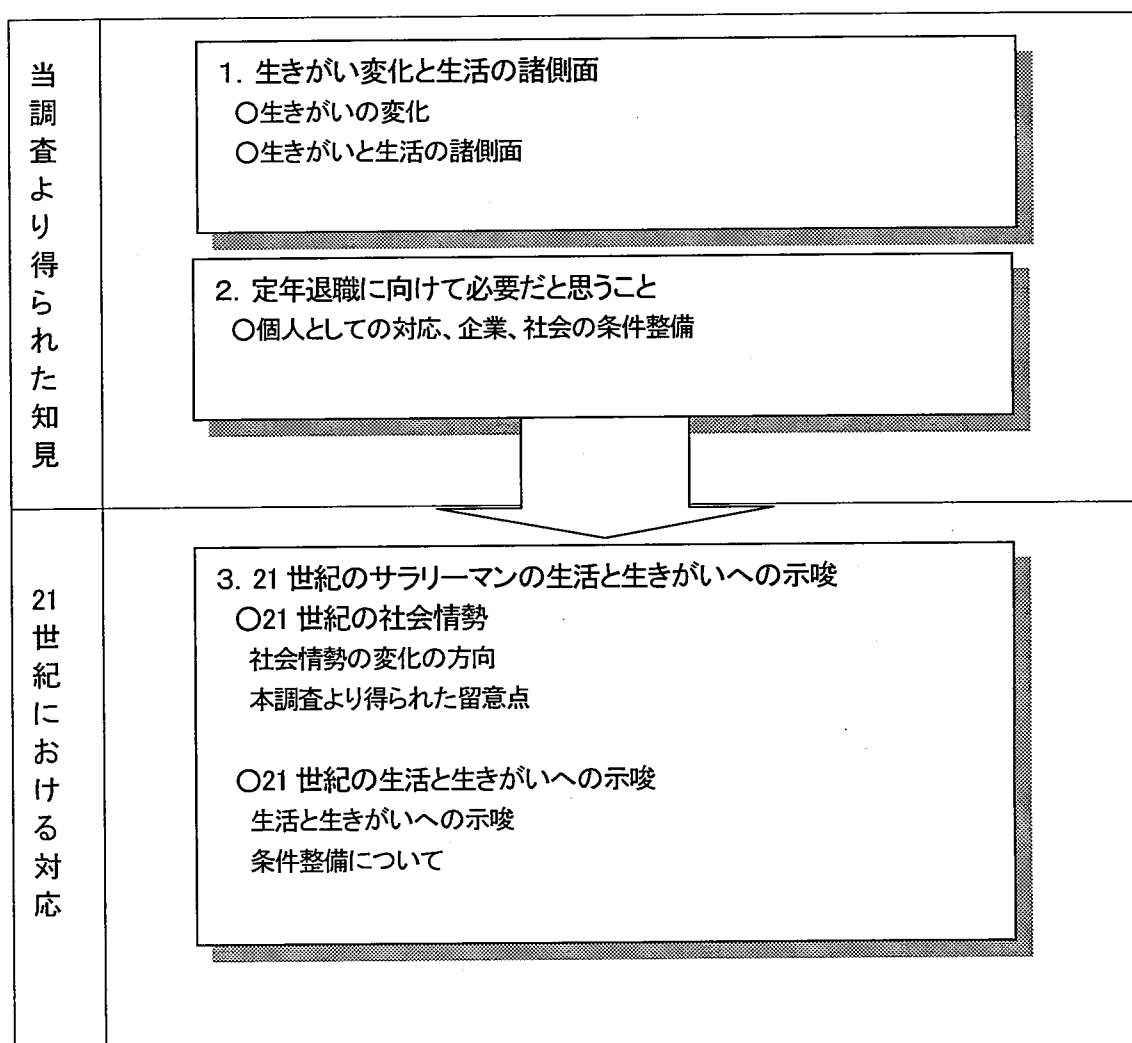
～21 世紀のサラリーマンの生活と生きがい～

はじめに

21 世紀のサラリーマンの生活と生きがいを考えるにあたり、まず、本調査の分析・考察に基づき、この 10 年間ににおけるサラリーマンの生活と生きがいに関する傾向を整理する。また、定年退職は生活全般の面においても大きな転換点であることから、サラリーマン自身が定年退職に向けてどのように備えるべきと考えているかについて整理する。

次に、今後、予想すべき社会情勢、本調査からの知見でもある団塊世代、女性就業者の動向、就業者の個人化傾向など、21 世紀社会における留意点を確認する。

そのうえで、21 世紀のサラリーマンの生活と生きがいのあり方を探っていくこととしたい。具体的には以下の流れで進めていきたい。



(1) 生きがい変化と生活の諸側面

生きがいと生活の諸側面は大きく関係しており、その相互関係を見ることにより、より実態的に生きがいというものを浮き彫りにできると考える。

本調査の分析もそのような考え方にに基づき、以下の2点を柱とする。

- ・「生きがいの有無」の変化を押さえ、「生きがいの意味」、「生きがいの場」、「生きがいの対象」との関係をつかむことで生きがいの変化を分析する
- ・そのような生きがい変化が生活面との関係でどのような理由で生じたか、即ち、生きがいと生活諸側面の社会的・活動的要因との関係を分析する

① 生きがいの変化

定年移行期を中心とするライフステージを、サラリーマンシニア前期(35～44歳)、定年準備期(45～54歳)、定年期(55～64歳)、年金生活期(65～74歳)の4階層に分け、生きがいの変化を追跡し、これを3調査時点で比較していくことを基本的枠組みとする。

また、男性は既婚者(配偶者有り)が多くを占めるが(90%以上)、女性は既婚者(配偶者有り)および未婚者がそれぞれ大きなウエイトを占める。性別、婚姻状況の差は生活形態の差に結びつくことが予想される。従って、男女別、必要に応じて女性について未既婚の別にライフステージにおける変化を見ていくこととしたい。

(注)性別・ライフステージ別階層の人員分布は「1. 調査実施概要 (6) 分析標本の基本属性 ①性・年齢」参照。

婚姻状況は「1. 調査実施概要 (6) 分析標本の基本属性 ②未既婚」参照。

a. 生きがいの有無

生きがいの有無に関して、「持っている」、「前は持っていたが、今は持っていない」、「持っていない」、「わからない」から選択してもらった。

3時点での差を見ると、「持っている」は第1回から第2回で大きく上がり(+12.2ポイント)、第3回で同じ程度下がった(▲11.1ポイント)。また、「わからない」は第3回で大きく増えた(第2回8.5%⇒15.6%、約2倍)。「前は持っていたが、今は持っていない」「持っていない」は第2回で下がり、第3回で上がっているが第1回の水準までは戻っていない。

表1 生きがいの有無、3時点の比較 (%)

	第1回調査	第2回調査	第3回調査
持っている	66.2	78.4	67.3
前は持っていたが、今は持っていない	9.2	5.2	7.1
持っていない	13.1	6.7	8.4
わからない	9.7	8.5	15.6

男女別にライフステージ推移に伴う傾向を見ると、大多数は「持っている」と答え、この傾向は年齢が上がるにつれて強まり、また、男性により強い。「わからない」は逆に女性に選択傾向が強く、年齢とともに下がる傾向がある。

表2 生きがいの有無・選択傾向

生きがいの有無	選択傾向				
	選択割合 (第3回調査)	ライフステージ (上がると)	性別	女性未既婚	時代
持っている	67.3%	上がる	男性>女性	既婚>未婚	第2回で上がり第3回で下がった
前は持っていたが、今は持っていない	7.1%	上がる		未婚>既婚	持っているとは反対の傾向
持っていない	8.4%	下がる		未婚>既婚	
わからない	15.6%	下がる	女性>男性	未婚>既婚	第2回で少し下がり第3回で大きく上がった

b. 生きがいの意味

生きがいを構成すると思われる生活上の諸要素から、生きがいを表すのに最も適当だと思うものを2つまで選んでもらった。

3時点と比較して見ると、各回とも、最多の「生きる喜びや満足感」でも40%台に止まり、選択にばらつきが見られる。上位を占める顔ぶれも大きく変わらず有意な時代差は認められなかった。

表3 生きがいの意味、3時点の比較(2つまでの多重回答) (%)

生きがい構成要素	第1回調査	第2回調査	第3回調査
生活の活力やほりあい	35.2	26.2	26.1
生活のリズムやメリハリ	7.1	9.7	10.2
心の安らぎや気晴らし	24.9	24.9	26.7
生きる喜びや満足感	47.0	43.7	40.5
人生観や価値観の形成	9.7	7.9	8.7
生きる目標や目的	19.6	20.4	17.5
自分自身の向上	22.3	15.8	18.3
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること*	—	24.7	28.2
他人や社会の役に立っていると感じること	25.5	19.1	17.1

(注)*:第2回調査より新たな選択肢として追加。

次に、性別にライフステージ推移に伴う傾向を見ると、「生きる喜びや満足感」「生活の活力やほりあい」「自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること」は男女を問わず選択傾向が強く、その傾向は概ね高齢になると下がることが認められた。

一方、「他人や社会の役に立っていると感じること」は男性を中心に年齢とともに上がり、「生活のリズムやメリハリ」、「心の安らぎや気晴らし」は女性高齢層に多く、ライフステージにおける変化が認められた。

表4 生きがいの意味・選択傾向(2つまでの多重回答)

生きがい構成要素 (生きがいの意味)	選択傾向			
	選択割合 (第3回調査)	ライフステージ (上がると)	性別	女性未既婚
生きる喜びや満足感	40.5%	下がる		
心の安らぎや気晴らし	26.7%			
生活の活力やほりあい	26.1%	下がる		
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	28.2%			
他人や社会の役に立っていると感じること	17.1%	上がる	男性>女性	未婚>既婚
生活のリズムやメリハリ	10.2%	上がる	女性>男性	既婚>未婚
心の安らぎや気晴らし	26.7%			
人生観や価値観の形成	8.7%	上がる		
自分自身の向上	18.3%			

(注) 時代環境の影響については有意な差は確認できなかった。

c. 生きがいの場

生きがいの意味の選択肢でもある生きがい構成要素について、それぞれ、どの場から取得されているかを「家庭」「仕事・会社」「地域・近隣」「個人的友人」「世間・社会」「その他」「どこにもない」から2つまで選んでもらった。

「家庭」「仕事・会社」が主要な場を占め、「個人的友人」「世間・社会」がその次に位置し、「地域・近隣」「その他」は少数、「どこにもない」は微小という全体の構造は3回とも変わりなかった。

また、「どこにもない」が微小なように、各構成要素はいずれかの場で取得されている。主要な場である「家庭」は心の安らぎ、生活の活力、喜び・満足、目標・目的を満たす場、「仕事・会社」は自分自身の向上、可能性の実現、役立ち・評価を満たす場というように、あたかも役割分担しているかのように見える。

「個人的友人」は「家庭」とよく似た傾向であり、「世間・社会」「地域・近隣」は「仕事・会社」とよく似た傾向のようである。

表5 生きがい構成要素とその取得の場(2つまでの多重回答)

(%)

生きがい構成要素			家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
(1)	生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	第1回	68.4	57.4	4.5	15.6	7.0	2.9	0.9
		第2回	67.7	47.2	5.8	19.2	5.6	4.1	1.0
		第3回	70.6	46.3	5.9	22.8	6.0	4.9	0.8
(3)	心の安らぎや気晴らしを感じるの、どこが多いですか	第1回	81.5	8.9	5.0	37.3	4.3	10.1	0.5
		第2回	78.4	5.7	5.5	35.6	4.5	10.8	0.6
		第3回	78.1	6.2	4.9	40.6	3.3	11.4	0.9
(4)	生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	第1回	59.6	49.7	5.1	12.8	8.2	6.9	1.8
		第2回	62.8	37.7	5.9	18.0	6.3	8.2	1.2
		第3回	65.6	38.0	5.9	21.9	6.5	8.8	1.4
(5)	あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	第1回	23.2	44.4	6.2	28.4	32.5	6.3	2.6
		第2回	31.4	37.6	6.2	27.8	26.3	6.2	3.0
		第3回	34.6	39.9	5.5	29.0	26.5	7.1	2.8
(6)	生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	第1回	68.7	40.0	4.9	2.8	17.6	5.1	1.3
		第2回	67.7	34.2	6.3	4.3	16.5	5.8	1.4
		第3回	70.4	35.2	5.5	5.3	15.5	7.5	1.9
(7)	どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	第1回	14.2	62.5	8.6	13.2	36.6	5.0	1.7
		第2回	20.0	56.4	8.8	13.5	29.3	5.9	2.1
		第3回	21.7	58.5	8.7	15.4	29.0	7.2	1.8
(8)	自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるの、どの場でのことが多いですか	第1回	18.7	69.1	9.2	4.2	20.5	7.5	4.2
		第2回	22.3	63.7	9.0	4.3	18.9	8.3	3.3
		第3回	22.9	63.8	9.9	5.7	19.3	10.0	3.5
(9)	自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	第1回	31.5	68.1	11.3	8.3	15.4	4.3	3.5
		第2回	37.0	61.5	11.3	7.5	13.2	5.0	3.8
		第3回	39.1	60.3	11.6	9.8	13.2	5.4	4.3
各要素の場に占めるウエイトの平均	第1回	45.7	50.0	6.9	15.3	17.8	6.0	2.1	
	第2回	48.4	43.0	7.4	16.3	15.1	6.8	2.1	
	第3回	50.4	43.5	7.2	18.8	14.9	7.8	2.2	

(注)「(2)生活のどの場でリズム、メリハリがつかますか」は第1回調査では無かったため集計対象より除外した。

次に、性別にライフステージ推移との関係を見る。

「家庭」「仕事・会社」は男性に選択傾向が強く、年齢が上がるとともに下がる。「仕事・会社」の低下については定年、職業生活からの引退が関係あるようだ。未婚者の多い女性では、「家庭」の場を補うかのように「個人的友人」の選択が多く見られる。「世間・社会」「地域・近隣」については「仕事・会社」の低下を補うかのように高齢になるほど強くなる。こちらは男性に多く見られる傾向である。

表6 生きがいの場・選択傾向(2つまでの多重回答)

生きがいの場	選択傾向				
	選択割合 (第3回調査)	ライフステージ (上がると)	性別	女性未既婚	時代*
家庭	50.4%	下がる	男性>女性	既婚>未婚	上がる
仕事・会社	43.5%	下がる	男性>女性		下がる
地域・近隣	7.2%	上がる	男性>女性	既婚>未婚	
世間・社会	18.8%	上がる	男性>女性	未婚>既婚	
個人的友人	14.9%		女性>男性	未婚>既婚	上がる
その他	7.8%		女性>男性	未婚>既婚	上がる
どこにもない	2.2%		女性>男性		

(注)* 時代環境の影響は全体の構造を変えるような大きなものではない。

d. 生きがいの対象

生きがいの対象を聞くもので、どのようなことに生きがいを感じているかを3つまで選んでもらった。この質問は第2回調査から行なっている。2時点間の比較であるが、両時点とも「子ども・孫・親などの家族・家庭」「趣味」「仕事」が大きなウェイトを占め、全体の構造は変わらないようだ。

(注) 実態的意味を鑑み、ここでは「生きがいを持っている」と答えた人のみを集計対象とする。

表7 生きがいの対象、2時点の比較(3つまでの多重回答) (%)

生きがいの対象	第2回	第3回
仕事	41.4	39.6
趣味	48.0	47.2
スポーツ	15.4	15.6
学習活動	6.0	7.0
社会活動	9.0	7.6
自然とのふれあい	22.6	18.0
配偶者・結婚生活	21.8	24.6
子ども・孫・親などの家族・家庭	46.1	56.6
友人など家族以外の人との交流	17.6	18.1
自分自身の健康づくり	20.3	18.6
一人で気ままに過ごすこと	8.9	6.7
自分自身の内面の充実	13.6	12.2

次に性別、ライフステージ推移に伴う傾向を見ると、「仕事」「配偶者・結婚生活」「子ども・孫・親など家族・家庭」は多数派であり、その傾向は男性が女性より強く、年齢とともに下がる。また、「社会活動」は男性に、「友人などとの交流」「ひとり気ままに」も女性に選択傾向が強く、生きがいの場の選択傾向との符合が感じられる。生きがいの対象は生きがいの場において得られるという意味で重なる。

表8 生きがいの対象・選択傾向(3つまでの多重回答)

生きがいの対象	選択傾向				
	選択割合 (第3回調査)	ライフステージ (上がると)	性別	女性未既婚	時代
仕事	39.6%				
配偶者・結婚生活	24.6%	下がる	男性>女性	既婚>未婚	子ども・孫・親など 家族・家庭は上がる
子ども・孫・親など家族・家庭	56.6%				
スポーツ	15.6%	上がる			
健康作り	18.6%				
趣味	47.2%	上がる			
自然とのふれあい	18.0%				
社会活動	7.6%		男性>女性	未婚>既婚	
学習活動	7.0%		女性>男性	未婚>既婚	
内面の充実	12.2%				
友人などとの交流	18.1%		女性>男性	未婚>既婚	
ひとりで気ままに	6.7%				

e. 生きがいの概念

「生きがいの有無」「生きがいの意味」は観念的側面、「生きがいの場」「生きがいの対象」は実態的側面と言ってよいであろう。生きがい構成要素のうち、どれを重視するかが「生きがいの意味」の選択に現れ、実態として生きがい構成要素と取得の場(生きがいの場)の関係がうまく機能しているかに対する評価が「生きがいの有無」に影響しているようである。

生きがい構成要素は、「安らぎや気晴らし」から「自分の可能性の実現」「社会・他人への役立ち」

まで幅広い内容を持つ。個々人により重点の置き方の違いはあるが、これらの構成要素をバランスよく取得する必要があるようだ。安定志向とチャレンジ志向、親和動機と達成動機、安らぎと活力など拮抗する心理的欲求をほどよい緊張を保ちつつ満足させていくことにより、精神的健康を保てるということであろう。

生きがい構成要素と取得の場のリンケージは重要である。構成要素ごとに取得できる場は異なっている。例えば、仕事・会社は「自分の可能性の実現」「他人への役立ち」「自分自身の向上」の場であり、家庭は「心の安らぎ」「生活の活力」「喜びや満足」「目標・目的」を満たす場である。ある構成要素を取得できているか、また全体としてバランスよく構成要素が取得できているかという両面において、生活の場が取得の場として機能しているかという点が重要である。

個々人は、生きがい構成要素と取得の場が実態としてうまく機能しているかを評価し、この評価が生きがい有無に影響するようだ。その際の評価基準は個々人により異なる。結果として、どの生きがい構成要素を重視するかは異なっており、構成要素により難易度も異なる。成果を実感しにくい内面的生きがい（内面の充実など）は難易度が高いようだ。個々人による基準の違いにより、実態的には同じような状態でも、観念的な生きがいの有無に差が出る場合もあろう。

生きがいは、生活の場の実態と個人の心理的要素が複雑にからみあい影響を与える意味で、非常に多様性を持つ。また、人には、生活の場の変化に伴ない、心理的欲求、生きがいの意味、価値観を変え、生きがいの維持あるいは再生を果たす柔軟性があるようである。ライフステージの推移に伴なう生きがいの変化がこのことを示唆する。

生きがいとは、心理的欲求と生活面における環境との折り合いの中での調和、均衡の働きにより見出されるものなのかも知れない。

以上の生きがいについて知見をまとめると次の通りである。

- ・生きがい構成要素と取得の場のリンケージが重要であること、構成要素ごとに取得できる場は異なっていること
- ・生きがい構成要素は多面的に求められるが、どれに重点を置くか、どのようにバランスをとるかは個々人により異なること
- ・生きがい構成要素と取得の場がうまく機能しているかどうかの評価が個々人の生きがい有無に影響すること

ところで、時代環境の変化に伴ない生活の場の態様が変化することは不可避である。21世紀を迎え、従来の枠組みを超え、就業者の生活も大きな変化を余儀なくされよう。このような状況下で生活と生きがいはどうなるのか、また生きがいを維持するためにはどうすればよいのかという課題が出てくる。

生きがいの有無、意味、場、対象には、性別による傾向、ライフステージ推移に伴なう変容パターンが見られる。生きがいは多様であるが、このようなパターンを手がかりに、生きがい維持のための実態面への具体的対応が考えられる。

②生きがいと生活の諸側面

それでは次に、具体的に生きがいと生活の諸側面の社会的・活動的要因との関係を見ていきたい。

a. 仕事、会社、退職と生きがい

生きがい構成要素取得の場という意味で、仕事・会社は主に「可能性の実現の場」「役立ちの場」である。ところが、バブル崩壊をはさむ第1回調査から第2回調査で、「可能性の実現の場」「役立ちの場」としての仕事・会社の選択率は下がった。このことは働き盛りの40～54歳の層で認められる。時代環境の影響も無視できないようだ。

次に、同じ職業生活へのコミットメントにおいても組織、仕事、出世など異なった側面を有する。そこでそのような内的志向面に注目し、仕事・会社への意識態度を基準に以下の4類型に分類した。

- ・会社志向型（会社・仕事志向、典型的な日本のサラリーマンのタイプ）
- ・出世志向型（非会社・出世志向、転職してキャリアアップを図る欧米型のタイプ）
- ・両立志向型（会社・出世志向、会社の中で出世を図る従来の日本型エリートタイプ）
- ・仕事志向型（非会社・仕事志向、職人タイプ）

以下、これらの志向類型と「定年退職のイメージ」「希望する定年後の生活」「定年後の生活不安」「定年後の生活設計」の傾向との関係について見ていく。

「定年退職のイメージ」「希望する定年後の生活」については志向類型により傾向が異なる。会社コミット度の高い会社志向型と両立志向型が、また、会社コミット度の低い出世志向型、仕事志向型がそれぞれ似た傾向を示す。

例えば、「定年退職のイメージ」では、前者は、プラス面として「家庭サービスができる」「新しい人生の開拓」、マイナス面では「目標・張りの喪失」の選択傾向が高い。後者は、プラス面で「わずらわしい人間関係からの解放」、マイナス面で「経済的に苦しくなる」の選択が高い。その他、会社志向型では「所属肩書の喪失」、出世志向型では「精神的に楽になる」が他と比べ高い。

次に「希望する定年後の生活」では、前者（会社志向型と両立志向型）は「健康に恵まれた生活」が高い。その他、会社志向型では「夫婦・家族関係を大切にする生活」、出世志向型では「趣味に打ち込む生活」、仕事志向型では「経済的にゆとりのある生活」がそれぞれ他と比べ高い。

一方、「定年後の生活不安」は志向類型よりも退職経験・未経験の別の差が大きい。不安を構成する要因を個人の志向、努力を超えた他律的要因によるところが大きいと理解されているようだ。退職経験者の50歳時の回想と未経験者の現状を比べると、経験者の方が不安は小さく、準備はされていた（正確な回想ではなく退職経験による意識の変化を考慮する必要はあるが）。

「定年後の生活設計」については、会社志向型、両立志向型で「できている」の比率が高い。全体的に見れば、年齢が上がるるとともに関心は高まる。定年退職を視野に入れた生活設計は50代に入ってから始まるようである。

本調査結果によれば、サラリーマン（退職経験者を含む）は総体として定年退職に肯定的イメージを持っている。とりわけ退職経験者にその傾向が強い。また、健康、経済面などの外生的条件の確保に止まらず、趣味、家族、人間関係といった生活を豊かにする内的要件の準備への重点移動が窺われる。定年退職後の生活設計・準備を検討するにおいても主体的志向に配慮する必要がある。生きがいとの関係で退職後生活の設計、準備は、ゆるやかにではあるが深まりつつあるように思われる。

b. 夫婦関係と生きがい

日頃の配偶者との関係に関する設問を基準に夫婦の親密度の尺度を作り、生きがい、生活との関係を分析した。

バブル崩壊をはさむ第1回から第2回目では本人の親密度は上がった。これは、本人の「仕事・会社」へのコミットメントが低下したことと符合し、「仕事・会社」から「家庭」への回帰と見て取れる。しかし配偶者の親密度は横ばいであり、本人より低い。したがって、両者の乖離幅はバブル崩壊後広がっている。

また、親密度の年齢曲線はU字型である。最低期は40代後半であり、50代以降徐々に回復する。40代後半においては仕事、会社のストレス、子どもの教育、親の介護、ローン等の負担が重なるためであろうか。40代後半の危機に際し、夫婦関係を見直し、老いに向けて良好な関係を維持していくことの重要性が示唆される。

夫婦の就業形態は、男性の場合は親密度に影響しない。しかし、女性には影響する。現役の場合、本人（男性）正社員・配偶者（女性）パート、本人（女性）正社員・配偶者（男性）パートのケースでは女性の親密度が低い。OBの場合では、本人（男性）パート・配偶者（女性）パートは女性の親密度は高い。家計や時間の余裕度との関係が推測される。

男性の親密度には経済要因より健康要因が影響する。しかし低健康・低年収群の親密度は意外に高く、お互いに支えあっている姿が示唆される。また、男女とも自由時間が十分なほど親密度は高くなる。

生きがいと親密度との関連を見ると、「仕事・会社」を生きがいの場とする人の親密度は低い。仕事に生きがいを持ちすぎると夫婦の親密度は低下する恐れがあり、サラリーマンにとっては仕事と家庭のバランスをとり、いかに折り合いをつけていくかが重要であることが示唆される。また、「個人的友人」「その他の場」を生きがいの場とする人、「趣味」を生きがいの対象とする人の親密度も低い。

親密度の高い人は、生きがいの意味について「他人や社会の役に立つ」「生活の活力やはりあい」と感じ、「心の安らぎや気晴らし」には求めないようである。過去10年間の回想において、親密度の高い人は、生きがいが上がってきたと感じている人が多い。

また、夫婦の親密度の高い人は、生きがい喪失に陥りにくい。とりわけ、親密度は本人より配偶者の生きがい喪失と強く関連しているようである。

最後に、介護意識との関係を見る。自分の親が寝たきりになった場合、男性の場合は介護意識の違いによって親密度が変わることはない。女性の場合、「自分自身が中心になって介護する」を選択する場合の親密度が一番高い。概して「配偶者が中心となって介護する」の親密度は低いが、女性就業者においては高い。男性配偶者の協力に対する期待が窺われる。

では、配偶者の親の場合どうか。男女とも「自分自身が中心になって介護する」の場合の親密度が最も高い。そして女性の場合、「配偶者が中心となって介護する」の親密度が低い点がやや目立つ。

配偶者が寝たきりになった場合については、男女とも「自分自身が中心になって介護する」「夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける」の親密度が高い。女性では「子ども等が中心となって介護する」の親密度が高いことが男性と異なる。

自分が寝たきりになった場合はどうか。男女とも「配偶者が中心になって介護する」「夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける」の親密度が高い。また、女性では「子ども等が中心となって介護する」の親密度が比較的高い。

実際の介護体験は男性の自力意識を高め、配偶者への依存意識を減少させる。女性では反対の傾向が見られる。しかし、夫婦の親密度の変化は見られなかった。

また、親密度の高い人ほど、「介護して共に生きることが喜びや目的となる」と考え、「介護の負担で自分の生活や人生を犠牲にしたくない」とは考えない傾向が強い。

c. 女性就業者の場と生きがい

女性就業者については既婚者に加え、未婚者が大きなウェイトを占めており（4割弱）、両者を比較しつつ分析を行なった。分析は直近の第3回調査に基づく。

既婚者については夫婦のみ、もしくは夫婦と未婚子の世帯が65%であり、親との同居23.2%を大きく上回る。未婚者は一人暮らし47.4%、親との同居38.7%である。年齢構成としては35～44歳の若年層に未婚者が多い。就業形態については、未婚者では正規社員が73.4%、パート5.8%、既婚者では正規54.9%、パート13.7%である。ともに15.7%の無職（引退層）がいる。

生きがいとの関係を見ると、未婚者で生きがいを「持っていない」「わからない」とする割合が高い。

「持っている」と答えた人の対象は、既婚者では「家族・家庭」「友人との交流」「趣味」「仕事」「健康づくり」と並ぶが、未婚者では「友人との交流」「趣味」「自分自身の内面の充実」「仕事」「家族・家庭」の順である。未婚者の「家族・家庭」の選択傾向は低い。未婚、既婚を問わず、生きがいの対象として「仕事」を選択する傾向は男性に比べ低い。また、未婚者は「内面の充実」の選択傾向が高く、既婚者は「健康づくり」を重視しているようだ。

生きがいの意味では、未既婚者とも「生きる喜びや満足感」が1位で、未婚者では「自分の可能性の実現」「生活の活力やはりあい」がこれに次ぐ。既婚者では「心の安らぎや気晴らし」が2位で、やや選択率が低くなって「自分の可能性の実現」が続く。

生きがいの場について見ると、各生きがい構成要素とも取得の場の1位、2位は、既婚者では「仕事・会社」「家庭」にほぼ固まるが、未婚者では、「個人的友人」の選択率が高く、「家庭」の選択傾向が低い。このことは生きがいを持っている場合の対象として、既婚者が「家族・家庭」を一番にあげているのに対し、未婚者では「友人との交流」を一番にあげていることとも符合する。

帰属している立場の重視度においては、「職業人の立場」については未婚、既婚とも傾向は変わらないが、「家庭人の立場」については大きく異なる。「地域人の立場」についても既婚者の方が重視している。

次に、仕事、家庭の場以外の活動について見て行く。

近隣とのつきあいは既婚者ほど親密である。未婚者では一般に希薄で、「生きがいを持っていない、わからない」層ほど薄い。

所属しているサークル、団体活動では両者とも「趣味やスポーツのクラブ・サークル」が一番多く、「学習・研究会や教養教室」「職場・職域関係の団体・グループ」がこれに次ぐ。これらについては未婚者の選択傾向が若干高い。既婚者ではPTA、町内会・自治会の活動がより活発である。

地域活動、社会貢献活動については両者ともあまり活発ではない。参加者について見ると未婚者では社会福祉活動、既婚者では地域の生活環境を守る活動が多い。

両者とも、不参加の理由は「時間がない」「きっかけがつかめない」「精神的ゆとりがない」が多く、積極的に参加しようとする割合は少ないが、条件によっては参加する割合は多い。

友人については、両者とも約9割が生涯つきあえる友人を持っていると回答。知り合いのきっかけは「職場や仕事を通じて」が圧倒的に多い。未婚者ではこの他、「幼な馴染み、学生時代の友人」も多く、「趣味やスポーツ、学習のサークル活動」が続く。既婚者では近隣や地域で知り合うケース、家族や親戚を通じてなど、チャンネルがより多面的である。

自由時間については、不十分と思っているケースは既婚者に多い。未婚者では「個人的友人や仲間とのつきあいで過ごす」が多い（約6割）。ちなみに既婚者では「庭いじりや家事など家庭内のこと」「家族との団欒」が多い。ただし友人、仲間とのつきあいもある。

家族の介護については、自分の親が寝たきりになった場合は未婚、既婚とも、約半数が「自分が中心になって介護する」と答えている。

配偶者の親の介護については、既婚者の3割以上が「自分が中心になって」と答えているが、「配偶者（夫）が中心になって介護する」も一定数いる（13.2%）。配偶者が寝たきりになった場合は約8割が「自分が中心になって」と答え、自分が寝たきりになった場合は約3割が「配偶者に介護してもらいたい」と思っている。しかし、「一人で老人ホーム等に入る」（27.2%）、「夫婦で老人ホーム等に入る」（14.6%）という回答も配偶者が寝たきりになった場合より多く、介護で迷惑をかけたくない、介護は女性の役割であるという意識もまだ強いようだ。ちなみに未婚では「一人で老人ホーム等へ入る」が多い。

d. 心理的・内面的側面と生きがい

親和的傾向を尺度とする対人特性と、積極・達成的傾向を尺度とする行動特性より第1～3回調査の対象者を4類型に分類した。構成は、対人高・行動高群、対人低・行動低群が多く(35.5%、38.2%)、対人高・行動低群、対人低・行動高群は少ない(14.0%、12.2%)。

調査時点における有意な差はない。性別では、男性に比べ女性に対人高・行動低群が多く、対人低・行動高群が少なかった。

年齢が上がるにつれ対人高群が増え、対人低群が減少する。行動特性に比べ対人特性に加齢の影響が大きい。これとの関連か、現役よりOBの方が対人高・行動高群の割合が増え、対人低・行動低群の割合は減る。

その他、健康に注意する点があると、対人特性的にも行動特性的にもその傾向は低下するようだ。

それでは、対人・行動特性と生きがいとの関係を見てみよう。

まず、生きがいの有無との関係においては以下の傾向が見られた。

- ・対人高・行動高群⇒「あり」が圧倒的に多く、「なし」「わからない」は少ない。
- ・対人低・行動低群⇒「あり」と「なし」「わからない」がほぼ半分ずつ。
- ・対人低・行動高群、対人高・行動低群⇒生きがい有無の頻度は全体の平均とほぼ同じである。

次に、生きがいの意味との関係においては、4群とも選択率1位は「生きる喜びや満足感」であるが、5割に満たない。2位以下の選択傾向は分れる。類型別の選択傾向の特徴は次の通りである。

- ・対人低・行動低群、対人高・行動低群⇒「心の安らぎや気晴らし」の選択傾向が高い
- ・対人高・行動高群、対人高・行動低群⇒「他人や社会への役立ち」の選択傾向が高い
- ・対人高・行動高群、対人低・行動高群⇒「自分の可能性の実現」の選択傾向が高い

最後に、生きがいの対象との関係について見る。いずれの類型でも3位までは家族、趣味、仕事が占めるが、行動特性が高い群(対人高・行動高群、対人低・行動高群)では趣味の選択傾向が高い。対人低・行動低群では相対的に仕事の選択傾向が低いことが示唆された。

- ・対人高・行動高群⇒家族(59.5%)、趣味(51.6%)、仕事(45.7%)
- ・対人高・行動低群⇒家族(56.0%)、仕事(40.9%)、趣味(37.5%)
- ・対人低・行動高群⇒趣味(58.2%)、家族(45.7%)、仕事(42.3%)
- ・対人低・行動低群⇒家族(52.5%)、趣味(44.2%)、仕事(34.0%)

(注)選択率は第2回、第3回データの累積で計算。

以上より、対人的な親和性が低く協調が苦手な場合や、目的に対し積極的な行動をとり達成的になることが苦手な場合は生きがいを得ることが困難であることが示唆された。対人・行動特性は個人的資質や長年の経験から生成された性格特性であり、このこと自体に他者が関与することは困難であるが、家庭面、仕事面、健康面など生活の場面において抱える問題を解決する取組みを助けることにより、生きがいへのアプローチを援助する必要があると示唆される。

e. 生きがいと生活の諸側面

人は生きていく上で、「仕事・会社」「家庭」「地域・近隣」「個人的友人」など多面的に生活の場を展開している。生きがいとの関係において、それぞれの場において主に得られる生きがい構成要素が異なることは既に見た。生きがい構成要素は個々人の心理的欲求に基づき取得されるようだが、個々人の生きがいはこのような心理的欲求と生活面における環境との折り合いの中での調和、均衡の動きにより見出されるようであるという知見も得られた。

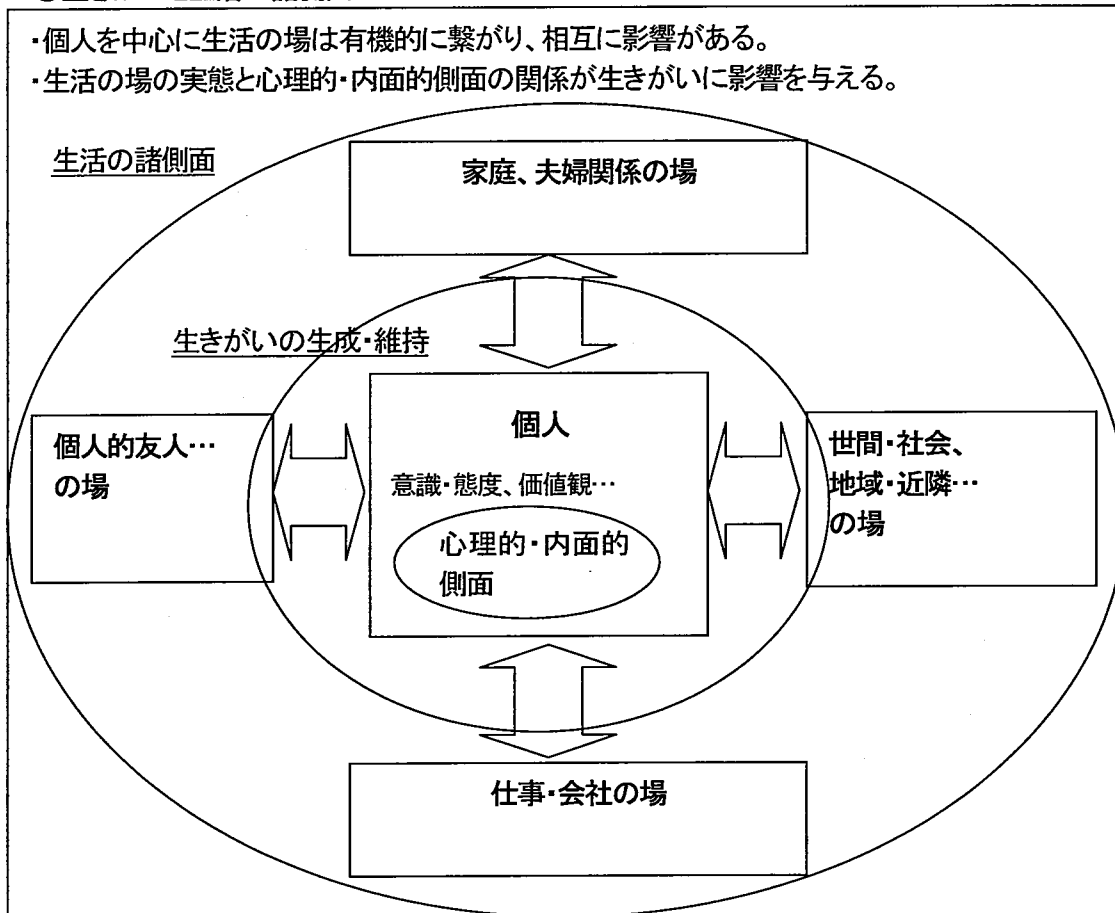
このような意味において、生活の諸側面のあり方、変化は生きがいに密接に関係する。例えば、「仕事・会社」面においては定年退職が大きな影響を及ぼす。雇用の流動化、多様化が進む現状を踏まえれば、それは定年退職に限らないかもしれない。そして生活の場が個人を中心として有機的に繋がっている以上、生活の諸側面は互いに影響を及ぼし合う。「仕事・会社」へのコミット度と「夫婦の親密度」とのトレードオフの関係、「家庭」と「個人的友人」のバランスなど、ある生活側面の変化は他の側面へも影響するようだ。

これらのことは、生きがいを考える場合、実際に変化が起こった側面だけを見るのではなく、生活の全般を俯瞰し考える必要があることを示唆する。

また、生きがいには生活の場の実態と個人の心理的・内面的要素が関係する。生活環境の変化は生きがいに影響するが、同時に心理的・内面的側面の働きも無視できない。定年などによる生活面の変化に合わせて主な生きがいの場が変化することは、個人が生活環境の変化に合わせて、調和、均衡を見出すべく内的要素を変化させ適応する働きによるためでもあろう。

これらのことは、生活面における要因という外形的側面のみで捉えるのではなく心理的・内面的側面との相互関係において生きがいを考える必要があることを示唆する。

○生きがいと生活の諸側面



(2) 定年退職に向けて必要だと思うこと

① 定年退職に向けて必要だと思うこと

サラリーマンにとって仕事・会社の場合は生活の中心の一つであり、そのあり方は他の生活面と生きがいに対しても大きな影響を及ぼすことは本調査の知見よりも認められる。その意味で定年退職は、生活全般の面において大きな転換点である。それでは、サラリーマン自身は定年退職についてどのように備えるべきと考えているのであろうか。

本調査では、個人として、定年前にどのようなことが必要だと思うているか、企業、社会としては、どのような条件の整備が必要だと思うかを聞いている。

その結果、定年退職に向けて必要と考えることに関して、以下の点が認められた。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">a. 定年延長、再雇用などによる就業の確保、それに伴う専門的技術の習得等b. 就業生活からの引退に伴う生活の場の再構築c. 以上の前提ともなる経済的基盤、健康の維持・増進 |
|---|

a. については、定年を職業生活からの引退と考えず、次の就業を志向するもので、日本の高齢者の就業意識の高さは知られているが、本調査においても選択傾向は高い。具体的には、企業に対する「定年後の再雇用など再就職の場を用意」「希望者には定年年齢を延長」へのニーズ、社会に対する「本人の希望する年齢まで働ける雇用環境」へのニーズが高く、また、個人で対応するものとして「定年後も活かせる専門的技術の習得」が必要と考え、企業、社会に対しては「中高年の能力再開発の研修制度を充実させる」ことを求めている。その他、仕事に限らず「定年退職者の能力を活かす場を増やす」ことへのニーズが高い。

b. については、引退に伴ない仕事という対象、会社という帰属の場から離れることへの対応であり、個人として「生涯楽しめる趣味などを持つ」こと、「夫婦・家族の関係を大切にすること」、「会社以外の活動の場」「友人・仲間との交流」「近隣や地域との交流」が必要と考えている。また、これに関連すると思われるニーズとして、企業に対する「労働時間短縮などで社員の個人的生活にゆとりを持たせる」こと、「ボランティア休暇など社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける」こと、「定年前のならし運転のための休暇制度」があるようだ。また、社会に対しても「趣味・学習や社会活動のための機会や情報の提供」「サラリーマンOBの交流の場をつくる」ことを求めている。

c. については、外形的要件であるが、重点は年齢とともに変わる。若年期では個人的対応として「貯蓄・住宅など経済的基盤づくり」の必要度が高く、企業に対しても「企業年金、持家取得の援助など経済的基盤充実」に力を入れることを望む。高齢期にあつては健康が大きな関心となる。「健康の維持・増進を心がける」ことはライフステージ推移とともに高くなる。

ところで、近年の傾向を見ると、経済的基盤充実は個人の対応としての必要性は上がっているが(第2回44.6%⇒第3回47.7%)、企業に対するニーズでは下がっている(第2回46.1%⇒第3回42.0%)。また、第3回調査によると、個人の対応として「趣味を持つこと」を必要と思う傾向は比較的高いが(29.6%)、これに対する支援として企業には多くを期待せず(企業に対する「ボランティア休暇など社会活動や余暇活動奨励や支援の制度」へのニーズ9.5%)、社会に対する期待が大きい(社会に対する「趣味・学習や社会活動のための機会や情報の提供」へのニーズ24.8%)。

「特に何も必要ない」と思っている場合は、個人の対応としてはほとんどないが、企業、社会の対応では一定割合存在する(個人0.2%、企業4.2%、社会3.1%)。

自助努力を基調としつつも、企業対応、社会対応が連動し、適材適所において機能していくことが必要であろう。

表9 個人、企業、社会のそれぞれにつき必要と思われる対応(第3回調査、2つまでの多重回答)

順位	個人としての対応		企業としての対応		社会としての対応	
		選 択 率%		選 択 率%		選 択 率%
1	健康の維持・増進を心がける	63.1	企業年金の充実や持家取得の援助など社員の経済的基盤充実に力を入れる	42.0	できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	49.9
2	貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	47.7	定年後の再雇用など再就職の場を用意する	31.8	定年退職者の能力を活かす場を増やす	47.5
3	生涯楽しめる趣味などを持つ	29.6	希望者には定年年齢を延長させる	26.9	趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	24.8
4	夫婦・家族の関係を大切にす	16.4	退職準備教育や退職相談を充実させる	23.4	中高年の能力再開の研修機会や施設を設ける	20.0
5	定年後も活かせる専門的技術を身につける	12.7	中高年者の能力再開の研修制度を充実させる	17.2	退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる	15.1
6	会社以外の活動の場をつくっておく	11.5	労働時間短縮などで社員の個人的生活にゆとりを持たせる	14.0	サラリーマン〇Bが気軽に出入りできる交流の場をつくる	9.8
7	友人や仲間との交流を深める	9.4	ボランティア休暇など社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	9.5	その他	1.1
8	近隣や地域の人との交流を深める	5.3	定年前の「ならし運転」のための休暇制度を設ける	6.5	特に何も必要ない	3.1
9	その他	0.2	その他	0.9		
10	特に何も必要ない	0.2	特に何も必要ない	4.2		

②ニーズの傾向の多様性

男女の別に見ていくと異なった傾向が見えてくる。企業に対する主要なニーズの一つは就業機会の提供であり、具体的には「定年年齢の延長」「定年後の再雇用など再就職の場の用意」の二つがある。女性既婚者では「定年年齢の延長」を選択する傾向が強いに対し、男性、女性未婚者は「再就職の場」を選択する傾向が強い。

また、「再就職の場」へのニーズは、男性はライフステージとともに上がる。しかし年金生活期である65～74歳層では下がる。一方、女性はライフステージとともに下がる。しかし65～74歳層では上がる、というように逆の傾向を示す。

企業に対する「社会活動・余暇活動奨励・支援」へのニーズも同じような動きをする。男性はライフステージとともに上がり、65～74歳層で下がる。女性はライフステージとともに下がり、65～74歳層で上がる。女性では未婚者がこの傾向を引っ張る。ちなみに社会に対する同種のニーズである「趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する」では、それほど大きな差はない。男女の企業に対する意識の差によるためか。

数は少ないが、「特に何も必要ない」は、男性はライフステージとともに下がり、65～74歳層で少し上がる。これに対し女性はライフステージとともに上がり、65～74歳層で少し下がる。社会へのニーズでも「特に何も必要ない」は、男性はライフステージ後半で下がり、女性はその逆で、上がっている。

表10 男女でニーズの傾向が異なるもの

【定年後の再雇用など再就職の場を用意する(第3回)】 (%)

	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳
男性	28.8	32.3	41.3	32.8
女性	28.6	25.4	23.0	29.1

【社会活動・余暇活動奨励や支援の制度を設ける(第3回)】 (%)

	35～44 歳	45～54 歳	55～64 歳	65～74 歳
男性	7.2	9.6	10.9	7.6
女性	15.3	14.4	8.2	9.1
未婚者	14.3	17.3	8.3	17.5

【特に何も必要ない(第3回)】

○企業に対して (%)

	35～44 歳	45～54 歳	55～64 歳	65～74 歳
男性	5.2	4.5	2.7	3.5
女性	1.6	5.0	8.2	5.1

○社会に対して (%)

	35～44 歳	45～54 歳	55～64 歳	65～74 歳
男性	3.9	4.3	1.7	1.8
女性	2.6	1.5	5.6	5.7

その他、「専門的技術の習得」「中高年の能力開発(社会対応)」は男性にニーズが強い。「経済的基盤づくり」「友人・仲間との交流」「社会活動」は女性未婚者にニーズが強い。「夫婦・家族の関係」「労働時間短縮」「定年前のならし運転のための休暇制度」は女性既婚者にニーズが強いなど、量的傾向に関して属性によるニーズの違いがある。

今後の生きがいと生活を考えるうえで、このような多様性を念頭に置くことが必要であろう。

次に、ライフステージ推移に伴う傾向変化についてであるが、特に55～64歳層、65～74歳層で変化のあったものについて記したい。これらについては、定年を契機とした、あるいは職業生活からの引退を契機とした意識変化の影響が推測される。

定年期である55～64歳層で伸びるのが、企業に対する「定年年齢の延長」「再就職の場」へのニーズと社会に対する「希望する年齢まで働ける雇用環境」へのニーズである。

引退期・年金生活期である65～74歳層では、企業に対しては「企業年金など経済的基盤」、社会に対しては「OBの交流の場」のニーズが高くなる。

逆に、個人的対応の「会社以外の活動の場を作っておく」、企業に対する「定年前のならし運転のための休暇制度」「労働時間短縮で社員の個人的生活にゆとり」のニーズは65～74歳層で男女とも下がる。休暇、時短などのゆとり志向は、むしろ現役の忙しい時ほど高く、引退して振り返ってみれば、それほど必要でなかったためか。いずれにせよ、定年退職に向けての条件整備においては、これを経験した人の意見も重視する必要があるだろう。

③個別化へ向けた動き

以上、本調査では、「定年退職に向けて必要と考えること」という枠組みの中で聞いているが、今後、雇用環境の変化の中で、定年、退職の意味はますます分散していくであろう。ライフステージの推移に伴い、生活の場を再構築する取組み、就業能力確保のための取組みは現在においても既に行なわれているが、一律のメルクマールとしての定年の意味が希薄化する中で、そのタイムスケジュールは個人に委ねられていくこととなろう。個人が自分の人生設計を考える中で、人生のどのタイミングで取組みを図っていくかということは個々人の判断に委ねられよう。

転職、再就職を前提に能力再開発、市場性のある技術取得は常に心掛けなければならないものとなっており、引退の時期、その形成の仕方も個人により分散しようとしている。本調査における知見も、外形的、画一的な定年退職への対応ということではなく、そのように分散する個人の就業と生活のあり方の中で、生きがいを維持し、より良い人生を構築する観点から活かしていくべきものと考えられる。

(3) 21 世紀のサラリーマンの生活と生きがいへの示唆

① 21 世紀の社会情勢

以上で、過去 10 年間における定年移行期を中心としたライフステージの生活と生きがいの傾向、および定年に向けて必要と思っている事柄を概観した。これらは今後のサラリーマン像を考えるうえで重要な資料となるが、前提となる社会情勢も不変のものではない。むしろ現在は大きな社会的転換期であり、将来を予測するうえでその動きを見極めることが非常に重要である。したがって、ここでは 21 世紀のサラリーマンの生活と生きがいを考えるに先立ち、社会情勢の変化の方向を確認することとしたい。

今後の社会情勢の動きで基本的な軸となるものは、「少子高齢化社会の進展」「男女共同参画社会の進展」「雇用環境の変化」と考えられる。

「少子高齢化社会の進展」についてはもはや論ずるまでもなかろう。現在既に高齢社会、あるいは超高齢化社会とも言われているが、21 世紀において日本は世界でも稀な少子高齢化社会となる。これを是正する対策も採られようが、とにかく当面は少子高齢化の進展を前提として考えていくしかあるまい。

少子高齢化は同時に労働力率の問題も生じさせる。高齢者雇用、あるいは女性雇用を促進しないと確実に労働力率は低下する。これは社会保障制度を維持するうえの課題でもある。

女性の労働力率の上昇は、職場での男女均等待遇とともに家庭責任と就業の調整を課題としてクローズアップさせる。このような状況の中で「男女共同参画社会の進展」もまた 21 世紀社会の基軸となろう。伝統的な男と女、あるいは夫と妻の役割分担の見直しが求められ、脱ジェンダー・ステレオタイプの新しい家族役割像が必要となろう。

そして、「雇用環境の変化」についても既に起こっていることである。長引く平成不況のなか、産業構造変化への対応として、終身雇用制度、年功序列など伝統的雇用形態は揺らぎを見せ、雇用の流動化が進んでいる。既に多様な就業形態の必要が説かれている。今後、高齢者雇用、女性雇用の一層の促進が求められれば、さらに多様かつフレキシブルな雇用環境が必要となろう。

以上の基本軸を踏まえ、本調査より得られた留意点を以下に挙げたい。一つは団塊世代の動き、いま一つは女性就業者の動き、そして全体としての個人化の動きである。これらは少子高齢化社会、男女共同参画社会、多様化する未来社会の進展を写すメルクマールとなると思われる。

a. 団塊世代について

本調査においては、団塊世代（1947～49 生れの出生コーホート）が他の世代と比べて、生きがいの傾向について異なる傾向を示すか否かの検証を行なった。

検証の方法はライフステージ要因を排除するため年齢層を同じくする 3 時点の群間の比較によった。具体的には以下の通りである。

- ・第 1 回 42～44 歳（団塊世代）と第 2 回および第 3 回 42～44 歳の比較
- ・第 2 回 47～49 歳（団塊世代）と第 1 回および第 3 回 47～49 歳の比較
- ・第 3 回 52～54 歳（団塊世代）と第 1 回および第 2 回 52～54 歳の比較

そして、「生きがいの有無」「生きがいの意味」「生きがいの場」について 3 時点比較、「生きがいの対象」については第 2 回より始めた項目のため 2 時点比較を行なった。

その結果、各年齢層の群間（団塊世代と、それとは調査時点を異にする群）でそれぞれ差異は認められた。だが、これらは概ね時代環境の影響と認められるものであり、団塊世代について世代固有の傾向は認められなかった。質的に他世代と異ならないというのが得られた知見である。

だが、そうだとしても、団塊世代が量的に大きなウェイトを持つ世代であることは間違いない。

本調査においても、ライフステージ推移に伴ない生きがい傾向は変容するとの知見が得られている。生活諸側面の変化は生きがい変化と密接する。特に定年、引退を含むステージでは仕事・会社面に止

まらず他の生活側面も変化することが見てとれた。これらは生きがいの場、対象の変容をもたらし、生きがいの意味、有無さえも変える影響を及ぼす。

そして時代環境の変化も生きがい傾向の幾つかの面で影響を及ぼすことがわかっている。例えば、生きがいの有無は時代環境による傾向の差が大きい。

これらのことを前提とすると、団塊世代は常に社会人口において大きなウエイトを占め、それぞれの時代環境の中で行なわれたライフステージ推移は、世代内で共有する生活、生きがい傾向において時々のマクロ社会に対し少なからぬ影響を与え、また、今後も与えるものと考えられる。

このことは、戦後の時代変動の要所要所で団塊世代が注目されてきたことと無縁ではなかろう。今、50代を迎えた団塊世代は高齢期に入り、定年期、引退期を迎えようとしている。超高齢社会における生きがいと生活を考えるうえでメルクマールとなる世代集団として注目する必要がある。

b. 女性就業者について

調査結果によれば、生きがいと生活の傾向について、女性就業者が男性と比べて異なる傾向を示すことが確認される。

すなわち、生きがいの場として「家庭」「仕事・会社」を選択する傾向は女性は男性と比べて低い。その代わり「個人的友人」「その他」が高い。

生きがいの対象については、「仕事」「配偶者」「家族」の選択傾向はやはり女性が低い。女性は「学習活動」「内面の充実」「友人との交流」「一人気ままに」などが高い。

生きがいの意味では、男性と比べて「他人や社会の役立ち」の選択傾向が低く、「生活のリズムやメリハリ」「心の安らぎや気晴らし」が高い。

最後に生きがいの有無では、女性は「持っている」で低く、「わからない」で高かった。

この理由の一つとして考えられることは、本調査対象者について男性のほとんどが既婚者であるのに対し、女性は未婚者がかなりのウエイトを占めている点である。確かに女性の中で比べた場合、生きがいの場・対象として「家庭」「家族」を選ぶ未婚者は少なく、その代わり「個人的友人」「学習活動」「内面の充実」「一人気ままに」を選ぶ傾向が強い。これらについては未婚者が女性の傾向を引っ張っている面もある。

しかし、男女の差は婚姻状況のみに起因するものではない。生きがいの場、対象としての「仕事・会社」では女性の選択傾向は未既婚を問わず男性より低いし、既婚者においても「家庭」「家族」「配偶者」の選択傾向は男性と変わらないが、「個人的友人」では高い。また、生きがいの意味における「生活のリズムやメリハリ」「心の安らぎや気晴らし」を選択する傾向を引っ張るのは既婚者である。

また、生きがいを「持っている」の選択傾向は未婚者が既婚者より低い、男性と比べればどちらも低い。逆に「わからない」の選択傾向は未婚者が既婚者より高い、男性と比べればどちらも高い。

いくつかの面で、女性の中でも既婚者、未婚者別に傾向が異なる。同時に同じ既婚者でも女性就業者は男性と傾向が異なる。すなわち、男女の差は、一つには大きなウエイトを占める女性未婚者の影響がある。しかし、同時に女性既婚者についても家庭と仕事・会社における状況は男性と同じではないことが示唆される。

また、調査結果から得た知見によれば、新しい傾向は女性から生れてくるようである。生きがいの場を「個人的友人」や「その他の場」など「家庭」でも「仕事・会社」でもない場に求める傾向は女性、特に未婚者に強く、その傾向は時代とともに強まるようである。

女性就業の変化は男女共同参画社会の進展とかがわる。しかし、実態として男女役割分業の意識が依然強いことは否めない。共働き夫婦でも、家庭責任と仕事の調和は女性の肩にかかっているようだ。

既婚者にとっては家庭責任（育児、介護等）と仕事との調和の問題をどう解決していくか、生活面、就業面のそれぞれでどのような対応が必要かという課題を提起する。バブル崩壊後、就業と育児の両立はむしろ厳しいものとなっている。出産・育児と就業の両立は今日的課題である。そして、ライフステージの推移に伴ない介護の問題が生ずる。本調査においても介護については女性の役割とする意識が強いことが確認されている。

生活と生きがいを考えるうえで、仕事と家庭責任の調整はテーマの一つとなるであろう。

一方、女性未婚者についても重要である。昨今では結婚は恋愛を通じて達成される自己実現の一つとも言われている。結婚は選択肢の一つに過ぎなくなった。本調査においても、女性就業者に占める未婚者の割合は平成3年度調査では26.1%であったが、平成13年度調査では35.3%であり、確実に増えている。

本調査からも、女性未婚者は仕事、家庭の場以外の友人・仲間などのネットワーク、コミュニティを志向する傾向が強いことが示唆される。核家族化の中で、年齢が上がるとともに家族の場が希薄となるためか。高年齢層では社会活動、余暇活動、地域・近隣へのコミットが高くなっていく。高齢化社会の進展を前提とすれば、これらの層の生活と生きがいを考えていくことは一つのメルクマールとなるであろう。

c. 個人化の動き

女性就業者の傾向として未婚者を中心に、生きがいの場を「家庭」でも「仕事・会社」でもない場に求める傾向が時代とともに徐々に強まっている。

これは女性だけの傾向であろうか。本調査によれば、時代とともに生きがいの場として「個人的友人」「その他」の場が増えているのは、確かに女性がリードしてはいるが、全体の傾向としても認められる。

価値観、生活の多様化が言われて久しい。就業者の生活の主要な場である「仕事・会社」「家庭」に対してもその意識・態度は多様化し、ライフスタイルの形成にあたって多様な選択が可能となってきた。

「仕事」に対する意識の変化は、雇用制度の変化とも相俟って終身雇用におけるフルタイム就業という概念から、一生のうちに複数の仕事を持つこと、また同時に2つ以上の仕事を掛け持ちすることを普通概念とするかも知れない。帰属の場としての「会社」の捉え方も個々人により多様に分散するであろう。

また「家庭」においても家族の役割のあり方をよりフレキシブルな選択可能なものにする流れが加速していくであろう。仕事と家庭責任の調和がテーマとして採りあげられるが、これを実現するために選択も多様化していくことであろう。

このような個人化(注)の動きは、画一的な価値観では捉えられない社会をつむぎ出すであろう。

さて、団塊世代、女性就業者、個人化の動きを概観したが、これらは別々の話として捉えるべきものであろうか。

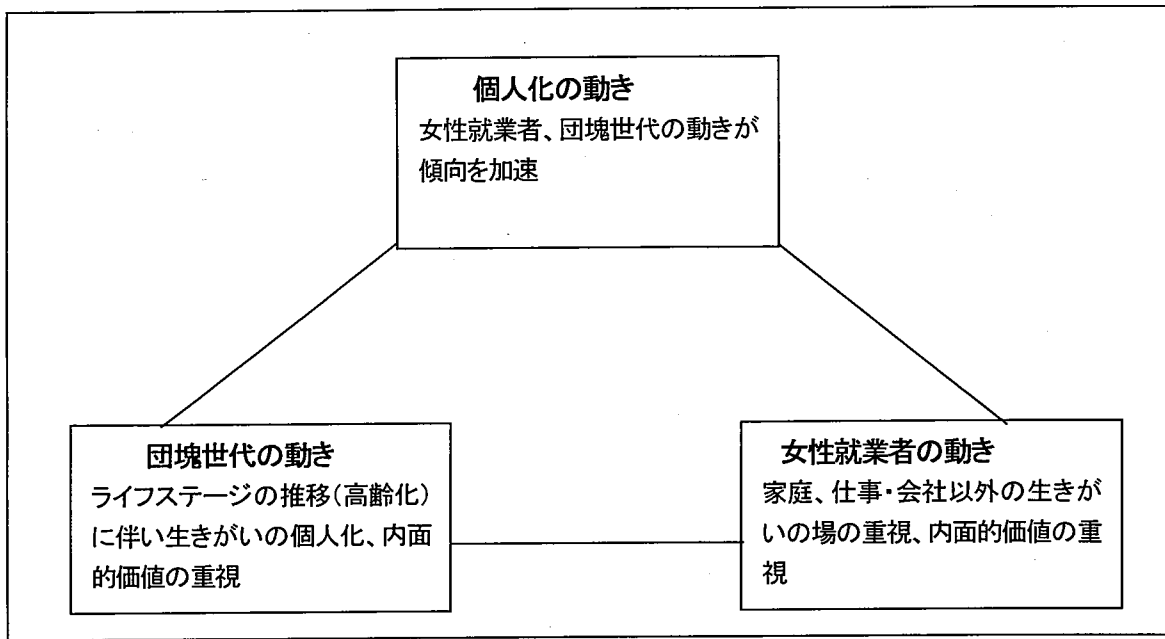
本調査によれば、「家庭」でもなく「仕事・会社」でもない第3の場に生きがいの拠り所を求める傾向が強い女性未婚者は、若年期から生きがいの対象として「趣味」「自分自身の内面の充実」等を選択する傾向が強い。内面的価値観を重視した生きがいの選好が見てとれる。個々の内面的価値観を重視する傾向は個人化の動きと無縁ではあるまい。女性未婚者に顕著なこの動きは徐々に他の層にも広がっていく傾向が現れている。生きがいについても外形的画一的なものから個人化される傾向が進んでいるのかも知れない。

また、男性、女性既婚者についてもライフステージが上がるとともに「趣味」「内面の充実」の選択が増える傾向があり内面的価値の選好が増す。団塊世代のライフステージの高齢推移はこの世代の内面的価値の重視、個人化の傾向を予想させる。

今後、女性就業者の動き、団塊世代の動きは、個人化の動きの一翼となるようである。

(注)個人化の意味:仕事・会社、あるいは家庭面における多様化、個別化を通じて、また、それ以外の場や個人的友人などを通じて、自分らしく生きられる場に生きがいを感じる傾向をここでは個人化と呼んでいる。伝統的な社会的鑄型にはめられずに、自分の個性を発揮したい、自分の居場所を得たいという欲求のあらわれともみられる。

○団塊世代、女性就業者の動きを踏まえた個人化の動き



②21 世紀のサラリーマンの生活と生きがいへの示唆

a. 生活と生きがいへの示唆

以上の状況を踏まえ、生きがいに関する本調査の知見を再度確認したい。

「生きがいは、生活の場の実態と個人の心理的要素が複雑にからみあい影響を与える意味で、非常に多様性を持つこと」「人は生活の場の変化に伴ない、心理的欲求、生きがいの意味、価値観を変化させ、生きがいの維持、再生を行なうこと」、そのような「心理的欲求と生活面における環境との折り合いの中での調和、均衡の働きが生きがいに関係すること」が示唆されている。

このことから、生きがい構成要素と取得の場がうまく機能しているかどうかの評価が個々人の生きがいの有無に影響すること、取得の場である生活の諸側面のあり方、変化が生きがいと密接に関係することが知見として得られた。

例えば、サラリーマンにとっての定年退職、引退は仕事・会社面に止まらず、生活全般において大きな変化をもたらした。生活環境との折り合いが生きがいと関係する中で、生活面の変化は生きがい面に影響する。生きがいの喪失・再生、あるいは生きがいの場、生きがい観の変化はこのような生活環境の変化によりもたらされたようだ。

そして21世紀を迎えた今、個人の生活を取り巻く社会環境は大きく変わろうとしている。既に、この変化の基軸、留意点は確認した。このような環境において、折り合い、調和をとり、生きがい喪失にならないような個人の生活を組み立てていくことが新たな課題であろう。

今後、高齢化社会のもとで、より長くなる壮年期、より長くなる就業期間、生活・就業面の多様性、選択肢の増加を勘案するならば、引退形成期の取組みだけを考えるのではなく、より広くライフコース全体の形成を考え、その中で就業、家庭、その他の活動を組み立て、そして、そのような文脈の中で、引退形成を考えていく必要がある。そのような取組みを通じて、生活・就業面の多様性を享受し、生きがい感のある生活構築が可能となると考えられる。

前段の「定年退職に向けて必要だと思うこと」では、「就業能力を確保し次の仕事に備えること」「引退に伴う生活の場の再構築」が大きなテーマとして確認されたが、既に言及した通り、これは定年時だけの問題ではあるまい。既に、専門技術の習得、能力再開発は就業期間において常に必要なことと

なっている。また、今後、高齢化社会のもとで長くなる就業期間を前提とすれば、「定年退職までは仕事に全力、退職時に生活を再構築する」というわけには行かない。仕事に限らず、家庭、自己研鑽、社会活動、趣味など他の生活面をバランスさせたライフコースが必要である。

時には、仕事より家庭を重視することもあれば、キャリアのステップアップのため研鑽・学習に重点を置く時期もあるであろう。これらがライフステージの必要に応じて可能となるということである。そして、引退形成についても、徐々に仕事のウエイトが減り円滑に生活の場の転換ができる「ゆるやかな引退」の形成が求められよう。生活の場は生きがいと深く関係しており、急激な環境変化は生きがいの喪失につながりやすい。このような状況を避ける意味でも、仕事面から徐々に遠ざかるゆるやかな引退が有効と思われる。

以上の点について本調査により得られた知見を付記する。

女性の就業については、従来、育児など家庭での役割のなかで職業キャリアを諦めることを余儀なくされる面もある。本調査においても、男性と女性では、仕事・会社に対する意識・態度には異なる傾向が認められている。依然、家庭での役割との調整は女性の肩にかかっているようだ。就業女性がハンディを負っているならば解消していく必要がある。

高齢者就業については、ライフステージ推移に伴う仕事・会社に対する意識の変化を踏まえると、高齢期においても仕事に全力投入することを前提とするのは難しいであろう。個人差もあるが、ゆるやかな引退がニーズにかなっているかも知れない。

ゆるやかな引退形成を考える場合、定年退職に向けたニーズが参考になるかも知れない。女性の場合は労働時間短縮など個人的生活のゆとりへのニーズ、男性では専門的技術の取得、能力再開発のニーズが強い。男女で、引退形成における考え方も傾向の違いがあるようだ。このような多様性の観点にも配慮が必要であろう。

仕事からの引退にあわせ、社会活動、地域活動などに対する取組みが重要となろう。本調査においても定年退職者の能力を活かす場へのニーズは大きい。ボランティア活動などは、そのような場としても注目されよう。今後は社会的機能としても、仕事・会社以外の活動が重要となるようだ。

そして、以上のようなライフコースの実現を支えるものが、「仕事と家庭責任における夫婦のコンビネーション（役割共有）」「仕事・会社、家族・家庭以外の新しいネットワーク」であろう。

「仕事と家庭責任における夫婦のコンビネーション」においても多様な選択肢が必要であろう。夫婦の実態に応じた仕事と家庭責任の調和を可能とするためである。仕事と家事の分担パターンは必要に応じて選択可能であればライフコースの選択肢も増す。

また、家庭責任の分担は、それを可能とする就業形態の多様化と結びついて可能となることは言うまでもない。このようなコンビネーションを前提とした雇用制度、社会制度の構築が求められよう。そして、夫婦で互いに自己実現性の高いライフコースを構築し、助け合うこと。そのような中で新しいタイプの夫婦の親密性を構築していくことが必要であろう。

本調査の知見からも、介護は女性（妻）の役割であるという意識は依然強い。しかし、その一方で女性就業者では、親密度の高い配偶者（夫）に介護参加を求める傾向も出ている。少しずつ意識も変わっているのかも知れない。仕事と家庭のバランス、折り合いの重要性も示唆されているところである。

また、未婚者を中心としては「仕事・会社、家族・家庭以外の新しいネットワーク」が求められるであろう。この背景には核家族化のなかで、帰属の中心となり、安らぎの場となる家庭の揺らぎがあるようだ。そして、帰属、コミュニティの場として、家族以外の新しいネットワークが求められているようだ。

本調査の知見からも、女性就業者においては未婚者の数は少数派ではない。この層では、生きがいの場、対象として仕事・会社でも家庭でもない場、個人的友人などを選択する傾向が強い。また、定年退職の準備としても、会社以外の活動の場、サラリーマンOB交流の場についてのニーズが高かった。

以上、本論では、21世紀の社会情勢の変化の中で、生きがいを踏まえた生活の場の再構築に向けて若干の考察を試みた。本調査の知見も踏まえる中、生活形成において以下の方向が示唆されるようである。

- ・長寿化により、より長くなる壮年期を前提とした仕事、家庭、その他の活動を並列できる自己実現性の高いライフコースの形成
- ・就業形態の多様化を前提に、親密性を再構築した仕事と家庭責任における夫婦のコンビネーション(役割共有)の形成
- ・仕事・会社、家族・家庭以外の新しいネットワークの形成

b. 条件整備について

最後に、以上の生活形成を円滑に行ない、生きがいを維持していくうえでの条件整備について思うところを若干補足したい。

○健康面、経済面への対応

ライフコースの多様化は、内面的生きがいをも満足させ、自己実現性の高い生活形成を可能とすると思われるが、前提としての健康面、経済面の充足は重要である。高齢期における健康不安、経済不安は常に長寿化の影に存在する。これらへの対処が的確に行なわれなければならない。

ライフコースの選択肢が多様化する中では、その選択肢それぞれにおいてどのような健康、経済リスクに対するオプションが可能かがわかること(情報)が必要である。そうでなければ選択もままならない。ライフコースの選択、形成は自己責任であるが、選択、形成の過程で、そのような自助努力、企業の対応、社会の対応のオプションが予め読み込めるものでなければならない。

経済的基盤づくりは若年層ほどニーズが強く、意識のうえでも会社ばかりには頼れないという傾向が出てきている。健康の維持増進はライフステージ推移とともに重視度が増す。特に、女性未婚者では健康不安、経済的不安に関する項目の選択率は高い。長生きのリスクへの対処は大きな課題である。

○生きがいとの関係について

生きがいは、生活の場の実態と個人の心理的要素が複雑に関係する意味で、非常に多様性を持つことは既に言及した。この意味で、生きがいのとらえ方、考え方、満足度は個人ごとにも多様であり、これだというものではなく、究極的には自分の生きがいは自分で見つけていくものと思われる。個人化傾向の進む状況下では、この点はますます顕著となろう。その中で、個人は生きがいの発見、維持、あるいは再生の取組みを行なうわけであるが、生活面の多様性、選択肢の幅が大きくなればなるほど、難しくなる面もあろう。

就業の多様化、ライフコースの多様化も、これを個人が受け入れ、生きがいの持てる豊かな人生を構築するために活用できるものでなければならぬ。多様な生きがいと生活スタイルがあることを前提に、自己実現性の高い人生・生活スタイルを選択できる生活面、就業面の環境整備、そして、これらを活用、享受するための個人に対する相談・教育、カウンセリングなどの支援制度の構築が、両輪として必要であろう。

相談・教育等は個人差を前提としたものでなければならない。生きがいの場へのアプローチなど個人の状況にあわせた対応が必要であろう。

また、ライフステージ推移に伴ない、生きがいと生活の傾向も変化する。それぞれのライフステージに適した対応が必要である。仕事のウエイトが高い若年期では職業上のキャリア・カウンセリングに重点が置かれるかもしれないし、引退期では生活全般を広く視野において行なう必要もあろう。

調査結果の詳細

第Ⅰ部 生きがい変化のトレンド

第Ⅱ部 生活の諸側面と生きがい

第1章 仕事、企業、退職と生きがい

第2章 夫婦関係と生きがい

第3章 女性の生きがいと生活

第4章 心理的・内面的側面と生きがい

第Ⅲ部 定年退職に向けて必要だと思ふこと

第 I 部 生きがい変化のトレンド

～ライフステージの推移を踏まえて～

はじめに

本調査はサラリーマンの生活と生きがいに関する調査である。

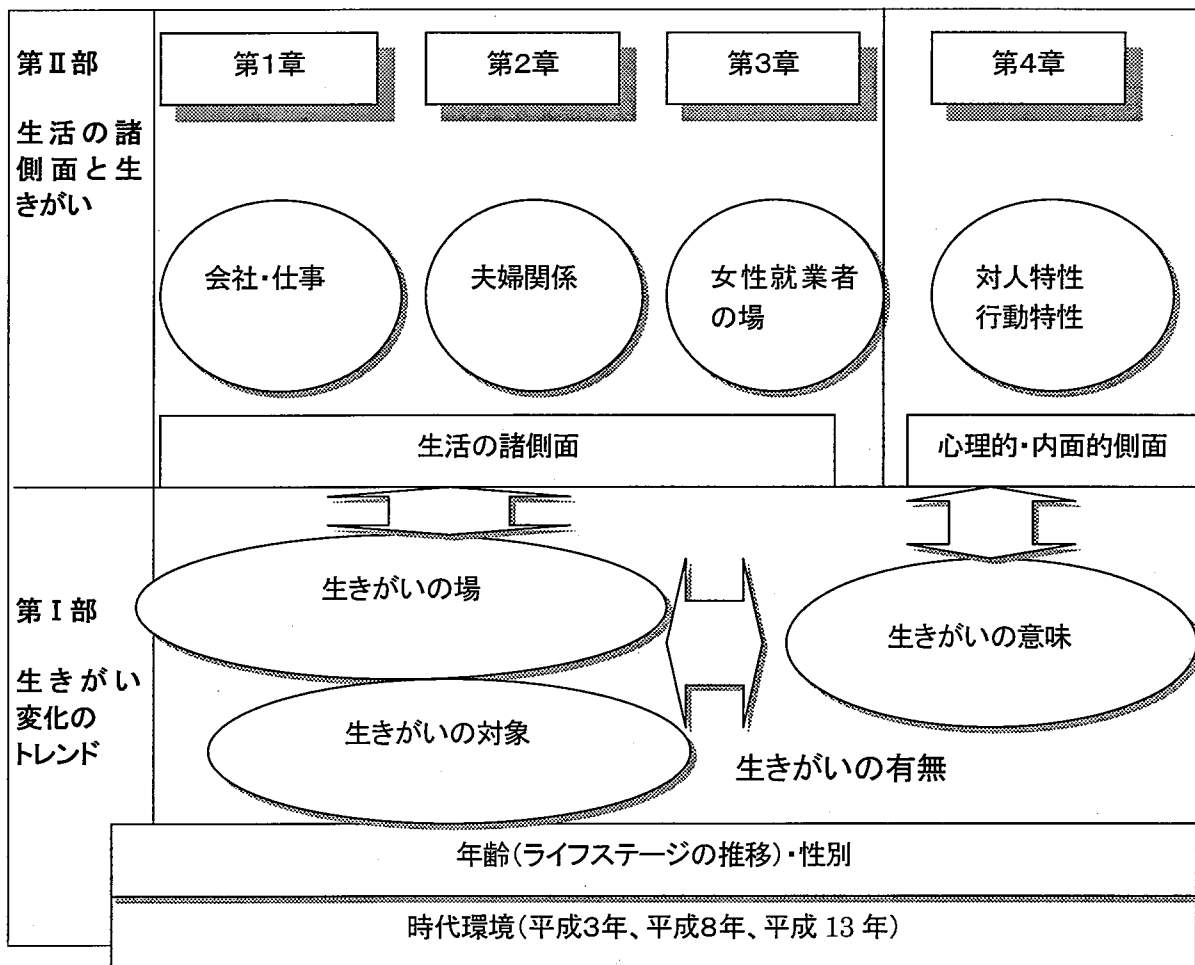
生きがいと生活の諸側面は大きく関係しており、その相互関係を見ることにより、より実態的に生きがいというものを浮き彫りにすることができると考えられる。

本調査ではこのような考え方にに基づき、これら両面を追跡、捕捉することを目的とするが、先ず第 I 部では生きがいの面に焦点をあわせ、平成 3 年第 1 回調査より平成 13 年第 3 回調査に至る 10 年間における生きがい変化の動きを見ることとしたい。

具体的には、「生きがいの有無」、「生きがいの意味」、「生きがいの場」、「生きがいの対象」の変化を、定年移行期を中心とするライフステージの推移に伴い追跡する。そして、これらを 3 時点比較することにより 10 年間における動きを見ていく。

したがって、そのような生きがい要素変化が生活面との関係でどのような理由で生じたか、即ち、生きがい要素と生活諸側面の社会的・活動的要因（生活要因）との関係は第 II 部の各論での分析に委ねることとしたい。

第 I 部と第 II 部の関係は以下の通りである。



1. 生きがいの変化

(1) 分析にあたって

① 分析の対象の枠組み

定年移行期を中心とするライフステージを、サラリーマンシニア前期（35～44 歳）、定年準備期（45～54 歳）、定年期（55～64 歳）、年金生活期（65～74 歳）の4つの階層に分け、生きがいの要素である「生きがいの有無」、「生きがいの意味」、「生きがいの場」、「生きがいの対象」の変化を追跡しこれを3時点比較していくことを大きな枠組みとしたい。

3回の調査における対象者の性別・ライフステージ別階層の人員分布は、「1. 調査実施概要（6）分析標本の基本属性の①性・年齢」の通りである。

また婚姻状況は同じく「（6）分析標本の基本属性の②未既婚」の通りであり、男性は既婚者（配偶者有り）が多く（90%以上）を占めるのに対し、女性は既婚者（配偶者有り）および未婚者がそれぞれ大きなウェイトを占める。

性別、婚姻状況の差は生活形態の差に結び付くつくことが予想され、生きがい要素の持ち方、変化についても大きな影響を及ぼすと考えられる。したがって、男女別、必要に応じて女性については未既婚別に、ライフステージの4階層の推移に伴う生きがい要素の変化を見ていくことを基本的枠組みとしたい。

【分析の対象の枠組み】

	ライフステージ			
	サラリーマンシニア前期 (35～44 歳)	定年準備期 (45～54 歳)	定年期 (55～64 歳)	年金生活期 (65～74 歳)
男性 (90%以上が既婚者)	男性全体の傾向を見る			
女性	女性全体の傾向を見る			
未婚者	女性未婚者の傾向を見る			
既婚者	女性既婚者の傾向を見る			

② 生きがいに関する質問の構造

ここでは「生きがいの有無」、「生きがいの意味」、「生きがいの場」、「生きがいの対象」について、本人調査票の回答に基づき分析を進めることとしたい。

本人調査票問6は、生きがいを構成する要素と思われる生活上の諸要素をどの場で取得しているかを問うものである。

「生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこか」「心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこが多いか」「生活のどの場で喜びや満足感を感じる人が多いか」など、要素ごとにその取得の場を聞いている。

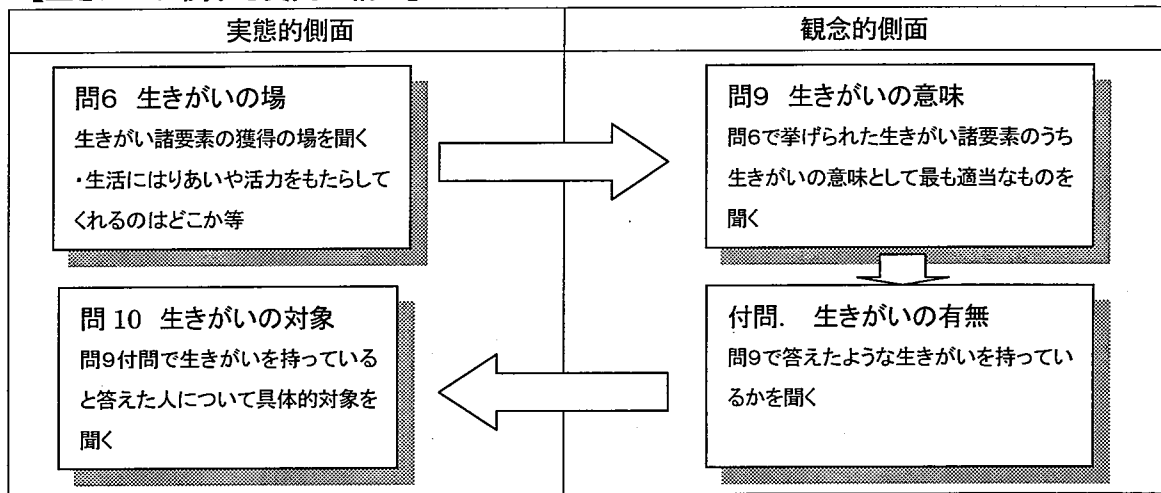
そして、そのような諸要素のうち、生きがいの意味として最も適当なものはどれかを問うのが問9である。さらに問9付問では、問9で答えたような生きがいを持っているかどうかを聞く。

そして、問10では生きがいの対象を具体的に聞いている。ここでの分析に当っては、実態的な意味を鑑み、問9付問で「生きがいを持っている」と答えた人についてのみ問10についての集計対象とすることとする。

(注) 調査票の具体的内容については、本報告書の「調査データ 1. 調査票(本人用および配偶者用)」参照。

以上に基づき、本論ではまず観念的な側面である「生きがい有無」「生きがいの意味」を見て、続いて実態的な側面である「生きがいの場」「生きがいの対象」を見ていくこととしたい。

【生きがいに関する質問の構造】



(2) 生きがいの変化

① 生きがいの有無

本人調査票問9付問では、問9で選ばれた生きがいを持っているかどうかを回答してもらった。選択肢は「持っている」「前は持っていたが、今は持っていない」「持っていない」「わからない」の4つである。％は調査対象人数を分母とし、該当項目を選択した人数を分子としたものである。

a. 3時点の比較

3時点での差を見ると、「持っている」は第1回から第2回で大きく上がり(66.2%⇒78.4%、+12.2ポイント)、第3回でまた同じ程度下がった(78.4%⇒67.3%、▲11.1ポイント)。

「前は持っていたが、今は持っていない」「持っていない」はこの反対の動きであり、第2回で少なくなり、第3回でまた増えている。

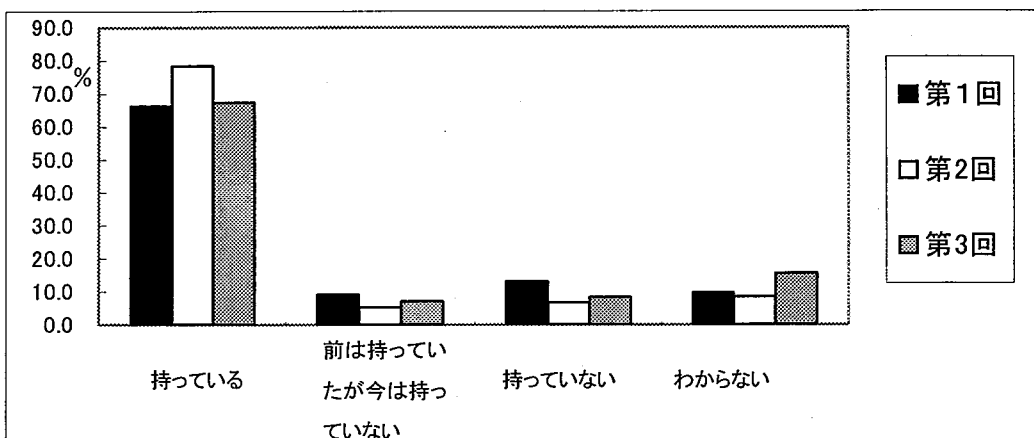
「わからない」は第3回で大きく増えた(第2回8.5%⇒15.6%、約2倍)。

表 I-1 生きがいの有無、3時点の比較

(%)

	第1回調査	第2回調査	第3回調査
持っている	66.2	78.4	67.3
前は持っていたが今は持っていない	9.2	5.2	7.1
持っていない	13.1	6.7	8.4
わからない	9.7	8.5	15.6

図 I-1 生きがいの有無、3時点の比較



b. ライフステージ推移に伴う傾向

次に第3回調査に基づき男女別にライフステージ推移に伴う傾向を見てみたい。

大多数は「持っている」と答えている。ライフステージが上がるにつれこの傾向は強まる。この傾向は男性の方が女性より強い。

次に「前は持っていたが、今は持っていない」は年齢とともに上がる。女性が比較的多い。逆に「持っていない」は、年齢とともに下がる。この2つを併せたものが広い意味での「生きがいを持っていない群」であるが、これは年齢が上がるとともに下がって行く。

「わからない」は女性に選択傾向が強い。この割合は年齢とともに下がる傾向がある。

全般にライフステージに伴う変化については女性のほうが激しいようである。

表 I-2 生きがいの有無、ライフステージ推移に伴う変化(第3回調査) (%)

		35~44 歳	45~54 歳	55~64 歳	65~74 歳	計
男性	持っている	58.6	61.0	71.8	81.8	69.2
	前は持っていたが今は持っていない	4.6	6.6	7.7	8.4	7.0
	持っていない	12.8	11.7	5.2	2.9	7.7
	わからない	23.0	19.7	14.1	5.1	14.8
女性	持っている	48.7	53.7	68.9	77.1	61.9
	前は持っていたが今は持っていない	4.2	8.5	8.2	7.4	7.2
	持っていない	18.0	12.4	7.1	2.9	10.2
	わからない	28.6	23.4	12.2	9.1	18.4

第1回、第2回の調査を併せて見る。概ね第3回と同じような動きであるが、女性の65~74歳層について「持っている」が下がり、「前は持っていたが、今は持っていない」が上がる傾向が見られる。

表 I-3 生きがいの有無、ライフステージ推移に伴う変化(第2回、第1回調査)

【第2回調査】 (%)

		35~44 歳	45~54 歳	55~64 歳	65~74 歳	計
男性	持っている	69.4	74.2	80.5	88.9	79.1
	前は持っていたが今は持っていない	5.0	5.8	4.5	5.3	5.1
	持っていない	11.1	8.9	5.3	1.5	6.3
	わからない	13.7	10.3	8.3	2.5	8.2
女性	持っている	64.3	76.5	83.7	82.1	76.1
	前は持っていたが今は持っていない	1.6	2.9	4.6	12.0	4.9
	持っていない	10.9	11.0	5.9	1.7	7.9
	わからない	20.9	8.1	5.2	3.4	9.9

【第1回調査】 (%)

		35~44 歳	45~54 歳	55~64 歳	65~74 歳	計
男性	持っている	58.8	59.7	69.3	77.9	66.6
	前は持っていたが今は持っていない	6.5	7.4	12.3	11.6	9.7
	持っていない	19.1	18.0	9.9	5.4	12.8
	わからない	14.3	14.2	7.2	2.8	9.4
女性	持っている	54.6	60.4	76.3	69.9	64.9
	前は持っていたが今は持っていない	7.2	6.9	5.3	12.2	7.6
	持っていない	22.4	20.1	5.3	5.7	13.8
	わからない	15.1	9.7	9.9	10.6	11.6

以上の選択傾向をまとめると次のような傾向が見られた。

表 I - 4 生きがいの有無に関する選択傾向

生きがいの有無	選択傾向			
	選択割合 (第3回調査)	ライフステージ (上がると)	性別	時代
持っている	67.3%	上がる	男性>女性	第2回で上がり第3回で下がった
前は持っていたが、今は持っていない	7.1%	上がる		持っているとは反対の傾向
持っていない	8.4%	下がる		
わからない	15.6%	下がる	女性>男性	第2回で少し下がり第3回で大きく上がった

「生きがいを持っている」と答えた人が第1回から第2回で大きく上がり (+12.2 ポイント)、第3回でまた同じ程度下がった (▲11.1 ポイント) こと、第3回で「わからない」が大きく増えたことは時代環境の影響を示しているようである。

また、男性に持っている人が多く、女性にわからない人が多いこと、高齢者に生きがいを持っている人が多いことなどから性別、ライフステージによる他の生きがい要素変化との関係が推測される。

この点については、「生きがいの意味」、「生きがいの場」のセクションでそれらと「生きがい有無」の関係それぞれ見ていきたい。(ちなみに「生きがいの対象」については生きがいありの場合のみを集計対象としているため分析はでない。)

②生きがいの意味

本人調査票問9では、生活の諸側面の中で満たされ、生きがいを構成すると思われる各要素のうち、生きがいを表すのに最も適当だと思うものを2つまで選んでもらった。

%は調査対象人数を分母とし該当項目を選択した人数を分子としたものである。

a. 3時点の比較

多重回答にもかかわらず、いずれの時点においても最多の「生きる喜びや満足感」でも40%台に止まり、全体にばらつきが見られる。

3時点と比較して見ると、第1回から第2回で「生活の活力やはりあい」「他人や社会の役に立っている」等が減っている。しかし、第2回から選択肢に「自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること」が追加されており、これの選択率は第2回24.7% (3位)、第3回28.2% (2位) と高く、これに引き寄せられて回答の構成比が変容したため有意な3時点比較はできない。また、第2回と第3回の2時点比較では大きな変化は認められなかった。「自分の可能性…」が追加されても、全体としてばらつきが大きいことには変わりはなく、上位を占める顔ぶれも大きく変わらない。

表 I - 5 生きがいの意味、3時点の比較(2つまでの多重回答) (%)

生きがい構成要素	第1回調査	第2回調査	第3回調査
生活の活力やはりあい	35.2	26.2	26.1
生活のリズムやメリハリ	7.1	9.7	10.2
心の安らぎや気晴らし	24.9	24.9	26.7
生きる喜びや満足感	47.0	43.7	40.5
人生観や価値観の形成	9.7	7.9	8.7
生きる目標や目的	19.6	20.4	17.5
自分自身の向上	22.3	15.8	18.3
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	—	24.7	28.2
他人や社会の役に立っていると感じる	25.5	19.1	17.1

図 I - 2 生きがいの意味、3時点の比較(2つまでの多重回答)

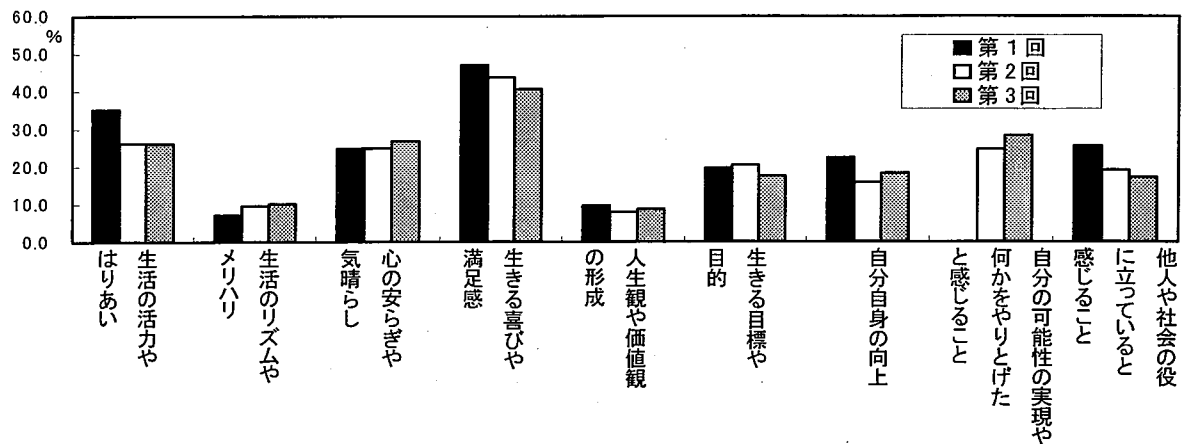


表 I - 6 生きがいの意味上位順(第1~3回調査、2つまでの多重回答) (%)

順位	第1回		第2回		第3回	
	1	生きる喜びや満足感	47.0	生きる喜びや満足感	43.7	生きる喜びや満足感
2	生活の活力やはりあい	35.2	生活の活力やはりあい	26.2	自分の可能性の実現	28.2
3	他人や社会の役に立って...	25.5	心の安らぎや気晴らし	24.9	心の安らぎや気晴らし	26.7
4	心の安らぎや気晴らし	24.9	自分の可能性の実現	24.7	生活の活力やはりあい	26.1
5	自分自身の向上	22.3	生きる目標や目的	20.4	自分自身の向上	18.3
6	生きる目標や目的	19.6	他人や社会の役に立って...	19.1	生きる目標や目的	17.5
7	人生観や価値観の形成	9.7	自分自身の向上	15.8	他人や社会の役に立って...	17.1
8	生活のリズムやメリハリ	7.1	生活のリズムやメリハリ	9.7	生活のリズムやメリハリ	10.2
9			人生観や価値観の形成	7.9	人生観や価値観の形成	8.7

b. ライフステージ推移に伴う傾向

次に第3回調査に基づき性別、ライフステージ推移に伴う傾向を概観する。

「生きる喜びや満足感」「生きる目標や目的」は、男女を問わず選択傾向が強い。ただし、その傾向は概ね年齢が上がるにつれ下がる。

「生活の活力やはりあい」についても性別を問わず年齢が上がるにつれ少しづつ下がる傾向にある。「自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること」は45~54歳でピークとなる。「他人や社会の役に立っていると感じる」と感じることは概ね年齢とともに上がり、選択傾向は男性高齢層が比較的大きい。

「生活のリズムやメリハリ」、「心の安らぎや気晴らし」も概ね年齢とともに上がるが、これは女性高齢層にその傾向が顕著である。

「人生観や価値観の形成」、「自分自身の向上」も概ね年齢とともに上がる。性別を問わない。

表 I - 7 生きがいの意味のライフステージ推移に伴う変化(第3回調査) (%)

生きがいの意味		35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	計
男性	生きる喜びや満足感	43.9	41.0	38.5	38.4	40.2
	生きる目標や目的	23.8	20.2	15.5	12.1	17.5
	生活の活力やはりあい	29.0	27.0	27.9	22.9	26.4
	自分の可能性の実現	26.5	31.1	28.8	27.5	28.6
	他人や社会の役に立っている	11.8	15.0	20.0	22.6	17.7
	生活のリズムやメリハリ	5.6	7.3	12.4	13.4	10.1
	心の安らぎや気晴らし	25.1	24.0	27.0	27.5	26.1
	人生観や価値観の形成	8.9	9.6	9.1	9.2	9.2
	自分自身の向上	17.0	17.0	16.2	18.8	17.4
	女性	生きる喜びや満足感	48.1	43.3	43.4	32.6
生きる目標や目的		25.9	17.4	13.8	13.7	17.5
生活の活力やはりあい		27.0	27.9	22.4	22.3	24.9
自分の可能性の実現		22.8	31.3	27.6	24.0	26.5
他人や社会の役に立っている		11.6	15.4	15.3	18.3	15.2
生活のリズムやメリハリ		4.8	10.4	10.2	17.7	10.6
心の安らぎや気晴らし		22.8	25.4	32.1	34.9	28.2
人生観や価値観の形成		5.3	8.0	8.2	8.0	7.2
自分自身の向上		20.6	15.4	23.0	24.0	20.9

性別、ライフステージ推移に伴う生きがいの意味の選択傾向をまとめると次のような傾向が見られた。

表 I-8 生きがいの意味のライフステージ推移に伴う変化(第3回調査、2つまでの多重回答)

生きがいの意味	選択傾向		
	選択割合(第3回調査)	ライフステージ(上がると)	性別
生きる喜びや満足感	40.5%	下がる	
心の安らぎや気晴らし	26.7%		
生活の活力やほりあい	26.1%	下がる	
自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる事	28.2%		
他人や社会の役に立っていると感じる事	17.1%	上がる	男性>女性
生活のリズムやメリハリ	10.2%	上がる	女性>男性
心の安らぎや気晴らし	26.7%		
人生観や価値観の形成	8.7%	上がる	
自分自身の向上	18.3%		

(注) 時代環境の影響については有意な差は確認できなかった。

c. 生きがい有無との関係

最後に生きがい有無との関係を見てみたい。

第3回調査結果に基づき、生きがいを「持っている」「前は持っていたが今は持っていない」、「持っていない」「わからない」を回答した別に群を構成し、生きがいの意味の選択傾向を見た。結果として、いずれの群も「生きる喜びや満足感」「自分の可能性の実現」「生活の活力やほりあい」が上位を占め、決定的違いは認められなかった。

表 I-9 生きがい有無別の生きがいの意味上位(第3回調査)

○生きがいを持っている群					
男性(1,641人)			女性(480人)		
順位	生きがいの意味	選択率(%)	順位	生きがいの意味	選択率(%)
1	生きる喜びや満足感	39.2	1	生きる喜びや満足感	42.1
2	自分の可能性の実現	29.6	2	自分の可能性の実現	28.8
3	生活の活力やほりあい	26.9	3	心の安らぎや気晴らし	27.9
○前は持っていたが今は持っていない群					
男性(167人)			女性(56人)		
順位	生きがいの意味	選択率(%)	順位	生きがいの意味	選択率(%)
1	生きる喜びや満足感	34.1	1	心の安らぎや気晴らし	32.1
2	生活の活力やほりあい	31.1	2	生活の活力やほりあい	28.6
2	自分の可能性の実現	31.1	3	生きる喜びや満足感	26.8
○生きがいを持っていない群					
男性(183人)			女性(79人)		
順位	生きがいの意味	選択率(%)	順位	生きがいの意味	選択率(%)
1	生きる喜びや満足感	45.4	1	生きる喜びや満足感	39.2
2	心の安らぎや気晴らし	32.2	2	自分の可能性の実現	26.6
3	生きる目標や目的	25.7	3	他人や社会の役に立つ	25.3
○わからない群					
男性(350人)			女性(143人)		
順位	生きがいの意味	選択率(%)	順位	生きがいの意味	選択率(%)
1	生きる喜びや満足感	43.7	1	生きる喜びや満足感	51.7
2	心の安らぎや気晴らし	30.0	2	心の安らぎや気晴らし	29.4
3	自分の可能性の実現	26.9	3	生活の活力やほりあい	25.2

③生きがいの場

本人調査票問6は、「生きがい」を表すのに最も適当なものを問9の選択肢を「生きがいを構成する要素」とし、その各々がどの場から取得されているかという実態的側面を聞く質問である。「家庭」「仕事・会社」「地域・近隣」「個人的友人」「世間・社会」「その他」「どこにもない」の7つの選択肢からそれぞれ2つまで回答してもらった。

%は調査対象人数を分母とし、該当項目を選択した人数を分子としたものである。

(注)「(2)生活のどの場で、リズムやメリハリがつかますか」は第1回調査ではなかった設問であり、3時点比較できないため、ここでは集計対象より除外した。

a. 3時点の比較

3時点を比較して見ると、第1回から第2回で「仕事・会社」が減った。「家庭」「個人的友人」が徐々に増えている。しかし「家庭」「仕事・会社」は常に主要な場を示し、「個人的友人」「世間社会」がその次に位置し、「地域・近隣」「その他」は少数、「どこにもない」は微小という全体の構造は3回とも同じである。

表I-10 生きがいの場(第1~3回調査集計、2つまでの多重回答) (%)

生きがい構成要素			家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
(1)	生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	第1回	68.4	57.4	4.5	15.6	7.0	2.9	0.9
		第2回	67.7	47.2	5.8	19.2	5.6	4.1	1.0
		第3回	70.6	46.3	5.9	22.8	6.0	4.9	0.8
(3)	心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	第1回	81.5	8.9	5.0	37.3	4.3	10.1	0.5
		第2回	78.4	5.7	5.5	35.6	4.5	10.8	0.6
		第3回	78.1	6.2	4.9	40.6	3.3	11.4	0.9
(4)	生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	第1回	59.6	49.7	5.1	12.8	8.2	6.9	1.8
		第2回	62.8	37.7	5.9	18.0	6.3	8.2	1.2
		第3回	65.6	38.0	5.9	21.9	6.5	8.8	1.4
(5)	あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	第1回	23.2	44.4	6.2	28.4	32.5	6.3	2.6
		第2回	31.4	37.6	6.2	27.8	26.3	6.2	3.0
		第3回	34.6	39.9	5.5	29.0	26.5	7.1	2.8
(6)	生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	第1回	68.7	40.0	4.9	2.8	17.6	5.1	1.3
		第2回	67.7	34.2	6.3	4.3	16.5	5.8	1.4
		第3回	70.4	35.2	5.5	5.3	15.5	7.5	1.9
(7)	どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	第1回	14.2	62.5	8.6	13.2	36.6	5.0	1.7
		第2回	20.0	56.4	8.8	13.5	29.3	5.9	2.1
		第3回	21.7	58.5	8.7	15.4	29.0	7.2	1.8
(8)	自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	第1回	18.7	69.1	9.2	4.2	20.5	7.5	4.2
		第2回	22.3	63.7	9.0	4.3	18.9	8.3	3.3
		第3回	22.9	63.8	9.9	5.7	19.3	10.0	3.5
(9)	自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	第1回	31.5	68.1	11.3	8.3	15.4	4.3	3.5
		第2回	37.0	61.5	11.3	7.5	13.2	5.0	3.8
		第3回	39.1	60.3	11.6	9.8	13.2	5.4	4.3
各要素の場に占めるウェイトの平均	第1回	45.7	50.0	6.9	15.3	17.8	6.0	2.1	
	第2回	48.4	43.0	7.4	16.3	15.1	6.8	2.1	
	第3回	50.4	43.5	7.2	18.8	14.9	7.8	2.2	

b. 生きがい構成要素とそれを取得する場

次に、第3回調査結果に基づき「生きがい構成要素」と「それを取得する場」の関係を詳しく見たい。(ちなみに第1回、第2回調査結果も傾向は同じである)

ここでは生きがい構成要素間の軽重はわからないが、それぞれの構成要素はいずれかの場で取得され「どこにもない」は極めて少ない。また、各構成要素とも生活の主要な場である「家庭」「仕事・会社」のいずれかが主な取得の場となっていることがわかる。

「家庭」「仕事・会社」に注目すると、この2つは補完的な働きをしていることに気付く。「家庭」は心の安らぎ、生活の活力、喜び・満足、目標・目的を満たす場、「仕事・会社」は自分自身の向上、可能性の実現、役立ち・評価を満たす場であり、あたかも役割分担しているかのようである。

他の場にも視点を移そう。「個人的友人」は「家庭」と良く似た傾向がある。心の安らぎ、生活の活力、喜び・満足を満たす場である。ただし、目標・目的の場にはならず、人生観・価値観形成の傾向が強い。「地域・近隣」「世間・社会」は仕事と良く似ている。自分自身の向上、可能性の実現、役立ち・評価が比較的強い。ただし、「世間・社会」が内面の自分自身の向上に重心を置くのに対し、「地域・近隣」は他者への役立ち・評価を得ることに重心があり、内向きか外向きかという若干の違いはある。

表 I-11 生きがい構成要素と取得の場(第3回調査、2つまでの多重回答)

(%)

		生きがい構成要素	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
男	(1)	生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	75.5	48.1	6.1	17.7	6.7	4.3	0.7
	(3)	心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	92.4	6.9	5.6	35.5	3.7	11.3	0.8
	(4)	生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	69.6	41.2	6.3	16.7	6.8	8.1	1.2
	(5)	あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	34.5	43.1	5.9	25.1	28.5	7.2	3.0
	(6)	生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	73.8	37.6	6.0	4.2	15.3	6.1	1.5
	(7)	どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	22.8	60.8	9.1	13.1	31.2	6.0	1.7
	(8)	自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	23.4	66.4	10.7	5.6	20.5	8.9	2.7
	(9)	自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	38.8	63.0	12.9	8.2	15.1	4.9	3.7
		平均	52.6	45.9	7.8	15.8	16.0	7.1	1.9
女	(1)	生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	55.9	41.5	4.9	39.2	4.1	6.7	1.3
	(3)	心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	66.0	3.7	2.6	56.7	2.1	11.3	1.2
	(4)	生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	54.4	28.6	4.8	38.4	5.4	11.0	1.9
	(5)	あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	34.8	30.2	3.7	41.4	20.7	7.1	2.3
	(6)	生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	60.6	28.1	3.9	8.6	16.1	12.0	3.1
	(7)	どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	18.3	52.4	7.2	22.6	22.9	10.8	2.2
	(8)	自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	20.9	56.7	7.6	6.2	16.4	13.7	5.8
	(9)	自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	40.3	52.7	7.6	14.8	7.7	7.0	5.9
		平均	43.9	36.7	5.3	28.5	11.9	10.0	3.0

c. ライフステージ推移に伴う傾向

次に性別にライフステージ推移との関係を見てみたい。

「家庭」「仕事・会社」は、生きがい要素取得の場として選ばれることが顕著である。ではライフステージとの関係ではどのような変化をするのであろうか。

選択傾向は両者とも男性が女性よりも強く、ライフステージ推移すなわち、年齢が上がることもに下がる。特に55歳以降の「仕事・会社」の下がり方は顕著である。

図 I-3-1 「家庭」における生きがい構成要素の取得のライフステージ推移に伴う変化
(第3回調査) (%)

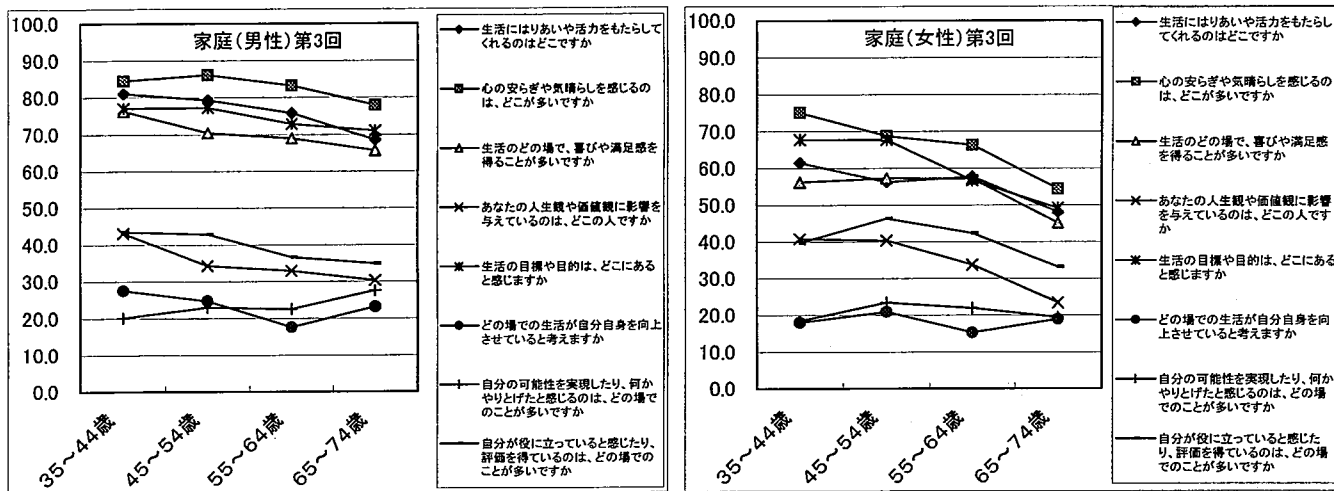
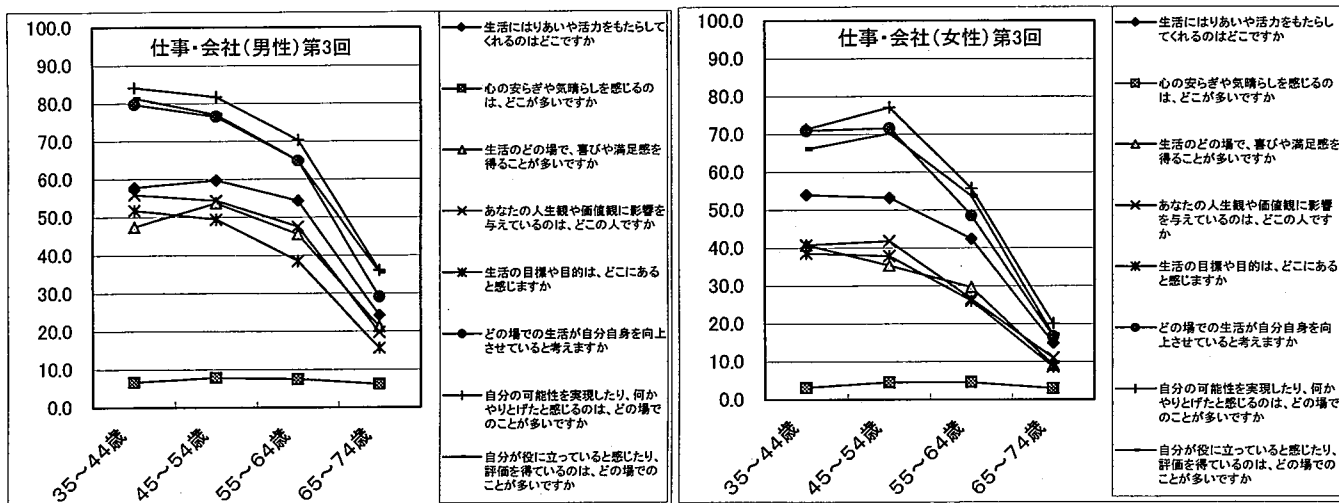


図 I-3-2 「仕事・会社」における生きがい構成要素の取得のライフステージ推移に伴う変化
(第3回調査) (%)



「家庭」「仕事・会社」は生きがい構成要素を取得する主要な場として非常に重要であるが、ライフステージの推移とともにその機能は減退していくようである。特に「仕事・会社」については高齢期の減退が顕著である。

それでは、人は年をとるとともに生きがい構成要素を取得できなくなっていくのであろうか。「家庭」「仕事・会社」以外の場との関係も踏まえて、ライフステージ推移との関係を見ていきたい。

表 I-12 生きがい構成要素取得の場、ライフステージ別傾向(第3回、2つまでの多重回答、%)

35～44歳		家庭	会社・仕事	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
男 性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	81.0	57.8	2.1	11.2	3.1	4.3	0.6
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	64.5	6.6	3.1	31.3	2.3	11.4	1.2
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	76.2	47.4	2.9	13.0	1.7	7.5	1.9
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	43.1	55.9	1.2	21.9	18.4	7.0	3.3
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	77.9	51.9	2.1	2.5	8.5	7.0	1.9
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	27.5	79.7	4.1	10.4	19.0	5.2	1.4
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	20.1	84.1	4.1	3.7	15.7	8.5	2.1
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	43.3	81.4	6.2	6.4	6.6	4.1	3.3
	平均	56.6	58.1	3.2	12.6	9.4	6.9	2.0
女 性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	61.4	54.0	0.5	42.3	1.1	8.5	1.1
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	75.1	3.2	0.5	62.4	2.1	14.3	1.6
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	56.1	40.7	1.1	41.8	3.2	14.8	1.6
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	40.7	40.7	0.5	41.3	21.2	8.5	3.7
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	67.7	38.6	0.5	9.5	9.5	15.3	3.7
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	18.0	70.9	3.2	21.7	19.0	10.6	1.6
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	18.5	71.4	2.6	4.2	14.8	12.2	9.0
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	39.7	66.1	4.2	15.9	4.2	4.2	9.0
	平均	47.2	48.2	1.6	29.9	9.4	11.1	3.9

45～54歳		家庭	会社・仕事	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
男 性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	79.3	59.7	2.3	14.1	2.4	4.5	0.9
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	86.1	7.8	3.5	35.3	3.0	13.2	1.0
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	70.4	53.7	4.0	13.7	5.2	7.1	1.6
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	34.3	54.4	3.5	24.3	28.0	7.5	3.0
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	77.2	49.4	3.3	2.8	11.7	4.9	1.2
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	24.7	76.5	6.1	13.6	26.4	5.0	1.2
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	23.0	81.7	6.6	4.0	17.9	8.2	2.4
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	42.8	77.0	8.3	6.3	12.5	4.0	3.1
	平均	54.7	57.5	4.7	14.3	13.4	6.8	1.8
女 性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	58.2	53.2	1.0	36.8	2.0	4.0	2.0
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	68.7	4.5	1.0	60.7	1.5	8.5	0.5
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	57.2	35.3	1.5	41.8	3.0	9.0	2.5
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	40.3	41.8	1.5	43.3	16.4	4.5	2.0
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	67.7	37.8	1.5	10.0	15.9	7.5	3.0
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	20.9	71.6	3.5	23.9	17.9	5.5	3.0
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	23.4	77.1	3.0	3.0	13.9	13.4	2.5
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	46.3	70.1	2.0	10.9	4.5	4.0	5.0
	平均	47.6	48.9	1.9	28.8	9.4	7.1	2.6

55～64歳		家庭	会社・仕事	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
男性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	75.7	54.3	5.5	18.1	5.0	2.9	0.3
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	83.2	7.4	7.0	38.1	2.7	12.1	0.5
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	68.9	45.5	5.5	17.0	7.4	8.2	1.1
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	32.9	47.5	6.2	22.9	32.5	5.8	2.9
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	72.8	38.4	6.7	5.0	16.7	5.8	2.0
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	17.6	64.8	9.3	13.1	35.4	5.3	2.0
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	22.5	70.3	11.7	5.6	20.0	8.8	3.2
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	36.6	64.8	12.1	9.0	17.9	4.1	3.8
	平均	51.3	49.1	8.0	16.1	17.2	6.6	2.0
女性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	57.7	42.3	5.1	36.7	4.1	5.1	1.5
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	66.3	4.6	2.6	56.6	2.0	11.2	1.5
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	57.1	29.6	5.6	36.2	4.1	9.2	2.0
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	33.7	26.5	5.6	42.9	23.5	8.2	1.5
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	56.6	26.0	6.6	8.2	17.3	11.7	3.6
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	15.3	48.5	10.7	26.0	22.4	12.2	1.5
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	21.9	55.6	10.2	9.7	16.8	11.7	5.1
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	42.3	53.6	8.2	16.3	7.7	9.2	4.6
	平均	43.9	35.8	6.8	29.1	12.2	9.8	2.7

65～74歳		家庭	会社・仕事	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
男性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	68.5	24.2	13.5	25.6	14.3	5.6	0.8
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	77.9	6.1	8.0	36.3	5.9	8.6	0.8
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	65.6	21.2	11.9	21.5	11.3	9.2	0.6
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	30.3	19.7	11.1	30.4	32.8	8.4	3.0
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	71.0	15.6	10.2	6.1	22.5	6.7	1.0
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	23.1	29.0	15.6	14.8	40.4	8.3	2.2
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	27.5	36.0	18.3	8.8	27.2	9.9	2.9
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	34.9	35.5	23.1	10.5	20.9	7.0	4.3
	平均	49.9	23.4	14.0	19.3	21.9	8.0	2.0
女性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	48.0	14.9	13.7	42.3	9.1	10.3	0.6
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	54.3	2.9	6.9	48.0	2.3	11.4	1.1
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	45.1	9.1	10.9	35.4	12.0	10.3	1.7
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	23.4	10.9	7.4	37.1	22.9	7.4	2.3
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	49.1	8.6	7.4	7.4	21.1	14.3	2.3
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	18.9	16.6	12.0	19.4	34.9	14.3	2.9
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	19.4	20.0	15.4	8.6	20.0	17.1	7.4
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	33.1	17.1	16.6	17.1	14.9	9.7	5.7
	平均	36.4	12.5	11.3	26.9	17.2	11.9	3.0

確かにライフステージの若い時は、「家庭」「仕事・会社」への集中が見られる。そして、まず変化が出てくるのが「仕事・会社」で、55～64歳層で兆候が現れ、次の65～74歳層で希薄となる。定年、職業生活からの引退などの影響によるものであろう。

「家庭」についても65～74歳層ではかなり弱くなる。この傾向は特に女性に顕著である。

そしてここで注目することは「地域・近隣」「世間・社会」「個人的友人」の場の影響力である。

「地域・近隣」は若い層では低い選択率であったが、「仕事・会社」が後退する55～64歳層から、かつて「仕事・会社」で取得した役立ち・評価、可能性の実現、自分自身の向上の場として伸びている。そしてその選択傾向は男性に強く、ライフステージが上がるに伴い上がる。

「世間・社会」も 55～64 歳層から伸びている。可能性の実現、自分自身の向上、人生観・価値観の形成の場として選択される。これも男性に選択傾向が強く、年齢が上がるに伴い上がる。

一方、「個人的友人」は女性に選択傾向が強く、女性は男性よりも家庭の選択傾向が弱いことを併せ考えると興味深い。

また女性については 35～44 歳の若年層と 55～64 歳以降の層で「その他」の選択傾向が大きいことも興味深い。

以上から、生きがい構成要素を取得する場は、ライフステージの推移、定年、引退等に伴う生活変化により変化するようである。

このことはまた、生きがいの意味において、主な取得の場を「家庭」「仕事・会社」に求めている「生きる喜びや満足感」「生活の活力やはりあい」を重視する傾向がライフステージ推移とともに下がり、「他人や社会の役に立っていること」「心の安らぎや気晴らし」が増える傾向とも符号しているようである。すなわち、他人や社会の役に立っていることは男性を中心に地域・社会へのコミットの高まり、心の安らぎは女性を中心とする個人的友人への高いコミットと符合するようである。

ライフステージの推移に伴う生活変化などの中で、生きがいの場は変化し、また生きがいの意味として何を重視するかということも変化するようである。

以上の知見を踏まえ、時代、性別、ライフステージ推移に伴う生きがいの場の選択傾向をまとめると次のような傾向が見られた。

表 I-13 生きがいの場に関する選択傾向(2つまでの多重回答)

生きがいの場	選択傾向			
	選択割合 (第3回調査)	ライフステージ (上がると)	性別	時代*
家庭	50.4%	下がる	男性>女性	上がる
仕事・会社	43.5%	下がる	男性>女性	下がる
地域・近隣	7.2%	上がる	男性>女性	
世間・社会	18.8%	上がる	男性>女性	
個人的友人	14.9%		女性>男性	上がる
その他	7.8%		女性>男性	上がる
どこにもない	2.2%		女性>男性	

(注) * 時代環境の影響は全体の構造を変えるような大きなものではない。

d. 生きがい有無との関係

最後に生きがい有無との関係を見たい。

「生きがいを持っている群」と比べ、「持っていない」群は家庭の選択傾向が低い。仕事・会社は同じくらいである。「前は持っていたが、今は持っていない」群は、家庭、仕事・会社ともに選択傾向が低い。

また、「わからない」と答えた群では、仕事・会社の選択傾向は「持っている」群に比べても高いが、家庭の選択傾向がやや低いことに気付く。

次に家庭、仕事・会社以外の生きがい構成要素の取得の場についても見てみたい。

「持っていない」「前は持っていたが今は持っていない」群は、「その他」「どこにもない」の選択傾向が高い。また、生きがい構成要素ごとの取得状況についても、概ねいずれの場における選択率も「持っている」群に比べ低いようである。

以上の点から、生きがい構成要素とその取得の場との関係、状況が生きがいの有無に影響しているのではないかと予想される。実態である、生きがい構成要素と取得の場がうまく機能しているかどうかの評価が生きがい有無に影響するのではないだろうか。

表 I-14 生きがい有無別の傾向(第3回調査)

○生きがいを持っている(第3回調査:男性 1,641 人、女性 480 人)

(%)

生きがい構成要素		家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
男性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	76.6	48.6	7.4	17.6	7.6	3.7	0.2
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	84.7	7.3	7.1	36.7	4.0	10.0	0.4
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	72.1	42.0	7.7	17.4	8.1	7.2	0.4
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	35.9	42.2	6.8	27.1	30.2	6.9	1.6
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	75.4	38.7	6.7	4.7	16.4	5.4	0.8
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	24.8	60.0	10.5	13.9	33.4	5.6	0.5
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	24.7	66.4	12.9	6.0	23.6	8.2	1.2
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	40.2	62.9	15.7	8.8	17.7	4.8	2.0
	平均	54.3	46.0	9.4	16.5	17.6	6.5	0.9
女性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	60.2	41.0	7.1	40.6	5.0	6.3	0.6
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	69.8	4.4	3.8	58.3	2.3	10.0	0.4
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	57.9	28.3	7.1	38.1	6.9	9.8	0.8
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	34.6	31.0	5.4	43.1	22.5	7.1	1.7
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	61.9	28.8	6.3	9.2	19.0	12.5	1.3
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	21.7	51.9	10.4	22.1	25.0	12.1	0.4
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	24.2	55.2	10.6	7.5	18.3	16.0	3.1
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	42.3	52.9	10.8	15.0	10.4	8.3	2.1
	平均	46.6	36.7	7.7	29.2	13.7	10.3	1.3

○前もっていたが今は持っていない(第3回調査:男性 167 人、女性 56 人)

(%)

生きがい構成要素		家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
男性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	67.1	36.5	8.4	20.4	7.2	7.8	1.8
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	70.7	4.8	4.8	36.5	4.2	15.6	3.0
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	59.9	29.9	3.6	21.6	4.2	13.2	2.4
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	31.7	38.3	7.2	19.8	27.5	8.4	4.2
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	66.5	24.6	4.8	4.8	16.2	7.8	3.0
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	17.4	47.9	7.8	13.2	30.5	7.8	4.2
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	22.8	51.5	7.8	3.0	17.4	10.2	6.6
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	34.1	47.3	10.2	7.8	13.8	5.4	7.8
	平均	46.3	35.1	6.8	15.9	15.1	9.5	4.1
女性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	48.2	33.9	3.6	37.5	5.4	10.7	1.8
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	42.9	5.4	1.8	58.8	3.6	19.6	1.8
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	46.4	26.8	3.6	39.3	3.6	16.1	5.4
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	37.5	23.2	3.6	41.1	14.3	12.5	1.8
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	53.6	28.6	0.0	5.4	8.9	17.9	5.4
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	17.9	41.1	1.8	28.6	21.4	21.4	5.4
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	17.9	53.6	5.4	7.1	10.7	17.9	3.6
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	37.5	42.9	5.4	19.6	1.8	10.7	10.7
	平均	37.7	31.9	3.2	29.7	8.7	15.9	4.5

○持っていない(第3回調査:男性 183 人、女性 79 人)

(%)

生きがい構成要素		家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
男 性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	72.1	43.7	1.6	18.6	3.3	8.7	3.8
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	73.8	4.9	0.5	31.7	2.2	16.9	4.9
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	59.6	37.2	3.8	14.2	3.3	10.9	5.5
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	28.4	46.4	2.7	23.0	24.6	9.3	8.7
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	67.2	35.0	4.4	2.7	15.3	10.4	4.9
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	19.1	61.7	5.5	8.7	24.6	9.8	8.7
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	18.6	67.2	5.5	3.8	10.4	9.8	12.0
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	32.8	65.6	6.0	6.0	5.5	4.9	13.1
	平均	46.5	45.2	3.8	13.6	11.2	10.1	7.7
女 性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	43.0	38.0	1.3	45.6	0.0	6.3	6.3
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	51.9	2.5	1.3	57.0	3.8	16.5	1.3
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	43.0	24.1	0.0	46.8	5.1	10.1	7.6
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	26.6	35.4	0.0	35.4	20.3	7.6	3.8
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	63.3	25.3	0.0	8.9	11.4	7.6	12.7
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	10.1	64.6	1.3	21.5	19.0	3.8	7.6
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	16.5	63.3	3.8	5.1	7.6	5.1	15.2
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	38.0	50.6	1.3	13.9	1.3	1.3	20.3
	平均	36.6	38.0	1.1	29.3	8.6	7.3	9.4

○わからない(第3回調査:男性 350 人、女性 143 人)

(%)

生きがい構成要素		家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
男 性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	77.1	54.0	1.4	15.1	4.0	2.9	0.9
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	82.9	7.4	1.4	32.3	2.6	13.1	0.0
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	68.9	46.0	2.3	12.0	4.0	8.6	2.3
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	33.1	49.1	2.6	19.4	23.7	7.1	5.7
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	74.0	41.1	4.0	2.3	10.3	6.3	2.3
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	18.6	78.9	5.1	12.3	25.1	5.1	2.6
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	20.9	74.6	4.6	4.9	13.1	11.4	3.1
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	39.4	70.6	5.1	6.6	8.3	4.9	4.9
	平均	51.9	51.7	3.3	13.1	11.4	7.4	2.7
女 性	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	51.7	49.0	0.7	31.5	2.8	7.7	0.7
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	68.5	1.4	0.0	49.7	0.0	11.2	3.5
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	51.7	34.3	0.7	33.6	0.7	14.0	1.4
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	39.2	29.4	0.7	38.5	16.8	5.6	3.5
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	59.4	28.7	0.0	7.7	10.5	11.9	3.5
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	12.6	54.5	2.1	21.0	18.2	7.7	4.2
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	15.4	60.8	0.7	2.1	18.2	9.8	9.8
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	36.4	58.7	1.4	11.9	4.9	4.9	9.1
	平均	41.9	39.6	0.8	24.5	9.0	9.1	4.5

④生きがいの対象

本人調査票問10は生きがいの対象を聞くもので、どのようなことに生きがいを感じているかを3つまで回答してもらった。

この質問は第2回調査より始めたものであり、集計は第2回および第3回調査について行なった。％は調査対象人数を分母とし、該当項目を選択した人数を分子としたものである。

(注)ここでは、問9付問で「生きがいを持っている」と答えた人についてのみ集計対象とする。

a. 2時点の比較

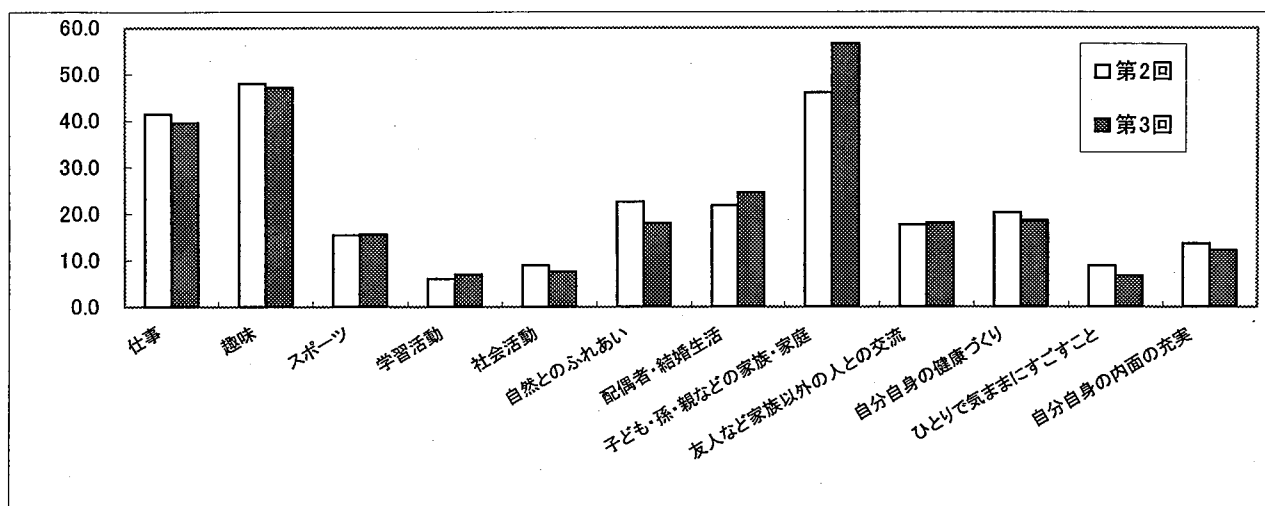
2時点間の比較に止まるが、両時点とも「仕事」「趣味」「子ども・孫・親などの家族・家庭」が大きなウェイトを占め、全体の構造は変わらないようである。目立った差は「子ども・孫・親などの家族・家庭」(第2回46.1%⇒第3回56.6%、+10.5ポイント)くらいである。

表I-15 生きがいの対象、第2回、第3回調査対比(3つまでの多重回答) (%)

生きがいの対象	第2回調査	第3回調査
仕事	41.4	39.6
趣味	48.0	47.2
スポーツ	15.4	15.6
学習活動	6.0	7.0
社会活動	9.0	7.6
自然とのふれあい	22.6	18.0
配偶者・結婚生活	21.8	24.6
子ども・孫・親などの家族・家庭	46.1	56.6
友人など家族以外の人との交流	17.6	18.1
自分自身の健康づくり	20.3	18.6
一人で気ままに過ごすこと	8.9	6.7
自分自身の内面の充実	13.6	12.2

図I-4 生きがいの対象、第2回、第3回調査対比(3つまでの多重回答)

(%)



b. ライフステージ推移に伴う傾向

次に第3回調査に基づき性別、ライフステージ推移に伴う傾向を概観する。

「仕事」「配偶者・結婚生活」「子ども・孫・親など家族・家庭」は生きがい対象として選ばれる傾向が顕著である。またその傾向は男性が女性より強く、年齢とともに下がる。

「スポーツ」「健康作り」「趣味」「自然とのふれあい」の選択傾向も年齢とともに上がる。こちらは男女の差はあまりない。

「趣味」「自然とのふれあい」は比較的多く選ばれている。年齢とともに上がる。

一方、全体に占める割合は低いが「社会活動」は男性に、「学習活動」「内面の充実」は女性に選択傾向が強い。また「友人などとの交流」「ひとり気ままに」も女性に選択傾向が強い。

表 I - 16 生きがいの対象のライフステージ推移に伴う変化(第3回調査) (%)

生きがいの対象		35~44 歳	45~54 歳	55~64 歳	65~74 歳	全体
男性	仕事	59.0	54.7	45.7	22.6	42.5
	配偶者・結婚生活	42.4	30.2	22.8	23.0	27.8
	子ども・孫・親など家族・家庭	75.6	64.4	49.0	56.2	59.2
	スポーツ	13.4	18.2	16.5	19.3	17.1
	自分自身の健康づくり	2.5	8.5	19.7	28.8	17.4
	趣味	35.3	39.3	53.1	58.6	48.6
	自然とのふれあい	8.8	16.8	23.3	17.1	17.4
	学習活動	4.6	4.8	6.3	9.3	6.6
	社会活動	1.8	5.4	8.7	13.6	8.4
	自分自身の内面の充実	8.1	10.3	8.0	9.9	9.3
	友人など家族以外の人との交流	9.2	10.3	13.3	15.8	12.7
	ひとりで気ままに過ごす	2.5	4.8	7.4	5.8	5.5
女性	仕事	32.6	47.2	33.3	11.1	29.8
	配偶者・結婚生活	20.7	14.8	9.6	11.1	13.3
	子ども・孫・親など家族・家庭	57.6	50.9	44.4	46.7	49.0
	スポーツ	8.7	12.0	10.4	12.6	11.0
	自分自身の健康づくり	2.2	12.0	25.9	37.0	21.7
	趣味	27.2	36.1	43.0	57.8	42.5
	自然とのふれあい	3.3	19.4	31.9	19.3	19.8
	学習活動	8.7	6.5	6.7	12.6	8.5
	社会活動	4.3	3.7	2.2	7.4	4.4
	自分自身の内面の充実	27.2	23.1	24.4	17.0	22.5
	友人など家族以外の人との交流	41.3	30.6	33.3	41.5	36.7
	ひとりで気ままに過ごす	12.0	6.5	14.1	9.6	10.8

時代、性別、ライフステージ推移に伴う生きがいの対象の選択傾向をまとめると次のような傾向が見られた。

表 I - 17 生きがいの対象に関する選択傾向(3つまでの多重回答)

生きがいの対象	選択傾向			
	選択割合 (第3回調査)	ライフステージ (上がると)	性別	時代
仕事	39.6%	下がる	男性>女性	子ども・孫・親など家族・家庭は上がる
配偶者・結婚生活	24.6%			
子ども・孫・親など家族・家庭	56.6%	上がる		
スポーツ	15.6%			
健康づくり	18.6%	上がる		
趣味	47.2%			
自然とのふれあい	18.0%		男性>女性	
社会活動	7.6%			
学習活動	7.0%		女性>男性	
内面の充実	12.2%			
友人などとの交流	18.1%		女性>男性	
ひとりで気ままに	6.7%			

⑤性別による傾向の差について

以上、生きがいの有無、生きがいの意味、生きがいの場、生きがいの対象について概観したが、いくつかのところ性別による違いが見られた。そこで、ここではこの違いに注目し、女性について婚姻状況の違いをキーに詳しく見てみたい。

(注)本調査の対象者では、男性は既婚者が90%以上を占めるのに対し、女性は未婚、既婚が各々大きなウェイトを占める。婚姻状況の差は生活形態の差に結びつくことが予想され、性別の差が婚姻状況の差に起因する可能性も考えられる。そこで女性について未既婚別の傾向を比較することでこの点を分析することとした。

a. 生きがいの有無

「持っている」は男性に傾向が強く、「わからない」は女性に選択傾向が強かった。それでは女性の中で未既婚の別による差があるだろうか。

全ての調査時点で、「持っている」は既婚者に多く、それ以外は未婚者に多い。

表 I-18 生きがいの有無、3時点の比較(女性) (%)

		生きがいの有無	第1回調査	第2回調査	第3回調査
未婚	持っている		58.9	73.7	52.2
	前は持っていたが今は持っていない		8.6	5.3	8.8
	持っていない		15.2	8.4	13.9
	わからない		13.2	12.1	23.4
既婚	持っている		68.4	77.2	64.4
	前は持っていたが今は持っていない		5.7	3.1	5.3
	持っていない		13.4	7.3	9.8
	わからない		10.8	10.4	17.9

次にライフステージ別に違いを見る。概ねどのステージにおいても、「持っている」は既婚者に多く、それ以外は未婚者の方が多い。また従来、「持っている」はライフステージとともに伸び、55～64歳層以降伸びが止まるのに対し、第3回調査の既婚者ではさらに大きく伸びていることが興味深い。(55～64歳層70.1%⇒65～74歳層81.6%)

表 I-19 生きがいの有無、ライフステージ推移に伴う変化【女性】 (%)

		生きがいの有無	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	全体
第3回調査	未婚	持っている	42.9	46.9	63.3	67.5	52.2
		前は持っていたが今は持っていない	4.4	12.3	8.3	12.5	8.8
		持っていない	20.9	12.3	13.3	2.5	13.9
		わからない	31.9	25.9	11.7	15.0	23.4
	既婚	持っている	51.3	56.1	70.1	81.6	64.4
		前は持っていたが今は持っていない	5.0	3.1	7.2	5.3	5.3
		持っていない	16.3	15.3	6.2	0.0	9.8
		わからない	26.3	23.5	13.4	9.2	17.9
第2回調査	未婚	持っている	61.0	76.6	81.3	80.6	73.7
		前は持っていたが今は持っていない	1.7	4.3	4.2	13.9	5.3
		持っていない	13.6	6.4	10.4	0.0	8.4
		わからない	23.7	10.6	4.2	5.6	12.1
	既婚	持っている	67.2	73.6	90.4	86.8	77.2
		前は持っていたが今は持っていない	1.6	2.8	2.7	7.9	3.1
		持っていない	7.8	13.9	0.0	2.6	7.3
		わからない	18.8	8.3	5.5	2.6	10.4
第1回調査	未婚	持っている	43.9	60.4	67.6	69.2	58.9
		前は持っていたが今は持っていない	9.8	4.2	8.8	15.4	8.6
		持っていない	24.4	22.9	2.9	0.0	15.2
		わからない	19.5	4.2	20.6	11.5	13.2
	既婚	持っている	60.6	62.8	78.1	77.0	68.4
		前は持っていたが今は持っていない	5.8	8.1	5.2	3.3	5.7
		持っていない	21.2	16.3	6.3	6.6	13.4
		わからない	12.5	12.8	5.2	11.5	10.8

b. 生きがいの意味

「他人や社会の役に立つ」は男性高齢層、「生活のリズムやメリハリ」「心の安らぎや気晴らし」は女性高齢層で選択傾向が強かった。

これらを未既婚別に見ると「他人や社会の役に立つ」は未婚者、「生活のリズムやメリハリ」「心の安らぎや気晴らし」は既婚者に選択傾向が強く、ライフステージが上がるとともに顕著になる。

表 I-20 生きがいの意味のライフステージ推移に伴う変化【女性】(第3回調査) (%)

生きがいの意味		35~44 歳	45~54 歳	55~64 歳	65~74 歳	全体
未婚	生きる喜びや満足感	51.6	48.1	30.0	25.0	41.6
	生きる目標や目的	25.3	14.8	11.7	15.0	17.5
	生活の活力やはりあい	22.0	33.3	25.0	20.0	25.5
	自分の可能性の実現	22.0	27.2	36.7	35.0	28.5
	他人や社会の役に立っている	11.0	19.8	18.3	20.0	17.2
	生活のリズムやメリハリ	4.4	6.2	6.7	20.0	7.7
	心の安らぎや気晴らし	24.2	21.0	26.7	20.0	23.0
	人生観や価値観の形成	6.6	11.1	10.0	7.5	8.8
自分自身の向上	20.9	16.0	25.0	30.0	21.9	
既婚	生きる喜びや満足感	41.3	39.8	46.4	35.5	41.2
	生きる目標や目的	30.0	19.4	13.4	9.2	17.6
	生活の活力やはりあい	28.8	23.5	23.7	23.7	24.6
	自分の可能性の実現	22.5	34.7	21.6	19.7	25.2
	他人や社会の役に立っている	12.5	11.2	14.4	17.1	13.4
	生活のリズムやメリハリ	6.3	15.3	12.4	18.4	13.2
	心の安らぎや気晴らし	23.8	29.6	38.1	40.8	32.8
	人生観や価値観の形成	5.0	4.1	8.2	7.9	6.2
自分自身の向上	18.8	15.3	22.7	22.4	19.9	

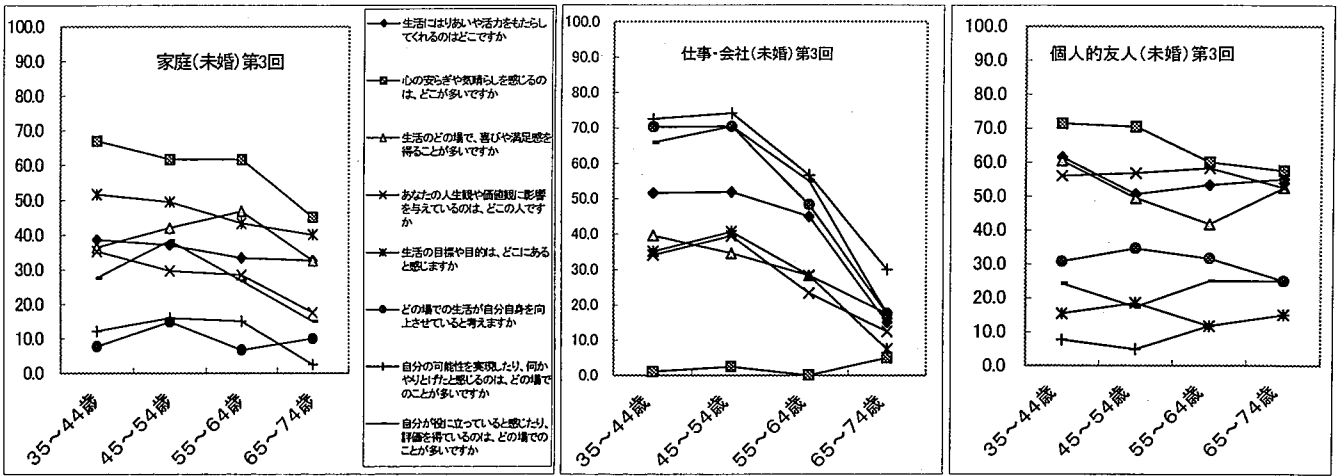
c. 生きがいの場

生きがい構成要素と取得の場の関係について見ると、以下の表にまとめられる。未婚者については家庭の場が希薄であり、個人的友人の場が大きいことに気付く。既婚者が個人的友人を主に「安らぎや気晴らし」を得る場と考えているのに対し、未婚者は「活力やはりあい」「喜びや満足」「人生観・価値観の形成」「自分自身の向上」を得る場としても重視していることがわかる。また未婚者については、その他の場のウェイトも高い。

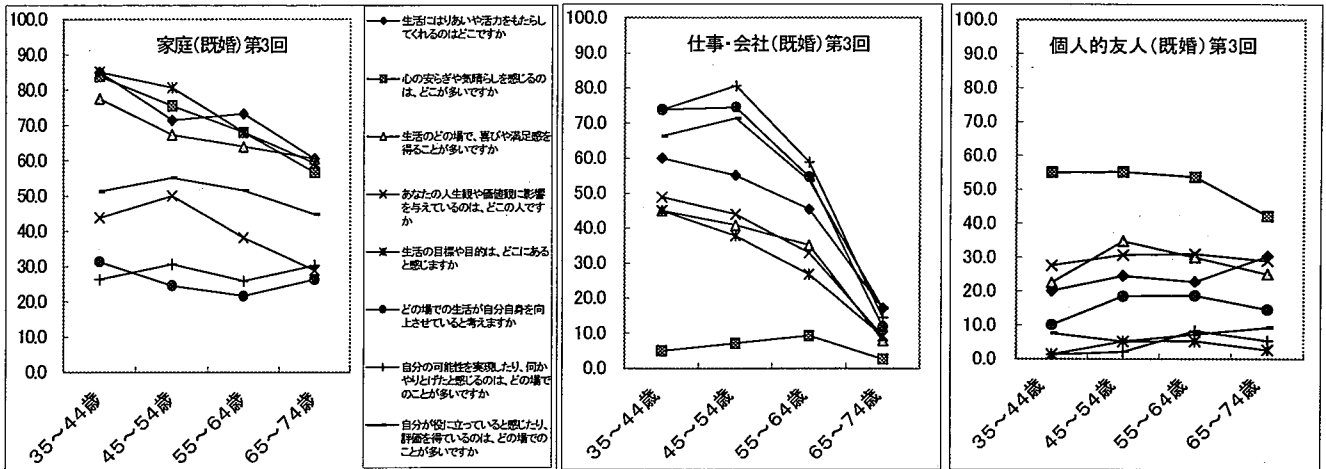
表 I-21 生きがい構成要素と取得の場【女性】(第3回調査) (%)

生きがい構成要素		家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
未婚	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	36.1	44.9	1.8	55.8	6.6	9.1	2.6
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	60.9	1.8	1.5	66.8	2.9	15.7	0.7
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	40.1	32.1	2.6	51.8	5.1	13.9	2.6
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	29.6	29.9	1.1	58.8	21.2	9.1	2.6
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	47.8	31.0	1.5	15.3	20.8	17.5	4.4
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	10.2	57.7	4.4	31.0	26.6	12.4	2.2
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	12.4	63.5	4.0	8.8	18.6	15.7	5.5
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	28.5	58.0	5.1	22.3	8.8	8.8	7.3
	平均	33.2	39.9	2.8	38.6	13.8	12.8	3.5
既婚	(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	72.3	45.1	5.6	24.1	2.8	4.2	0.6
	(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	70.9	6.2	2.5	51.5	1.4	7.6	1.7
	(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を得ることが多いですか	67.5	32.5	4.8	28.0	4.2	8.7	0.8
	(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	40.6	34.5	3.6	29.7	21.3	5.6	2.2
	(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	72.8	30.5	3.1	3.6	12.3	8.1	2.2
	(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	25.2	55.2	7.6	15.7	19.9	9.2	1.7
	(8) 自分の可能性を実現したり、何かやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	28.0	58.5	8.4	4.2	13.7	10.9	5.9
	(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	50.7	54.1	6.4	7.0	7.6	4.5	5.0
	平均	53.5	39.6	5.3	20.5	10.4	7.4	2.5

図 I-5 生きがいの場、ライフステージに伴う推移の比較【女性】(第3回調査)
【未婚者】



【既婚者】



d. 生きがいの対象

「仕事」「配偶者」「子ども・孫・親など家族・家庭」また「社会活動」は男性の選択傾向が強く、「友人との交流」「ひとり気ままに」は女性の傾向が強かった。

「配偶者」「子ども・孫・親など家族・家庭」は未婚者は非常に少ない。これが家庭面における男女差の理由のようである。

しかし、「仕事」については大きな差があることが興味深い。未婚者の選択傾向の低さが目を引く。注目すべきなのは「社会活動」で仕事の面を代替するかのよう、未婚者高齢層（65～74歳）で急速に伸びる。

表 I-22 生きがいの対象のライフステージ推移に伴う変化(第3回調査) (%)

生きがいの対象		35～44 歳	45～54 歳	55～64 歳	65～74 歳	全体
未婚	仕事	17.9	50.0	28.9	3.7	26.6
	配偶者・結婚生活	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	子ども・孫・親など家族・家庭	28.2	39.5	21.1	11.1	25.9
	スポーツ	12.8	15.8	10.5	7.4	12.6
	自分自身の健康づくり	2.6	13.2	18.4	37.0	16.8
	趣味	43.6	39.5	47.4	55.6	45.5
	自然とのふれあい	5.1	15.8	36.8	33.3	21.7
	学習活動	7.7	13.2	5.3	18.5	10.5
	社会活動	5.1	2.6	0.0	14.8	4.9
	自分自身の内面の充実	35.9	23.7	28.9	33.3	30.1
	友人など家族以外の人との交流	53.8	28.9	55.3	44.4	46.2
ひとりで気ままに過ごす	17.9	10.5	18.4	14.8	15.4	
既婚	仕事	48.8	45.5	38.2	11.3	34.3
	配偶者・結婚生活	46.3	29.1	19.1	24.2	27.8
	子ども・孫・親など家族・家庭	78.0	60.0	55.9	62.9	62.2
	スポーツ	4.9	9.1	8.8	11.3	8.7
	自分自身の健康づくり	2.4	9.1	27.9	33.9	20.4
	趣味	12.2	32.7	39.7	59.7	38.3
	自然とのふれあい	2.4	20.0	29.4	14.5	18.3
	学習活動	7.3	3.6	5.9	9.7	6.5
	社会活動	2.4	3.6	4.4	6.5	4.3
	自分自身の内面の充実	19.5	18.2	22.1	12.9	18.3
	友人など家族以外の人との交流	29.3	29.1	20.6	38.7	29.1
ひとりで気ままに過ごす	7.3	5.5	11.8	4.8	7.8	

○選択傾向のまとめ

以上を踏まえ、選択傾向をまとめてみたい。既婚者は概ね男性とよく似た傾向を示し、性別による差を示すところは未婚者の特徴によるようである。

表 I-23 選択傾向のまとめ

【生きがいの有無】

生きがいの有無	選択傾向				
	選択割合 (第3回調査)	ライフステージ (上がると)	性別	女性未既婚	時代
持っている	67.3%	上がる	男性>女性	既婚>未婚	第2回で上がり第3回で下がった
前は持っていたが、今は持っていない	7.1%	上がる		未婚>既婚	持っていると反対の傾向
持っていない	8.4%	下がる		未婚>既婚	
わからない	15.6%	下がる	女性>男性	未婚>既婚	第2回で少し下がり第3回で大きく上がった

【生きがいの意味】(2つまでの多重回答)

生きがいの意味	選択傾向			
	選択割合 (第3回調査)	ライフステージ (上がると)	性別	女性未既婚
生きる喜びや満足感	40.5%	下がる		
心の安らぎや気晴らし	26.7%			
生活の活力やはりあい	26.1%	下がる		
自分の可能性の実現や何かを やりとげたと感じる事	28.2%			
他人や社会の役に立って いると感じる事	17.1%	上がる	男性>女性	未婚>既婚
生活のリズムやメリハリ	10.2%	上がる	女性>男性	既婚>未婚
心の安らぎや気晴らし	26.7%			
人生観や価値観の形成	8.7%	上がる		
自分自身の向上	18.3%			

(注) 時代環境の影響については有意な差は確認できなかった。

【生きがいの場】(2つまでの多重回答)

生きがいの場	選択傾向				
	選択割合 (第3回調査)	ライフステージ (上がると)	性別	女性未既婚	時代*
家庭	50.4%	下がる	男性>女性	既婚>未婚	上がる
仕事・会社	43.5%	下がる	男性>女性		下がる
地域・近隣	7.2%	上がる	男性>女性	既婚>未婚	
世間・社会	18.8%	上がる	男性>女性	未婚>既婚	
個人的友人	14.9%		女性>男性	未婚>既婚	上がる
その他	7.8%		女性>男性	未婚>既婚	上がる
どこにもない	2.2%		女性>男性		

(注)*: 時代環境の影響は全体の構造を変えるような大きなものではない。

【生きがいの対象】(3つまでの多重回答)

生きがいの対象	選択傾向				
	選択割合 (第3回調査)	ライフステージ (上がると)	性別	女性未既婚	時代
仕事	39.6%	下がる	男性>女性	既婚>未婚	子ども・孫・親な ど家族・家庭は 上がる
配偶者・結婚生活	24.6%				
子ども・孫・親など家族・家庭	56.6%				
スポーツ	15.6%	上がる			
健康作り	18.6%				
趣味	47.2%	上がる			
自然とのふれあい	18.0%				
社会活動	7.6%		男性>女性	未婚>既婚	
学習活動	7.0%		女性>男性	未婚>既婚	
内面の充実	12.2%				
友人などとの交流	18.1%		女性>男性	未婚>既婚	
ひとりで気ままに	6.7%				

2. 生きがいの多様性

(1) 生きがいの多様性

問6における生きがいの場の回答傾向を見ると、人は複数の生きがい構成要素を必要とするようである。そして、生きがい構成要素の取得の場は各要素により異なっており、人は各々の要素を取得するため複数の場を必要とするようだ。例えば「家庭」の場で「心の安らぎや気晴らし」を得、「仕事・会社」の場で「自分の可能性の実現」を得るという具合である。また「心の安らぎや気晴らし」を「個人的友人」で得るという場合もある。

そして、問9における生きがいの意味の回答にばらつきが見られることは、そのような生きがい構成要素のどれを重視するかの評価において、ばらつきがあるということであろう。

また、そのような生きがい構成要素が生活の場との関係でうまく取得できているかどうか生きがいを持っているかどうかに関係するようである。

いずれにせよ、個々人は複数の生きがい構成要素を必要とし、その取得の場は相互補完的あるいは、重層的に広がりを持っているということ、そして、個々人がどの生きがい構成要素に生きがいの意味を見出すかにおいて多様な反応がなされるということであり、生きがいというものは、かなりフレキシブル、多様なものであると言えよう。

ところで、そのような中でも、性別、未既婚の別により、ある程度の類型したパターンが見られなくもない。生きがいの場を「家庭」「仕事・会社」に求め、生きがいの対象を「仕事」「配偶者」「家族・家庭」とするタイプは依然、多数派であり男性にその傾向が強い。

ただし本調査のサンプルの男女比は約4：1であり、男性に選択傾向の強いものが全体に占める率が高くなる。このことは逆に、全体に占める率は低くとも女性に多い傾向は注目する必要があることを示唆する。

例えば、生きがいの場に「個人的友人」「その他」を選択し、生きがい対象に「友人などとの交流」「ひとり気ままに」を選択する者は全体としては多くはないが、女性に多く、また中でも未婚者に多い傾向が出ている。

そして女性既婚者の選択傾向は、どうも男性と女性未婚者の中間的な傾向のようである。

また、生きがいの意味については「生きる喜びや満足感」「生きる目標や目的」が性別、未既婚を通じて多数派であるが、それ以外で「他人や社会の役に立っていること」は男性に選択傾向が強く、「生活のリズムやメリハリ」「心の安らぎや気晴らし」は女性既婚者に選択傾向が強い。

生きがいの有無については、「持っている」を選択した人が3回を通じて多数派であるが、「前は持っていたが、今は持っていない」「持っていない」は女性未婚者に多い。

「わからない」は未既婚を問わず女性に多い。

また、生きがいの有無については時代環境の差が大きい。多数派の「持っている」は、第1回に比べ第2回で大きく増え(66.2%⇒78.4%)、第3回でまたもとの水準(67.3%)に戻った。

「前は持っていたが今は持っていない」「持っていない」はこれと全く逆の動きであり第2回が一番少なく第3回でまた増えている。また、第3回で「わからない」が大きく増えているのが注目される。

いずれにせよ、生きがいの実態的側面である生きがいの場、対象に時代環境の影響が少なく、観念的側面である生きがいの有無に、より強い時代差が認められることは興味深い。

以上、俯瞰したように性別、未既婚別で異なるパターンが認められるが、これが本来の性差の問題なのか、あるいは就業形態等の差など社会・活動的な要因に基づくものなのかはわからない。未既婚の差も家庭の位置付けとの関係が考えられるが推測の域を出ない。

この点については、生活要因との関係を問う第II部(仕事・会社、家庭、その他の場、心理的側面)での分析に委ねたい。

表 I-24 生きがいパターンの例

生きがい要素				選択傾向の強い層
重視する場	重視する対象	重視する意味	生きがいの有無	
家庭	配偶者 家族	生きる喜びや満足感 生きる目標や目的	持っている(若 年期は「わから ない」も多い)	男性 女性既婚者 (男性に多いこともあり 全体の多数を占める)
仕事 会社	仕事			
個人的友人	友人との交流		わからない、持 っていないが比 較的多い	女性未婚者
地域近隣		生活のリズムやメリハリ、 心の安らぎや気晴らし		女性既婚者(高齢層)

(2) ライフステージにおける変化

多数派である生きがいの場を「家庭」「仕事・会社」に求め、生きがいの対象を「仕事」「配偶者」「家族・家庭」とするタイプは年齢とともに下がる。55～64歳層以降における「仕事・会社」の凋落は著しい。これは定年・退職、職業生活からの引退の効果にもよるのであろう。そして、男性は「地域・近隣」「世間・社会」への関心が少しづつ上がる。また生きがい対象では「スポーツ」「健康づくり」「趣味」「自然とのふれあい」が年齢とともに上がる。

生きがいの意味において多数派である「生きる喜びや満足感」「生きる目標や目的」は年齢とともに下がる。それを代替するかのように男性では「他人や社会の役に立っていること」の選択傾向が強くなり、女性既婚者では「生活のリズムやメリハリ」「心の安らぎや気晴らし」が増える。

性別を問わず、少数だが「人生観や価値観の形成」「自分自身の向上」も高齢者に高い。生きがいを表すのに最も適当だと思うもの、生きがいの意味は年齢とともに推移、変容するようだ。

また、生きがいの有無に目を転じてみよう。「生きがいを持っている」は年齢とともに増える。「前は持っていたが今は持っていない」も微増。「持っていない」「わからない」は減る。

表 I-25 生きがいパターン変化の例
若年期(35～44歳層、45～54歳層)

	生きがい要素			
	重視する場	重視する対象	重視する意味	生きがいの有無
男性 女性既婚	家庭	配偶者 家族	生きる喜びや満足感 生きる目標や目的	持っている (わからないも比較的多い)
	仕事・会社	仕事		
女性未婚	個人的友人	友人との交流		持っている(わからない、持 っていないが比較的多い)

年齢が上がると以下が増える

高齢期(55～64歳層、65～74歳層)

男性	地域・近隣 世間・社会		他人や社会の役に立 つ	持っている
女性 既婚者	地域・近隣		生活のリズムやメリハリ、 心の安らぎや気晴ら し	持っている
女性 未婚者	世間・社会			持っている、前は持っていた が今は持っていない

3. 過去10年間における生きがい度の変化との関係

以上で概観した「ライフステージ推移における生きがい要素のトレンド」と「個人が過去の生きがい度の変化をどのように感じているか」との関係を見てみたい。

本人調査票問 11 は今回新設した質問であり、過去 10 年間における生きがい度の変化を問うものである。

仕事の面、家庭の面、余暇活動・趣味の面、社会活動の面、そして生活全体の面について「上がってきた」「下がってきた」「上がったりが下がり不安定」「変わらない」「どちらとも言えない」の選択肢から感じ方に最も近いものを1つ回答してもらった。また「変わらない」場合にはその水準を高・中・低から選んでもらった。

(1) 全体の傾向

生活全体の面については、生きがい度は「上がってきた」および「変わらない」としている人が多い。

仕事の面については「下がってきた」とする人が多い。「上がってきた」はその次である。

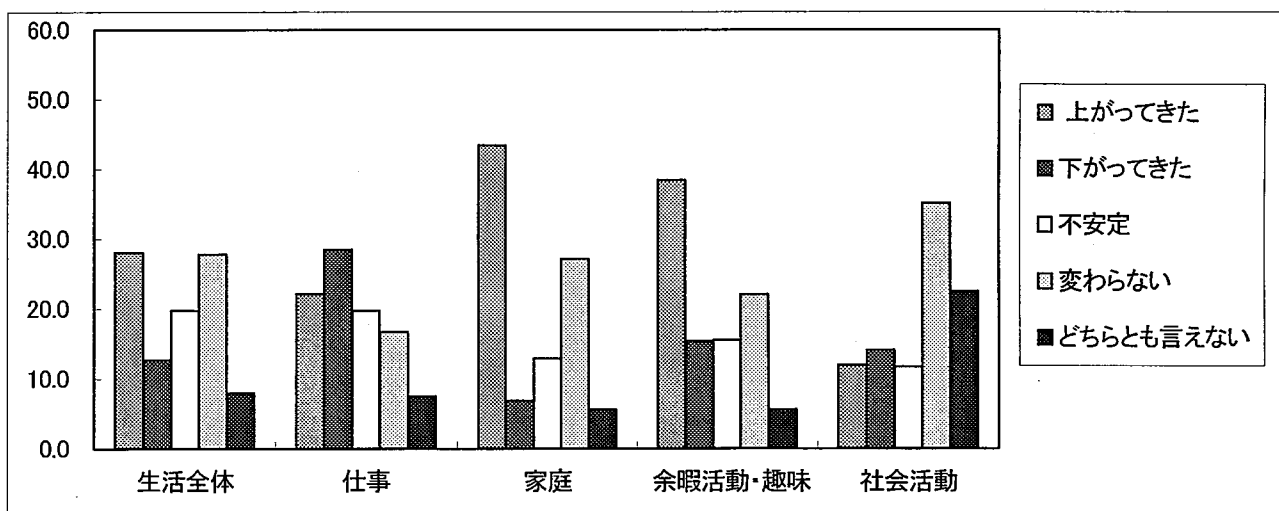
これに対し、家庭の面については「上がってきた」がかなり多い。「下がってきた」は低水準である。

余暇活動・趣味の面についても「上がってきた」が多い。また、社会活動の面では「変わらない」が多い。

表 I - 26 過去 10 年間における生きがい度の変化 (%)

生きがい度	生活全般	仕事	家庭	余暇活動	社会活動
上がってきた	28.1	22.2	43.4	38.4	11.9
下がってきた	12.7	28.5	6.9	15.4	14.1
不安定	19.8	19.8	12.9	15.5	11.7
変わらない	27.8	16.7	27.1	22.0	35.1
どちらとも言えない	8.0	7.5	5.6	5.6	22.5

図 I - 6 過去10年間における生きがい度の変化 (%)



(2) 各生活側面の傾向

次に生活の主要な場である仕事、家庭について、性別にライフステージにおける傾向を見ることとしたい。

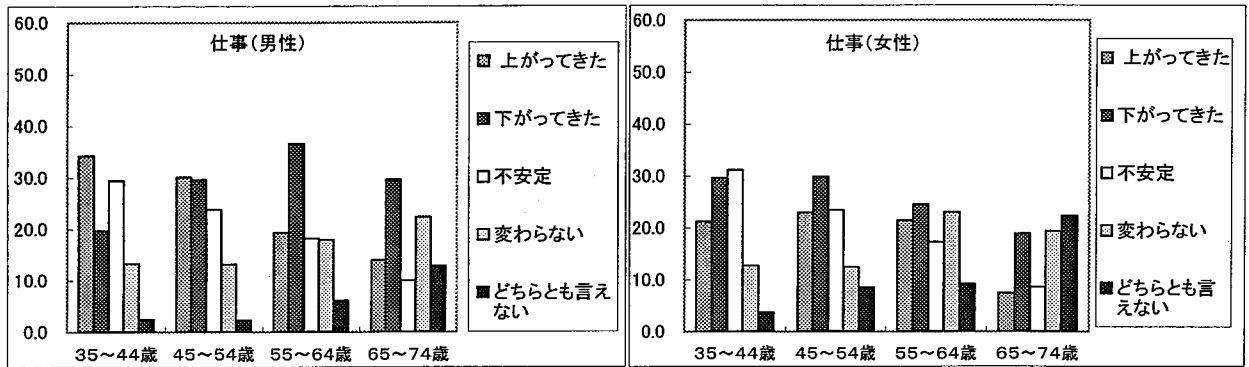
①仕事の面

全般的に「下がってきた」が多いのが目立つ。概ね年齢が上がるとともに「上がってきた」および「不安定」は減り、反対に「変わらない（中水準）」が増える。

男性では55～64歳の層で「下がってきた」はピークを迎える。「上がってきた」は男性に比較的多く、35～44歳層では選択肢の中で一番多い。その後45～54歳層で「下がってきた」に並ばれ、55～64歳層以降で抜かれる。

女性では「下がってきた」のピークは35～44歳、45～54歳の層である。それ以降は徐々に下がる。また、「上がってきた」は常に「下がってきた」より低く、35～64歳の間はほぼ同じ水準で推移し65～74歳層で急激に減る。男性に比べて「どちらとも言えない」が多く、これは年齢が上がるとともに増える。

図 I - 7 仕事の面、ライフステージの傾向 (%)



②家庭の面

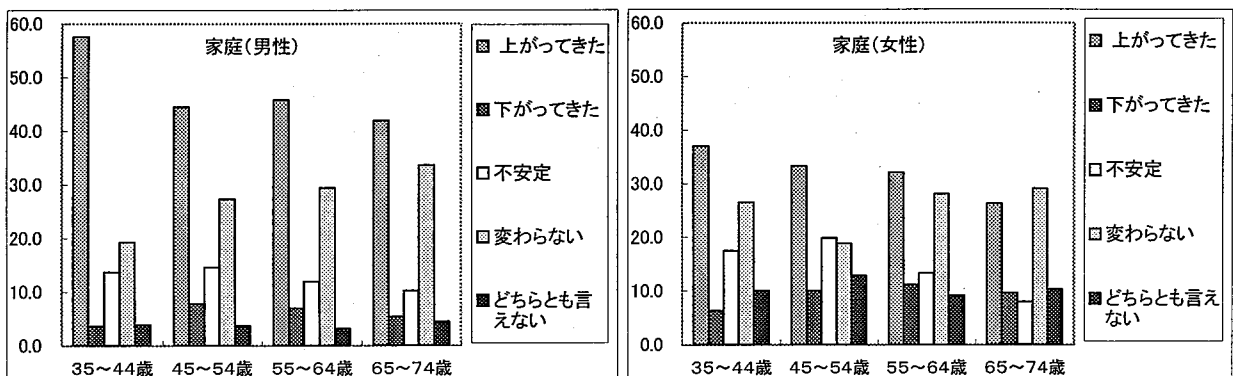
全般的に「上がってきた」が多いのが目立つ。ただし、年齢が上がるとともに少しずつ減る。「下がってきた」は比較的低い水準で推移する。概ね、「不安定」は年齢が上がるにつれ減り、「変わらない（高・中位の水準）」が増える。

男性ではライフステージ全般にわたり「上がってきた」が群を抜いて多い。年齢が上がるとともに「変わらない（高・中水準）」が増える。「下がってきた」は極めて少数である。

女性では男性と比較して「上がってきた」の水準が低い。「変わらない（中水準）」がライフステージを通じて多く、年齢が上がるとともに「上がってきた」と拮抗する。家庭面においては婚姻状況の違いが影響すると思われる。そこで女性の未既婚別に見ると、未婚者にこの傾向がより顕著であり、概ねライフステージ全般を通じて「変わらない（中水準）」が「上がってきた」より多い。また「どちらとも言えない」も多い。

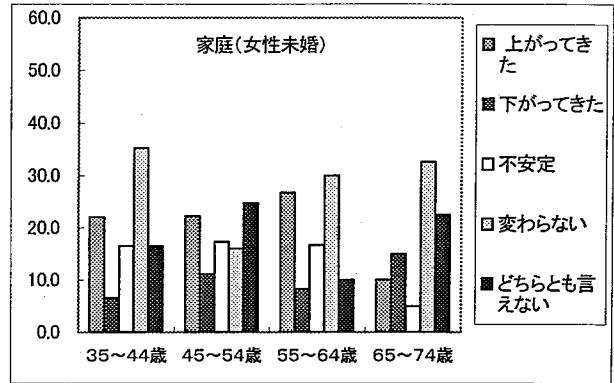
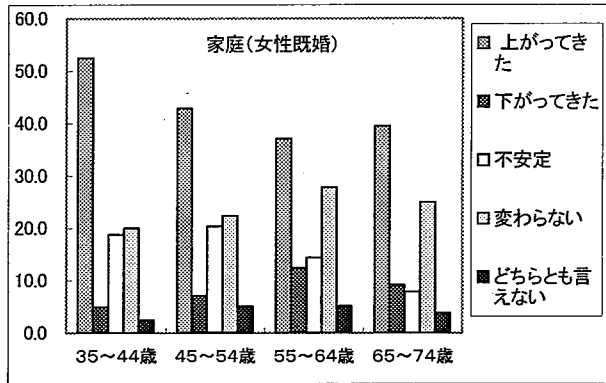
既婚者は男性と良く似た傾向であるが、やはり「上がってきた」の水準は低く、「下がってきた」「不安定」が比較的多い。

図 I - 8 家庭の面、ライフステージの傾向
【性別の傾向】 (%)



【女性未既婚別の傾向】

(%)



③余暇活動・趣味、社会活動

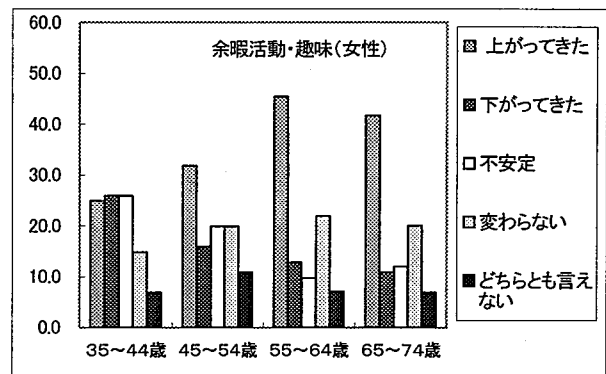
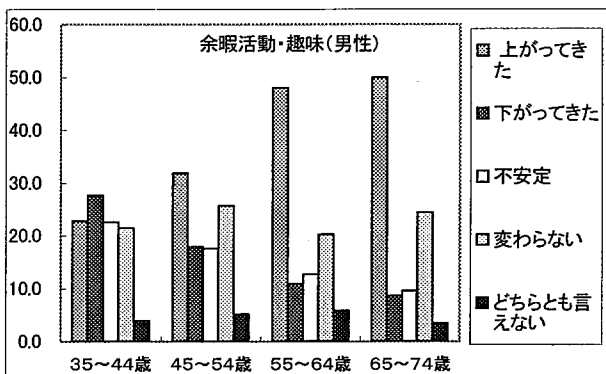
一般的に余暇活動・趣味については「上がってきた」が多く、ライフステージ推移とともに増えている。

社会活動については「変わらない(中・低水準)」「どちらとも言えない」が多い。女性については「どちらとも言えない」が多い。詳しく見ると未婚者がこの傾向を引っぱっている。また、水準は低い、「上がってきた」も年齢が上がるとともに少しずつ増えている。

図 I-9 余暇活動・趣味、社会活動

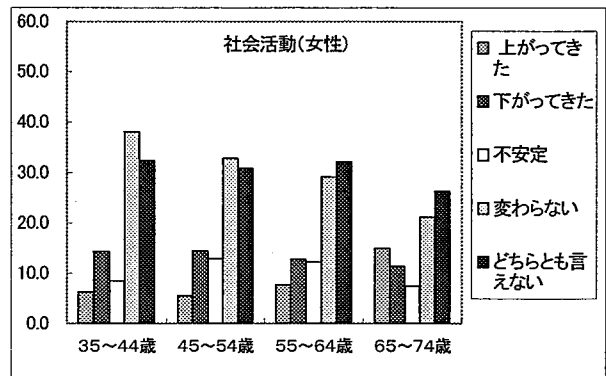
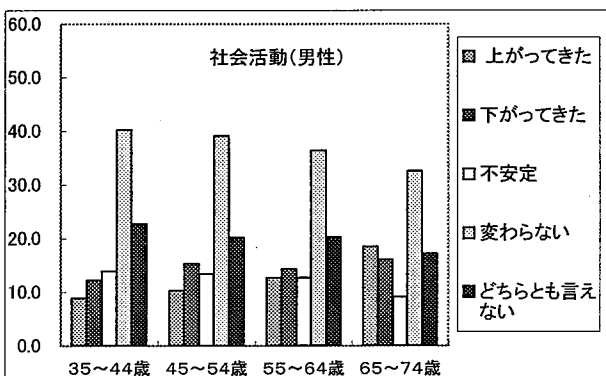
【余暇活動・趣味】

(%)



【社会活動】

(%)



(3) 生きがい要素のトレンドとの関係

男性の生きがい要素のトレンドでは、仕事、家庭を生きがいの場、対象として選択する傾向が強く、その傾向はライフステージが上がるとともに低くなっていた。特に仕事については45～54歳の層以降は加速的に低くなる傾向が認められた。

また、生きがい対象としての趣味、社会活動については年齢とともに上がる傾向が見られた。ただし社会活動の選択率の水準は極めて低い。

次に、「過去10年を振り返り、どのように感じているか」を見てみると、仕事面においては35～45歳層では「生きがい度は上がってきた」と感じている人が多いが、それ以降の年齢層では「下がってきた」が増え、やがて65～74歳層になると「変わらない（中水準）」「どちらとも言えない」が増えている。

家庭面においては、「生きがい度は上がってきた」と感じている人が全てのライフステージを通じて多いが、概ね年齢が上がるにつれて減る。

余暇活動・趣味については「上がってきた」がライフステージが上がるとともに増え、他の選択肢を大きく凌駕する。

社会活動は全般を通じて「変わらない（中・低水準）」が多い。ただし、ライフステージが上がるとともに「上がってきた」も少しづつ増えている。

女性の生きがい要素のトレンドでは、既婚者が未婚者よりも仕事、家庭を生きがいの場、対象として選択する傾向が強かった。ただし、いずれも年齢が上がるとともに、男性よりも急激な低下を示した。また家庭については、未婚者の選択傾向は既婚者より低い水準に止まっていた。

趣味については35～64歳の間はライフステージが上がるとともに上がり、その後下がる。社会活動については極めて低位で推移するが65～74歳層で上がるという傾向が見られた。この傾向は特に未婚者に顕著であった。

次に、「過去10年を振り返り、どのように感じているか」を見てみると、仕事面においては「下がってきた」は常に「上がってきた」より多く、男性より若い時点から「下がってきた」と感じている傾向が強い。

家庭面においては、既婚者は概ね男性と同じ傾向であるが、未婚者では「変わらない（中水準）」が多い。

余暇活動・趣味については「上がってきた」が多く、ライフステージが上がるとともに増える。社会活動は既婚者で「変わらない（中・低水準）」が多く、未婚者で「どちらとも言えない」が多い。ただし、ライフステージが上がるとともに「上がってきた」も少しづつ増えている。

本調査におけるライフステージにおける生きがい変化の追跡は、調査時点において4つの年齢層（サラリーマンシニア前期、定年準備期、定年期、年金生活期）に分類された対象者の傾向を繋ぎ合わせたものであり、同一人のライフステージの推移を追跡したものではないが、同一人における過去10年間の生きがい度変化の回想と比較しても符合するところがあるようである。

年齢が上がるにつれ、生きがいの場、対象としての仕事、家庭の選択率は下がって行くが、個人の回想における生きがい度の変化とも符号する。

また、生きがい変化においても、仕事に対しては男女の差、家庭に対しては未既婚の差が認められたが、回想においてもその傾向はあるようである。

余暇活動・趣味、社会活動でも年齢に伴う変化について符合するようである。

4. 世代による差の確認

世代により生きがいの持ち方が違うのではないかという仮説に基づき、団塊世代（1947～49年生まれ）とそれ以外の世代の差を検証する。検証の方法は、ライフステージ要因を排除するため年齢層を同じくする3時点の群間で比較を行なう。また、2点比較を原則とすることで時点間における時代環境の影響を検定できる枠組みとする。具体的には以下の通り。

- ・第1回 42～44歳（団塊世代）と第2回および第3回 42～44歳の比較
- ・第2回 47～49歳（団塊世代）と第1回および第3回 47～49歳の比較
- ・第3回 52～54歳（団塊世代）と第1回および第2回 52～54歳の比較

以上を前提に、男女別に生きがいの場、対象および意味、有無について検証を行なった。（女性の未既婚の別については十分なサンプルがないため省略した。）

表 I-27 【調査対象者数】 (名)

	性別	42～44歳	47～49歳	52～54歳
第1回	男性	217	181	168
	女性	61	51	41
第2回	男性	150	182	157
	女性	40	53	33
第3回	男性	139	153	205
	女性	48	58	63

(注)網掛け部分は団塊世代を示す。

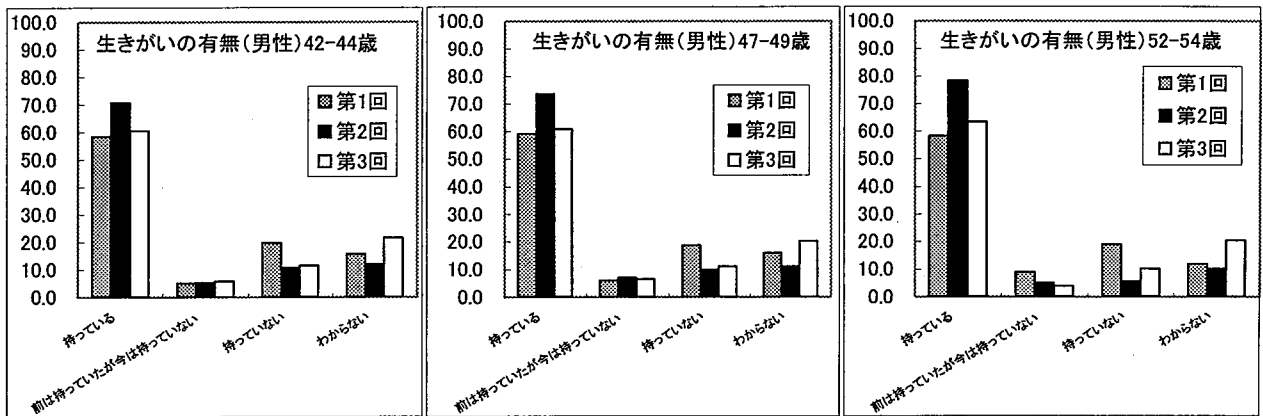
(1) 生きがいの有無

左から 42～44歳の図では第1回、47～49歳の図では第2回、52～54歳の図では第3回のグラフが団塊世代である。群間に認められる差は、概ね時点間の差に符合するものであり、世代固有の傾向を認めるには至らなかった。

図 I-10 生きがいの有無の比較

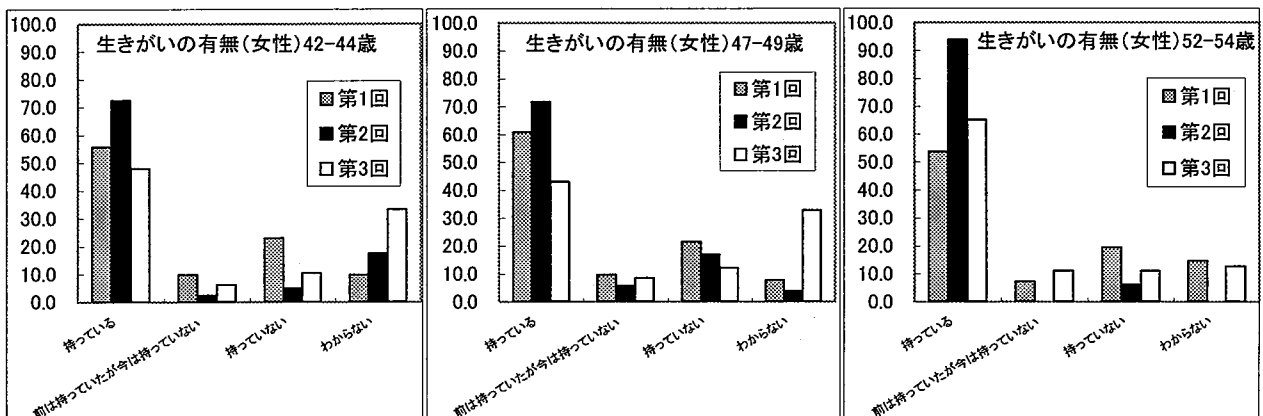
【男性】

(%)



【女性】

(%)



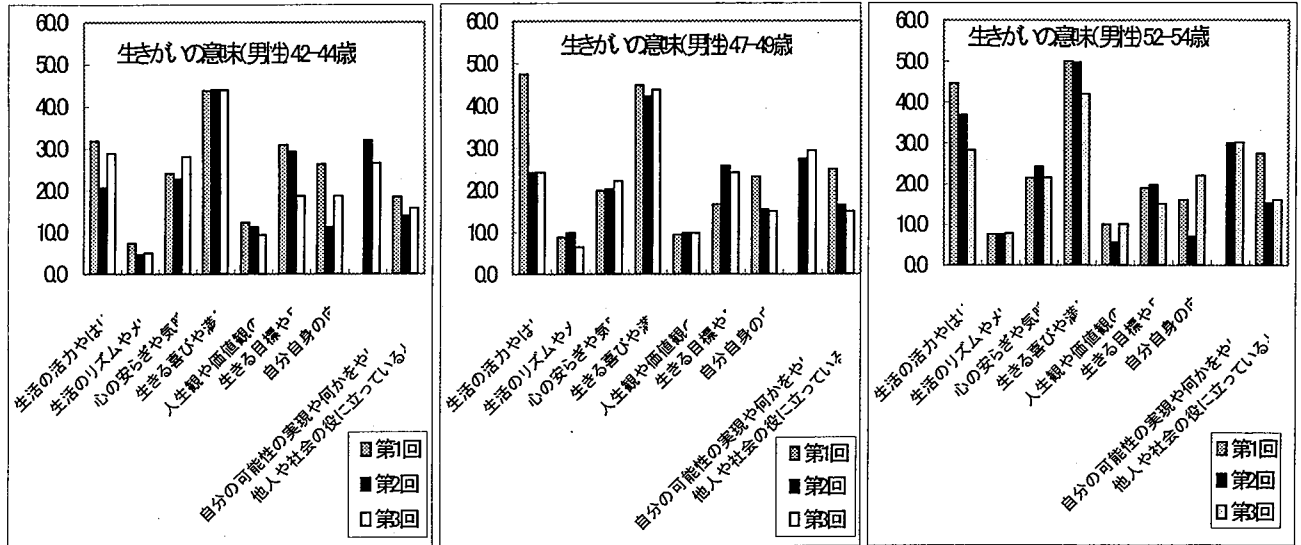
(2) 生きがいの意味

女性については、団塊世代の「生きる喜びや満足感」「自分自身の向上」が他世代と比べて高い傾向があるようだ。ただし、女性のサンプル数が少ないため確かなことは言えない。男性の傾向とあわせて見ると、全体として世代固有の傾向を認めるには至らなかった。

図 I - 11 生きがいの意味の比較(2つまでの多重回答)

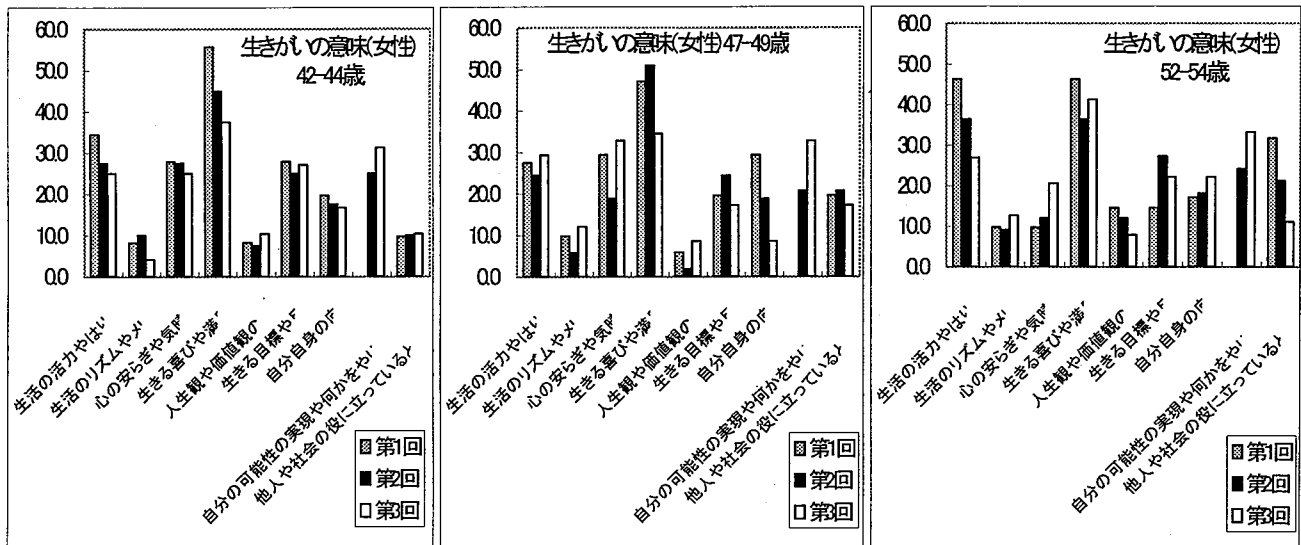
【男性】

(%)



【女性】

(%)



(3) 生きがいの場

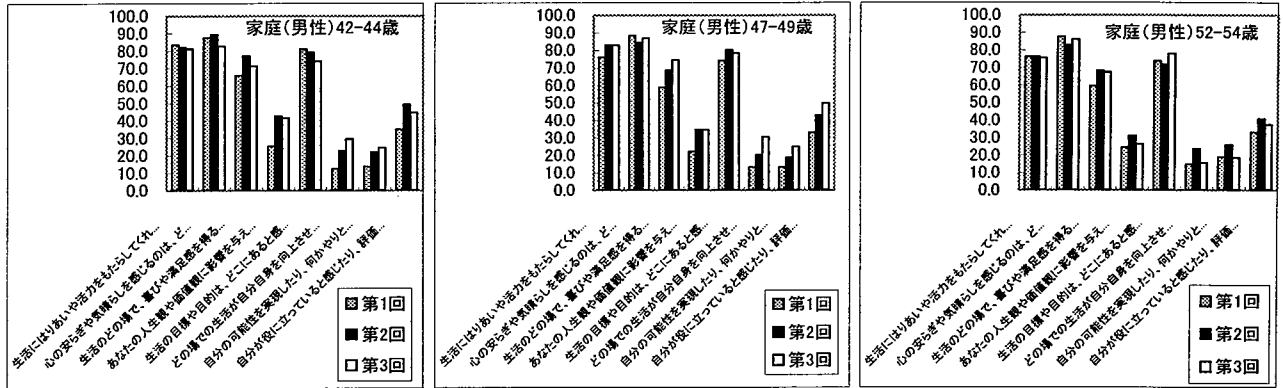
対象である42～54歳の層については、「家庭」「仕事・会社」の生きがいの場に占めるウェイトが非常に高い年齢層であり、ここでは「家庭」「仕事・会社」について傾向を比較してみることとしたい。

群間に認められる差は、概ね時点間の差に符合するものであり、団塊世代は「42～44歳のグラフ」では第1回、「47～49歳のグラフ」では第2回、「52～54歳のグラフ」では第3回に該当するが、3時点のグラフは似通った形を描いている。世代固有の傾向を認めるには至らなかった。

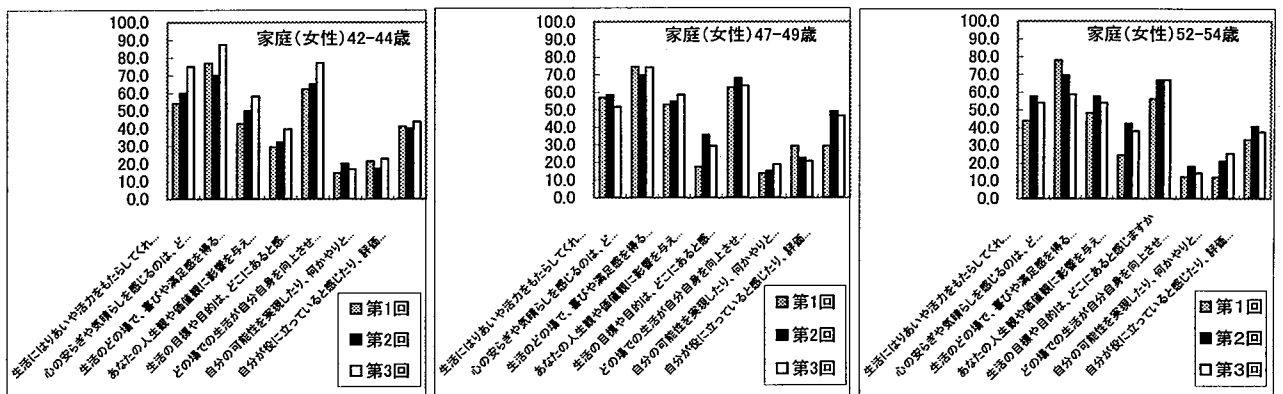
図 I-12 生きがいの場の比較(2つまでの多重回答)

【家庭】

(%)

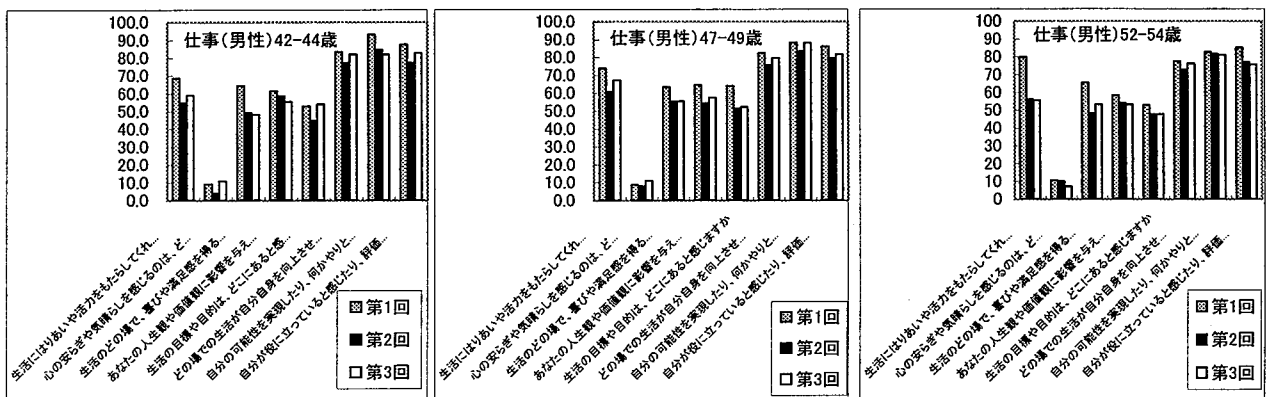


(%)

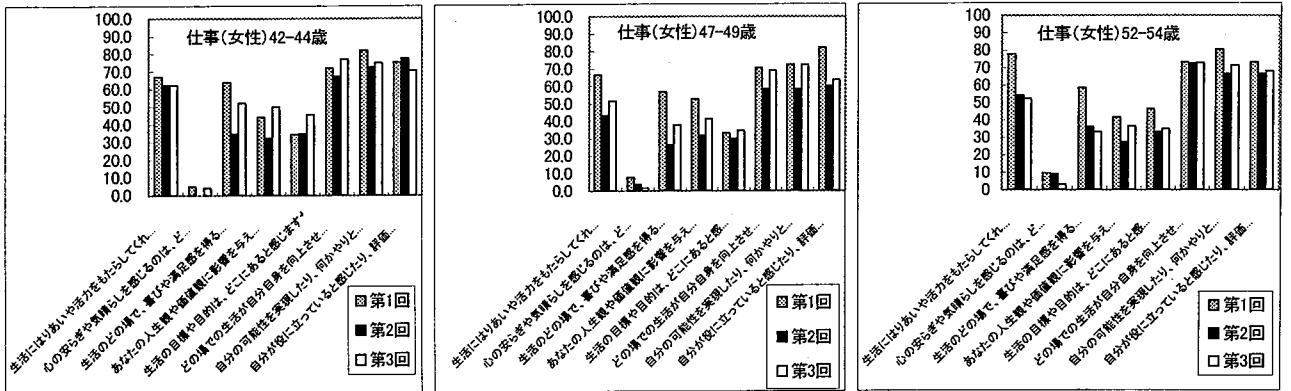


【仕事・会社】

(%)



(%)



(4) 生きがいの対象

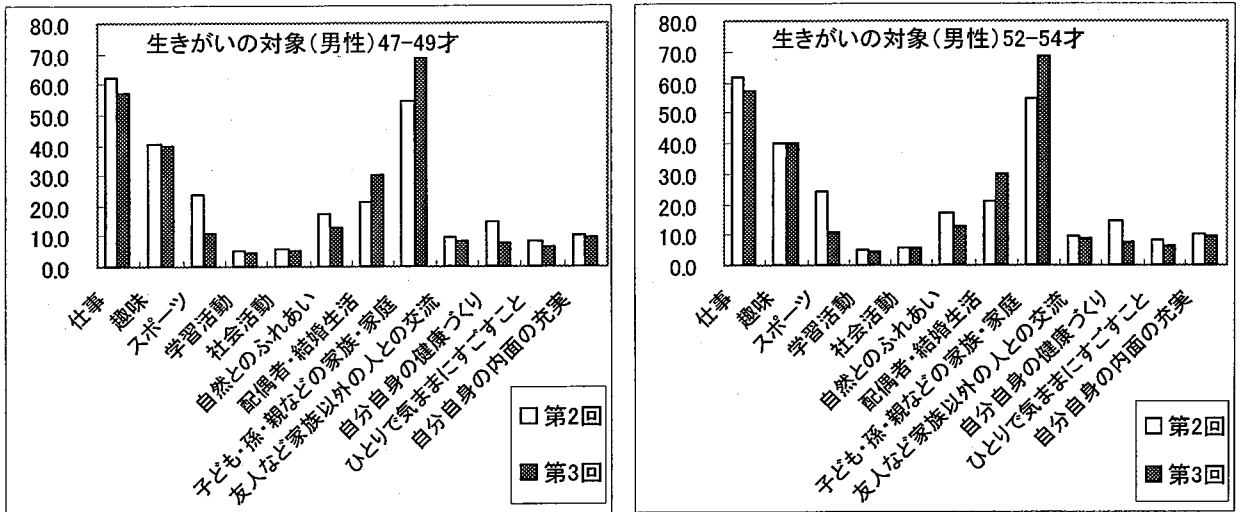
第2回調査より新設した項目のため、第2回47～49歳(団塊世代)と第3回47～49歳の比較、第3回52～54歳(団塊世代)と第2回52～54歳の比較のみ行なった。

生きがいの場と同じく、群間に認められる差は概ね時点間の差に符合するものであり、世代固有の傾向を認めるには至らなかった。

図 I-13 生きがいの対象の比較(3つまでの多重回答)

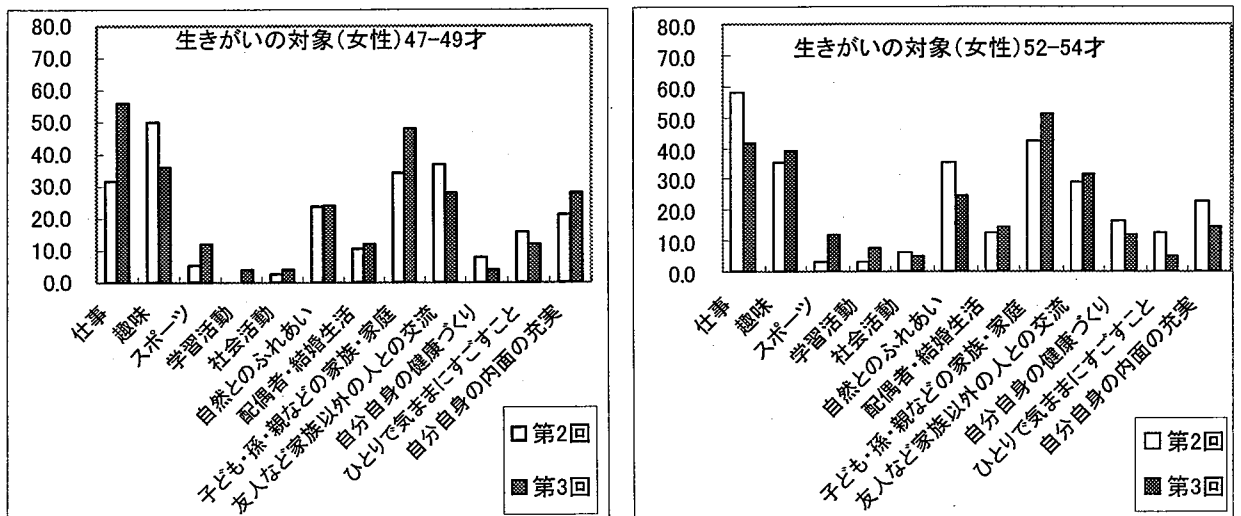
【男性】

(%)



【女性】

(%)



(5)まとめ

以上、限られたサンプルの中の検証ではあったが、同年齢層の群間の差異は概ね時点差の影響と認められるものであり、団塊世代について世代固有の傾向を認めるには至らなかった。

既述したように、本調査におけるライフステージ別の生きがい変化の追跡は、4年齢層に分類された対象者の傾向を繋ぎ合わせたものであり、同一人のライフステージの推移を追跡したものではない。したがって、ある年齢における変化がライフステージ推移に伴うものか、それとも世代固有の傾向によるものか判然としない点があった。しかし、ライフステージに伴う変化、時点差に伴う変化に世代固有の傾向が大きな影響を及ぼすことがないということであれば、本調査のスキームの妥当性はある程度担保されたと思われる。

ところで、団塊世代が質的には他世代と比較して大きな差異はないと認められたとしても、量的に大きなウェイトを持つ世代であることは間違いない。

ライフステージにより生きがい・生活傾向が変容することを前提とすると、時代の流れとともに、大型集団である団塊世代のライフステージ推移は、その共有する生きがい・生活傾向によって、マクロ社会に対し少なからぬ影響を与え、また、今後も与えらるる。

このことは、戦後の時代変動の要所要所で団塊世代が注目されたことと無縁ではなからう。今、50代を迎えた団塊世代は、今後の高齢化社会における生きがいと生活を考えるうえで注目する必要がある。

第Ⅱ部 生活の諸側面と生きがい

第1章 仕事、企業、退職と生きがい

1. 生きがい構成要素と「仕事・企業」

生きがいはさまざまな要素から構成されている。本調査では、回答者が、「生きがい」という視点から、どのような要素を重視しているかを確認するため、問9を設け、9つの選択肢を用意し、「「生きがい」を表すのに最も適当なのはどれだと思いますか」と問うた(2つまでの多重回答)。回答が集中したのは、「生きる喜びや満足感」(40.5%)、「自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる事」(28.2%)、「心の安らぎや気晴らし」(26.7%)、「生活の活力やはりあい」(26.1%)となっている(第3回調査)。「可能性の実現…」は第1回調査にはない選択肢であり、これに引き寄せられて回答の構成比が変容するため、3回にわたる(調査時点間の)比較は有意義とは言えない。

「生きがい」の意味=重点を確認した上で、それぞれの要因が充足されると考える「場」について問うた(問6)。本節では、「会社・仕事」に注目する。即ち、9つの「要因」それぞれについて「会社・仕事」がそれを充足する「場」と考える者の比率(2つまでの多重回答)を抜き出す(表Ⅱ-1-1)。先ず注目されるのは、「意味」において集中した項目と、「会社・仕事」を「場」とする項目の間で、「ずれ」が見られるのである。「会社・仕事」を充足する「場」とする回答の集中は、「可能性の実現…」(63.8%)、「自分が役に立って…」(60.3%)、「自分自身を向上…」(58.5%)となる。「生きがい」の意味として高い比率を占めた「心の安らぎや気晴らし」を充足する場として「会社・仕事」を選択する者は6.2%に止まるのである。つまり、「生きがい」という観点から重視される要素と、「会社・仕事」という「場」において充足されると考える項目の間に乖離が見られるのである。このことは、重視される生きがい課題が、「会社・仕事」においては必ずしも充足されないことを示しているのである。

この点を確認した上で、生きがい要素に占める「会社・仕事」の位置を、それぞれの要素ごとに見ていくこととする。

表Ⅱ-1-1 生きがいの構成要素と「会社・仕事」(2つまでの多重回答) (%)

	活力	メリハリ	安らぎ	満足感	価値観	目標	自己向上	可能性の実現	役立ち感	
今回調査(全体)	46.3	55.9	6.2	38.0	39.9	35.2	58.5	63.8	60.3	
40～44歳	1回	64.6	-	7.5	60.6	55.6	49.5	49.6	88.3	84.7
	2回	56.3	73.2	3.9	46.1	51.5	43.5	72.6	82.4	78.0
	3回	57.7	75.8	6.6	46.2	53.2	52.3	78.2	78.9	79.5
45～49歳	1回	72.9	-	9.1	63.3	61.9	55.8	79.3	84.0	84.5
	2回	60.3	71.3	8.0	49.1	50.6	47.7	72.4	81.0	77.0
	3回	62.8	72.9	8.1	50.6	53.9	50.8	77.1	83.5	77.7
50～54歳	1回	76.9	-	11.7	64.7	57.5	54.2	78.3	83.9	84.4
	2回	55.4	66.2	8.6	48.4	47.5	46.8	70.4	80.6	76.1
	3回	53.9	66.8	6.0	47.5	48.7	42.7	73.7	78.0	73.3

「可能性の実現…」を充足する「場」として「会社・仕事」を選択する者は63.8%と高い比率を占める。なお、「可能性の実現…」という項目は、生きがいの「意味」を問うた設問では第1回調査においては含まれていなかったが、「要素」と「場」の関係を問うた設問においては第1回調査より引き続いて含まれていた。そこで、同一年齢における調査時点間の変化を見ると注目すべき結果が示される。45～49歳層でやや異なった反応が示されるが、40～44歳層：第1回88.3%→第2回82.4%→第3回78.9%、50～54歳層：

83.9%→80.6%→78.0%と、調査時点の経過に伴って「会社・仕事」の位置が低下する傾向が読みとれるのである。年齢が上昇するに伴う変化より時点間の変化の方が明瞭である点が注目される。

「会社・仕事」の位置が第二に高かった「自分が役に立って…」という要素に目を転じる。

40～44歳層：第1回84.7%→第2回78.0%→第3回79.5%、45歳～49歳層：84.5%→77.0%→77.7%、50～54歳：84.4%→76.10%→73.3%と、調査回を経るに従って「会社・仕事」の位置が低下するという同様の傾向が読みとれる。年齢効果がより小さいという点も共通する。

こうした特徴は他の要素においても示され、最近10年間における勤労者意識変化の注目すべき傾向と言ってよいだろう。即ち、第一に、生きがい感を達成するに当たって、生きがいの構成要素によって充足の場を異にする。従って生きがいの重心が個人間で異なるなら、重視されるべき「場」も異なる点がより注目されるべきであろう。第二に、この10年間、「会社・仕事」の位置が低下している。とりわけ第1回調査（1991年）と第2回調査（1996年）の間でその落差が大きい。1991年はバブル好況期の末期という性格を有しており、環境的条件が意識に投影されるにはタイムラグが生ずることも考えると、第1回調査は好況期を背景とした意識と理解することが可能であり、これに対して第2回・3回調査は不況下における意識を開示したと言ってよい。「生きがい」を、とりわけ職業生活との関わりから検討する際、マクロ的な経済情勢の影響が無視できないことが確認される。

2. 組織・仕事・出世への志向類型

前節では、会社と仕事を区別せず、生きがいを充足する「場」という視点から評価を問うた。だが、同じ職業生活へのコミットメントであってもその内容に立ち入ったとき、組織（企業）、仕事、昇進（出世）と異なった側面を有する。そこで本節では、こうした志向側面を規準としつつ調査回答者のタイプ分類を試みることにする。

ここで利用する設問（問23）は、第2回調査から導入されたもので、第1回調査には含まれていない。だがこうした組織・仕事をめぐる志向の構造が2つの調査時点間（5年間）で不連続な変化を示すとは考え難い。そこで第2回調査と第3回調査のデータをプールして因子分析を行った結果（固有値1以上を因子として抽出）、4つの因子が抽出された。これら4つの因子の累積寄与率は50%であった。しかし、因子のスクリープロット（固有値の減少状況）は第1因子から第2因子にかけて大きく減少し、それ以降は緩やかに減少している。ここから判断すると、主要な因子は最初の2つの因子であると考えられる。2因子の累積寄与率は33%にのぼる。

第1因子は、「仕事の中でこそ自己実現が図れる」「会社は自分を正当に評価している（していた）」「自分の会社に尽くしたい」「上司や同僚とは仕事を離れても付き合いたい」に負荷が高い。これらの項目に共通しているのは、会社や仕事のことを大切に考えている点であり、第1因子を会社志向の因子と呼ぶことにする。「会社」と「仕事」を異なった因子として抽出することを意図したが、少なくとも本調査においては、これを区別することはできなかった。「仕事の中でこそ自己実現が図れる」は、仕事との関わりを大切に考えているように見えるが、日本においては仕事と会社が必ずしも区別されることなく、重なって捉えられていると考えられる。もちろん「仕事」または「会社」のどちらかに強く傾斜するサンプルは存在するが、分析に耐えられるサイズを確保出来ず、「仕事」と「会社」を共に含んだ因子として分析する。

第2因子は、「仕事をするからには多少無理しても出世したい」に負荷が高く、「出世より興味ある仕事に専念したい」と逆相関している。これらに共通しているのは出世への欲求であり、第2因子を出世対仕事志向と呼ぶことにする。出世志向の対極に「仕事に専念したい」という仕事志向が含まれている点に注意する必要がある。

また、「仕事のためには個人の生活を犠牲にすることがあってもやむをえない」は両因子に負荷が高

く、会社・仕事志向と出世志向の両面を反映していると考えられる。なお、プロマックス回転の結果、両因子の間には0.333の相関があり、会社志向と出世対仕事志向は互いに関連している。

表Ⅱ-1-2 仕事・会社・出世志向に関する因子分析の結果(回転後の因子負荷量)

	第1因子	第2因子
仕事の中でこそ自己実現が図れる	.668	.288
会社は自分を正当に評価している(していた)	.669	-.008
自分の会社には尽くしたい	.739	.260
上司や同僚とは仕事を離れても付き合いたい	.639	.165
仕事のためには生活を犠牲にしてもやむをえない	.578	.506
仕事をするからには多少無理しても出世したい	.407	.819
出世よりも興味ある仕事に専念したい	-.008	-.811

以上の因子分析の結果を踏まえて、第1因子に負荷の高かった4項目の素点の合計値を尺度得点とした「会社志向尺度」と、第2因子に負荷の高かった2項目の素点の合計値を尺度得点とした「出世対仕事志向尺度」を構成した。

「会社志向尺度」は、「仕事の中でこそ自己実現が図れる」「会社は自分を正当に評価している(していた)」「自分の会社には尽くしたい」「上司や同僚とは仕事を離れても付き合いたい」の4項目の合計点である。「出世対仕事志向尺度」は、「仕事をするからには多少無理しても出世したい」「出世よりも興味ある仕事に専念したい」の合計点である。

なお、調査票では、各項目について「まったくそのとおり」「まあそのとおり」「あまりそうでない」「まったく違う」から選択回答を求めたが、尺度の構成に当たっては、それぞれに4, 3, 2, 1の得点を与えた。なお、「出世よりも興味ある仕事に専念したい」については第2因子と負の相関をしているため、得点を逆転させている。両尺度とも得点が高いほどその傾向が強いことを示す。

会社志向尺度の平均値は10.6 (SD=1.94)、尺度の内的整合性の指標である Cronbachの α 係数は0.643であった。また、出世対仕事志向尺度の平均値は5.5 (SD=1.17)であった。この場合には2項目しかないため、通常の α の計算は無理である。そこで、信頼性の代わりの指標として両者の相関を求めたところ、-0.403であった。従って、会社志向尺度についてはある程度信頼性が確認できるが、出世対仕事志向尺度については信頼性が乏しい点に留意する必要がある。

両尺度について得点分布を見ると、共に概ね正規分布を示しているため、両尺度の平均点で相対的に志向性の強い群と弱い群に分けた。これらを組み合わせ、次の4つのタイプを得た。両立志向群(会社志向も出世志向も強い群)、会社志向群(会社への志向は強いが出世志向は弱い群)、出世志向群(会社志向は弱いが出世志向は強いタイプ)、仕事志向群(会社志向、出世志向、共に弱く、仕事志向の強いタイプ)。4つのタイプの構成比は次の通りである。

表Ⅱ-1-3 4類型の分布

		両立タイプ	会社志向	出世志向	仕事志向
調査時点	第2回調査	683(25.4%)	787(29.3)	825(30.6)	664(15.1)
	第3回調査	729(25.0%)	783(26.8)	965(33.1)	440(15.1)
性別	男性	25.6(%)	31.3	27.9	15.1
	女性	23.5(%)	15.5	47.3	13.7
年齢	35~44歳	22.8(%)	21.2	42.2	13.8
	45~54歳	23.7(%)	22.9	39.6	13.9
	55~64歳	25.5(%)	28.5	28.5	17.4
	65~74歳	29.0(%)	38.9	18.8	13.3

3. 4類型と退職準備

前節で析出した職業生活へのコミットメントの4類型を軸として、(定年)退職への準備状況・課題意識について検討しよう。なお、4類型の析出に当たっては第2回・3回調査、のデータをプールして行ったが、ここでは第3回調査の結果に限定する。

(1) 定年退職のイメージ

表Ⅱ-1-4 4志向タイプと定年退職のイメージ(3つまでの多重回答)

(%)

		人間関係から解放	所属組織・肩書の喪失	家庭サービス	経済的に苦しくなる	自由時間の拡大	目標・張りの喪失	接触する人・情報の減少	新しい人生の開拓	社会から取り残される	行動パターンからの解放	自己実現の場の喪失	精神的に楽に
全体	3189	24.2	15.1	14.1	38.5	51.5	15.7	16.6	34.8	3.2	19.7	2.8	33.3
退職未経験	1920	21.4	17.0	12.3	43.2	50.1	17.1	16.7	34.9	3.5	21.1	3.0	30.9
退職経験		28.7	12.2	16.9	31.6	53.8	13.7	16.5	34.9	2.7	17.7	2.5	37.1
会社志向	783	17.8	21.6	16.2	32.3	52.6	18.9	18.0	37.3	2.9	16.9	4.5	33.3
出世志向	965	30.9	13.2	10.3	42.1	54.4	11.4	15.8	34.9	3.0	21.9	0.6	36.0
両立志向	729	17.8	13.9	17.4	38.6	52.1	18.4	16.2	39.0	3.7	19.8	3.2	31.8
仕事志向	440	31.6	13.2	10.9	45.9	46.4	15.7	17.3	29.5	3.6	21.6	3.9	31.4

日本のサラリーマンは定年退職に対してどのようなイメージを抱いているか。この点に接近するために、われわれは12の選択肢を用意した。このうち「わずらわしい人間関係から解放される」「家庭サービスができる」「自由な時間が増え、自分を取り戻す」「新しい人生が開ける」「決まりきった行動パターンから解放される」「精神的に楽になる」を肯定的イメージ、「所属する組織や肩書きがなくなる」「経済的に苦しくなる」「生活の目標や気持ちの張りがなくなる」「接触する人や情報が減る」「社会から取り残される」「自己実現の場や機会がなくなる」を否定的イメージとしその反応比率(3つまでの多重回答)を合計すると、前者：177.6%、後者：91.9%と、圧倒的に肯定的イメージの比率が凌駕する。特に注目すべきは、退職未経験者では170.7：100.5であるのに対し、退職経験者にあつては、189.1：79.2と、肯定的イメージの増大・否定的イメージの低下が見られるのである。「案ずるよりは……」と言ったところであろうか。

この限りで、日本のサラリーマンは、総体的に定年退職に前向きな見通しを抱いており、それは退職経験者でより顕著であると言ってよい。

志向タイプとの関係を見る。会社に積極的な志向を示さなかった出世志向タイプ、仕事志向にあつては、一方では「わずらわしい人間関係からの解放」を展望すると同時に「経済的困難」を危惧する者の比率が高くなっている。また会社への志向が強い会社志向タイプと両立タイプは近似した反応を示し、一方では「目標や気持ちの張りの喪失」で高くなっている反面、「経済的に苦しく」の比率が低くなっている点が注目される。「新しい人生の開拓」をイメージするのも、この両タイプで高く、職業生活に傾斜していた者にあつて、その終了後、「新たな生活」を構想する傾向をより強く表明する点に興味を惹かれる。会社への傾斜の強弱を軸として、定年退職後のイメージを異にしている点は重要であろう。また出世志向タイプにあつては「精神的に楽に」が高くなっている点も注目される。会社志向タイプでは当然のこととも思われるが、「所属組織・肩書きの喪失」が、他のタイプに比して顕著に高くなっている。

(2)希望する定年後の生活

定年後どのような生活を希望するか。退職未経験者に問うた（3つまでの多重回答）。退職経験者に対しては同じ設問は用意されていない。

表Ⅱ-1-5 希望する定年後の生活(退職未経験者)(3つまでの多重回答) (%)

		健康に恵まれた	時間的にゆとりのある	経済的にゆとりのある	精神的にゆとりのある	夫婦・家族関係を大切にする	友人・仲間との付き合いを大切にする	趣味に打ちこむ	好きな仕事を続ける	知識・経験を活かす	自然とふれ合う	社会のために役立つ	その他	特になし
全体	1920	76.8	14.2	43.2	28.9	37.9	17.2	25.8	6.7	7.7	18.1	8.3	0.4	0.3
会社志向	418	79.4	13.9	45.0	27.3	43.8	12.9	21.3	8.1	9.1	18.4	9.3	-	0.2
出世志向	699	74.1	13.2	43.2	30.5	32.3	18.7	32.2	5.9	6.6	19.5	8.2	0.1	0.2
両立志向	449	79.3	15.1	38.8	28.5	39.2	20.3	24.3	7.1	8.0	16.5	9.8	1.1	-
仕事志向	265	75.5	14.3	50.2	27.5	41.5	16.6	18.9	6.4	9.1	16.2	6.0	0.3	0.8

まず全体としてみると、「健康に恵まれた」(76.8%)、「経済的ゆとり」(43.2%)、「家族関係」(37.9%)と「3つのK」が大きな比率を占める。「精神的ゆとり」(28.9%)や「趣味」(25.8%)といった、個人の心的状況に係わる要因よりは、退職後の生活を支える客観的要件への欲求が強い点が確認されよう。その限りでは、退職後生活の準備を構想するに当たって、こうした客観的要件をいかに充足するかという観点は無視し得ない。

しかし、志向タイプと重ね合わせながら検討すると、異なった問題が見えてくる。「健康」はどのタイプでも高い反応を示すが、とりわけ会社に傾斜した志向を示した「会社志向」「両立志向」の2つのタイプで強くなっている。出世志向タイプでは相対的に低くなっている。「経済的ゆとり」は会社からも出世からも距離を置こうとする仕事志向タイプで強く選択される。会社志向タイプにおいては「夫婦・家族関係」が重視される。出世タイプで「趣味生活」が強く欲求されている点も注目される。

志向タイプが個人のおかれた客観的状況によって規定されることは充分考えられる。だがそれ以上に、会社と出世をめぐる選択的志向が内的・自立的に形成されることが期待出来る。そしてそのようにして形成された志向が欲求＝「定年後の希望する生活」を規定するとするならば、欲求を充足するための要件は客観的環境・条件の分析のみからは導出されない。

(3)定年後の生活不安

表Ⅱ-1-6 定年後の生活不安(退職未経験者)(3つまでの多重回答)

(%)

	生計維持の困難	住宅の問題	自分・配偶者の健康	配偶者・親の介護	配偶者に先立たれる	再就職の問題	家族との人間関係	生きがいの喪失	所属・肩書の喪失	人的交流・情報の減少	情報化について行けない	社会から取り残される	時間をもてあます	地域社会にとけこめない	その他	特に不安を感じない
全体 1920	52.3	13.1	55.6	22.3	15.8	24.8	0.8	16.2	1.9	12.6	4.4	3.6	18.4	5.2	1.0	10.0
会社志向 418	47.1	8.9	55.5	24.4	16.7	23.4	0.7	17.7	3.3	17.7	4.5	3.8	21.5	4.5	0.5	10.5
出世志向 699	57.1	14.7	52.1	22.5	15.0	24.6	0.8	15.3	1.6	9.7	4.6	3.6	14.9	5.2	1.4	10.4
両立志向 449	47.4	9.4	60.6	24.7	17.8	23.8	0.4	17.1	1.1	15.8	3.3	2.9	17.6	5.6	1.1	9.8
仕事志向 265	55.5	20.4	54.3	15.5	14.0	30.6	0.8	16.6	1.9	8.7	4.9	4.2	22.6	6.4	1.1	9.4

上記のような希望を抱きつつもその実現可能性との狭間で、不安を感じざるを得ない。現在、どのような不安を感じているであろうか(無限定の多重回答)。

まず、現在就業中の者に注目する。最も不安が集中するのは「自分および配偶者の健康」(55.6%)であり、それに「生計維持」(52.3%)が続く。この限りでは、「希望する生活」=課題と重なる。だが「希望する生活」で重視されていた「夫婦関係・家族」は0.8%と劇的に後景に退く。「配偶者に先立たれる」(15.8%)、「配偶者・親の介護」(22.3%)に不安を感じる者は多いが、それは退職後の生活設計・準備という観点からするなら、外生的因子であり、個人の努力・生活設計を越える。少なくともそのように理解されていると考えられる。即ち、「不安」を構成する要因を他律的なものと理解する傾向が強いと言える。「特に不安を感じない」という回答が10%を占めている点も注目に値する。

こうした特徴は、志向タイプ別に見ても大きく変化せず、日本の高齢者に共通した傾向と理解できる。その上で、志向タイプ別に見られる若干の特徴を摘記する。「生計維持の困難」は会社への志向が強い二つのタイプにおいてはやや低くなっている。「健康」は両立タイプでやや高くなるが、どのタイプにも共有される「不安」である。「所属・肩書きの喪失」「人的交流・情報の減少」はいずれも、会社志向タイプで強く示されている。整合性のある回答結果といえよう。会社や昇進に強い志向を示さなかった仕事志向タイプにおいて、「再就職の問題」を不安とする回答が高いという結果もそれなりに首肯できよう。

総じて、「不安」をめぐるのは、志向タイプによる違いは大きいとは言えず、個人の志向や努力を越えた要因に因るところが大きいと理解されているように思われる。

表Ⅱ-1-7 50歳時における定年後の生活不安(退職経験者) (無制限の多重回答) (%)

		生計維持の困難	住宅の問題	自分・配偶者の健康	配偶者・親の介護	配偶者に先立たれる	再就職の問題	家族との人間関係	生きがいの喪失	所属・肩書の喪失	人的交流・情報の減少	情報化について行けない	社会から取り残される	時間をもてあます	地域社会にとけこめない	その他	特に不安を感じない
全体	1258	29.6	8.1	37.4	11.0	8.2	23.3	0.6	18.5	4.5	19.4	5.2	6.3	17.5	4.7	1.0	23.0
会社志向	362	27.6	8.6	37.0	10.2	8.6	26.2	0.6	18.0	6.6	21.8	4.1	7.2	17.4	4.1	1.4	24.0
出世志向	266	34.2	7.5	37.6	12.8	9.8	23.7	0.4	15.4	1.5	16.9	5.3	3.4	17.3	5.6	0.8	18.8
両立志向	280	35.0	7.9	35.7	11.1	7.1	22.9	0.4	20.4	2.5	21.1	7.9	7.9	18.2	3.9	1.1	23.2
仕事志向	174	34.5	7.5	40.2	12.6	6.3	23.0	1.7	21.3	7.5	20.1	3.4	7.5	19.5	5.7	0.6	23.6
現在就業中	496	32.5	6.7	37.7	11.7	6.9	29.4	0.8	19.2	5.2	17.9	5.0	5.0	16.9	5.0	0.8	21.4
非就業	551	26.9	6.9	36.7	10.2	8.5	20.1	0.4	18.3	3.3	21.2	5.1	7.8	18.9	4.4	1.3	25.0

退職経験者は、在職中(50歳時)にどのような不安を感じていたのであろうか。まず第一に、多くの項目について、それを「不安」とする反応が退職未経験者に比べ低くなっている。退職未経験者では10.0%であった「特に不安を感じない」が退職経験者にあつては23.0%にまで拡大している点も注目される。総じて、「不安」への反応が弱いと言える。これは、定年退職のイメージをめぐって、退職経験者において肯定的回答が高かった点とも照合する。退職経験者が未経験者と、退職経験という要因以外で異なった集団を形成するとは考えられず、こうした違いは退職経験によって生じたものと理解される。即ち、退職者には50歳時の意識を回顧して貰ったのであるが、実際には、記憶を正確に呼び戻すのではなく、退職経験後に遭遇した状況によって変化した意識に因る回答となっていると考えられる。この点は、同じ退職経験者であっても、退職後再就職・再就業し、調査時点で何らかの仕事を持っている者と、現在仕事に就いていない者との間に見られる微妙な乖離からも推察される。即ち、「生計維持」「再就職」では就業者で不安が高く示されるに対して、「人的交流・情報の減少」「時間をもてあます」「社会から取り残される」では不就業者で若干ではあるが高くなっているのである。退職後の経験が意識の上に投影された結果と考えてよいだろう。「特に不安を感じない」の比率が不就業者で高くなっている点も注目される。第二に、退職未経験者(表Ⅱ-1-6)に比べて退職経験者(表Ⅱ-1-7)にあつては、「生計維持」「健康」「介護」「配偶者との死別」といった「他律的要因」による不安の比率が低下し、「生きがい」「所属・肩書きの喪失」「人的交流・情報の減少」「社会から取り残される」「時間をもてあます」といった、本人を起点とする「不安」への回答が高くなっている点が注目される。志向タイプ間で大きな違いが見られない点は、退職未経験者と共通している。

(4) 定年後の生活設計

表Ⅱ-1-8 定年退職後の生活設計(退職未経験者)

(%)

		ほとんど設計できている	ある程度設計できている	考えてはいる	あまり深く考えていない	まったく考えていない
全体	1920	1.9	9.7	13.8	59.2	18.0
会社志向	418	2.6	8.4	12.7	56.9	17.7
出世志向	699	1.7	7.6	14.9	55.1	19.7
両立志向	449	1.3	14.5	13.1	54.6	15.4
仕事志向	265	2.3	8.3	14.3	56.2	17.7
35～39歳	336	0.3	3.3	7.1	50.0	39.0
45～49歳	354	0.8	5.4	17.2	60.5	15.0
50～54歳	402	2.2	13.2	15.4	58.0	9.7
55～59歳	384	3.9	17.4	17.7	56.0	3.6
60～64歳	57	3.5	19.3	12.3	54.4	7.0
65～69歳	29	13.8	17.2	10.3	44.8	10.3
70～74歳	6		33.3	33.3	16.7	

定年退職後の生活について以上のような「イメージ」「希望」「不安」を抱いている日本のサラリーマンの定年退職後の生活設計は、どのような状況にあるのであろうか。まず何よりも退職後の生活について、「考えていない」者が70%を越えているという事実が注目されなくてはならない。しかもこの比率は第1回調査：66.6%、第2回調査：65.8%第3回調査：73.2%（巻末集計表参照）と、今回調査で大きく拡大しているのである。「全く考えていない」者が2割近く(18.0%)を占めているのである。（第1回：16.2%、第2回：15.8%、第3回：18.0%）。

志向タイプとの連関を見ると、「(ほとんど+ある程度)設計できている」者の比率は、会社志向：11.0%、出世志向：9.3%、両立タイプ：15.8%、仕事志向タイプ：10.6%と、会社に傾斜した志向を有す層で相対的に高くなっている。

「退職後の生活設計」は、当然にも年齢階層によって大きく異なるであろう。われわれの調査の限りではその境目は、40代後半から50代前半に観られる。「まったく考えていない」は40代前半から後半の間で大きく減少し、さらに50代に入って10%を下回る。逆に「(ほとんど+ある程度)設計できている」者は、50歳代に入って増加する。定年退職を視野に入れた生活設計は、50代になって開始されると考えてよさそうである。

表Ⅱ-1-9 50歳時における「定年後の生活設計」(退職経験者)

(%)

		ほとんど設計で きていた	ある程度設計で きていた	考えてはいた	あまり深く考えて いなかった	まったく考えて いなかった
全体	1258	4.3	17.6	17.6	49.4	9.1
会社志向	362	6.1	22.1	19.1	44.2	7.7
出世志向	266	3.4	16.5	15.8	55.3	7.1
両立志向	280	4.6	18.6	18.2	46.8	10.4
仕事志向	174	0.5	13.8	14.9	58.0	11.5

退職経験者にあっても、「(あまり+まったく)考えていない」:58.5%、「全く考えていない」:9.1%と、近似した結果が観察される。だがその比率は退職未経験者に比べ低くなっており、当然にも「(ほとんど+ある程度)設計できていた」とする者の比率が21.9%と、退職未経験者(11.6%)の倍近くに拡大しているのである。これはどのように理解されるであろうか。第一に、退職後の生活を経験する中で過去に対する記憶が変容することが考えられる。即ち、実際には50歳当時(過去)、退職後(将来)の生活設計について「考えていなかった」にも拘わらず、調査時点で「考えていた」と回顧するという「ズレ」である。これはこうした調査の宿命とも言うべき反応であり、少なくとも本調査においてはこれをチェックすることはできない。もう一つの可能性は、そしてこの方がより重要であるが、年齢の効果である。退職未経験者群に比べて経験者群の年齢構成は当然にも高くなっている。退職未経験者について年齢と生活設計の関係を見ると、「できている」とする者の割合は、35~44歳:4.3%、45~54歳:11.1%、55~64歳:10.8%、65~74歳:1.6%となる。即ち、「50歳時」に絞って比較するなら、その差は縮小するのである。退職者世代と未経験者世代の「世代間」の違いというよりは、年齢構成の差が表面化したものと理解して大過ないであろう。志向タイプとの関係では、会社志向タイプと両立タイプで「考えていた」の比率がより高く示されるという、未経験者に見られた傾向を共有する。

このように見ると、日本のサラリーマンにとって退職後の生活設計は、極めて未成熟な状況にあると言ってよいだろう。その上で、「定年退職へ向けての準備」について検討すると、やや興味ある傾向が示される(巻末集計表)。問22は、定年退職に向けて「必要と考える」事柄と実際に「心がけている」事柄を問うている。必要と考えることとしては、「健康の維持・増進」:63.1%(2つまでの多重回答)が群を抜いて高く、これに「経済的基盤」:47.7%、「生涯楽しめる趣味」:29.6%と続く。「退職後の3K」の内「夫婦・家族」は16.4%とやや後景に退く。ところが実際に心がけて(準備して)いることになると、順位は入れ代わらないが、「趣味」:37.3%(無限定の多重回答)、「家族」:30.7%とその比重を高める。退職生活の重点が経済や健康といった「基礎的条件」の確保から、「趣味」「家族」「人間関係」といった、生活を充実させる内的要件に移ってきていると読みとることができる。引退期生活を心豊かなものとする、生きがいをもって引退後の生活を送る、そうした準備がようやく始まろうとしているように思われる。

4. 小括

(1) 「生きがい」を構成する「要素」とそれを充足する「場」の関係に注目する。

とりわけ、ここでは「会社・仕事」という場に焦点を当てる。当然のこととはいえ、「会社・仕事」が有効な要素と、会社・仕事では充足困難な要素のあることが明らかとなる。ここから、「生きがい」を充足するためには複数の「場」の設定とその組み合わせという視角が必要となるという視点が得られる。

また、会社・仕事の位置は、職業経験の経過の中で、従って年齢の変化に伴って変ると考えられるが、われわれの調査結果では年齢効果よりも、調査回に示される「時代」の違いによるところが大きい。こうした違いは、とりわけ第1回調査とそれ以降で顕著に観察され、バブル（好況）期とその崩壊（不況期）期で、異なった反応が見いだされる。生きがいを考える上で、個人の内的状況を重視しつつも、「時代」に示される外的・環境的条件が無視し得ないことを確認する。

(2) 問23の結果を因子分析し、職業生活へのコミットメントの類型を析出しようとした。因子分析によって抽出された因子は二つであり、第1因子は「会社志向」因子と呼ぶ。第2因子は「出世対仕事志向」因子と理解する。この2つの因子の組み合わせにより、第一は「会社」に傾斜するが出世を志向しない「会社志向」タイプ。第二は、逆に「出世」に強く傾斜するが、それと区別された意味で「会社」を志向しないタイプ。第三は、会社と出世、双方を志向する両立志向タイプ。第四が、会社も出世も志向しない、仕事志向を有すタイプ。

われわれの調査においては、この4タイプの構成は、会社志向タイプ：26.8%。出世志向タイプ：33.1%。両立志向タイプ：25.0%。仕事志向タイプ：15.1%となった。

(3) この4類型に注目しつつ、定年退職後の生活に向けた準備に光を当てる。

まず、定年退職についてどのようなイメージを有しているか。総じて言うなら、われわれの調査への回答者は、総体として「肯定的イメージ」を表明する。とりわけ退職経験者にその傾向が強い。日本のサラリーマンが定年退職に否定的なイメージを抱いていないという知見が得られる。志向タイプに応じてイメージの違いが観察される。定年退職後における生活の設計・準備を検討するに当たって、客観的条件のみならず、主体的な志向に配慮する必要があることが暗示される。

どのような定年後の生活を希望するか。「健康」「経済」「家族」の「3つのK」に傾斜する。その限りで、退職後生活を支える客観的条件の充足が求められている。だが志向タイプと重ねつつ検討すると、重点の置き方に違いが見られる。退職後生活に係わる希望＝欲求を明らかにするためには、何を志向するかという観点が無視し得ないことを示す。

「希望」実現の可能性、その裏返しとしての「定年生活への不安」に注目する。不安は、「自分および家族の健康」「生計の維持」に集中し、「希望する生活」と重なった反応が示されるが、同時に「夫婦関係・家族」は不安においてその比重を劇的に低下させる。退職未経験者との比較で退職経験者の不安を観察すると、「生きがいの喪失」「所属・肩書の喪失」「人的交流・情報の減少」「社会から取り残される」「時間をもてあます」といった個人を起点とする項目で高くなる。

以上のイメージ、希望、不安を底に置きつつ定年退職後の生活設計・準備はいかに行われているか。総じて言うなら、生活設計への取り組みは決定的に遅れている。しかし、退職未経験者について年齢との関係を見ると、定年退職前の時期を迎えた年齢で生活設計への関心・準備は若干ではあるが高まる傾向が見られ、また、準備すべき事項・心がけている事項をめぐっても、外生的条件の確保にとどまらず、内的要件への重点移動が窺われる。生きがいといった範疇との関係での退職後生活の設計・準備はゆるやかにではあるが深まりつつあるように思われる。

(日本労働研究機構常任参与 亀山直幸)

第2章 夫婦関係と生きがい —夫婦の親密性を中心にして—

はじめに

「家庭」、「仕事・会社」はサラリーマンの生きがい獲得の場として常に主要な場を占めており、第1部の3時点の比較に示されているように、近年「仕事・会社」のウエイトが減り、「家庭」や「個人的友人」のウエイトが徐々に増える傾向にある。また、生きがいの対象の調査は第2回以降であるが、それによると、「仕事」、「趣味」、「子ども・孫・親などの家族・家庭」、「配偶者・結婚生活」は常に主要な生きがい対象となっており、近年「子ども・孫・親などの家族・家庭」、「配偶者・結婚生活」のウエイトが増加してきている。したがって、サラリーマンの生活と生きがいにおいて「家庭」や「配偶者・結婚生活」が重要な位置を占めており、近年そのウエイトを増してきているといえる。

しかし、これはサラリーマンの生活と生きがい観のなかで家庭や結婚生活のウエイトが増しているということであって、必ずしもサラリーマンの家庭や結婚生活が円満にしているということの意味するものではない。近年、家庭の崩壊、結婚生活の危機が問題にされているが、本調査のこのような結果は、対象となっているサラリーマンにおいても、家庭や結婚生活の問題が重要性を増してきていることの現れとみることができよう。したがって、本調査のサラリーマンの生きがいについて考えていく上では、家庭における親子関係や夫婦関係など人間関係がどのようになっているか、そしてそれがサラリーマンの生きがいにもどのように影響しているか明らかにしていくことが重要になっている。

このような観点から、本章では、とくにサラリーマンの夫婦関係に焦点をあて、サラリーマンの夫婦関係を規定している要因や夫婦関係がサラリーマンの生活と生きがいとどのように関係しているか、分析することを目的としている。なお、この分析では、過去3回の調査で本人と配偶者の調査票がともに回収され、性別の記入のある7378票を使う。また、本人が男性の場合が6542票(87.5%)、本人が女性の場合が836票(11.2%)であったが、煩雑になることを避けるために、本人が男性、配偶者が女性の場合を中心に分析し、本人が女性、配偶者が男性の場合は必要に応じて傾向に触れることとする。

1. 本人と配偶者との評定の一致度

今回の調査票では、夫婦関係に関する質問は、本人用調査票の問13の11項目、問14の10項目である。これと同一の質問が配偶者用調査票の問7、問8に含まれている。計算に際して、本人用の問13、配偶者用の問7の選択肢「まったく違う」、「あまりそうでない」、「まあそのとおり」、「まったくそのとおり」にそれぞれ1から4の素点を与えた。同様に、本人用の問14、配偶者用の問8の選択肢「あまり大切でない」、「わからない」、「やや大切」、「とても大切」にそれぞれ1から4の素点を与えた。表II-2-1は、各項目の本人、配偶者の平均値ならびに本人と配偶者の相関係数を示したものである。問14の重視度のベスト5をみると、本人と配偶者の重視度は概ね一致している。同様に、問13の実行度のベスト5をみると、「自分は配偶者を助けている」の位置が高い以外は概ね一致している。また、問13の11項目、問14の10項目それぞれについて相関係数を算出したところ、相関係数は概して比較的高い正の値をとり、夫婦の回答はかなりよく対応している。

しかし、問13の(10)の「配偶者は自分によりかかりすぎる」は本人と配偶者との間にほとんど相関がなく、他の項目とは異質の傾向を示している。そこで、この項目の回答傾向を「被依存感」と呼び、後で若干の検討を加えておきたい。

なお、重視度が高いにもかかわらず、実行度の低いものとしては、本人の場合は、「配偶者を助け合うこと」をあげることができる。配偶者の場合には、「対話をもつこと」をあげることができる。重視度が高いにもかかわらず、実行度が低いと不満が蓄積する可能性がある。

2. 夫婦関係を示す尺度の構成

ところで、これまでの3回の調査を通して一貫している項目は、表Ⅱ-2-1の*印のある7項目であった。そこで、この問13(実行度)の7項目を因子分析した結果、本人、配偶者それぞれ1因子抽出され、両方とも夫婦の交流の深さ、親しくつきあっている程度を反映していた。そこで、両因子を夫婦の親密度の因子と呼ぶこととする。因子の説明力は本人の親密度、配偶者の親密度それぞれ46.7%、53%であった。

そこで、本人、配偶者それぞれの素点を合計し、それぞれの親密度の尺度を構成した。クロンバックの α は、本人の親密度は0.802、配偶者の親密度は0.845であり、両尺度とも信頼性は高い。また、両尺度の得点分布は概ね正規分布を示していた。本人(男性)の親密度の平均は21.42、標準偏差は3.31、配偶者(女性)の親密度の平均は21.03、標準偏差は3.90であった。本人(女性)・配偶者(男性)のペアの場合も同様で、本人の方が配偶者よりも親密度が高い傾向がある。なお、本人、配偶者それぞれにおける性差は認められなかった。

表Ⅱ-2-1 本人と配偶者の評点の平均値と相関係数

質問項目		本人 平均値	配偶者 平均値	本人と配偶者の 相関係数
問13(実行度)	* (1) 自分(配偶者)は配偶者(私)を頼りにしている	①3.52	①3.25	⑩0.338
	* (2) 自分(配偶者)は配偶者(私)を理解している	④3.25	⑤3.09	⑦0.406
	(3) 自分(配偶者)は配偶者(私)を愛している	②3.45	③3.17	⑥0.444
	(4) 配偶者と価値観・考え方が似ている	⑧2.63	⑧2.60	⑤0.502
	* (5) 共通の趣味がある	⑨2.35	⑨2.31	②0.606
	* (6) 対話がある	⑤3.09	⑥3.06	③0.567
	* (7) よく一緒に出かける	⑥3.00	⑦2.99	①0.668
	* (8) 配偶者の独自の趣味や行動を尊重している	③3.28	④3.15	⑧0.384
	* (9) 自分は配偶者を助けている	⑦2.95	②3.20	⑨0.346
	(10) 配偶者は自分によりかかりすぎる	⑩2.32	⑩2.23	⑪0.003
	(11) 配偶者と家事を分担している	⑪2.29	⑩2.25	④0.548
問14(重視度)	(1) 配偶者と互いに頼りにしあうこと	③3.64	④3.58	⑧0.284
	(2) 配偶者と互いに理解しあうこと	①3.72	①3.70	④0.312
	(3) 配偶者から愛情が感じられること	⑤3.54	⑤3.52	③0.341
	(4) 価値観や考え方を共有すること	⑦3.10	⑦3.19	⑦0.301
	(5) 共通の趣味を持つこと	⑩2.74	⑩2.80	①0.362
	(6) 対話を持つこと	④3.59	③3.63	⑤0.308
	(7) 一緒に行動すること	⑧3.09	⑧3.06	②0.349
	(8) 互いに独自の趣味や行動を尊重すること	⑥3.42	⑥3.46	⑩0.228
	(9) 配偶者と助け合うこと	②3.67	①3.70	⑨0.264
	(10) 配偶者と家事を分担し合うこと	⑨2.78	⑨2.92	⑥0.304

(注) 問13に関して、*印は3回の調査を通して内容の一貫している項目。○で囲んだ数値は、設問内の順位を示している。

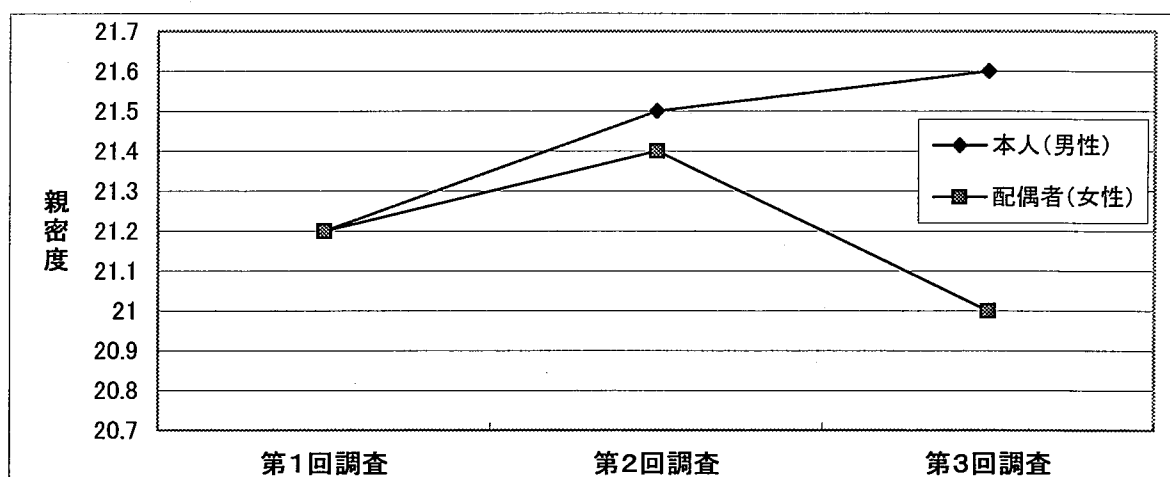
本人と配偶者の親密度間の相関係数は0.624と高く、本人と配偶者の親密度は概ね対応している。また、親密度と被依存感との間には、本人の場合0.210、配偶者の場合0.133、それぞれ弱い正の相関がある。したがって、相手が頼りすぎという感覚は夫婦の親密度にとって必ずしもマイナスに作用するわけではなく、むしろプラスに作用していることがわかる。

3. 夫婦の親密度の規定要因

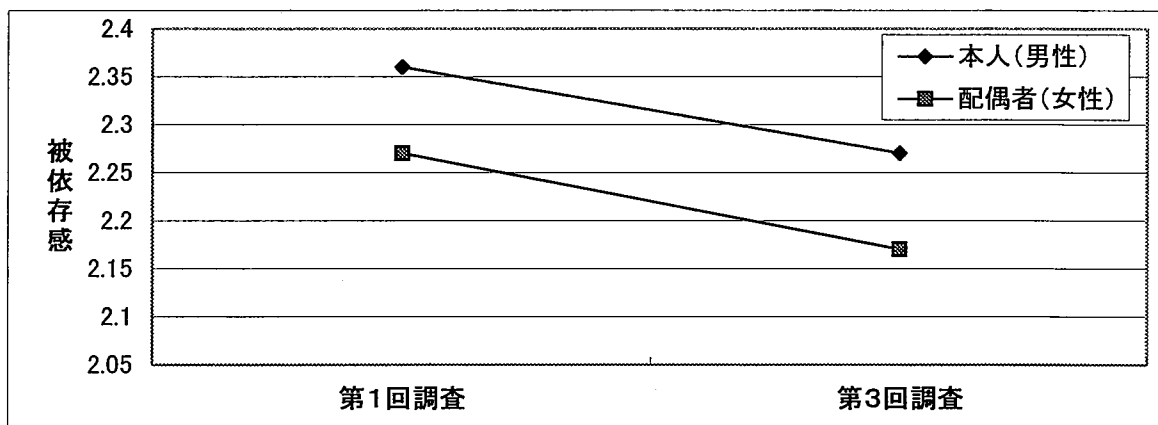
(1) 夫婦の親密度の時代的变化

図II-2-1は、本人（男性）・配偶者（女性）のペアについて、それぞれの感じる親密度が3回の調査時点でどのように変化したか、その平均値を示したものである。第1回から第2回にかけて両者ともやや増加した。しかし、第2回から第3回へかけて、本人（男性）はさらにわずかに増加しているのに対して、配偶者（女性）は大きく低下している。この10年間に、本人（男性）の親密度は高まっているのに対して、配偶者（女性）の親密度が下落し、両者の差が開いてきたこと、本人が感じているほどには配偶者は夫婦の親密度を感じていないことが注目される。本人（女性）・配偶者（男性）のペアについても、第1回は両者の差は小さいが、第2回へかけて、本人（女性）が増加したのに対して、配偶者（男性）は減少し、両者の乖離が広がっている。第2回から第3回にかけて両者とも減少しているが、乖離は縮まっていない。

図II-2-1 夫婦の親密度の調査時点による変化



図II-2-2 夫婦の被依存感の調査時点による変化



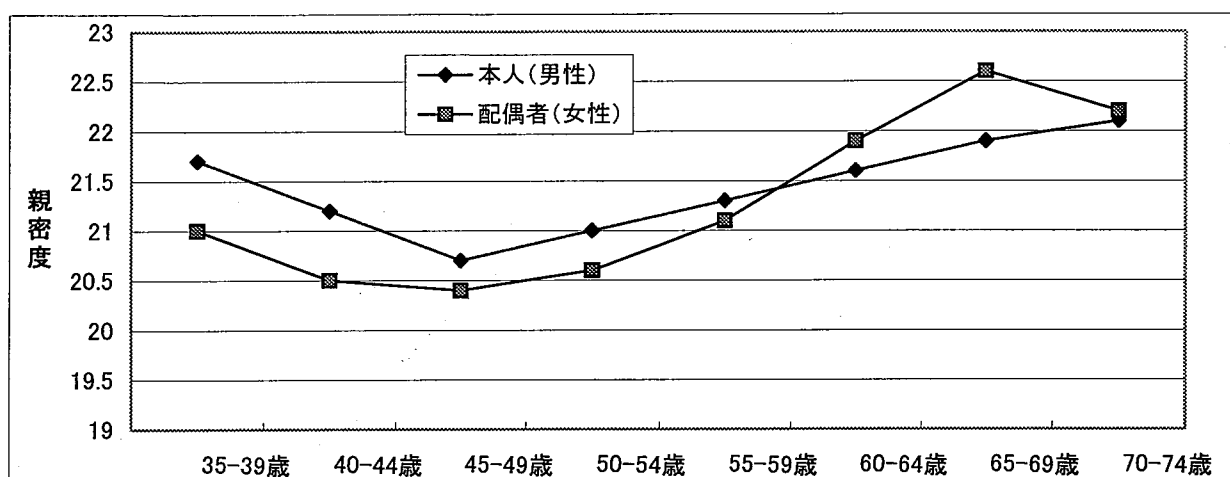
図II-2-2は、夫婦の被依存感の第1回から第3回にかけての変化を平均値で示したものである。ただし、第2回のデータはない。本人（男性）・配偶者（女性）のペアについてみると、本人の方が配偶者よりも相手が依存しすぎであると感じているが、ともに低下の傾向がある。また、本人（女性）・配偶者（男性）のペアについても、本人（女性）の方が配偶者（男性）よりも相手が依存しすぎであると感じており、本人（男性）・配偶者（女性）のペア以上に両者の乖離が大きい。

(2) 夫婦の親密度の年代的变化

図II-2-3は、夫婦の親密度が年代によってどのように変化するかを平均値で示したものである。本人（男性）も配偶者（女性）も30歳代後半から40歳代後半にかけて減少し、それ以降増加に転じ、70歳代前半まで増加し、U字上の曲線を示している。また、定年前は、本人（男性）の方が配偶者（女性）よりも親密度は高いが、定年以降は逆転する傾向がみられる。

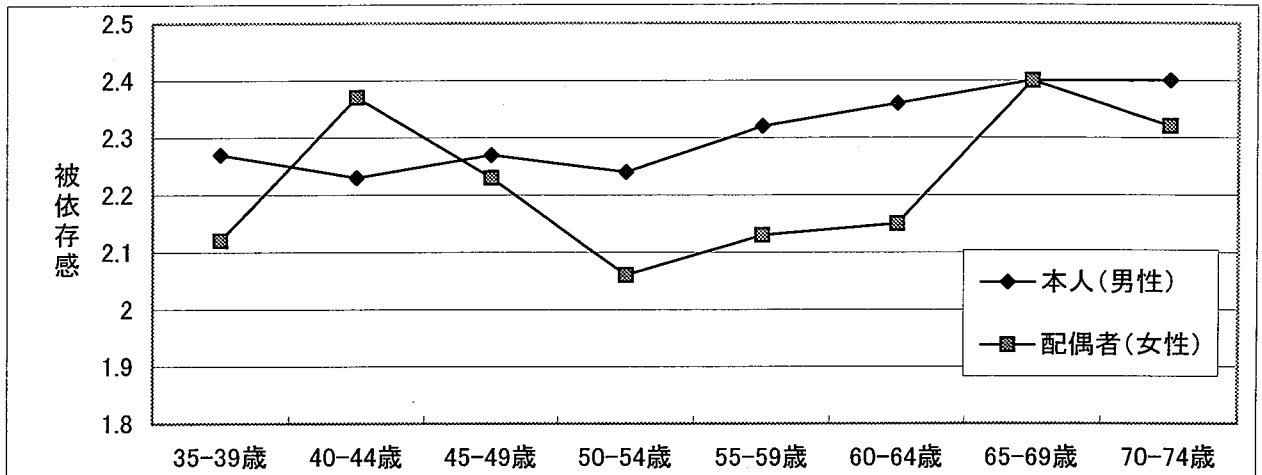
本人（女性）・配偶者（男性）のペアについてもほぼ同様の傾向が認められた。定年前は、本人（女性）よりも配偶者（男性）の方が親密度は高いが、定年後は逆転する傾向がみられる。本調査の結果からみると、サラリーマン夫婦の親密度は40歳代後半が最低であるが、この時期には仕事や家庭のストレス、経済的なストレスなどが重くのしかかってくると予想され、おそらくそうした生活面の様々なストレスが夫婦関係にも葛藤をもたらすためと推測される。また、定年前は、女性は男性に比べて親密度が低い、定年後は逆になる傾向があるといえる。

図II-2-3 夫婦の親密度の年代的变化



図II-2-4は、夫婦の被依存感が年代によってどのように変化するか、平均値で示したものである。本人（男性）の被依存感は30歳代後半から50歳代後半までは概ね横這いであるが、60歳代前半以降、年齢と共に増加の傾向がある。したがって、最初はあまり頼られすぎとは感じていないが、余力がなくなってくるためか、とくに60歳代以降、頼られすぎと感じてくるようである。それに対して、配偶者（女性）の被依存感は男性本人とはかなり異なる変動を示す。すなわち、30歳代後半から40歳代前半にかけて増加して40歳代前半にいったんピークに到達し、その後、低下して50歳代前半に最低となり、再び増加に転じて、60歳代後半に2度目のピークに到達している。50歳代前半から60歳代後半への増加は、ある意味で本人（男性）と同様、余力がなくなってくるためとみることができよう。しかし、すでにみたように相手が頼りすぎであるという感覚は夫婦の親密度にとって必ずしもマイナスではなく、ある程度頼られすぎとという感覚は夫婦の親密度にはプラスに作用している点に留意する必要がある。問題は、配偶者（女性）の被依存感が40歳代前半にいったんピークに到達している点である。これは、本人（男性）が仕事の最盛期でなかなか家庭を顧みる余裕がないため、配偶者（女性）において家庭や教育の面で頼られすぎという感覚が高まるためではないかと推測される。なお、本人（女性）・配偶者（男性）のペアについてみると、本人（女性）は、配偶者（女性）のような40歳代前半のピークはみられず、本人（男性）と同様、年齢と共に増加する傾向を示している。また、配偶者（男性）は本人（男性）と同様、年齢と共に増加する傾向を示している。したがって、配偶者（女性）の40歳代前半のピークは、専業主婦が多い配偶者（女性）に特有の現象であると考えられる。

図Ⅱ-2-4 夫婦の被依存感の年代的变化



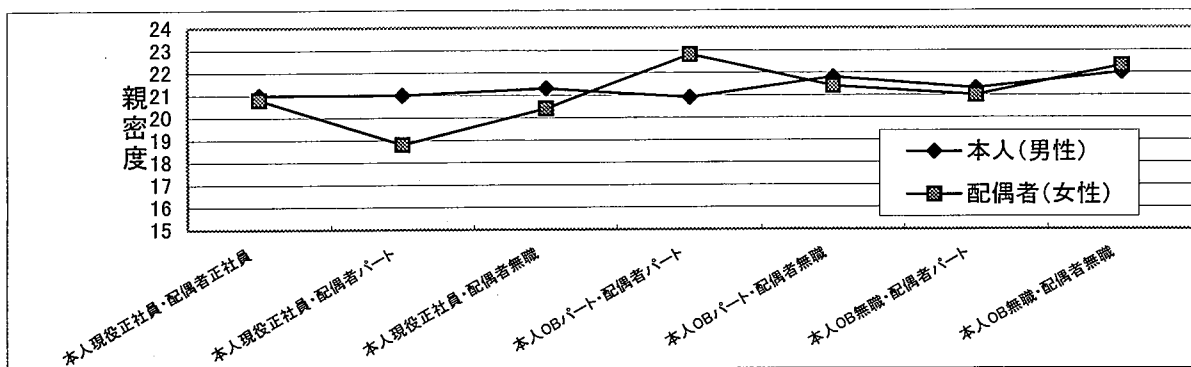
(3) 夫婦の親密度と就業形態との関連

本人と配偶者それぞれの就業形態から夫婦の就業形態のタイプ化を行い、そのタイプ別に夫婦の親密度を比較することとする。その際、本人用問 19 を使い、先ず本人が現役(定年前)かOB(定年後)か、で分けた。「定年前に退職」はサンプルが少ないので除外した。また、就業形態に無回答の者は分析できないので除外した。その上で、本人用 F12 と配偶者用問 15 を使い、夫婦それぞれの就業形態を組み合わせた。安定したパーセントを得るうえでサンプルが 100 人以上のタイプに絞った結果、本人現役正社員・配偶者正社員のタイプ(828 組)、本人現役正社員・配偶者パートのタイプ(1229 組)、本人現役正社員・配偶者無職のタイプ(1564 組)、本人OBパート・配偶者パートのタイプ(105 組)、本人OBパート・配偶者無職のタイプ(302 組)、本人OB無職・配偶者パートのタイプ(101 組)、本人OB無職・配偶者無職のタイプ(604 組)、の 7 タイプが得られた。本人現役正社員・配偶者正社員のタイプは本人の男女比が比較的均衡しているが(男 452、女 376)、その他のタイプは本人の大多数は男性である。

図Ⅱ-2-5 は、夫婦の就業形態のタイプ別にみた本人(男性)及び配偶者(女性)の夫婦の親密度の平均値を示したものである。本人(男性)はいずれの就業形態によっても親密度の差はあまりない。しかし、配偶者(女性)の場合には、夫婦の就業形態によって夫婦の親密度に差がみられた。すなわち、本人現役正社員・配偶者パートの場合に配偶者(女性)の親密度が低く、本人OBパート・配偶者パートの場合に配偶者(女性)の親密度が高い傾向があった。本人現役正社員・配偶者パートのタイプは配偶者(女性)がパートで家計を補っているものの、本人現役正社員・配偶者正社員のタイプや本人現役正社員・配偶者無職のタイプに比べて家計や時間に余裕がなく、それだけ夫婦の葛藤も多いためと推測される。他方、本人OBパート・配偶者パートのタイプは、本人OBパート・配偶者無職のタイプや本人OB無職・配偶者パートのタイプ、本人OB無職・配偶者無職のタイプに比べて家計や時間に余裕があり、夫婦で交流する機会が多いためと推測される。

なお、本人(女性)・配偶者(男性)のペアについてみると、配偶者(男性)は本人(男性)とほぼ同様の傾向であり、あまり違わないと推測される。また、本人(女性)は配偶者(女性)とほぼ同じ動きを示しており、同じような状況が推測される。つまり、本人現役正社員・配偶者パートのタイプは本人(女性)が主に家計を支えているものの、本人現役正社員・配偶者正社員のタイプや本人現役正社員・配偶者無職のタイプに比べて家計や時間に余裕がなく、それだけ夫婦の葛藤も多いためと推測される。他方、本人OBパート・配偶者パートのタイプは、本人OBパート・配偶者無職のタイプや本人OB無職・配偶者パートのタイプ、本人OB無職・配偶者無職のタイプに比べて家計や時間に余裕があり、夫婦で交流する機会が多いためと推測される。

図Ⅱ-2-5 就業形態別にみた夫婦の親密度



(4) 夫婦の親密度と世帯構成との関連

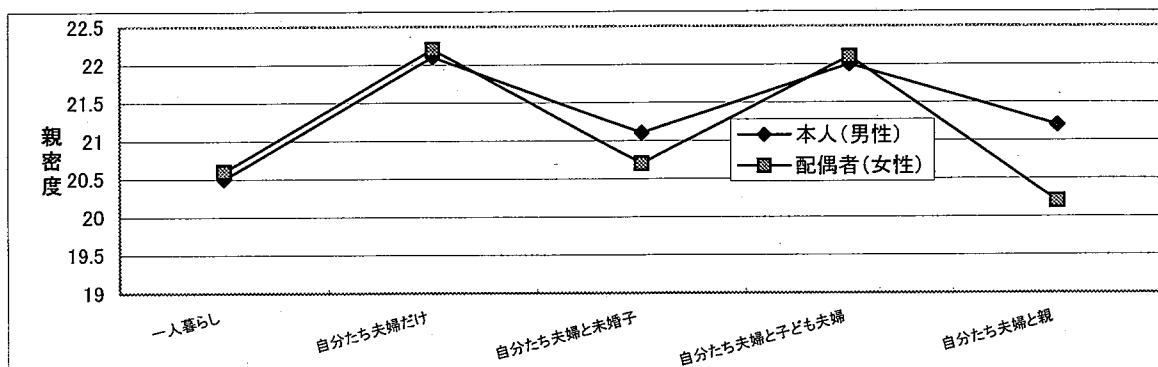
本人、配偶者ペアで回収された対象の世帯構成をみると、「自分たち夫婦だけ」2143、「自分たち夫婦（または自分）と未婚子」3460、「自分たち夫婦（自分）と子ども夫婦（他に孫や未婚の子がいる場合を含む）」404、「自分たち夫婦（自分）と親（他に子や孫がいる場合を含む）」1105であった。なお、ペアで回収されているながら「ひとり暮らし」が47あった。夫婦でありながら「ひとり暮らし」は一見矛盾しているが、実際には単身赴任とか事実婚などの事情により同居していない場合もありうるので、一応、分析に含めることとした。なお、「ひとり暮らし」はどの年代にも分散している。

「自分たち夫婦だけ」はサラリーマンシニア前期150、定年準備期198、定年期720、年金生活期1036と、ステージが高くなるにつれて増える。「自分たち夫婦（または自分）と未婚子」はサラリーマンシニア前期964、定年準備期1127、定年期955、年金生活期382と、定年準備期にピークを迎え、その後減少する。「自分たち夫婦（自分）と子ども夫婦（他に孫や未婚の子がいる場合を含む）」はサラリーマンシニア前期14、定年準備期23、定年期120、年金生活期238と、定年期以降、急増している。「自分たち夫婦（自分）と親（他に子や孫がいる場合を含む）」はサラリーマンシニア前期356、定年準備期376、定年期262、年金生活期99と、定年準備期にピークを迎え、定年期以降、急減している。

図Ⅱ-2-6は、世帯構成別に夫婦の親密度の平均値を示したものである。本人（男性）も配偶者（女性）もほぼ同じ傾向を示している。すなわち、「自分たち夫婦だけ」と「自分たち夫婦と子ども夫婦」がともに高い傾向を示している。これらに比べると、「自分たち夫婦と未婚子」や「自分たち夫婦と親」はいずれも低い。前者に比べて後者の方が夫婦の意見が一致せず、何かと葛藤があるためと推測される。なお、「一人暮らし」の場合は親密度がきわめて低い。これは、本調査の親密度が夫婦の対話や共に行動することを評価する内容になっているため、そのことがマイナスに作用しているとみられる。

また、本人（女性）・配偶者（男性）のペアの場合にもほぼ同様の傾向が認められた。

図Ⅱ-2-6 世帯構成別にみた夫婦の親密度



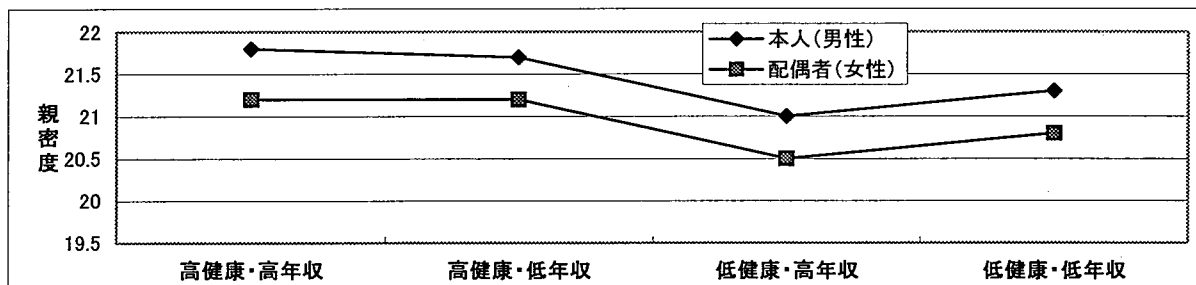
(5) 夫婦の親密度と本人の健康・経済状態との関連

夫婦関係と健康や経済状態との関係进行分析するに当たって、本人の健康状態と経済状態を組み合わせ、健康・経済状態のタイプ化を行った。まず、健康状態については、「非常に健康」と「まあ健康」を合併した高健康群とそれ以外の低健康群に分けた。次に、経済状態については、大きく年収800万円以上の高年収群とそれ未満の低年収群に分けた。そして両者を組み合わせ、高健康・高年収群1704(M=55.1,SD=10.7)、高健康・低年収群1645(M=56.7,SD=12.4)、低健康・高年収群601(M=54.2,SD=9.5)、低健康・低年収群945(M=59.6,SD=12.4)、の4タイプを得た。カッコ内は本人年齢の平均と標準偏差。本人が女性の割合は、高健康・高年収群11%、高健康・低年収群12%、低健康・高年収群12%、低健康・低年収群10%と、ほぼ同程度であり、性別による偏りはないとみられる。

図II-2-7は、これら健康・経済状態のタイプ別に夫婦の親密度の平均値を示したものである。本人(男性)も配偶者(女性)もほぼ同様の傾向を示している。すなわち、本人(男性)も配偶者(女性)も本人の健康状態の高い方が低い方に比べて夫婦の親密度が高い傾向がある。また、本人(男性)も配偶者(女性)も、本人の健康状態が低い場合、低健康・高年収群よりもむしろ低健康・低年収群の方が夫婦の親密度が高い傾向のある点が注目される。健康経済状態がよくなると、夫婦の結束が強まり、お互いに支えあっている様子がうかがわれる。

また、本人(女性)・配偶者(男性)のペアについてみると、配偶者(男性)はほぼ同様の傾向を示しているのに対して、本人(女性)は、本人(女性)の健康・経済状態によって夫婦の親密度が変わる様子はほとんどみられなかった。このことは、夫婦の親密度にとっては、女性の健康・経済状態よりも男性の健康・経済状態が大きく影響することを示唆している。

図II-2-7 健康・経済状態別にみた夫婦の親密度

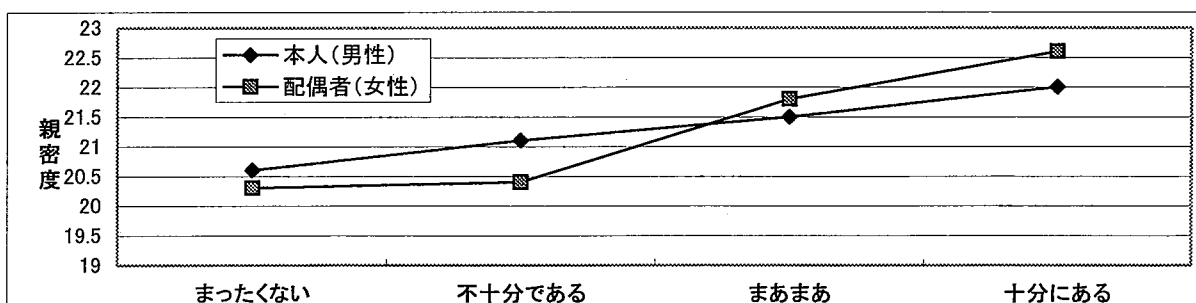


(6) 夫婦の親密度と自由時間との関連

図II-2-8は、自由時間度別に夫婦の親密度をみたものである。本人(男性)も配偶者(女性)も、本人(男性)の自由時間が多い方が夫婦の親密度が高い傾向がある。

なお、本人(女性)・配偶者(男性)のペアについてみると、基本的な傾向は概ね変わらないが、本人(女性)の自由時間が「まったくない」の方が「不十分である」よりもむしろ夫婦の親密度が高い。本人(女性)の場合には、正社員として働いているため自由時間がまったくなく、配偶者(男性)が家庭面で協力し、それで夫婦の親密度がむしろ高いということが考えられる。

図II-2-8 自由時間度別にみた夫婦の親密度



4. 夫婦関係と生きがいとの関連

(1) 生きがい要素獲得の場と夫婦関係との関連

夫婦関係がどのような生きがい要素獲得の場と関連しているのかを検討するために、夫婦の親密度と生きがい要素獲得の場（本人用の問6や配偶者用の問4）との相関係数を求めた（表II-2-2）。なお、この相関係数の算出に際しては、男女一緒に分析した。本人についてみると、いずれの生きがい要素においても他の場に比べて家庭の場との関連がもっとも強く、次いで地域・近隣の場との関連が強い。これは、夫婦の親密度の高い人は、家庭の場からもっとも生きがい要素を獲得し、次いで、地域・近隣の場から生きがい要素を獲得する傾向があることを示している。また、いずれの生きがい要素においても仕事の場や個人的友人の場、その他の場と負の相関をもつ傾向がある。これは、夫婦の親密度の高い人は、仕事の場や個人的友人、その他の場から生きがい要素を獲得することは逆に少ない傾向があることを示している。配偶者についてもほぼ同様の傾向がみられる。ただし、夫婦の親密度と家庭の場との関連は、本人よりも配偶者の方が関連が一層強い。男女一緒に分析しているため、本人は男性の傾向、配偶者は女性の傾向が優位になっている可能性がある。したがって、配偶者においてとくに夫婦の親密度と家庭の場との関連が強まるのは、女性の傾向が強く反映されているとみることができる。なお、夫婦の親密度と生きがい喪失との関連については後でも分析するが、本人においても配偶者においても夫婦の親密度の高い人は「生きがい要素獲得の場がどこにもない」という回答と比較的高い負の相関を示しており、夫婦の親密度の高い人は生きがい喪失に陥る危険性が低いことが示唆される。

表II-2-2 生きがい要素獲得の場と夫婦の親密度との相関係数

	家庭	仕事・ 会社	地域・ 近隣	個人的 友人	世間・ 社会	その他	どこに もない
はりあいや活力を与えてくれる場	0.194 <i>0.223</i>	-0.054 <i>-0.042</i>	0.04 <i>0.039</i>	-0.03 <i>-0.026</i>	-0.021 <i>-0.012</i>	-0.05 <i>-0.038</i>	-0.08 <i>-0.13</i>
リズムやメリハリを与えてくれる場	0.174 <i>0.162</i>	-0.041 <i>-0.036</i>	0.044 <i>0.023</i>	-0.007 <i>-0.004</i>	-0.021 <i>0.011</i>	-0.041 <i>-0.034</i>	-0.098 <i>-0.123</i>
心の安らぎや気晴らしを感じる場	0.187 <i>0.244</i>	0 <i>-0.012</i>	0.019 <i>0.008</i>	-0.024 <i>-0.027</i>	0.01 <i>-0.016</i>	-0.052 <i>-0.062</i>	-0.111 <i>-0.121</i>
喜びや満足感を感じる場	0.195 <i>0.230</i>	-0.035 <i>-0.022</i>	0.027 <i>0.035</i>	-0.027 <i>-0.011</i>	-0.014 <i>-0.002</i>	-0.066 <i>-0.043</i>	-0.098 <i>-0.16</i>
人生観や価値観に影響を与える場	0.161 <i>0.213</i>	-0.02 <i>-0.031</i>	0.04 <i>0.016</i>	-0.006 <i>-0.01</i>	0.009 <i>-0.012</i>	-0.04 <i>-0.042</i>	-0.087 <i>-0.088</i>
生活の目標や目的が存在する場	0.101 <i>0.148</i>	-0.014 <i>-0.007</i>	0.037 <i>0.043</i>	0.003 <i>-0.013</i>	0.011 <i>0.011</i>	-0.033 <i>-0.025</i>	-0.096 <i>-0.141</i>
自分自身を向上させる場	0.163 <i>0.201</i>	-0.04 <i>-0.033</i>	0.032 <i>0.037</i>	-0.011 <i>0.007</i>	0.018 <i>0.032</i>	-0.038 <i>-0.029</i>	-0.075 <i>-0.136</i>
自分の可能性の実現や達成感を感じる場	0.133 <i>0.173</i>	-0.017 <i>-0.019</i>	0.063 <i>0.043</i>	-0.01 <i>0.017</i>	0.026 <i>0.035</i>	-0.031 <i>-0.008</i>	-0.1 <i>-0.169</i>
自分が役に立っていると感じたり、評価を得ている場	0.132 <i>0.172</i>	-0.019 <i>-0.007</i>	0.067 <i>0.051</i>	-0.013 <i>0.025</i>	0.033 <i>0.041</i>	-0.039 <i>-0.03</i>	-0.113 <i>-0.177</i>

(注) 上段の数字:本人。下段の数字(斜体):配偶者。

(2) 生きがいの対象と夫婦関係との関連

表II-2-3は、夫婦の親密度と生きがいの対象（本人用の問9と配偶者用の問6）との相関係数を示したものである。概して相関係数は低いが、本人も配偶者も、夫婦の親密度は配偶者・結婚生活との相関が顕著に高く、ひとり気ままに過ごすこととは負の相関を示している。

また、配偶者・結婚生活との相関係数は本人よりも配偶者の方が高い。このことは、夫婦の親密度の高い人は、本人も配偶者も生きがいの対象を配偶者・結婚生活に置く傾向が強く、ひとり気ままに過ごすことを望まない傾向があることを示しているが、とりわけ配偶者にその傾向が強いといえよう。これらに比べると低いが、本人の親密度は、子ども・孫・親などの家族・家庭、趣味などとの相関が比較的高く、配偶者の親密度は、趣味やスポーツなどとの相関が比較的高く、多少傾向が異なり興味深い。また、本人も配偶者も夫婦の親密度の高い人は、友人など家族以外の人との交流、自分自身の内面の充実、学習活動などとは負の相関を示し、むしろ関心が低いことをうかがわせる。これらの本人と配偶者との微妙な食い違いには、男女一緒に分析しているため、性別によるバイアスが反映しているとみられる。すなわち、本人は男性傾向、配偶者は女性傾向が優位に反映されていることに留意しなければならない。

表II-2-3 生きがいの対象と夫婦の親密度との相関係数

	本人	配偶者
仕事	-0.014	0.001
趣味	0.03	0.063
スポーツ	-0.008	0.047
学習活動	-0.026	-0.03
社会活動	0.024	0.023
自然とのふれあい	-0.001	0.006
配偶者・結婚生活	0.256	0.304
子ども・孫・親などの家族・家庭	0.052	0.005
友人など家族以外の人との交流	-0.043	-0.038
自分自身の健康づくり	0.024	-0.017
一人気ままに過ごすこと	-0.175	-0.178
自分自身の内面の充実	-0.026	-0.032

(3) 生きがいの意味と夫婦関係との関連

表II-2-4は、夫婦の親密度と生きがいの意味（本人用の問9と配偶者用の問5）との相関係数を示したものである。概して相関係数は低いが、本人の夫婦親密度は「他人や社会の役に立っている」や「生活の活力やはりあい」と比較的高く、「心の安らぎや気晴らし」と負の相関をもつ傾向がある。配偶者も概ね同様の傾向を示している。男女一緒に分析したため、本人は男性の傾向、配偶者は女性の傾向が優位になりうるが、そうした性別によるバイアスはあまりないと考えられる。これらのことから、夫婦の親密度の高い人は、生きがいの意味を「他人や社会の役に立っている」のような自己効力感、「生活の活力やはりあい」のような生きる活力に求め、「心の安らぎや気晴らし」のような心の安寧には求めない傾向がある。

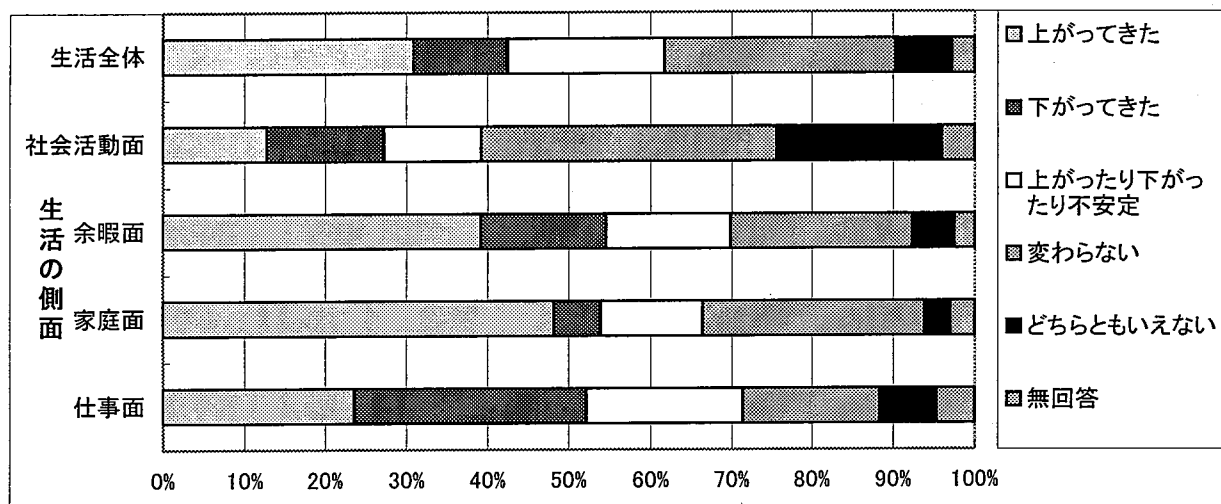
表II-2-4 生きがいの意味と夫婦の親密度

	本人	配偶者
生活の活力やはりあい	0.034	0.036
生活のリズムやメリハリ	-0.003	0.009
心の安らぎや気晴らし	-0.033	-0.033
生きる喜びや満足感	0.016	0.019
人生観や価値観の形成	-0.012	0.009
生きる目標や目的	-0.025	-0.019
自分自身の向上	0.008	0.012
自分の可能性の実現や達成感	-0.002	-0.014
他人や社会の役に立っていると感じる	0.044	0.028

(4) 生きがい度の変化の感じ方と夫婦関係との関連

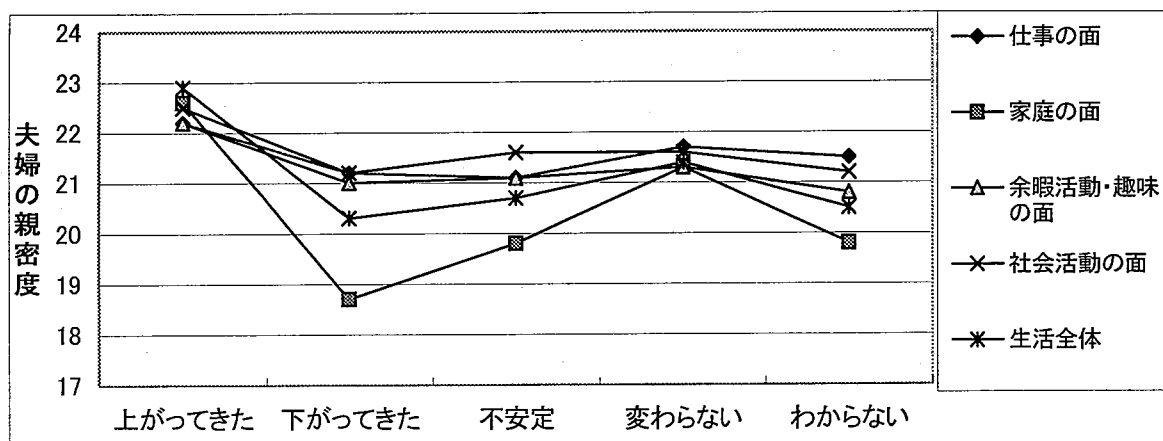
第3回調査では、本人のみ、この10年間の生きがい度の変化の感じ方について聞いた。図II-2-9は、この質問に対する回答がどのような割合になっているか、生活の側面ごとに示したものである。それによると、生活の諸側面の中で、「上がってきた」という肯定的な回答がもっとも多いのは家庭面であり、次いで余暇面である。社会活動面がもっとも少ないが、次いで仕事面が少い。一方、「下がってきた」や「上がったたり下がったり不安定である」という否定的な回答がもっとも多いのは仕事面で、他に比して顕著である。社会活動面は「変わらない」や「どちらともいえない」がもっとも多い。これらの結果は、回想による回答であり、実際の生きがい意識の変化を示すものではないが、生きがい要素獲得の場別にみた調査時点による変化と概ね対応しているように思われる。

図II-2-9 この10年間の生きがい度の変化の感じ方の割合



この生きがい度の変化の感じ方の質問は、本人調査票にしかない。そこで、本人についてのみ、生きがい度の変化の感じ方別に夫婦の親密度の平均値を示したのが図II-2-10である。なお、いずれの生活面でも男女の差が認められないので一緒に分析する。いずれの生活面においても「上がってきた」と感じている人の親密度が高い傾向がある。とくに家庭の面は顕著で、「上がってきた」と感じている人がもっとも高く、次いで「変わらない」、「不安定」、「下がってきた」の順になる傾向がある。生活全体についても概ね同様の傾向である。したがって、本人が感じている夫婦の親密度は、いろいろな生活の生きがい度の変化と関係しているが、とりわけ家庭面の生きがい度の変化と深い関係があるといえよう。

図II-2-10 生きがい度の変化の感じ方と本人の夫婦の親密度との関連

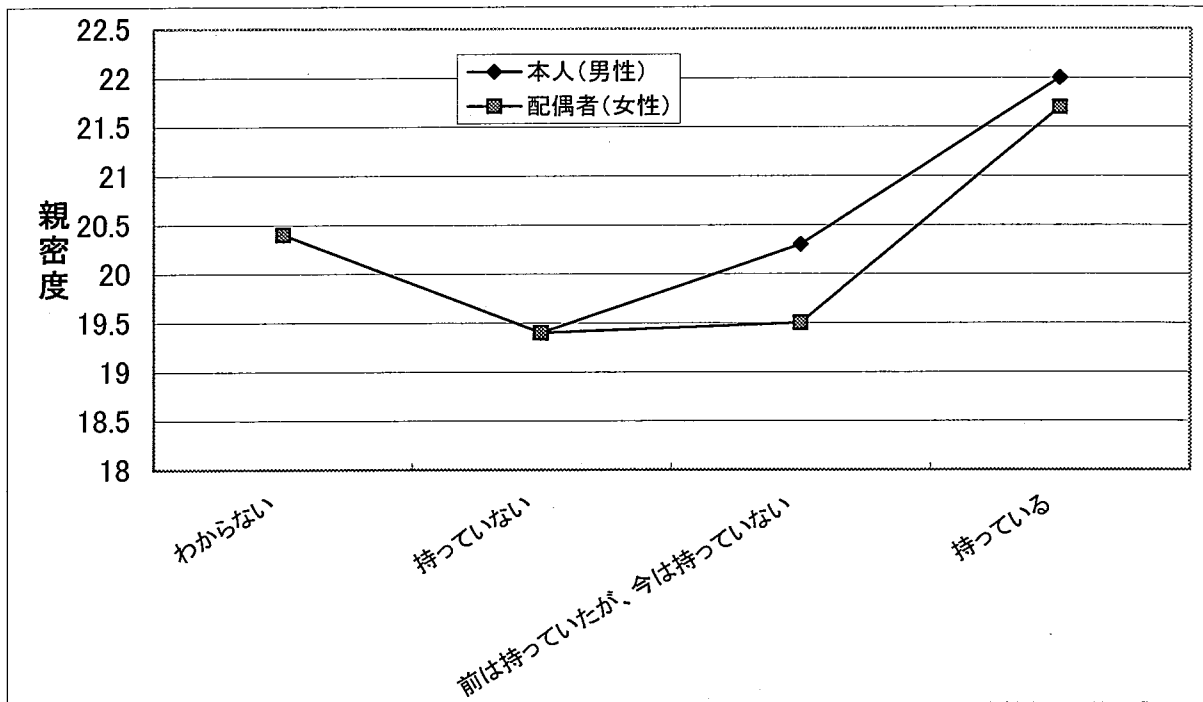


(5) 生きがい喪失と夫婦関係との関連

夫婦関係と生きがい喪失の関連を検討するために、本人用の問9の付問と配偶者用の問5の付問の生きがいの有無別に夫婦の親密度の平均値を求めた(図II-2-11)。本人(男性)も配偶者(女性)も、生きがいを「持っている」場合に夫婦の親密度がもっとも高くなる傾向がある。その他は、本人(男性)と配偶者(女性)で微妙に食い違っている。本人(男性)は、「わからない」と「前は持っていたが、今は持っていない」が同程度で「持っている」に次、「持っていない」がもっとも低い傾向がある。他方、配偶者(女性)は、「わからない」が「持っている」に次、「前は持っていたが、今は持っていない」と「持っていない」が同程度でもっとも低い傾向がある。したがって、「前は持っていたが、今は持っていない」は、本人(男性)では「わからない」と同程度であるが、配偶者(女性)では「持っていない」と同程度に低い。いずれにしても、生きがいを見出せるか否かは、夫婦の親密度とも密接な関連があるといえよう。

なお、本人(女性)・配偶者(男性)のペアについてみると、配偶者(男性)の傾向は基本的に本人(男性)と変わらないが、本人(女性)の場合、「前は持っていたが、今は持っていない」が「持っていない」よりもやや低い傾向がみられた。

図II-2-11 生きがいの有無別にみた夫婦の親密度



5. 介護意識と夫婦関係との関連

(1) 自分の親が寝たきりになった場合の介護意識と夫婦関係との関連

表Ⅱ-2-5は、自分の親が寝たきりになった場合の介護意識を、本人（男性）と配偶者（女性）別に示したものである。「自分が中心になって介護する」は、配偶者（女性）は二人に一人であるのに対して、本人（男性）は4人に一人にとどまる。「配偶者が中心になって介護する」は、本人（男性）は3人に一人であるのに対して、配偶者（女性）は5%強とわずかである。また、「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」や「老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる」は配偶者（女性）よりも本人（男性）にやや多い。

表Ⅱ-2-5 自分の親が寝たきりになった場合の対応

	本人(男性)	配偶者(女性)
自分自身が中心になって介護する	482 <i>25.4</i>	974 <i>50.3</i>
配偶者が中心になって介護する	607 <i>32.0</i>	108 <i>5.6</i>
主にホームヘルパー等に介護をまかせる	233 <i>12.5</i>	191 <i>9.9</i>
老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる	355 <i>18.7</i>	258 <i>13.3</i>
その他	221 <i>11.6</i>	405 <i>20.9</i>
合計	1898 <i>100.0</i>	1936 <i>100.0</i>

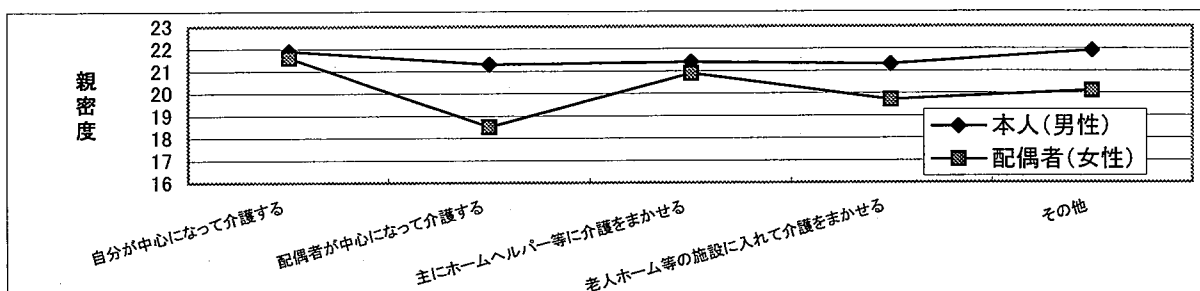
(注) 上段の数字：度数。
下段の数字(斜体)：%

なお、本人（女性）・配偶者（男性）のペアについてみても同様の傾向があり、「自分が中心になって介護する」が本人（女性）は半数、配偶者（男性）は3人に一人にとどまる。「配偶者が中心になって介護する」は、配偶者（男性）は4人に一人強であるのに対して、配偶者（女性）はわずかに4%である。また、「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」や「老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる」は本人（女性）よりも配偶者（男性）にやや多い。したがって、自分の親に対する介護意識は、男女でかなり異なり、女性は自分で介護するという意識が強いものに対して、男性は配偶者なり、他人に任せたいという意識が強いといえる。

図Ⅱ-2-12は、自分の親が寝たきりになった場合の介護意識別に夫婦の親密度の平均値を示したものである。本人（男性）は、どのような場合も夫婦の親密度に差はない。しかし、配偶者（女性）は、「自分自身が中心になって介護する」がもっとも親密度が高く、次いで「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」、「その他」、「老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる」の順になり、「配偶者が中心になって介護する」がもっとも親密度が低い。

なお、本人(女性)・配偶者(男性)のペアについてみると、配偶者(男性)の傾向は本人(男性)と基本的に変わっていない。本人(女性)は、「自分自身が中心になって介護する」がもっとも高く、次いで「配偶者が中心になって介護する」、「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」と「その他」が同程度の順となり、「老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる」がもっとも低い。本人(女性)の場合、配偶者(男性)の協力に対する期待が高いことがうかがわれる。

図Ⅱ-2-12 自分の親の介護意識別にみた夫婦の親密度



(2) 配偶者の親が寝たきりになった場合の介護意識と夫婦関係との関連

表Ⅱ-2-6は、配偶者の親が寝たきりになった場合の介護意識を、本人(男性)と配偶者(女性)に分けて示したものである。「自分自身が中心になって介護する」は、本人(男性)はわずかに6%強であるが、配偶者(女性)は4割にのぼる。また、「配偶者が中心になって介護する」は、本人(男性)は約半数であるのに対して、配偶者(女性)は13%強と少ない。また、本人(男性)も配偶者(女性)もホームヘルパーよりも老人施設を選ぶ人がやや多い。これは、自分の親の介護の場合と同様である。配偶者(女性)は「その他」が「自分自身が中心になって介護する」に次いで多いが、内容的には不明である。

なお、本人(女性)・配偶者(男性)のペアについてみると、基本的に変わらないが、「自分自身が中心になって介護する」は、本人(女性)は35%程度にやや低下する。しかし、仕事をもちながら、「自分自身が中心になって介護する」という意識がこれだけ強いということが注目される。

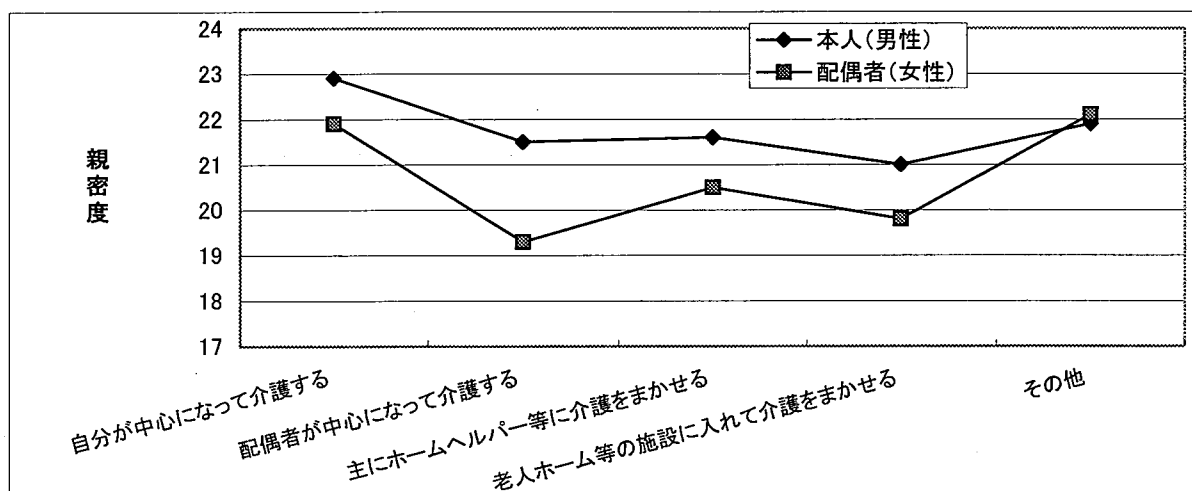
表Ⅱ-2-6 配偶者の親が寝たきりになった場合の介護意識

	本人(男性)	配偶者(女性)
自分自身が中心になって介護する	119 <i>6.3</i>	730 <i>39.2</i>
配偶者が中心になって介護する	977 <i>51.5</i>	253 <i>13.6</i>
主にホームヘルパー等に介護をまかせる	202 <i>10.6</i>	216 <i>11.6</i>
老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる	331 <i>17.4</i>	287 <i>15.4</i>
その他	269 <i>14.2</i>	375 <i>20.2</i>
合計	1898 <i>100.0</i>	1861 <i>100.0</i>

(注) 上段の数字: 度数。
下段の数字(斜体): %

図Ⅱ-2-13は、配偶者の親が寝たきりになった場合の介護意識別に夫婦の親密度の平均値を示したものである。本人(男性)も配偶者(女性)も「自分自身が中心になって介護する」の親密度がもっとも高い。また「その他」が次いで高いが、内容は不明である。それ以外では、とくに、配偶者(女性)で「配偶者が中心になって介護する」の親密度が低い点がやや目立つ。配偶者に対して、自分の親の介護にはもっと協力してほしいという気持ちが現れているように思われる。本人(女性)・配偶者(男性)のペアについてみると、配偶者(男性)は本人(男性)と基本的に変わっていない。本人(女性)も配偶者(女性)と基本的に変わっていないが、「配偶者が中心になって介護する」や「老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる」は夫婦の親密度が低いことがうかがわれる。

図Ⅱ-2-13 配偶者の親の介護意識別にみた夫婦の親密度



(3) 配偶者が寝たきりになった場合の介護意識と夫婦関係との関連

表Ⅱ-2-7は、配偶者が寝たきりになった場合の介護意識を本人（男性）、配偶者（女性）に分けて示したものである。「自分が中心になって介護する」は、本人（男性）、配偶者（女性）共に8割近くにのぼる。また、それ以外は分散しているが、本人（男性）は「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」の方が「老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる」よりもやや多いのに対して、配偶者（女性）の場合は逆になる傾向がうかがわれる。「夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける」は、本人（男性）よりも配偶者（女性）の方がわずかに多い傾向がみられた。

本人（女性）・配偶者（男性）の場合も基本的な傾向は変わらないが、「自分が中心になって介護する」は、本人（女性）が8割に達しているのに、配偶者（男性）が7割弱で、多少差が開いている。

表Ⅱ-2-7 配偶者が寝たきりになった場合の対応

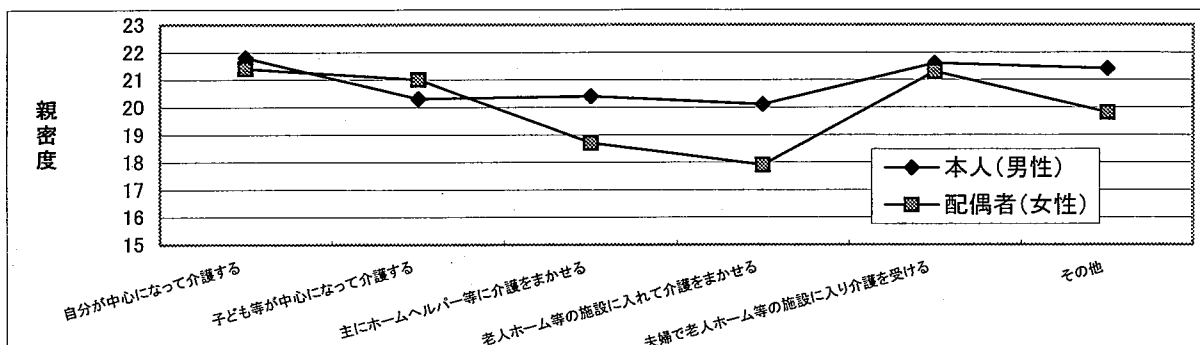
	本人(男性)	配偶者(女性)
自分自身が中心になって介護する	1620 <i>76.9</i>	1629 <i>78.2</i>
子ども等が中心になって介護する	56 <i>2.7</i>	8 <i>0.4</i>
主にホームヘルパー等に介護をまかせる	164 <i>7.8</i>	109 <i>5.2</i>
老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる	102 <i>4.8</i>	98 <i>4.7</i>
夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける	117 <i>5.6</i>	161 <i>7.7</i>
その他	47 <i>2.2</i>	79 <i>3.8</i>
合計	2106 <i>100.0</i>	2084 <i>100.0</i>

(注) 上段の数字: 度数。下段の数字(斜体): %

図Ⅱ-2-14は、配偶者が寝たきりになった場合の介護意識別に夫婦の親密度の平均値を示したものである。本人（男性）は「自分自身が中心になって介護する」と「夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける」が共に高く、「子ども等が中心になって介護する」、「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」、「老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる」などは低い。配偶者（女性）も「自分自身が中心になって介護する」と「夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける」が共に高い点は共通しているが、「子ども等が中心になって介護する」の親密度が高い点が大きく異なる。また、配偶者（女性）の場合、「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」、「老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる」などは本人（男性）に比べて親密度が低い。

なお、本人（女性）・配偶者（男性）のペアについてみると、本人（女性）は配偶者（女性）に、配偶者（男性）は本人（男性）にそれぞれ近く、性別によって意識が異なることがわかる。女性の場合は、「子ども等が中心になって介護する」の親密度が高く、配偶者への愛情の表れなのかもしれない。

図Ⅱ-2-14 配偶者が寝たきりになった場合の介護意識別にみた夫婦の親密度



(4) 自分が寝たきりになった場合の介護意識と夫婦関係との関連

表Ⅱ-2-8は、自分が寝たきりになった場合の介護意識を示したものである。「配偶者が中心になって介護する」は、本人(男性)が6割強であるのに対して、配偶者(女性)は35%強にとどまる。後は、「ひとりで老人ホーム等の施設に入り介護を受ける」、「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」と「夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける」が同程度、「子ども等が中心になって介護する」の順になるが、いずれも本人(男性)よりも配偶者(女性)の方が多い。

表Ⅱ-2-8 自分が寝たきりになった場合の対応

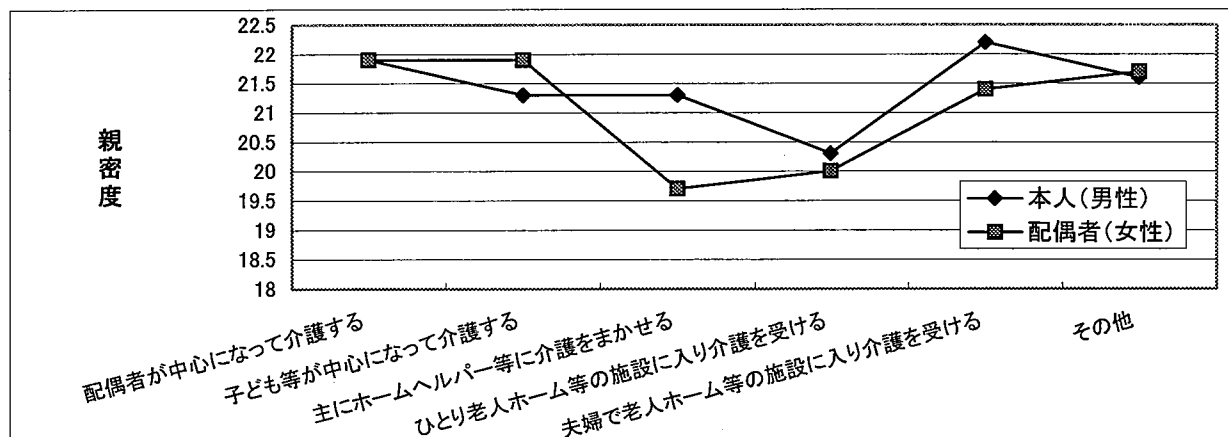
	本人(男性)	配偶者(女性)
配偶者が中心になって介護する	1274 61.0	726 35.3
子ども等が中心になって介護する	29 1.4	127 6.2
主にホームヘルパー等に介護をまかせる	185 8.9	335 16.3
ひとり老人ホーム等の施設に入り介護を受ける	381 18.2	497 24.2
夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける	166 7.9	286 13.9
その他	55 2.6	85 4.1
合計	2090 100.0	2056 100.0

(注) 上段の数字: 度数。
下段の数字(斜体): %

なお、本人(女性)・配偶者(男性)のペアについても、同様であった。

図Ⅱ-2-15は、自分が寝たきりになった場合の介護意識別に夫婦の親密度の平均値を示したものである。本人(男性)は、「夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける」の親密度がもっとも高く、次いで「配偶者が中心になって介護する」、「子ども等が中心になって介護する」と「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」が同程度、「一人で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける」の親密度がもっとも低い。配偶者(女性)は、「配偶者が中心になって介護する」と「子ども等が中心になって介護する」の親密度が同程度に高く、次いで「夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける」、「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」と「一人で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける」の親密度は低い。

図Ⅱ-2-15 自分が寝たきりになった場合の介護意識別にみた夫婦の親密度



なお、本人(女性)・配偶者(男性)のペアについてみると、本人(女性)は「配偶者が中心になって介護する」「夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける」の親密度が同程度に高く、次いで「子ども等が中心になって介護する」、「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」や「一人で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける」の親密度はともに低い。配偶者(男性)は、

「夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける」の親密度がもっとも高く、次いで「配偶者が中心になって介護する」、「子ども等が中心になって介護する」や「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」、「老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる」の親密度は低い。

したがって、男性に比べて女性の場合は「子ども等が中心になって介護する」の親密度が高く、女性にとっては親密度の証としても重要なことなのかもしれない。また、男女とも「夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける」の親密度が高く、ひとつのかたちとして注目に値する。

(5) 介護についての考え方と夫婦関係との関連

表II-2-9は、本人や配偶者の親密度と本人用の問15の付問(1)(2)や問16(1)、配偶者用の問9の付問(1)(2)や問10(1)の介護や長寿についての考え方との相関をみたものである。それによると、本人や配偶者の親密度は、本人や配偶者の「介護しともに生きることが自分の喜びや目的になる」と正に相関し、「介護負担で自分の生活や人生を犠牲にしたくない」と負に相関している。これは、親密度の高い人ほど「介護しともに生きることが自分の喜びや目的になる」という考え方を受容し、「介護負担で自分の生活や人生を犠牲にしたくない」という考え方を拒否する傾向があることを示している。男女一緒に分析したが、本人と配偶者の傾向が一致しているので性差はないとみられる。

表II-2-9 介護の考え方と夫婦関係との相関係数

	親密度	
	本人	配偶者
介護負担で自分の生活や人生を犠牲にしたくない(本人)	-0.068	-0.036
介護負担で自分の生活や人生を犠牲にしたくない(配偶者)	-0.067	-0.085
介護し共に生きることが自分の喜びや目的になる(本人)	0.199	0.127
介護し共に生きることが自分の喜びや目的になる(配偶者)	0.147	0.219
生きられるならいつまでも生きたい(本人)	0.045	0.01

(6) 介護体験の有無と介護意識および夫婦関係との関連

以上の介護意識は、実際の介護体験の有無とはかかわりなく、介護への対応に関する意識を問うたものである。しかし、こうした意識は、実際に介護を体験すると変わる可能性もありうる。また、介護に伴って夫婦の親密度が変わることがあるかもしれない。そこで、ここでは、実際に介護を体験した群と体験していない群との間の差について検討することとする。介護体験の有無は、本人調査の問21(8)の「実際に定年からいまままでに次のようなことがありましたか」という設問に対する「配偶者や親の介護が必要になった」という選択肢の回答によった。なお、この設問は定年退職者を対象としているため、定年退職者ペアについてのみ分析した。また、以下の結果は、サンプル数を確保する上から男女一緒に分析しているが、概ね、本人は男性の傾向、配偶者は女性の傾向を反映しているとみられる。

表II-2-10は、定年後の介護体験による自分の親が寝たきりになった場合の介護意識の差を示したものである。「自分自身が中心になって介護する」は、本人の場合は介護体験により増大しているのに対して、配偶者は逆に減少している。「配偶者が中心になって介護する」は、本人の場合大きく減少しているのに対して、配偶者は逆に増加している。「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」は、本人の場合は介護体験によりやや減少するが、配偶者はあまり変わらない。「老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる」は、本人、配偶者ともに増加しているが、本人の増加の方が顕著である。

表Ⅱ-2-10 定年後の介護体験による自分の親が寝たきりになった場合の介護意識の差

定年退職後の介護体験の有無	本人		配偶者	
	なし	あり	なし	あり
自分自身が中心になって介護する	189 <i>32.4</i>	35 <i>41.2</i>	314 <i>50.8</i>	37 <i>43.5</i>
配偶者が中心になって介護する	167 <i>28.6</i>	11 <i>12.9</i>	68 <i>11.0</i>	13 <i>15.3</i>
主にホームヘルパー等に介護をまかせる	51 <i>8.7</i>	4 <i>4.7</i>	52 <i>8.4</i>	6 <i>7.1</i>
老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる	100 <i>17.1</i>	23 <i>27.1</i>	83 <i>13.4</i>	13 <i>15.3</i>
その他	77 <i>13.2</i>	12 <i>14.1</i>	101 <i>16.3</i>	16 <i>18.8</i>
合計	584 <i>100.0</i>	85 <i>100.0</i>	618 <i>100.0</i>	85 <i>100.0</i>

(注) 上段の数字: 度数。下段の数字(斜体): %

表Ⅱ-2-11 は、定年後の介護体験による配偶者の親が寝たきりになった場合の介護意識の差を示したものである。「自分自身が中心になって介護する」は、本人の場合は介護体験によりやや増えているが、配偶者は逆に減少している。「配偶者が中心になって介護する」は、本人の場合大きく減少しているのに対して、配偶者は逆に増加している。「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」は、本人、配偶者共に減少しているのに対して、「老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる」は、本人、配偶者ともに増加している。

表Ⅱ-2-11 定年後の介護体験による配偶者の親が寝たきりになった場合の介護意識の差

定年退職後の介護体験の有無	本人		配偶者	
	なし	あり	なし	あり
自分自身が中心になって介護する	60 <i>10.6</i>	11 <i>12.6</i>	223 <i>39.1</i>	26 <i>32.9</i>
配偶者が中心になって介護する	261 <i>46.0</i>	36 <i>41.4</i>	110 <i>19.3</i>	20 <i>25.3</i>
主にホームヘルパー等に介護をまかせる	47 <i>8.3</i>	4 <i>4.6</i>	54 <i>9.5</i>	5 <i>6.3</i>
老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる	112 <i>19.8</i>	23 <i>26.4</i>	76 <i>13.3</i>	16 <i>20.3</i>
その他	87 <i>15.3</i>	13 <i>14.9</i>	107 <i>18.8</i>	12 <i>15.2</i>
合計	567 <i>100.0</i>	87 <i>100.0</i>	570 <i>100.0</i>	79 <i>100.0</i>

(注) 上段の数字: 度数。下段の数字(斜体): %

表Ⅱ-2-12 は、定年後の介護体験による配偶者が寝たきりになった場合の介護意識の差を示したものである。「自分自身が中心になって介護する」は、本人、配偶者共やや減少するが、配偶者の減少の方が大きい。「子どもが中心になって介護する」は、本人、配偶者共もともと少ないが、介護体験によりほとんどなくなる。「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」は、本人はあまり変わらないが、配偶者はやや減少している。「老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる」は、配偶者はあまり変わらないが、本人はやや増加している。「夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける」は、本人はあまり変わらないが、配偶者は介護体験により顕著に増えている。

表Ⅱ-2-12 定年後の介護体験による配偶者が寝たきりになった場合の介護意識

定年退職後の介護体験の有無	本人		配偶者	
	なし	あり	なし	あり
自分自身が中心になって介護する	561 <i>77.7</i>	69 <i>75.8</i>	543 <i>76.7</i>	65 <i>72.2</i>
子ども等が中心になって介護する	17 <i>2.4</i>	0 <i>0.0</i>	12 <i>1.7</i>	1 <i>1.1</i>
主にホームヘルパー等に介護をまかせる	41 <i>5.7</i>	6 <i>6.6</i>	48 <i>6.8</i>	4 <i>4.4</i>
老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる	43 <i>6.0</i>	8 <i>8.8</i>	36 <i>5.1</i>	4 <i>4.4</i>
夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける	43 <i>6.0</i>	6 <i>6.6</i>	47 <i>6.6</i>	11 <i>12.2</i>
その他	17 <i>2.4</i>	2 <i>2.2</i>	22 <i>3.1</i>	5 <i>5.6</i>
合計	722 <i>100.0</i>	91 <i>100.0</i>	708 <i>100.0</i>	90 <i>100.0</i>

(注) 上段の数字: 度数。下段の数字(斜体): %

表Ⅱ-2-13は、定年後の介護体験による自分が寝たきりになった場合の介護体験による介護意識の差を示したものである。「配偶者が中心になって介護する」は、本人は大きく減少しているが、配偶者はほとんど変わらない。「子どもが中心になって介護する」は、本人、配偶者共もともと少ないが、介護体験によりさらに減少している。「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」は、本人はやや減少しているが、配偶者は逆にやや増えている。「老人ホーム等の施設に入れて介護をまかせる」は、本人は大きく増加しているが、配偶者はむしろ減少気味である。「夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける」は、本人、配偶者共やや増加している。

表Ⅱ-2-13 定年後の介護体験による自分が寝たきりになった場合の介護意識の差

定年退職後の介護体験の有無	本人		配偶者	
	なし	あり	なし	あり
配偶者が中心になって介護する	415 <i>57.9</i>	43 <i>47.3</i>	301 <i>42.6</i>	38 <i>42.7</i>
子ども等が中心になって介護する	20 <i>2.8</i>	1 <i>1.1</i>	48 <i>6.8</i>	4 <i>4.5</i>
主にホームヘルパー等に介護をまかせる	77 <i>10.7</i>	6 <i>6.6</i>	107 <i>15.2</i>	16 <i>18.0</i>
老人ホーム等の施設に入り介護を受ける	130 <i>18.1</i>	27 <i>29.7</i>	156 <i>22.1</i>	18 <i>20.2</i>
夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける	58 <i>8.1</i>	10 <i>11.0</i>	71 <i>10.1</i>	12 <i>13.5</i>
その他	17 <i>2.4</i>	4 <i>4.4</i>	23 <i>3.3</i>	1 <i>1.1</i>
合計	717 <i>100.0</i>	91 <i>100.0</i>	706 <i>100.0</i>	89 <i>100.0</i>

(注) 上段の数字: 度数。下段の数字(斜体): %

このように介護体験が介護意識に及ぼす影響は本人と配偶者とで、もしくは、男女でかなり異なることが予想される。しかし、それにもかかわらず、本人も配偶者も、介護体験の夫婦の親密度への影響は認められなかった。

6. 小括

(1) 夫婦の回答の対応性

本人と配偶者の夫婦関係の重視度、実行度のベスト5は概ね一致している。ただし、本人に比べて配偶者の場合、「自分が配偶者を助けている」という意識が強い。同一調査項目における本人と配偶者の相関は比較的高く、夫婦関係に関する回答は比較的高い対応性がある。また、夫婦関係の実行度に関する項目の方が、重視度に関する項目よりも概して相関が高い。しかし、「配偶者は自分によりかかりすぎる」という項目は唯一夫婦間の相関がほとんどなく注目される。3回の調査で一貫している7項目の因子分析の結果にもとづき、本人、配偶者それぞれにおいて夫婦の親密度に関する尺度を構成した。本人の方が配偶者よりも親密度が高い傾向がある。性差はない。

(2) 夫婦の親密度の規定要因

①**時代要因の影響**：本人の親密度は、バブル絶頂時よりもバブル崩壊後の方がむしろ高まっている。これは、仕事や会社の場合からの生きがい要素の獲得が減少し、家庭の場合からの生きがい要素の獲得が増加したことと呼応しており、仕事・会社から家庭・夫婦に回帰してきていることの現れとみることができる。しかし、配偶者の親密度は調査時点で変わっておらず、バブル崩壊の影響はない。概して、本人に比べて配偶者の親密度が低く、バブル崩壊後、夫婦の親密度が乖離してきている点が注目される。

②**年代の影響**：親密度の年齢曲線はU字曲線を描き、最低期は40歳代後半と推定される。40歳代後半は、仕事や家庭での責任が重く、夫婦の葛藤・ストレスも多いと予想される。一方、被依存感が年代とともに上昇する傾向が認められた。これは、老いがすすむにつれて次第に相手に依存的になる傾向を反映しているとみられる。40歳代後半の危機に際して、夫婦関係を見直し、老いに向けて良好な関係を維持していくことの重要性が示唆される。

③**夫婦の就業形態の影響**：男性の場合には、本人であれ配偶者であれ就業形態による親密度への影響はあまりない。しかし、本人(男性)正社員・配偶者(女性)パートの場合、あるいは本人(女性)正社員・配偶者(男性)パートの場合に女性の親密度が低下する傾向がみられた。また、本人(男性)OBパート・配偶者(女性)パートの場合に女性の親密度が増加する傾向がみられた。本人(男性)が正社員でその配偶者(女性)がパートで生計を補っている場合や本人(女性)が正社員で主として生計を支え、その配偶者(男性)がパートで生計を補っている場合は、本人(男性)正社員・配偶者(女性)正社員の場合や本人(男性)正社員・配偶者(女性)無職の場合に比べて家計や時間に余裕がなく、それだけ女性にかかる負担が重く、それが配偶者(女性)の親密度の低下を招いているとみられる。他方、本人(男性)OBパート・配偶者(女性)パートの場合は、本人(男性)OBパート・配偶者(女性)無職の場合、本人(男性)OB無職・配偶者(女性)パートの場合、本人(男性)無職・配偶者(女性)無職の場合などに比べて家計に余裕があり、夫婦で交流する機会も多いためと推測される。

④**世帯構成の影響**：「自分たち夫婦だけ」の場合に親密度が高いのは、夫婦仲さえよければ他に葛藤の要素がないためであろう。また、「自分たち夫婦と子ども夫婦」の親密度が高いのは、子ども夫婦との同居による葛藤はあるが、老後の安心感や孫の存在などが夫婦の親密にプラスに作用するのかもしれない。それに比べると、「自分たち夫婦と未婚子」や「自分たち夫婦と親」はそれぞれに葛藤をもたらす可能性があり、夫婦の親密さにマイナスに影響することが推察される。

⑤**健康・経済状態の影響**：健康も経済も重要であるが、老年期に向けて夫婦の親密度を維持していく上では、本人（男性）の場合は健康がより重要であることが示唆された。また、低健康・低年収は健康経済状態は最悪であるが、意外と夫婦の親密度が高く、お互いに支えあっている様子が示唆された。他方、本人（女性）の場合には、あまり健康経済状態に左右されないことが示唆された。

⑥**自由時間の影響**：本人も配偶者も、男も女も自由時間の十分なほど、夫婦の親密度が高まる傾向があった。したがって、夫婦が互いに交流の機会をもち親密度を高めるためには、自由時間が必要である。仕事に忙殺され、夫婦の交流の機会がもてないと、夫婦の親密度は低下すると予想される。

(3) 生きがいと夫婦関係との関連

①**生きがい要素獲得の場と夫婦関係との関連**：家庭の場での生きがい要素獲得には夫婦の親密度が鍵であることが示された。また、仕事の場での生きがい獲得は夫婦の親密度と逆相関の関係にあり、仕事に生きがいをもちすぎると夫婦の親密度が低下する恐れがある。したがって、サラリーマンにとっては、仕事と家庭のバランスをとり、いかに折り合いをつけていくかということが、夫婦の親密度の観点からも重要であることが示唆されたといえる。

②**生きがい対象と夫婦関係との関連**：夫婦の親密度の高い人は配偶者・結婚生活に生きがいを感じる傾向が強いことを示している。こうした傾向は、男性よりも女性において一層強いことがうかがわれた。

③**生きがいの意味と夫婦関係との関連**：夫婦の親密度の高い人は、生きがいの意味を「他人や社会の役に立っている」のような自己効力感、「生活の活力やはりあい」のような生きる活力に求め、「心の安らぎや気晴らし」のような心の安寧感に求めない傾向がある。

④**生きがい度の変化の感じ方と夫婦関係との関連**：いずれの生活面においても、生きがい度が増加しているほど夫婦の親密度が高い傾向がうかがわれた。とりわけ家庭面の生きがい度の増加は、夫婦の親密度と密接に関連している。

⑤**生きがい喪失と夫婦関係との関連**：夫婦の親密度が高い場合は、生きがい喪失に陥りにくいことが示された。とりわけ、夫婦の親密度は、本人よりも配偶者の生きがい喪失と強い関連を示している。

(4) 介護意識と夫婦関係との関連

①**自分の親が寝たきりになった場合の介護意識と夫婦関係との関連**：男性の場合、その介護意識によって親密度が違うということはあまりない。しかし、女性は介護意識によって親密度に違いが出てくる。女性は、親密度の高いほど、他人まかせにしない意識の強いことがうかがわれる。

②**配偶者の親が寝たきりになった場合の介護意識と夫婦関係との関連**：男性も「自分自身が中心になって介護する」という場合、その他の対応に比べてやや親密度が高い。他方、女性は、「自分自身が中心になって介護する」の親密度がもっとも高く、「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」がそれに次ぐ。「配偶者が中心になって介護する」の親密度はもっとも低く、「老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる」はそれに次いで低い。

③配偶者が寝たきりになった場合の介護意識と夫婦関係との関連：男女とも「自分自身が中心になって介護する」及び「夫婦で老人ホーム等の施設に入り介護を受ける」の親密度が高い。女性は「子ども等が中心になって介護する」の親密度が高い点が、男性と違う。また、「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」、「老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる」などは男性以上に親密度が低い。

④自分が寝たきりになった場合の介護意識と夫婦関係との関連：男女とも「配偶者が中心になって介護する」にならないで、「夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける」の親密度が高い。また、女性は「子ども等が中心になって介護する」の親密度が比較的高い。「主にホームヘルパー等に介護をまかせる」や「一人で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける」の親密度は低い。

⑤介護に関する考え方と夫婦関係との関連：親密度の高い人ほど「介護しともに生きることが自分の喜びや目的になる」という考え方を受容し、「介護負担で自分の生活や人生を犠牲にしたくない」という考え方を拒否する傾向があることを示している。

(5) 定年後の介護体験と介護意識および夫婦関係との関連

自分の親や配偶者の親が寝たきりになった場合に、本人の自力意識が高まり、配偶者への依存意識が減少する傾向がうかがわれた。一方、配偶者は逆に自力意識が減少し、本人への依存意識が増加する傾向がうかがわれた。また、施設に対する期待は、本人、配偶者とも増加しているが、本人の方が顕著である。それに対して、ホームヘルパーに対する期待は、本人、配偶者とも減少している。

配偶者が寝たきりになった場合、自力介護は本人、配偶者とも減少するが、本人より配偶者の減少の方が大きいことが示唆された。また、自分が寝たきりになった場合、配偶者依存は、配偶者は変わらないのに対して、本人は大きく減少している。老人施設への期待は、本人では増加するが、配偶者は逆に減少気味である。ただし、夫婦で老人ホームに入居は割合は少ないが増えており、特に配偶者が寝たきりになった場合、配偶者で顕著に増えている点が注目される。ホームヘルパー等への期待は、本人は配偶者が寝たきりになった場合に増え、自分が寝たきりになった場合に減る。それに対して、配偶者は、配偶者が寝たきりになった場合は減り、自分が寝たきりになった場合は増えている。なお、本人は男性、配偶者は女性の傾向をそれぞれ強く反映しているとみられる。

このように定年後の介護体験によって、男女の介護意識には様々な変化が現れることが予想されるが、そうした変化にもかかわらず夫婦の親密度には変化はみられず、介護体験が夫婦の親密度に影響を及ぼすことはないと思われる。

(東京家政大学文学部教授 西村純一)

第3章 女性の生きがいと生活

—友人と楽しむ未婚女性、頑張り過ぎの既婚女性—

はじめに

今回の第3回調査では、女性の比率が25%になるよう調査サンプルを設定した結果、総数で776サンプルが回収された。(表II-3-1) 特に、シングル女性の割合が35.3%と多く、その動きが他のグループと若干異なるという結果が出たことにより、シングル女性の特徴を既婚女性と比較することになった。ただし、ここでいうシングル女性には、既婚の離死別は加えないことにする。

シングルの女性に対する調査で熟年も含めた調査には東京都(平成7年)、ならびにシニアプラン開発機構(平成13年)などの調査があるが、多くは20代~30代、あるいは高齢期の女性の調査である。東京都の調査のシングルは(20歳以上から60歳未満の非婚者2000人)、8割が結婚願望があるが、性別分業に強い否定感を持ち、自分の生き方や価値観を保ちつつきたいと考えている。仕事への満足度も「やや不満」が多いが、総じて普通と答えている割合が多いことから、自分のスタイルにこだわりを持ちながら生活している女性像が推察される。

一方シニアプラン開発機構の調査では、既婚女性とシングル女性へのアンケートによる比較とともに、シングル女性の聞き取り調査を行っている。それによれば、シングル女性は既婚女性とそれほど差はなく、老後への経済的不安や親の介護への不安、無力感などを持ちながら、自立を目指しているという結果が出ている。つまり、既婚であろうと未婚であろうと同じ世代に属する女性の問題には共通点があるとしている。

今回の生きがい調査では、中年から高年までが対象であり、これまでのシングル像とやや異なる面が見られた。シングル女性は既婚女性と比較して、個性的に生きていたい、自分のライフスタイルは変えたくないと思っているのだが、現状には満足はしていないし、生きがいを持っている割合も多くはない。むしろ比較対象となった既婚女性の方が、仕事も充実し、生きがいを持ち、活躍していると思わせる面が多く見られた。

10年前と比較して、シングルでありつづける女性達が多くなってきているが、それは必ずしも主体的に選択した結果でもないのかもしれない。前述の調査も合わせて見ると、結婚や家族を持ちたいが、そのためには自分の価値観やライフスタイルを変えることをしなかった結果としてシングルでありつづける結果になったといえるかもしれない。以下では、今回の第3回生きがい調査のデータに基づき、シングル女性、既婚女性の特徴を見ていくことにする。

1. 女性サンプルの特性(フェイス項目)

今回のシングル女性、既婚女性の属性は表II-3-2-1~II-3-2-5のとおりである。シングル女性は、「単独世帯」か「親との同居」かに分かれるが単身で住んでいる割合が約9ポイントほど多くなっている。一方既婚世帯も夫婦のみの世帯が一番多く、約33%、ついで未婚子との同居である。

表II-3-1 サンプル数

	度数	パーセント
有効回答		
シングル	274	35.3
既婚(配偶者あり)	357	46.0
既婚(離別)	44	5.7
既婚(死別)	72	9.3
無回答	29	3.7
合計	776	100.0

表II-3-2-1 属性 (%)

	項目	シングル	既婚
	標本数	274	357
世帯構成	単独世帯	47.4	0.6
	夫婦世帯	0.0	33.3
	夫婦と未婚子世帯	0.0	31.7
	夫婦と子供夫婦世帯	0.4	5.3
	夫婦(自分)と親世帯	38.7	23.2
	その他世帯	13.5	0.8
年齢構成	35~44歳	33.2	22.4
	45~54	25.9	27.4
	55~64	21.9	27.2
	65~74	14.6	21.3
学歴	義務教育	8.8	19.0
	高校卒	52.9	47.3
	短大卒	16.4	9.0
	大学以上	12.8	12.0
	専門学校等	8.0	6.4
収入	400万円未満	25.2	23.8
	400~599万円	36.9	19.3
	600~799万円	21.9	11.2
	800~999万円	6.2	10.6
	1000万以上	7.3	26.9
	無回答	2.6	8.1
収入源	給与	78.5	71.4
	年金	20.4	22.7
	不動産	0.0	0.0
	利息・配当金	0.0	0.0
	その他	0.7	0.6
	無回答	0.4	5.3

また、夫婦とその親との同居世帯も2割以上あり、逆に子供世帯との3世代同居は極めて少ない。

学歴はどちらも高校卒業以上が多いが、既婚女性は義務教育卒がシングル女性の2倍である。シングル女性の35～44歳代では短大卒が多いなど総じてシングル女性は既婚女性よりは学歴が高い方に偏っている。

住居形態では、一戸建て、分譲マンション等あわせての持ち家率が、未婚者73%、既婚女性84.3%と既婚女性のほうが高く、しかも一戸建てが多い(シングル女性48.2%、既婚女性70%)。またシングル女性は民間の借家・マンション・アパートなどに住んでいる率が若年層ばかりでなく高齢層でも既婚女性より高い。65歳以上のシングル女性は賃貸が公団・民間合わせて15%もいるのに、既婚女性ではわずか5.2%である。ローンの支払いはそのため、既婚女性の払っている場合が多く、シングル女性の2倍である(シングル女性17.9%、既婚女性34.7%)。ただし支払いの残存期間は、既婚女性は年齢が上になるほど短い。平均残存期間はシングル女性が16.8年、既婚女性が12.8年である。

健康状態は、「まあ健康」も含めて健康である割合がシングル女性58%、既婚女性65.6%と既婚女性のほうが元気である(ただし既婚女性の方は無回答が5%いる)。健康に注意する点があったり、病気がちという状態はシングル女性の方が多く、特に「病気がち・療養中」はシングル女性1.5%に対して、既婚女性はその半分である。高齢になると既婚女性も病気がちになるが、現役のときは総じてシングル女性より健康状態がよいようである。

収入については、世帯単位でしか質問していないので、シングル女性では親との同居では親の収入、既婚女性では配偶者の収入が加算されていると思われるので、本人が稼いでいる額は不明である。世帯単位は、400万円以上の割合が、シングル女性で72.3%、既婚女性は68.0%であり、シングル女性の方が所得が高いように見えるが、1,000万円以上を見ると、シングル女性は7.3%、既婚女性は26.9%と既婚女性がシングル女性をはるかに引き離している。これらはサンプル数が既婚女性では各年齢層に平均的に散らばっているが、シングル女性は若年層がやや多くなっていることによる影響もあると思われる。両者ともその約半数は従業員1,000人以上の企業に勤務している。

仕事の関連で興味深いのは、65歳以上にもかかわらず主たる収入源に「給与」と回答した割合が、既婚女性で19.7%もいることである(シングル女性は5%)。職種では、両者とも事務職が一番多く、管理職と専門技術職は合わせて11%前後である。ただし、既婚女性では職種がバラエティに富んでおり、技能職の割合もシングル女性より多い。ただし勤務時間はシングル女性のほうが若干長く、残業も多いようである。

表Ⅱ-3-2-2 持ち家率 (%)

項目	シングル	既婚
持ち家・一戸建て	48.2	70.0
持ち家・分譲マンション等	24.8	14.3
社宅・会社の寮等	2.2	2.2
公営の賃貸住宅	9.1	3.9
民間のマンション等	15.3	4.5
無回答	0.4	5.0

表Ⅱ-3-2-3 健康状態 (%)

健康状態別	シングル	既婚
非常に健康	10.6	13.2
まあ健康	47.4	52.4
注意する点あるも日常生活に支障なし	36.1	26.9
注意する点があり日常生活に制限	4.4	2.0
病気がち・療養中	1.5	0.6
無回答	0.0	5.0

表Ⅱ-3-2-4 暮らし向きと就業 (%)

項目		シングル	既婚
暮らし向き	とても楽だ	10.2	8.4
	少し楽だ	52.2	57.1
	苦しい	32.8	25.2
	とても苦しい	1.5	3.1
就業形態	正規社員	73.4	54.9
	派遣・パート等	5.8	13.7
	自営・家族従業員・自由業	0.4	3.1
	内職	0.0	0.0
	高齢者事業団など	0.4	0.0
	無職	15.7	15.7
無回答	4.4	12.6	
職種	専門技術職	2.3	5.5
	管理職	8.7	5.9
	事務職	83.6	68.8
	販売職	0.0	2.3
	技能職	3.7	10.5
	サービス職	0.5	3.1
	その他	0.5	1.6

表Ⅱ-3-2-5 勤務先の従業員規模 (%)

		シングル	既婚
企業規模	1～29人	16.4	21.9
	30～99人	5.5	11.3
	100～299人	6.8	6.6
	300～999人	11.9	7.8
	1000人以上	58.0	50.8
	無回答	1.4	1.6

2. シングル女性の生きがい

(1) 生きがいの有無と種類

各調査項目については、あらかじめクロス集計による χ^2 検定を行い、有意差の確認を行った。ここでは主として、「生きがい」を中心に検討する。

生きがいを持っているかどうかについては、今回の質問では「生きがい」と考えられる項目をまず挙げてもらい、「そのような生きがいを持っていますか？」と質問している。既婚女性、シングル女性双方とも「持っている」と回答した割合は50%を超えているが、現在、「生きがいを持っていない」割合はシングル女性のほうが多く、また「持っているかどうかわからない」と回答した割合もシングル女性のほうが多い(表II-3-3)。

表II-3-3 生きがいの有無 (%)

	持っている	前は持っていたが、今は持っていない	持っていない	わからない
未婚女性	52.2	8.8	13.9	23.4
既婚女性	64.4	5.3	9.8	17.9

それでは「生きがいを持っている」と回答した中で、どのような生きがいを持っているのであろうか。生きがいの種類についての問では、既婚女性で度数が一番多い項目は「子供・孫・親などの家族・家庭」であり、次いで「友人との交流」「趣味」「仕事」「自分自身の健康づくり」となっている(表II-3-4)。

表II-3-4 生きがいの種類

項目	「持っている」と回答した人				「持っていない、わからない」と回答した人			
	シングル女性(度数)	既婚女性(度数)	シングル女性(%)	既婚女性(%)	シングル女性(度数)	既婚女性(度数)	シングル女性(%)	既婚女性(%)
仕事	38	79	26.6	34.3	27	33	26.5	33.3
趣味	65	88	45.5	38.3	48	32	47.1	32.3
スポーツ	18	20	12.6	8.7	9	7	8.8	7.1
学習活動	15	15	10.5	6.5	7	3	6.9	3.0
社会活動	7	10	4.9	4.3	1	2	0.9	2.0
自然とのふれあい	31	42	21.7	18.3	23	23	22.5	23.2
配偶者・結婚生活	0	64	0.0	27.8	2	31	1.9	31.3
家族・家庭	37	180	25.9	78.3	41	66	40.2	66.7
友人との交流	66	133	46.2	57.8	60	35	58.8	35.4
自分自身の健康づくり	24	71	16.8	30.9	11	21	10.8	21.2
一人で気ままに	22	18	15.4	7.8	37	25	36.3	25.3
自分の内面の充実	43	42	30.1	18.3	36	19	35.3	19.2
その他	5	2	3.5	0.9	4	2	3.9	2.0
回答者数	143	230	100.0	100.0	102	99	100.0	100.0

シングル女性では「友人など家族以外の人との交流」が一番多く、次いで「趣味」「自分自身の内面の充実」「家族・家庭」「仕事」となっている。既婚女性はそのほとんどが配偶者、子供、親と同居しているが、シングル女性では単独世帯が多い。しかしシングルの中で家族と同居している女性ではやはり、家庭も生きがい、安らぎの対象となりうる。もちろんシングル女性では、家族以外の人と過ごすことが生きがいであり、その中には同性ばかりでなく異性の友人も含まれると推測される。

それでは、「生きがいを持っていない」あるいは「わからない」と回答した人達はどのようなことに生きがいを感じるのだろうか。シングル女性では、「友人との交流」「趣味」までは生きがいを持っている人と同じであるが、3番目に多いのは「家族・家庭」であり、「一人で気ままに」「自分の内面の充実」が同じくらいである。既婚女性のほうは生きがいを持っている回答者と同じ傾向であるが、「自分自身の健康作り」の代わりに「ひとりで気ままに」が挙がっている。どうやら、既婚女性もシングル女性も自分自身に関わる時間が取れなかったり、自己が満たされなかったりする事が生きがいにも影響してくる部分があるのかもしれない。「生きがい」という、生きる価値、生きていく上での心の支え、はりあいに係わる要因として仕事、人間関係、物事、自然、自分自身のうち、自他ともにコミュニケーションが重要となってきた。

生きがいについては、シングル女性と既婚女性とも、自分自身に関連する項目が挙がっているが、

シングル女性では特に「内面の充実」が生きがいになると考え、既婚女性は「健康づくり」に生きがいを感じると考えている。シングル女性は一人になる時間が既婚女性よりは多いと考えられるため、それだけ自分を見つめる機会も多いと思われるし、また一人であることに耐えうる精神も要求される。一方既婚女性は、仕事のほか家事・育児、介護にも頑張らなければならないので、健康づくりが重要な課題となってくる。既婚女性の健康づくりが生きがいなのは、その背後に家族や家庭があるからとも考えられる。

生きがいを持っている回答者のこの10年間の生きがい度の変化を見ると、仕事では両者の有意な差は認められない。生きがい度が上がった場合も下がった場合もあり、変化がないのは大体2割前後である。余暇活動も同様で、生きがい度が上昇してきている割合が多くなっている。

有意な差があるのは、家庭生活、社会活動、生活全体である。家庭の面では既婚女性は生きがい度が上昇してきたとの回答が多いのに対し、シングル女性ではあまり変化はない。既婚女性の生活では、子供がいればライフイベントはシングル女性より多くなり、子供の成長も楽しみがあると考えられる。逆に、社会生活面では、既婚女性の生きがい度が不安定かあるいは下がってきており、これは子供が成長するにつれて、PTAや子ども会などを通じた活動が減ってきていることや、地域人の立場をあまり重要視していないことなどが一因と考えられる。また、生活全体では、既婚女性が「上昇してきている」と回答している割合が多いのに対し（約41%）、シングル女性では不安定ならびに下がってきていると回答している割合が多い（両者の合計でシングル女性は約31%、既婚女性は約21%）。

(2) 生きがいと仕事の満足度

また、シングル女性、既婚女性とも仕事が生きがいになる率は低く、シングルであるから既婚者以上に仕事に打ち込むとは限らないようである。むしろ、仕事関連の満足度は人間関係を除いては両者とも有意な差はない。現在仕事を持っている人を対象に、生きがいの有無別に仕事や職場の満足度についてみると、「仕事の内容」「就業の形態」では両者とも約半数が満足している。「職場での地位の高さ」では、若干既婚女性のほうの満足度が高い。「賃金」「福利厚生」は満足度が低く、特に賃金に不満（不満+やや不満）な人はシングル女性で40.6%、既婚女性では36.3%である。シングル女性の職場の人間関係では、「不満である（不満+やや不満）」と回答した割合は26.9%と既婚女性の15.4%より多くなっている。（表II-3-5）

表II-3-5 生きがいの有無別仕事の満足度

(%)

	生きがいあり				生きがい無し・わからない			
	シングル女性		既婚女性		シングル女性		既婚女性	
	満足	不満足	満足	不満足	満足	不満足	満足	不満足
仕事の内容	65.0	9.7	67.7	6.6	45.5	20.7	42.9	17.2
就業形態	61.2	17.4	59.6	15.9	48.3	25.0	42.9	21.9
職場での地位の高さ	35.0	21.2	37.8	17.3	18.1	28.4	19.0	24.7
賃金	28.1	39.8	31.8	34.5	25.8	41.4	27.7	39.0
福利厚生	28.8	20.4	48.4	17.8	35.4	20.7	29.5	29.5
職場の人間関係	39.8	25.2	58.3	8.6	31.9	28.4	37.2	27.6
全体として	50.5	15.6	59.6	5.9	30.1	27.4	32.4	24.8

また、生きがいの有無別では、生きがいを持っていると回答したシングル女性、既婚女性とも「仕事の内容」や「就業形態」「職場の人間関係」での満足度が高い。加えて既婚女性では「福利厚生」でも満足している割合が3割以上いる。しかし、「生きがいを持っていない、わからない」と回答した場合は両者とも「仕事の内容」や「就業形態」以外は、満足度はきわめて低い。特に「職場での地位の高さ」への満足度が低く、シングル女性ではこれに加えて「職場の人間関係」でも不満がある。また既婚女性と比較すると、生きがいを持っている人に比べて持っていない人は職場での人間関係への不満が高い。生きがいの有無による不満足度の乖離が既婚女性のほうが大きい項目は、「賃金」「福利厚生」「職場の人間関係」である。

ただし、賃金については生きがいの有無に関係なく、全体的に一番不満足度が高い。また、生きがいを持たなくても、大体4～5割は仕事に満足している。全体的な評価としては、生きがいを持っているシングル女性、既婚女性とも約半数以上が満足しているが、持っていない場合では満足している割合は大体3割強である。

(3)「生きがい」の定義

生きがいをどう捉えられているかという「生きがいの定義」については、生きがいの有無に関しての有意な差はなかった。既婚女性、シングル女性とも選択率の一番多い項目は「生きる喜びや満足感」である。シングル女性は次いで「自分の可能性の実現」(28.5%)や「生活の活力やはりあい」(25.5%)であるが、既婚女性では「心の安らぎや気晴らし」(32.8%)であり、やや選択率が低くなって「自分の可能性の実現」(25.2%)となっている。

シングル女性も既婚女性も「生きがいを持っている人」の傾向は類似している。選択率の高低から見ると、シングル女性では「生きる喜びや満足感」に次いで「自分自身の向上」「自分の可能性の実現」と続いている。既婚女性は「生きる喜びや満足感」(43%)、次いで「心の安らぎや気晴らし」(31.3%)、「自分の可能性の実現」(25.7%)、「生活の活力やはりあい」(25.7%)と続いている。(表II-3-6)

表II-3-6 生きがいの有無別「生きがい」の定義 (〇2つまで) (%)

項目	シングル女性			既婚女性		
	生きがいあり	生きがい無し	全体	生きがいあり	生きがい無し	全体
生活の活力やはりあい	23.8	29.0	25.5	25.7	20.4	24.6
生活のリズムやメリハリ	8.4	2.1	7.7	13.0	11.1	13.2
心の安らぎや気晴らし	23.8	17.7	23.0	31.3	37.0	32.8
生きる喜びや満足感	35.0	41.9	41.6	43.0	27.8	41.2
人生観や価値観の形成	11.9	4.8	8.8	7.0	11.1	6.2
生きる目標や目的	15.4	25.8	17.5	16.1	18.5	17.6
自分自身の向上	31.5	12.9	21.9	21.3	25.9	19.9
自分の可能性の実現	30.8	29.0	28.5	25.7	25.9	25.2
社会の役に立つと感ずること	13.3	25.8	17.2	13.9	16.7	13.4
その他	7.0	0.0	0.7	1.3	0.0	0.8
回答者数	143(52.2%)	62(22.6%)		230(64.4%)	54(15.1%)	

「生きがいを持っていない人」となるとシングル女性は、「生きる喜びや満足感」が一番選択率が高く、次いで「自分の可能性の実現」「生活の活力やはりあい」となっているが、既婚女性では、「心の安らぎや気晴らし」の選択率が高く、次いで「自分の可能性の実現」や「自分自身の向上」となっている。

3. 生きがいとそれを構成する場

生きがいを構成する「場」に関連すると思われる要因について、その実現をどこに求めているかと聞いているのが問6である。項目としては、活力(1)、メリハリ(2)、安らぎ(3)、満足感(4)、人生観や価値観への影響(5)、生活の目標(6)、自分自身の向上(7)、自分の可能性の実現(8)、有用感、または役にたつという思い(9)の9項目である。(表II-3-7-1、表II-3-7-2)

表II-3-7-1 生きがいを構成する場：シングル女性 (%)

	1. 家庭	2. 仕事・会社	3. 地域・近隣	4. 個人的友人	5. 世間・社会	6. その他	7. どこにもない
生活の活力やはりあい	36.1	44.9	1.8	55.8	6.6	9.1	2.6
リズムやメリハリ	26.6	62.8	4.0	26.3	9.1	8.8	1.8
心の安らぎや気晴らし	60.9	1.8	1.5	66.8	2.9	15.7	0.7
生活の喜びや満足感	40.1	32.1	2.6	51.8	5.1	13.9	2.6
人生観や価値観への影響	29.6	29.9	1.1	56.6	21.2	9.1	2.6
生活の目標や目的	47.8	31.0	1.5	15.3	20.8	17.5	4.4
自分自身の向上	10.2	57.7	4.4	31.0	26.6	12.4	2.2
自分の可能性の実現	12.4	63.5	4.0	8.8	18.6	15.7	5.5
役に立つ等の有用感	28.5	58.0	5.1	22.3	8.8	8.8	7.3

(注)  : 第1位  : 第2位  : 第3位

表Ⅱ-3-7-2 生きがいを構成する場：既婚女性

(%)

	1. 家庭	2. 仕事・会社	3. 地域・近隣	4. 個人的友人	5. 世間・社会	6. その他	7. どこにもない
生活の活力やはりあい	72.3	45.1	5.6	24.1	2.8	4.2	0.6
リズムやメリハリ	46.8	57.4	4.8	17.1	6.7	2.8	2.0
心の安らぎや気晴らし	70.9	6.2	2.5	51.5	1.4	7.6	1.7
生活の喜びや満足感	67.5	32.5	4.8	28.0	4.2	8.7	0.8
人生観や価値観への影響	40.6	34.5	3.6	29.7	21.3	5.6	2.2
生活の目標や目的	72.8	30.5	3.1	3.6	12.3	8.1	2.2
自分自身の向上	25.2	55.2	7.6	15.7	19.9	9.2	1.7
自分の可能性の実現	28.0	58.5	8.4	4.2	13.7	10.9	5.9
役に立つ等の有用感	50.7	54.1	6.4	7.0	7.6	4.5	5.0

(注)

--

 : 第1位

--

 : 第2位

--

 : 第3位

各項目の選択率第1位では、生活の活力やはりあい(1)を得るのは既婚女性が「家庭」、シングル女性が「個人的友人」であり、際立って特徴的である。特に既婚女性は、7割以上の人が家庭にはりあいや活力を求めておりシングル(約36%)と比べてきわめて高い。しかし選択率の第2位は両者とも「仕事・会社」であり、第3位が既婚女性では「個人的友人」、シングル女性では「家庭」となっている。総じてシングル女性では、各選択肢の選択率は既婚女性より低く、高くても56%であり、既婚者が「家庭」に求めているような圧倒的に多い項目はない。

「生活のリズムやメリハリ」(2)は両者とも「仕事・会社」であり、シングル女性の選択率は既婚女性より5.4%高い。既婚者は次いで「家庭」が挙がっており、仕事と家庭とで生活のメリハリを付けている。第3位には「個人的友人」が挙がっているが、割合は少ない。一方シングル女性では「家庭」と「個人的友人」が同程度に挙がっており、場の認識は3次元である。ただし、「仕事・会社」の選択率が圧倒的に多く、様々に仕事をする中でメリハリをつけているようである。

「心の安らぎや気晴らし」(3)の項目では、既婚女性とシングル女性は同じように「家庭」と「個人的友人」とに安らぎや気晴らしを感じているが、選択率は逆である。既婚女性はずは「家庭」で安らぎ(70.9%)、シングル女性は「個人的友人」とくつろぐ(66.8%)ことによって、心の安らぎを得ている。また、「喜びや満足感」(4)を得る場所も、既婚とシングルでは異なっている。既婚女性は、まず「家庭」に喜びや満足感を見出している人が多い。次いで「仕事・会社」「個人的友人」であるが、シングル女性はずは「個人的友人」との付き合いに喜びを感じ、次いで「家庭」、そして「仕事・会社」となっている。両者とも「仕事・会社」に生活の喜びを感じる割合は約3割であり、かつての男性のように「会社に帰属することがすなわち生きがいである」状態とは異なっている。

それでは「人生観や価値観に影響を与えた」(5)のはどのような「場」であろうか。これも、既婚女性では「家庭」と「仕事・会社」が多い。また「個人的友人」や「世間・社会」からというのでも2割以上の選択率である。シングル女性では、まず「個人的友人」から大きな影響を受け、次いで「家庭」と「世間・社会」が同等の割合となっている。

「生活の目標」(6)はというと、既婚者、シングルとも「家庭」、次いで「仕事・会社」であり、差はないが、既婚女性は「家庭」の選択率がシングル女性の約1.5倍となっている。また「自分自身の向上」(7)が得られるのは、既婚、シングルとも圧倒的に「仕事・会社」である。しかし既婚女性は「家庭」でも向上を得られるとしており、シングル女性が「個人的友人」から向上を得ているのとは対照的である。さらに両者とも「世間・社会」からも自分自身を向上させている。

「自分の可能性の実現を図る」(8)のは、「仕事・会社」が既婚・シングルとも一番多いのは推察されるとおりの結果であるが、第2位となると既婚女性は「家庭」、シングル女性は「世間・社会」と分かれる。既婚女性は3番目にくる「世間・社会」と4番目の「地域・近隣」がほぼ同じような程度であるが、シングル女性では「地域・近隣」はきわめて低い。シングル女性では「家庭」「世間・社会」「個人的友人」に活力をもとめているが、「その他」の項目も多いことから、自己実現を図る場が多様化していると推察される。

最後に「自分が役に立っていると感じる場や、評価を得ている場」(9)については、既婚女性で

は「仕事・会社」(54.1%)と「家庭」(50.7%)がほぼ同じような割合である。しかしシングル女性ではまず「仕事・会社(58%)」である。次いで選択率の多いのは「家庭」(28.5%)、「個人的友人」(22.3%)である。

選択率の高い項目をシングル、既婚者別に見たのが図Ⅱ-3-1-1、図Ⅱ-3-1-2である。生きがい構成要因を獲得する場としては、既婚女性は「仕事・会社」と「家庭」にほぼ固まっているが、シングルは「仕事・会社」「個人的友人」に固まっている。ここでいう「個人的友人」の中身は不明であるが、一般的にいて、年代が上であれば、同年代の女性の友人は家庭に入ってしまうことが多いと思われることから、異性の友人が含まれることも考えられる。

また、2番目に高い選択率の項目を見ると、既婚女性も個人的友人との付き合いで気晴らしをしている。この場合は、地域のPTAで知り合った母親仲間が考えられる。シングル女性では、「家庭」が出てくるが、個人的友人と仕事と家庭に分散している。特に「世間・社会」に自己実現、やりがいを感じるというのはどのようなことか、不明である。仕事や会社でもない「世間」とは何か。仕事にも家庭にも個人的友人にも求められないやりがいとは何か。やりがいを現実ではないところで求めているような気がしてならないが、今後の検証が必要であろう。

図Ⅱ-3-1-1 生きがいを構成する場:選択率第1位

	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
生活の活力やはりあい	○			●			
生活のリズムやメリハリ		○●					
心の安らぎや気晴らし	○			●			
生活の喜びや満足感	○			●			
人生観や価値観への影響	○			●			
生活の目標や目的	○●						
自分自身の向上		○●					
自分の可能性の実現		○●					
役に立つ等の有用感		○●					

○:既婚
●:シングル

図Ⅱ-3-1-2 生きがいを構成する場:選択率第2位

	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない
生活の活力やはりあい		○●					
生活のリズムやメリハリ	○●						
心の安らぎや気晴らし	●			○			
生活の喜びや満足感	●	○					
人生観や価値観への影響		○●					
生活の目標や目的		○●					
自分自身の向上	○			●			
自分の可能性の実現	○				●		
役に立つ等の有用感	○●						

○:既婚
●:シングル

実際の生活上はどのような立場を重視しているのだろうか。表II-3-8は重視している立場の割合を示しているが、それを「重視している」「重視していない」の2項に分けて示したのが図II-3-2である。シングル女性も既婚女性も「職業人の立場」「グループ員の立場」や「地球人としての立場」の重視割合は同様であるが、「家庭人の立場」と「地域人の立場」では差が出ている。既婚女性では家庭人の立場が最優先であり、ほぼ9割以上となっている。その中でも大変重視している割合が50%を超えており、まったく重視していない割合は0.3%とほんの僅かである。次いで職業人の立場、グループ員の立場となっているが、いずれも大変重視している割合はシングル女性よりも高い。シングル女性における家庭人の立場の重視は66%前後に過ぎないし、「大変重視している」項目で既婚女性のように突出した項目が無い。図II-3-3は生きがいを持っている人の中での比較であるが(シングル女性143サンプル、既婚女性230サンプル)、パターンはほぼ図II-3-2と同じである。ただし、シングル女性では、既婚女性に比較して若干グループ員の立場が重視されている。

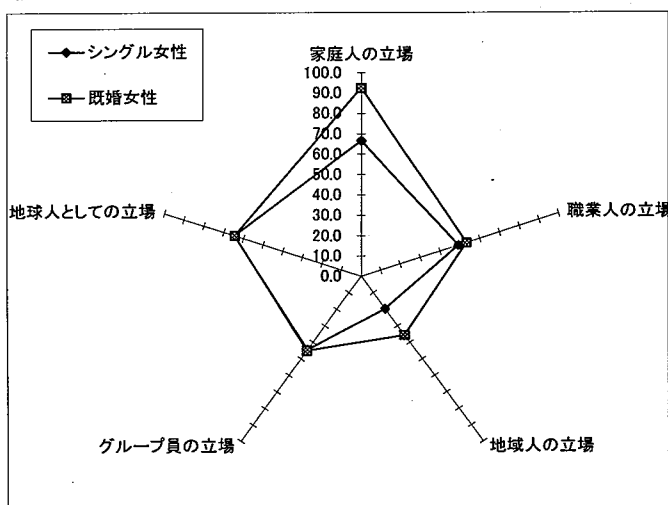
表II-3-8 重視している立場

(%)

項目	大変重視している		少し重視している		あまり重視していない		まったく重視していない	
	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性
家庭人の立場	33.6	64.1	32.8	28.3	18.2	5.3	8.8	0.3
職業人の立場	9.9	13.2	39.4	40.1	31.8	31.7	14.2	9.5
地域人の立場	2.2	6.2	17.5	29.4	54.0	46.8	21.2	11.8
グループ員の立場	9.1	9.2	35.4	35.9	35.0	37.8	15.7	10.4
地球人としての立場	17.2	21.0	47.4	43.4	28.5	25.8	3.6	4.8

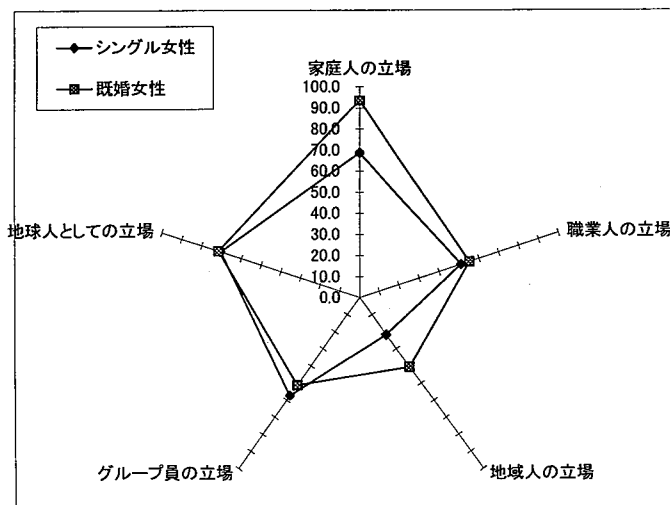
図II-3-2 重視する立場

(%)



図II-3-3 生きがいを持っている人の立場

(%)



4. 地域とのネットワーク

(1) 近隣との付き合い

女性たちの地域との交流は、既婚女性ほど親密ではある。「ほとんど付き合いがない」と回答した割合はシングル女性 10.6%、既婚女性では 2.0% である。約半数のシングル女性が近所の人と顔が合えば挨拶する程度の付き合いである(50.7%)。もちろんたまに立ち話をする人も 28.8% と 3 割弱はいるし、互いに訪問したり、困ったときに助け合うなどの密度の濃い関係もあるが約 9% と 1 割以下である。

一方既婚女性の方は、密度の濃い関係は 24.1% であり、たまには立ち話もするという関係も 38.4% である。ただし、既婚女性であっても 35.3% の人は、顔があったときに挨拶する程度であり、隣近所との関係が相対的に薄くなっているようである。(図 II-3-4)

近隣との関係を生きがいの有無別に見たのが表 II-3-9 である。既婚女性では生きがいの有無による有意な差は見出せなかった。「生きがいを持っていない」と回答した場合でも近隣との濃い関係を持っているケースが少なからずある(15.7%) し、たまには立ち話をする割合も 3 割以上もある。しかしシングル女性では「生きがいを持っていない、わからない」と回答したグループは近隣との関係が薄く、濃密な関係を持っているケースは 4.6% と極めて少なかった。ときどき立ち話をする関係も含めても 13.7% でしかない。

図 II-3-4 近隣との付き合いの程度

(%)

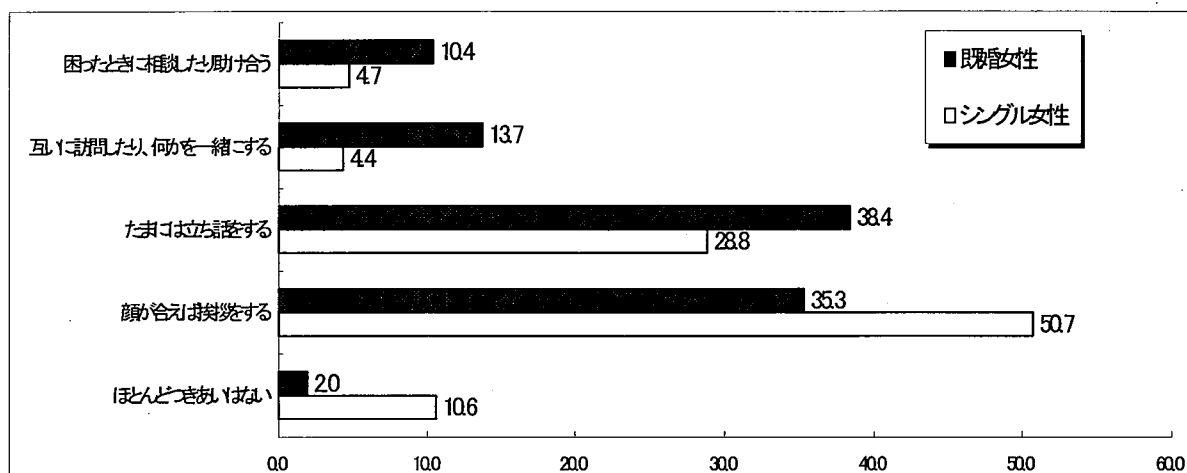


表 II-3-9 生きがいの有無別近隣との関係

(%)

	顔が合えば挨拶をする		たまには立ち話をする		互いに訪問したり、困ったときに助け合う	
	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性
生きがいあり	41.3	29.1	37.1	41.3	12.0	27.9
生きがい無し	59.5	43.3	9.1	30.7	4.6	15.7

(2) 所属団体など

仕事の場や家庭のほかに所属しているサークルや団体活動の分野はシングル女性、既婚女性とも「趣味やスポーツのクラブ・サークル」が一番多く、次いで「学習・研究会や教養教室」「職場・職域関係の団体・グループ」が多い。この 3 項目に関してはシングル女性の割合が既婚女性の割合を若干上回っている。既婚女性で特徴的なのは、上記に加えて、定年退職者の会や P T A などの会への参加も多く、また、「町内会・自治会」などの活動もシングル女性より活発である。

表Ⅱ-3-10 リーダー経験

(度数)

	現在		過去	
	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性
趣味やスポーツのクラブ・サークル	16	41	17	25
学習・研究会など	5	4	3	6
職場関係の団体・グループ	8	14	7	9
定年後の職場関係の集まり	5	8	5	3
PTAや子供会・青少年団体など	-	7	1	27
難病・障害者家族会	-	-	-	-
町内会・自治会	6	12	7	21
老人クラブなど	3	7	-	1
消費者団体・NPO	-	5	3	2
宗教・政治団体	4	2	1	5
その他	2	3	2	-

リーダー経験(表Ⅱ-3-10)に関しては、シングル女性よりは既婚女性の方が経験者数が多い。また、過去の経験をも含めると、全体での経験者数は既婚、シングルとも延べ数ではシングル女性が2割弱、既婚女性が3割弱である。既婚女性は現在では「趣味やスポーツのクラブ・サークル」が一番多く、次いで「職場関係の団体・グループ」があるが、人数はぐっと少なくなる。また、過去の経験では特にPTAや町内会でのリーダー経験者数が多く、次いで「趣味やスポーツのクラブ・サークル」「老人クラブなど」が多い。シングル女性ではリーダー経験者が一番多いのは「趣味やスポーツのクラブ・サークル」であり、それ以外は職場関係が目立つ。定年退職後は老人会などにも所属するが、全体的に趣味・スポーツ以外はリーダー経験者数は少ない。

(3) ボランティアや社会貢献活動

地域活動や社会貢献活動の有無については、シングル女性はあまり活発ではなく、約8割以上の人があるような活動には現在参加していない。しかし既婚女性では活動未経験者は54.6%、過去参加したが現在参加していない人も含めると67.8%と、地域活動に参加している人は思ったほど多くはない。それでも、定期的に参加している人は10.0%、時々参加している人も14.3%いて、仕事、家庭をもちながらも、2割以上の方は精力的に人生を過ごしていることがわかる。ただし、年齢別に見てみると、既婚者の活動は子供が小さいときに非常に活発であることが効いており、PTAなどの活動を通じての教育分野での参加が多いと思われる。(表Ⅱ-3-11)

表Ⅱ-3-11 社会活動参加度

(%)

	計		シングル女性		既婚女性	
	シングル女性	既婚女性	生きがいあり	生きがい無し	生きがいあり	生きがい無し
定期的に参加	7.7	10.0	12.6	2.7	13.5	1.7
ときどき参加	6.2	14.3	6.3	5.6	16.5	9.3
以前に参加した	9.1	13.2	9.1	9.5	13.9	11.9
参加していない	71.2	54.6	65.0	79.4	49.1	68.6
回答者数	274	357	143	126	230	118

特に生きがいをもっている人の中での参加率を見ると、シングル女性では参加が18.9%、不参加が74.1%、既婚女性で同30.0%、63.0%となっている。また生きがいをもっていない人の中ではシングル女性同8.3%、88.9%、既婚女性同11.0%、80.5%であり、シングル女性では生きがいとの関連はあまり見出せないが、既婚女性の中では関連がありそうである。

参加者の実数はシングル女性で38人、既婚女性で87人であるが、参加活動を見ると(表を提示してはいないが)、シングル女性では社会福祉活動が一番多く、次いで地域の生活環境を守る活動やイベントなどが続く。既婚女性では地域の生活環境を守る活動がもっとも多く、次いでイベントや村おこし、趣味やスポーツなどのグループ・リーダーと続く。また、参加の理由を見ると、両者とも一番多い選択率は「地域や社会へ貢献したい」という項目である。シングル女性はそれに加えて「社会人と

して当然」「知識や経験を活かしたい」となっている。一方既婚女性では、「友人や仲間を増やしたい」が2番目に選択率が多く、次いで「生活にはりあいを持たせたい」「知識や経験を活かしたい」となっている。

いっぽう、社会活動やボランティアに不参加の理由は、表II-3-12によると、シングル女性も既婚女性も一番選択率の多い項目は「時間がない」であり、次いで「きっかけがつかめない」「精神的なゆとりがない」となっている。また、「健康や体力に自信がない」や「自分にあった活動の場がない」などの項目の選択率も1割以上はある。しかし時間的ゆとりや精神的ゆとりがあり、きっかけさえあれば参加するかというと、両者とも積極的に参加する割合は少なく（シングル女性5%、既婚女性9.3%）、条件次第で参加する率のほうが多い（同56.8%、61.2%）。「わからない」とあいまいな態度のものもシングル女性で29.1%、既婚女性で20.7%いる。

表II-3-12 不参加(現在)の理由(○は3つまで)

	シングル女性 (度数)	既婚女性 (度数)	シングル女性 (%)	既婚女性 (%)
時間がない	116	157	52.7	64.9
経済的余裕がない	20	22	9.1	9.1
精神的なゆとりがない	55	55	25.0	22.7
健康や体力に自信がない	35	31	15.9	12.8
家族などの理解や協力が得られない	-	6	-	2.5
自分にあった活動の場がない	32	35	14.5	14.5
一緒にやる仲間がいない	21	20	9.5	8.3
きっかけがつかめない	86	77	39.1	31.8
興味がない	7	13	3.2	5.4
その他	11	15	5.0	6.2
回答者数	220	242	1000	1000

5. 個人のネットワークと活動

(1)個人のネットワーク

個人的ネットワークについての質問は、「あなたには生涯を通じて付き合える友人や仲間がいますか?」というものである。全体では、シングル女性は92.3%が、既婚女性では89.1%の人がそのような友人や仲間を持っていると回答している。どのような関係で知り合ったかは、表II-3-13に示してある(回答はマルチ・アンサー)。一番選択率の多い項目は「職場や仕事を通じて」であり、これはシングル女性、既婚女性ともに同様である。シングル女性はこのほかにやはり「幼馴染や学生時代の友人」も多く、それよりやや少ないが「趣味・スポーツや学習など」を通じて知り合う場合も多い。地域や家族・親戚を通して知り合う割合は低い。既婚女性は、「幼馴染みや学生時代の友人」はシングル女性ほど多くはないが、有力なきっかけのひとつでもある。しかし近隣や地域で知り合うケースも多く、趣味などのサークルや家族や親戚を通じてなどチャンネルがシングル女性よりは多面的である。これはシングル女性よりも多くの既婚女性が地域活動に参加していることによる影響が考えられる。また、家族や親戚とも多く付き合っている姿が想像される。

生きがいの有無別にも見たが、この傾向はほぼ変わらない。

表II-3-13 友人や仲間と知り合ったきっかけ

(%)

	全体		生きがいあり		生きがい無し	
	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性
幼馴染や学生時代	68.0	57.9	65.2	58.4	71.3	56.9
職場や仕事を通じて	83.0	71.1	83.3	72.2	82.6	68.8
近隣、地域で知り合った	13.4	34.3	19.6	37.3	6.1	28.4
趣味・スポーツや学習などを通じて	37.5	25.8	44.9	30.1	28.7	17.4
メール、パソコン、携帯電話などを通じて	0.8	-	0.7	-	0.9	-
社会活動を通じて	6.7	9.1	11.6	13.4	0.9	0.9
宗教活動を通じて	4.3	4.1	5.8	5.7	2.6	0.9
家族や親戚を通じて	13.8	20.1	19.8	24.9	7.0	11.0
戦友	-	-	-	-	-	-
その他	1.6	0.6	2.9	0.5	-	0.9
回答者数	253	318	138	209	115	109

(2)自由時間の過ごし方

それでは、自由時間の過ごし方はどのようになっているであろうか。社会参加活動にも関連させてみると(表Ⅱ-3-14)、自由時間が不十分であると回答した割合はシングル女性が35.8%、既婚女性が49.6%と後者のほうが多くなっている。社会活動への参加の有無別ではやはり自由時間が不十分であると回答した割合が不参加者のほうで多くなっている。しかし不参加者の中で「自由時間がまったくない」と回答した割合はシングル女性で2.3%、既婚女性では5.4%とそれほど多いわけではない。時間が十分にあるからといって社会活動に参加するわけでもないし、また少ないからといって参加しないわけでもなさそうである。

表Ⅱ-3-14 自由時間の有無

(%)

	全体		社会活動参加者		不参加者	
	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性
十分にある	20.4	12.6	39.5	21.8	15.9	9.1
まあまあある	41.2	33.3	31.6	42.5	44.1	28.5
不十分である	35.8	49.6	28.9	35.6	37.7	55.8
まったくない	1.8	3.6	-	-	2.3	5.4
無回答	0.7	0.8	-	-	-	1.2
回答者数	274	357	38	87	220	242

それではその自由時間をどのように使っているだろうか(表Ⅱ-3-15)。シングル女性は「個人的な友人・仲間との付き合い」で過ごすことが多く、選択率は61.8%である。また、「仲間と趣味やスポーツ、学習など」の活動をしている割合も多い。そうでなければテレビやごろ寝、あるいは一人で趣味やスポーツ活動を行っている。社会活動への参加の有無別でも同じような傾向を見ることができる。社会活動参加者では若干テレビやごろ寝などの選択率が減少し、不参加者ではテレビやごろ寝など一人で過ごす項目の選択率が増加する。もちろん家庭内の仕事や近隣の人との付き合いも不参加者よりは多くなっている。仕事関係の仲間との付き合いもシングル女性のほうが多いが、仕事に関する勉強や残務整理では大きな差はないし、社会活動参加者では逆に既婚女性のほうが多くなっている。

既婚女性では「庭いじりや家事など家庭内のこと」が53.4%の選択率であり、「家族とのだんらん」も35.2%と多い。ただし、38.5%と同じような割合で、仲間や友人との付き合いもある。社会活動参加者でも家庭内の仕事をやるのが優先されているようである。選択率は56.3%となっている。しかし、仲間や友人と過ごしたり、個人的な付き合いも多く、それぞれ51.7%、43.7%である。しかし社会活動不参加者では家庭内での仕事や家族サービスに費やす時間は当然多いが(51.3%、36.3%)、テレビやごろ寝も参加者より圧倒的に多くなっている(28.3%)。既婚女性の社会活動不参加者は、家庭のことと気晴らしの友人との付き合いで手一杯であり、社会活動に参加する時間はないようである。

表Ⅱ-3-15 自由時間の使い方

(%)

	全体		社会活動参加者		不参加者	
	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性	シングル女性	既婚女性
仕事仲間とのプライベートな付き合い	12.7	7.3	7.9	9.2	13.5	7.5
仕事に関する勉強や残務整理	10.5	7.3	2.6	6.9	12.1	7.1
テレビ、ごろ寝、パチンコ、酒など	32.6	21.7	26.4	6.9	34.4	28.3
考えごとや瞑想	4.5	4.7	5.3	2.3	4.7	5.3
一人で趣味、スポーツ、学習など	28.8	17.0	23.7	14.9	30.7	16.8
仲間と趣味、スポーツ、学習など	32.2	28.2	39.5	51.7	31.2	19.9
パソコン通信やインターネットなど	8.6	8.2	5.3	6.9	8.8	9.3
個人的な友人・仲間との付き合い	61.8	38.5	50.0	43.7	63.3	36.3
行楽、ドライブなど	24.0	26.7	26.3	26.4	23.3	26.5
庭いじりや家事など家庭内のこと	28.5	53.4	31.6	56.3	27.4	51.3
家族との団欒や家庭サービス	13.5	35.2	13.2	28.7	13.5	36.3
近隣の人との付き合いや地域の用事	3.4	5.6	13.2	11.5	1.9	3.1
ボランティアなどの社会活動	3.0	3.8	21.1	14.9	-	0.4
宗教活動・政治活動	1.9	3.2	7.9	6.9	0.9	1.3
その他	4.9	2.6	7.9	2.3	3.7	3.1
特に何もしない	-	0.6	0.0	0.0	-	0.4

6. 女性配偶者とシングル女性との比較

生きがいや社会参加に関しては、シングル女性と既婚女性では一部異なる結果が見られたが、同じような傾向を示した項目も多かった。そこで、本調査の男性サンプルの配偶者との比較を試みる。表II-3-16から表II-3-20までは男性サンプルの配偶者(女性)の結果である。ただし女性配偶者の正規社員として仕事をもっている割合は7.8%である。(その他の就業割合は、派遣・パートなどは23.7%、自営・自由業3.5%、内職2.3%、シルバー人材センター0.2%、無職38.9%、その他7.1%、無回答16.7%となっている。)

表II-3-16 配偶者(女性、以下同じ)の生きがいの有無と定義 (サンプル数:2372、%)

生きがいの有無		生きがいの定義	
持っている	65.7	生活の活力やはりあい	24.3
前は持っていたが、今は無い	4.4	生活のリズムやメリハリ	8.7
持っていない	6.2	心の安らぎや気晴らし	23.9
わからない	12.9	生きる喜びや満足感	37.8
無回答	10.8	人生観や価値観の形成	5.8
生きがいの種類		生きる目標や目的	16.3
仕事	14.6	自分自身の向上	19.2
趣味	37.9	自分の可能性の実現	22.8
スポーツ	7.6	社会の役に立つと感じること	12.3
学習活動	5.1	その他	0.8
社会活動	4.5	近隣とのネットワーク	
自然とのふれあい	16.9	ほとんどつきあいはない	1.1
配偶者・結婚生活	27.3	顔が合えば挨拶をする	18.3
家族・家庭	53.3	たまには立ち話をする	41.8
友人との交流	24.8	互いに訪問したりする	15.6
自分自身の健康づくり	14.6	困ったときに相談したり助け合う	12.9
一人で気ままに	9.0	無回答	10.3
自分の内面の充実	15.2		
その他	1.5		

配偶者調査では本人女性調査に比較して、生きがいや近隣との関係の質問では無回答の割合が1割以上ある。配偶者では生きがいを持っていると回答した割合は既婚女性とほぼ同じ割合であり、「わからない」という比率も少ない。生きがいの定義も既婚女性とほぼ同じようなパターンであり、「生きる喜びや満足感」が一番選択率が多く、次いで「生活の活力やはりあい」「心の安らぎや気晴らし」が続く。しかし同時に「自分の可能性の実現」も22.8%ある。生きがいの種類はまず「家族・家庭」、次いで「趣味」「友人との交流」と続いており、この点は第2位と第3位が既婚女性と逆になっている。そして、生きがいの場はすべての項目について、「家庭」が第1位にきている。ただし、第2位では「個人的友人」がくる項目も多く、家庭を大事にしてはいるし、そこに生きがいも見出してはいるものの、「自分」という個も大事にしたいという傾向が見られる。

表II-3-17 配偶者の生きがいの場 (サンプル数:2372、%)

	1. 家庭	2. 仕事・会社	3. 地域・近隣	4. 個人的友人	5. 世間・社会	6. その他	7. どこにもない
生活の活力やはりあい	71.2	19.6	9.1	33.3	4.7	5.9	0.8
リズムやメリハリ	52.2	28.7	11.2	21.7	7.7	6.6	1.5
心の安らぎや気晴らし	67.9	3.7	5.1	47.8	2.0	9.7	1.1
生活の喜びや満足感	68.4	15.5	6.7	25.9	5.3	9.5	1.4
人生観や価値観への影響	47.5	13.1	7.8	33.9	19.1	8.4	1.9
生活の目標や目的	66.7	12.9	6.2	6.5	14.9	7.8	1.0
自分自身の向上	32.9	25.8	13.8	17.8	22.6	8.9	3.5
自分の可能性の実現	38.9	28.6	13.6	7.6	14.8	10.4	5.1
役に立つ等の有用感	60.0	26.0	14.9	11.6	7.1	6.1	3.7

地域において団体や活動に所属している割合は多く、そのパターンは既婚女性と同じである。しかしリーダー経験は働いている女性たちよりは多いようである。もちろん近隣とのネットワークも付き合いが無いか挨拶する程度は全体の約2割にも満たない。やはり、働いている女性たちに比較して、濃い付き合いが多い。

地域の社会活動への参加では、不参加は約6割未満であり、定期的に参加している割合も多い。参加の理由も、社会貢献や仲間を増やしたいなど、既婚女性と類似のパターンが見られる。生きがいの有無別で見ると、生きがいを持っていない人ではやはり社会活動への参加割合が少ない。不参加の理由では、「時間がない」「きっかけがつかめない」など働いている女性たちと同じである。社会活動や地域活動への参加・不参加は仕事をしているか否か、時間があるか否かではなく、やる気の問題や行動力かもしれない。

表Ⅱ-3-18 配偶者の社会参加活動の所属先とリーダー経験の有無 (%)

	所属先の割合	リーダーである	過去にリーダー
趣味やスポーツのクラブ・サークル	41.2	11.4	7
学習・研究会など	13.1	23.5	1.8
職場関係団体・グループ	8.7	1.8	0.9
定年後の職場関係の集まり	2.1	0.1	0.2
PTAや子供会・青少年団体等	16.0	8.2	13
難病・障害者家族会	1.3	0.3	0.3
町内会・自治会	17.9	6.2	8.4
老人クラブなど	3.7	0.7	0.5
消費者団体・NPO	6.0	2.3	1.1
宗教・政治団体	4.1	1.7	0.5
その他	2.2	0.8	0.3
いずれもない	19.3		
回答者数	2372	1599	2372

表Ⅱ-3-19 配偶者の社会参加の有無 (%)

	全体	生きがいあり	生きがい無し
定期的に参加	13.7	18.9	4.7
ときどき参加	11.2	13.4	9.8
以前に参加した	12.2	14.2	11.8
参加していない	44.5	44.0	65.7
回答者数	2372	1558	557

表Ⅱ-3-20 配偶者の社会参加活動の内容と理由 (%)

社会活動の内容(○はいくつでも)		今後、参加したいかどうか	
地域の生活環境を守る活動	30.3	積極的に参加したい	56.1
イベントや村おこし	21.0	条件によっては参加してもよい	10.6
趣味・スポーツなどのグループ・リーダー	23.5	参加するつもりはない	26.8
児童や青少年活動の世話役	16.2	わからない	1.6
文化財や伝統を守る活動	3.6	回答者数	1345
消費者活動や生活向上活動	9.8		
社会福祉活動	25.9		
行政委託の委員や役員など	5.9		
自然保護や環境保全活動	3.7		
国際交流活動	4.1		
その他	7.1		
回答者数	591		
参加理由(○は3つまで)		不参加の理由(○は3つまで)	
地域や社会へ貢献したい	51.1	時間がない	45.0
知識や経験を活かしたい	24.0	経済的余裕がない	6.7
社会への見聞を広げたい	19.1	精神的なゆとりがない	18.7
友人や仲間を増やしたい	28.9	健康や体力に自信がない	21.0
生活にはりあいを持たせたい	23.9	家族などの理解や協力が得られない	1.6
身近な人に誘われた	21.8	自分にあつた活動の場がない	17.0
会社の勧めや命令	1.2	一緒にやる仲間がいない	9.0
社会人として当然	17.4	きっかけがつかめない	27.9
なんとなく	0.7	興味がない	11.0
その他	7.8	その他	5.7
回答者数	591	回答者数	1345

7. 家族との関連—介護

(1) 主たる介護者

シングル女性と既婚女性との間には、生きがいや安らぎの場で異なった点が見られるが、その主たる項目は家庭である。シングル女性では家庭も重要ではあるが、既婚女性ほどではない。そこで、家族の介護という項目に関連してシングル女性と既婚女性、配偶者（女性）との家族関係を見てみたい。（表II-3-21）

表II-3-21 家族と介護

(%)

		シングル女性	既婚女性	配偶者(女性)
自分の親の介護	自分が中心になって介護	48.7	46.8	41.2
	配偶者が中心になって介護	0.7	3.4	4.7
	ホームヘルパーに任せる	10.9	9.5	8.1
	老人ホーム等の施設に任せる	11.7	12.9	11
	その他	13.9	16.8	17.1
配偶者の親の介護	自分が中心になって介護	10.2	30.3	30.7
	配偶者が中心になって介護	6.6	13.2	10.8
	ホームヘルパーに任せる	7.7	9.5	9.1
	老人ホーム等の施設に任せる	8.0	15.4	12.2
	その他	5.5	18.2	16.1
配偶者の介護	自分が中心になって介護	25.5	79.3	69.0
	子ども等が中心になって介護	0.4	0.3	0.4
	ホームヘルパーに任せる	2.9	4.5	4.6
	老人ホーム等の施設に任せる	2.6	6.2	4.3
	夫婦で老人ホーム等の施設に入る	3.3	5.3	6.9
	その他	4.0	2.5	3.3
自分が寝たきりの場合	配偶者が中心になって介護	3.6	34.5	30.8
	子ども等が中心になって介護	-	5.0	5.4
	ホームヘルパーに任せる	15.0	14.0	14.0
	一人で老人ホーム等の施設に入る	63.9	27.2	21.3
	夫婦で老人ホーム等の施設に入る	2.6	14.6	12.1
	その他	5.5	2.2	3.5

「自分の親」が寝たきりになったときに、どう対応するかについては、シングル女性も既婚女性も「自分が中心になって介護する」という場合が多く、約半数である。老人ホームに入れるのは既婚女性がシングル女性を若干上回っており、次いでホームヘルパーとなる。シングル女性の方はホームヘルパーと老人ホームが同じくらいである。（既婚女性の中には「配偶者が中心になる」と回答した人も12人いる。また、シングル女性であるのに「配偶者が中心」に○をつけた人も2人いた。）

「配偶者の親」についてもシングルであるにもかかわらず回答した人がいるが、これは意識や心構えを問う質問であるので、現在シングルの人でも結婚することを想定して、あるいは異性の同居人を想定して回答したと思われる。

配偶者の親についてもまだ自分が中心になって介護する割合が多く、既婚女性で3割以上である。しかし「老人ホーム」(15.4%)と「配偶者が中心」(13.2%)も同じくらいであり、「自分の親のめんどうは自分で見る」ことが増加しつつある。配偶者が寝たきりになった場合は自分が中心に介護する人が約8割である。また、夫婦で老人ホームへ入る率は5.3%とまだまだ少ない。「女性が介護を担う」という意識は女性の間にも根強く残っていると思われる。子供に介護を任せるのはほとんどない。

自分が寝たきりになった場合はどうか。既婚女性では、配偶者に介護してもらいたいと思っている割合は34.5%とかなり高い。夫婦で老人ホームへ入るべきであると考えている割合も配偶者が寝たきりになった場合より多く、14.6%である。それよりも、一人で（夫は先に死んでいるだろうから）老人ホームへ入り、子供にも面倒をかけたくないという意識がある。これを見ても配偶者やまわりに負担をかけたくないという意識や、介護は女性の役割であるという意識が、まだまだ根強く残っている。シングル女性では一人で老人ホームへ入居するという項目が圧倒的に多く、約64%となっている。

配偶者（女性）との比較では、ほぼ既婚女性のパターンを踏襲しているが、自分の親の介護でも配偶者に任せる割合が若干多くなっており、親の介護では「その他」を選択している割合がシングル女性や既婚女性よりも多くなっている。配偶者の介護では既婚女性よりも「夫婦で施設に入る」が若干上回っており、「自分が中心になって介護する」割合は既婚女性より少ない。自分が寝たきりになった

場合も配偶者に介護させる割合は少なく、子供に頼る割合が若干既婚女性より多い。しかし、この項目でも無回答が約13%もあり、全体的に無回答の割合が本人調査（女性）よりも多くなっている。

(2) 介護の負担意識

介護の負担感については、既婚女性もシングル女性も、また配偶者も同じように相反する思いを抱いている。高齢者の介護によって自分の人生を犠牲にしたくないと思う割合は、シングル女性で15.3%、既婚女性で24.6%、配偶者で18.1%であるが、介護しともに生きていくことに喜びを感じる人もシングル女性で22.6%、既婚女性で26.9%、配偶者で27.4%もいる。「介護で自分の人生を犠牲にしたくない」「介護することが自分の生きる喜びや目的になる」という項目で一番多いのはシングル女性、既婚女性、配偶者とも、「どちらともいえない」という選択肢である。介護に関しては、年間約8万人もの女性が仕事を辞めていることを考えると、家族の介護をしたいと思いつつも、あまりのストレスの多さ、犠牲の多さにたじろいでしまうところが真実に近いのではないだろうか。また、ここでも配偶者の無回答の多さが気になるところである。配偶者は、「そうは思わない」という選択肢では、既婚女性とシングル女性の間に入っている。さまざまな介護の手記などから見ると、介護することによって生きる喜びを感じるよりも、「生きる喜び」にしていけないと耐えられないという面が隠されているように思われる。(表II-3-22)

表II-3-22 介護負担の意識について

質問内容	回答	(%)		
		シングル女性	既婚女性	配偶者
介護で犠牲になりたくない	そう思う	15.3	24.6	18.1
	どちらともいえない	56.9	59.7	55.6
	そうは思わない	19.0	14.3	16.0
	無回答	8.8	1.4	10.3
介護し、共に生きることが自分の生きる喜びや目的になる	そう思う	22.6	26.9	27.4
	どちらともいえない	60.9	62.5	53.3
	そうは思わない	8.0	9.5	9.1
	無回答	8.4	1.1	10.2

8. 終わりに

シングル女性と既婚女性の生きがいについて見てきたが、シングル女性の特徴は現実そのものよりも、それ以外に何かを求めている姿であった。全体的に積極性が不足し、仕事や家族（この場合は親兄弟）という現実の生活の場以外に安らぎを求めていると思われる。それは友人や仲間である。友人には異性の友人も含まれると思うが、今回の調査では確認できない。

また、既婚女性については、仕事も家庭も社会活動も活発で、友人との楽しみも確保し、賃金も高く職業、生活ともに満足している姿である。また、介護意識に見られるように、全てを自分が負うのだという自負も強い。健康に注意して、全ての責任を全うしようという意欲が窺われる。それに比べて、シングル女性の生きがいは今一つはつきりしないし、積極性もあまり見られない。未婚の男女とも結婚願望はあるという他の調査からみると、現状には満足しないで、いつまでも結婚を考え、青い鳥を探しながら、年を過ごしてしまうシングル女性の姿は、幸福なのだろうか。今後、シングル女性の意識が加齢に伴ってどう変化していくかを探る必要があると思われる。

配偶者調査では、家庭に生きがいを見出しながらも地域参加で自己実現を図っていく女性の姿が少し見えてきたようであるが、パートなどで働いている人が約24%もいることから、正規の社員として勤めていなくても、仕事をする時間が重要な位置を占めている。本調査では、配偶者の生活時間や自由時間の項目が質問項目に入っていないので、正確な比較は出来ないが、既婚女性と配偶者女性とは家事・養育・介護、仕事、社会活動のウェイトが若干異なるだけで、類似のパターンに当てはめることができるのではないかと考えられる。

シングル女性、既婚女性、配偶者女性のいずれも、友人や仲間を大事にし、ストレスの発散や安らぎを得ている。こうした傾向は、女性が地域・社会活動などにおいてけん引役となりうる可能性を示している。今後は、その友人がどのような友人なのか、明確にしていく必要がある。

(産能短期大学能率科教授 佐藤百合子)

第4章 心理的・内面的側面と生きがい

1. 性格特性の分析

(1) 性格項目の因子分析

問8「性格」に含まれる13項目のうち、全3回の調査に共通する11項目の因子分析(主因子解、プロマックス回転)を、調査時点ごとに行ったところ、いずれにおいても項目4を除く10項目の各5項目ずつが同様の2因子に負荷が高く、この2因子は安定していた。

なお、性格項目として第2回調査および第3回調査では含まれていたが第1回調査には含まれていなかった項目5および項目6は、今回の分析からは除外することとした。除外した項目は、項目5「他人には無い自分なりの価値観を持っている」および項目6「自分には他人に無い優れたところがある」の2項目である。

3調査時点それぞれにおける性格の因子分析において同様の2因子が抽出されることが明らかとなったので、全3回のデータをプールし、項目4を除いて再度因子分析した結果、2因子が抽出された。

第I因子は、「いろいろな人の話や意見をよく聞く」「新しいグループの中に、わりと気軽に入れる」「どんなところでも結構楽しみを見出す」「人との関係やつながりを大切にしている」「上下の立場や関係を尊重する」に共通する因子である。人との関係を大切にするという特徴を有する因子と判断し「対人特性」の因子と呼ぶこととする。この因子に負荷の高かった項目で得点の高い者は、対人特性的に親和的な傾向が強いと考えられる。

第II因子は、「いつも目標に向かってつき進む」「いろいろなことに興味を持ちチャレンジする」「指導者的立場に立とうとする」「一つのことじくりに取り組む」「自分の世界や個性を大切にすること」に共通する因子である。実際の行動特性に関係することから「行動特性」の因子と呼ぶこととする。この因子に負荷の高かった項目で得点の高い者は、積極的・達成的な行動特性傾向が強いと考えられる。

表Ⅱ-4-1-1 性格の因子分析(回転後)

	I	II
(11) いろいろな人の話や意見をよく聞く	0.768	-0.125
(10) 新しいグループの中に、わりと気軽に入れる	0.620	0.053
(13) どんなところでも結構楽しみを見出す	0.549	0.126
(1) 人との関係やつながりを大切にしている	0.536	-0.009
(12) 上下の立場や関係を尊重する	0.501	-0.050
(3) いつも目標に向かってつき進む	-0.021	0.751
(2) 自分の世界や個性を大切にすること	-0.116	0.490
(7) いろいろなことに興味を持ちチャレンジする	0.168	0.486
(8) 一つのことじくりに取り組む	-0.029	0.458
(9) 指導者的立場に立とうとする	0.222	0.359
固有値	3.473	1.204
因子寄与率(%)	28.5	5.4
因子寄与率累積(%)	28.5	33.9

説明率は、第1因子の対人特性因子が28.5%、第2因子の行動特性が5.4%であり、この2因子で33.9%であった。また、両因子の因子間相関は0.656とやや強かった。

(2) 対人特性尺度と行動特性尺度の構成

下位尺度として、第Ⅰ因子に負荷の高かった5項目の素点の合計値を尺度得点とした「対人特性尺度」と第Ⅱ因子に負荷の高かった5項目の素点の合計値を尺度得点とした「行動特性尺度」を構成した。

「対人特性尺度」は、「(1)人との関係やつながりを大切にする」「(10)新しいグループの中に、わりと気軽に入れる」「(11)いろいろな人の話や意見をよく聞く」「(12)上下の立場や関係を尊重する」「(13)どんなところでも結構楽しみを見出す」の5項目の合計得点である。

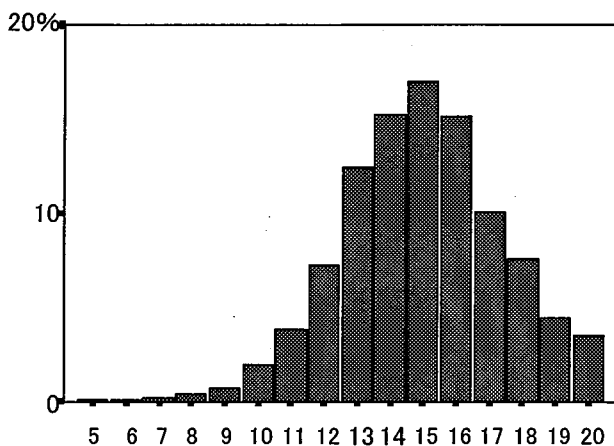
また、「行動特性尺度」は、「(2)自分の世界や個性を大切にする」「(3)いつも目標に向かってつき進む」「(7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする」「(8)一つのことじこにじっくり取り組む」「(9)指導者の立場に立とうとする」の5項目の合計得点である。

なお、調査時には、「よくあてはまる」に1、「すこしあてはまる」に2、「あまりあてはまらない」に3、「まったくあてはまらない」に4と回答してもらったが、分析時には、「よくあてはまる」を4、「すこしあてはまる」を3、「あまりあてはまらない」を2、「まったくあてはまらない」を1としたので、両尺度とも得点の高いほどその傾向が強いことを示している。

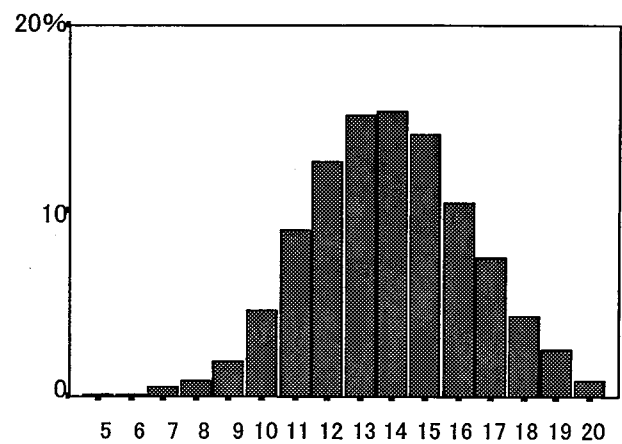
対人特性尺度の平均値は15.0(SD2.5)、尺度の内的整合性の指標であるCronbachの α 係数は0.727であった。また、行動特性尺度の平均値は13.9(SD2.5)、 α は0.665であった。

(3) 性格特性2尺度合成得点による対象者の分類

図Ⅱ-4-1-1 対人尺度の頻度分布



図Ⅱ-4-1-2 行動尺度の頻度分布



対人特性尺度と行動特性尺度の得点によって、対象者をそれぞれの特性の高得点群と低得点群とに分類することとした。

対人特性尺度および行動特性尺度2尺度の分布は、ともにやや高得点よりの正規型になっている。2尺度ともに中央値と最頻値が一致しており、また平均値ともほぼ等しいことから、中央値を除く中央値未満を低群、中央値より大きい値を高群とした。

表Ⅱ-4-1-2 性格特性2尺度の記述統計量

		対人尺度	行動尺度
度数	有効	8821	8730
	欠損値	379	470
平均値		15.0	13.9
中央値		15	14
最頻値		15	14
標準偏差		2.4	2.5
分散		6.0	6.3

すなわち、対人特性尺度においては中央値 15 を除き、16～20 点を対人特性高群、5～14 点を対人特性低群とした。対人特性高群には 3,731 名が含まれ、中央値の得点であった 1,874 名を除く 7,326 名中の 49.1%が含まれ、対人特性低群には 3,731 名、50.9%が含まれた。

表Ⅱ-4-1-3 対人尺度2群の度数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	対人高群	3595	39.1	49.1	49.1
	対人低群	3731	40.6	50.9	100.0
	合計	7326	79.6	100.0	
欠損値		1874	20.4		
合計		9200	100.0		

行動特性尺度でも中央値 14 を除き、15～20 点を行動特性高群、5～13 点を行動特性低群とした。行動特性高群には 3,917 名、47.0%が含まれ、行動特性低群には 3,917 名、53.0%が含まれた。

表Ⅱ-4-1-4 行動尺度2群の度数

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	行動高群	3471	37.7	47.0	47.0
	行動低群	3917	42.6	53.0	100.0
	合計	7388	80.3	100.0	
欠損値		1812	19.7		
合計		9200	100.0		

対人特性尺度と行動特性尺度の高低各 2 群を組合せて対象者を 4 群に分けた。

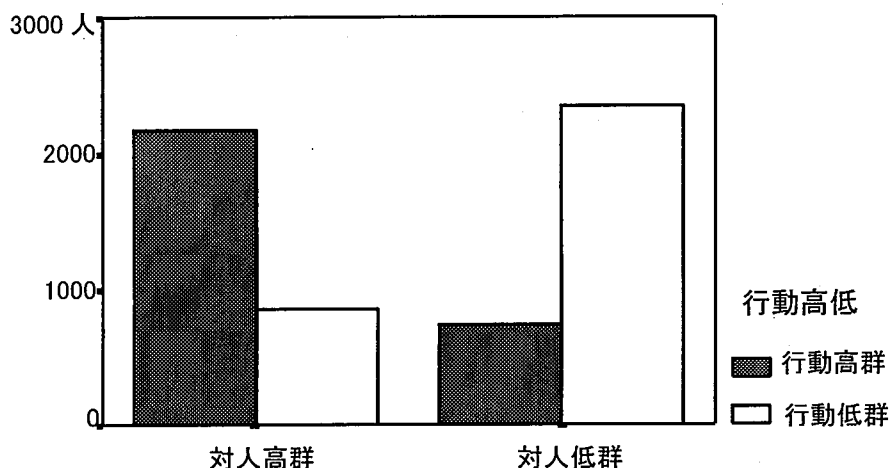
表Ⅱ-4-1-5 対人尺度2群と行動尺度2群のクロス表

			行動高低		合計
			行動高群	行動低群	
対人高低	対人高群	度数	2179	855	3034
		対人高低の%	71.8%	28.2%	100.0%
		行動高低の%	74.5%	26.7%	49.5%
		総和の%	35.5%	13.9%	49.5%
	対人低群	度数	745	2351	3096
		対人高低の%	24.1%	75.9%	100.0%
		行動高低の%	25.5%	73.3%	50.5%
		総和の%	12.2%	38.4%	50.5%
合計		度数	2924	3206	6130
		対人高低の%	47.7%	52.3%	100.0%
		行動高低の%	100.0%	100.0%	100.0%
		総和の%	47.7%	52.3%	100.0%

クロス集計の結果、対人特性高群・行動特性高群を組合せた場合の対象者数は 2,179 名で全体の 35.5%、対人特性高群・行動特性低群は 855 名で全体の 13.9%、対人特性低群・行動特性高群は 745 名で全体の 12.2%、対人特性低群・行動特性低群は 2,351 名で全体の 38.4%となった。なお、各尺度の中央値に当たる対象者と、2 尺度を組み合わせる際の欠損値を除いたので、総計人数は 6,130 名であった。

図を見ると明らかなように、2尺度を作成する際の因子分析において、因子間相関が0.656とやや高かったために、高・高群と低・低群が多く、低・高群の組合せの約3倍となった。

図Ⅱ-4-1-3 性格特性4群の度数分布



(4) 性格特性に基づく対象者の4群に関する多面的分析

上で構成した性格特性4群について、①測定時点別、②性別、③世代別、④現役/OB別、⑤家族構成別、⑥健康度別の頻度を検討した。

①測定時点別

表Ⅱ-4-1-6 実施回と性格特性4群のクロス表

		対人高群・ 行動高群	対人高群・ 行動低群	対人低群・ 行動高群	対人低群・ 行動低群	合計
実施回	1991年 度数	734	266	240	778	2018
	%	36.4%	13.2%	11.9%	38.6%	100.0%
	1996年 度数	754	285	245	732	2016
	%	37.4%	14.1%	12.2%	36.3%	100.0%
	2001年 度数	691	304	260	841	2096
	%	33.0%	14.5%	12.4%	40.1%	100.0%
合計	度数	2179	855	745	2351	6130
	%	35.5%	13.9%	12.2%	38.4%	100.0%

過去3回の調査時点における4群の分布を表に示した。

χ^2 検定の結果、有意な連関は認められなかった ($\chi^2(6)=11.78, n.s.$)。このことから、各測定時点による対象者4群の分布に違いはないと判断し、全3回の調査データをプールして使用することが可能であり、これ以降の分析は全3回のデータを併合して行うこととする。

②性別

表Ⅱ-4-1-7 性別と性格特性4群のクロス表

			対人高群・ 行動高群	対人高群・ 行動低群	対人低群・ 行動高群	対人低群・ 行動低群	合計
性別	男性	度数	1715	590	651	1830	4786
		%	35.8%	12.3%	13.6%	38.2%	100.0%
	女性	度数	431	255	87	479	1252
		%	34.4%	20.4%	6.9%	38.3%	100.0%
合計	度数		2146	845	738	2309	6038
	%		35.5%	14.0%	12.2%	38.2%	100.0%

性別の4群の分布について χ^2 検定を行った結果、有意な連関が認められた($\chi^2(3)=82.33, p<.001$)。対人特性高群・行動特性高群の組合せでは、男性内の割合が35.8%、女性内での割合が34.4%であった。対人特性低群・行動特性高群の組合せでは、男性38.2%、女性38.3%であった。高・高群、低・低群では男女ともに対象者が同程度の割合となっていた。

しかし、男性は対人特性高群・行動特性低群12.3%、対人特性低群・行動特性高群13.6%と対人特性低群・行動特性高群の割合が若干高い。一方、女性は対人特性高群・行動特性低群20.4%、対人特性低群・行動特性高群6.9%と、対人特性高群・行動特性低群の割合が対人特性低群・行動特性高群の約3倍となっており、男性に比べて女性においては、対人特性が高く、行動特性の低い者の比率が高く、その逆の行動特性は高いものの対人特性の低い者が少ないことがわかった。

女性についてのみ婚姻状況にばらつきがあったので未婚・離死別に性格特性4群の分析を行った。傾向としては、配偶者と死別した者の対人特性高・行動特性高群の比率が高く、対人特性低・行動特性高群と対人特性低・行動特性低群の比率が低いことと、未婚の者の対人特性高・行動特性高群の比率の低い傾向が認められたが、 χ^2 検定では婚姻状況と性格特性の間に有意な連関は認められなかった($\chi^2(9)=15.94, n.s.$)。

表Ⅱ-4-1-8 女性の婚姻状況と性格特性尺度4群のクロス表

			対人高群・ 行動高群	対人高群・ 行動低群	対人低群・ 行動高群	対人低群・ 行動低群	合計
婚姻 状況	未婚	度数	123	82	31	162	398
		%	30.9%	20.6%	7.8%	40.7%	100.0%
	既婚(配偶者あり)	度数	229	134	42	248	653
		%	35.1%	20.5%	6.4%	38.0%	100.0%
	既婚(離別)	度数	21	10	8	24	63
		%	33.3%	15.9%	12.7%	38.1%	100.0%
	既婚(死別)	度数	52	23	3	34	112
		%	46.4%	20.5%	2.7%	30.4%	100.0%
合計	度数		425	249	84	468	1226
	%		34.7%	20.3%	6.9%	38.2%	100.0%

女性の未婚者や離婚者は、通常、仕事を持っていると考えられるが、配偶者がある者と死別者は必ずしも仕事を持っているとは限らないので、性格特性と婚姻状況の関連は、有職者のみのデータでは明確にならないものと考えられる。

③世代別

表Ⅱ-4-1-9 世代と性格特性4群のクロス表

			対人高群・ 行動高群	対人高群・ 行動低群	対人低群・ 行動高群	対人低群・ 行動低群	合計
世代	35歳～44歳	度数	417	171	195	565	1348
		%	30.9%	12.7%	14.5%	41.9%	100.0%
	45歳～54歳	度数	431	202	199	626	1458
		%	29.6%	13.9%	13.6%	42.9%	100.0%
	55歳～64歳	度数	621	251	198	648	1718
		%	36.1%	14.6%	11.5%	37.7%	100.0%
	65歳～74歳	度数	646	209	137	452	1444
		%	44.7%	14.5%	9.5%	31.3%	100.0%
合計	度数		2115	833	729	2291	5968
	%		35.4%	14.0%	12.2%	38.4%	100.0%

世代別の4群の分布に対する χ^2 検定の結果、有意な連関が認められた($\chi^2(9)=108.59, p<.001$)。

世代ごとに対象者の割合を見ていくと、世代が上がり年齢が高くなるにつれて、対人特性高群が増加し、対人特性低群が減少していることが明らかであり、行動特性に比べて対人特性に加齢が与える影響の大きいことが示唆される。

また、35歳～44歳、45歳～54歳、55歳～64歳までは対人特性低群・行動特性低群が、対人特性高群・行動特性高群よりも多いが、65歳～74歳の世代では、対人特性高群・行動特性高群が対人特性低群・行動特性低群よりも多くなっていた。

60歳前後で遭遇する定年経験が影響を与えている可能性を次の現役/OB別に分析することで検討する。

④現役/OB別

表Ⅱ-4-1-10 定年経験と性格特性4群のクロス表

			対人高群・ 行動高群	対人高群・ 行動低群	対人低群・ 行動高群	対人低群・ 行動低群	合計
定年経験	現役	度数	1216	503	508	1549	3776
		%	32.2%	13.3%	13.5%	41.0%	100.0%
	OB	度数	913	328	225	762	2228
		%	41.0%	14.7%	10.1%	34.2%	100.0%
合計	度数		2129	831	733	2311	6004
	%		35.5%	13.8%	12.2%	38.5%	100.0%

現役/OB別の分布に対する χ^2 検定の結果、有意な連関が認められた($\chi^2(9)=108.59, p<.001$)。

現役/OB別の対象者の割合を見てみると、現役サラリーマン群では対人特性高群・行動特性高群32.2%、対人特性低群・行動特性低群41.0%であった。サラリーマンOB群では対人特性高群・行動特性高群41.0%、対人特性低群・行動特性低群34.2%と、現役サラリーマンの比率と逆転している。

また、現役サラリーマンの対人特性高群・行動特性低群は13.3%、対人特性低群・行動特性高群は13.5%と同程度の割合であるが、一方、サラリーマンOB群では対人特性高群・行動特性低群14.7%、対人特性低群・行動特性高群10.1%と、対人特性高群・行動特性高群の割合が高くなっている。

こうした現役サラリーマンとサラリーマンOBの違いは、年齢による違いなのか、それとも、例えば、現役サラリーマンは仕事を通じて人とのつながりがあるために、自ら積極的に他者との交流を求めなくても対人特性が低く、また、行動特性尺度で測られる積極性や達成的傾向についても、職場で仕事の役割があるので、自らそうした行動傾向に意識的になる必要ないからなのだろうか。一方、サラリーマンOBは、職場を離れるとサラリーマン時代のような環境は自ら積極的に作り出さなくては得られなくなるし、時間的な余裕もできる。そこで、対人特性的な親和性や、積極的・達成的な行動特性が意識されるという可能性も推察される。

⑤家族構成別

表Ⅱ-4-1-11 家族構成と性格特性4群のクロス表

		対人高群・ 行動高群	対人高群・ 行動低群	対人低群・ 行動高群	対人低群・ 行動低群	合計	
家族 構成	ひとり暮らし	度数 %	156 36.1%	61 14.1%	47 10.9%	168 38.9%	432 100.0%
	自分たち夫婦だけ	度数 %	575 39.2%	185 12.6%	159 10.9%	546 37.3%	1465 100.0%
	自分たち夫婦(または自分)と 未婚の子	度数 %	840 33.9%	323 13.0%	370 14.9%	946 38.2%	2479 100.0%
	自分たち夫婦(自分)と子供夫婦(他に 孫や未婚の子がいる場合を含む)	度数 %	138 43.5%	56 17.7%	25 7.9%	98 30.9%	317 100.0%
	自分たち夫婦(自分)と親(他に子や孫 がいる場合を含む)	度数 %	302 31.2%	158 16.3%	98 10.1%	409 42.3%	967 100.0%
	その他	度数 %	76 33.9%	40 17.9%	21 9.4%	87 38.8%	224 100.0%
	合計	度数 %	2087 35.5%	823 14.0%	720 12.2%	2254 38.3%	5884 100.0%

家族構成別の4群の分布について χ^2 検定を行った結果、有意な連関が認められた ($\chi^2(15)=67.92$, $p<.001$)。

世帯構成は「1.一人暮らし」、「2.自分たち夫婦だけ」、「3.自分たち夫婦(または自分)と未婚の子」、「4.自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦(ほかに孫や未婚の子がいる場合を含む)」、「5.自分たち夫婦(または自分)と親(ほかに子や孫がいる場合を含む)」、「6.その他」の6つの選択肢に回答してもらった。

「1.一人暮らし」、「2.自分たち夫婦だけ」、「3.自分たち夫婦(または自分)と未婚の子」という3群においては、対人特性高群・行動特性高群と対人特性低群・行動特性低群が30%台と高く、対人特性高群・行動特性低群、対人特性低群・行動特性高群が10%台前半と4群の割合がほぼ等しかった。

一方、「4.自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦(ほかに孫や未婚の子がいる場合を含む)」と、「5.自分たち夫婦(または自分)と親(ほかに子や孫がいる場合を含む)」の2群はそれぞれ違った特徴がある。

「4.自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦(ほかに孫や未婚の子がいる場合を含む)」群では、対人特性高群・行動特性高群が43.5%、対人特性高群・行動特性低群が17.7%である。2群を足すと対人特性高群が61.2%と、他の群が50%前半であることと比較すると、対人特性高群の割合が高いことが顕著であった。

また、「5.自分たち夫婦(または自分)と親(ほかに子や孫がいる場合を含む)」群では、対人特性低群・行動特性低群が42.3%、対人特性高群・行動特性高群31.2%と、他の群と比べて対人特性低群・行動特性低群が高く、対人特性高群・行動特性高群が低いこと、またその差が大きいことが分かった。

以上のことから、「4.自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦(ほかに孫や未婚の子がいる場合を含む)」という世帯状況の場合、自分たち夫婦、もしくは自分は祖父母という立場であり、主な世帯収入や家事などを子ども夫婦が責任を持っている場合が想定できる。その場合、時間的な拘束も少なく、比較的自由に生活が送れることになり、自分の生活を楽しむための行動特性が増えることが推察される。

一方で「5.自分たち夫婦(または自分)と親(ほかに子や孫がいる場合を含む)」群のように、自分たちより上の世代の親と同居の場合、経済的援助や介護等、時間の拘束や身体・心理的負荷も大きく、対外的な活動や人との親和を求めるよりも、家庭内のことに拘束されることが多いために、対人特性低群・行動特性低群の対象者が多いことが推察される。

⑥健康度別

表Ⅱ-4-1-12 健康度と性格特性4群のクロス表

			対人高群・ 行動高群	対人高群・ 行動低群	対人低群・ 行動高群	対人低群・ 行動低群	合計
健康度	非常に健康	度数	425	127	92	150	794
		%	53.5%	16.0%	11.6%	18.9%	100.0%
	まあ健康	度数	1083	410	394	1159	3046
		%	35.6%	13.5%	12.9%	38.0%	100.0%
	注意する点はあるが、日 常生活に支障はない	度数	542	261	210	817	1830
		%	29.6%	14.3%	11.5%	44.6%	100.0%
	注意する点があり、日常 生活に制限がある	度数	30	20	23	103	176
		%	17.0%	11.4%	13.1%	58.5%	100.0%
	病気がち・療養中	度数	22	13	9	49	93
		%	23.7%	14.0%	9.7%	52.7%	100.0%
合計		度数	2102	831	728	2278	5939
		%	35.4%	14.0%	12.3%	38.4%	100.0%

健康度別の4群の分布について χ^2 検定を行った結果、有意な連関が認められた($\chi^2(12)=239.20$, $p<.001$)。

現在の健康状態を、「1.非常に健康」、「2.まあ健康」、「3.注意する点はあるが日常生活に支障は無い」、「4.注意する点があり日常生活に制限がある」、「5.病気がち・療養中」の5つの選択肢から回答してもらった。

「5.病気がち・療養中」への回答は顕著にデータ数が少ない(N=93)ことを考慮しなくてはならないが、分布の意味を考慮すると参考になる値であると思われる。

対人特性高群・行動特性高群の割合を、健康度別にみると「1.非常に健康」群53.5%、「2.まあ健康」群35.6%、「3.注意する点はあるが日常生活に支障は無い」群29.6%、「4.注意する点があり日常生活に制限がある」群17.0%、「5.病気がち・療養中」群23.7%と、健康度が高いほど対人特性高群・行動特性高群の割合が増えている。

一方、対人特性低群・行動特性低群については、「1.非常に健康」群18.9%、「2.まあ健康」群38.0%、「3.注意する点はあるが日常生活に支障は無い」群44.6%、「4.注意する点があり日常生活に制限がある」群58.5%、「5.病気がち・療養中」群52.7%と、逆に健康度が低いほど比率が増加している。

また、「1.非常に健康」と答えた群では、対人特性高群が69.5%、対人特性低群が30.5%と7割近い者が対人特性高群に属している。一方で、「4.注意する点があり日常生活に制限がある」と答えた群では、対人特性高群28.4%に対し対人特性低群が71.6%であった。

なお、対人特性高群・行動特性低群、対人特性低群・行動特性高群に関しては、大きな差はみられなかった。

以上より、健康上に注意する点があると、対人特性的にも行動特性的にもその傾向は低下することが推察される。

しかし、健康であるから、対人特性、行動特性の両尺度得点が高くなるというだけでは説明がつかないようである。なぜなら、「2.まあ健康」と答えた群と「1.非常に健康」と答えた群に顕著な差のあることが明らかだからである。「2.まあ健康」と答えた群は、性格特性4群の割合が全体合計に近い割合となっている。しかし、「1.非常に健康」と答えた群では対人特性低群・行動特性低群の比率が極めて低く、対人特性高群・行動特性高群が非常に高い。このことから、「1.非常に健康」と回答した群には、「2.まあ健康」と答えた群との質的な違いが示唆される。

2. 性格特性と生きがい

(1) 生きがいの有無と性格特性

表Ⅱ-4-2-1 生きがいの有無と性格特性4群のクロス表

		対人高群・ 行動高群	対人高群・ 行動低群	対人低群・ 行動高群	対人低群・ 行動低群	合計
生きがい	あり	1942 90.2%	615 72.9%	552 74.6%	1147 49.6%	4256 70.3%
	なし	211 9.8%	229 27.1%	188 25.4%	1166 50.4%	1794 29.7%

生きがいの有無（問9付問）と性格特性との関連性を検討するために、まず、問9付問の「1.持っている」を「あり」、「2.前は持っていたが、今は持っていない」と「3.持っていない」および「4.わからない」を「なし・その他」と変更し、無回答を除いて、性格特性4群について χ^2 検定を行ったところ、有意な連関が認められた($\chi^2(3)=893.53, p<.001$)。

生きがい「あり」の合計の比率70.3%に対して、対人特性高・行動特性高群は90.2%が「あり」と答えているのに対して、対人特性低・行動特性低群で「あり」と回答した者は49.6%と半数を下回っていた。対人特性高・行動特性低群および対人特性低・行動特性高群では、ともに合計%とほぼ同じであった。

対人特性または行動特性のどちらかが高ければ、生きがいの有無の頻度は平均的であるが、両特性ともに高い場合には、極めて高い確率で生きがいのあることが明らかとなった。逆に、両特性ともに低い場合に生きがいがある者は約半数であった。

表Ⅱ-4-2-2 「生きがいの有無」の詳細内容と性格特性4群のクロス表

		対人高群・ 行動高群	対人高群・ 行動低群	対人低群・ 行動高群	対人低群・ 行動低群	合計
生きがい	持っている	1942 90.2%	615 72.9%	552 74.6%	1147 49.6%	4256 70.3%
	前は持っていたが 今は持っていない	63 2.9%	76 9.0%	50 6.8%	273 11.8%	462 7.6%
	持っていない	66 3.0%	67 7.9%	52 7.0%	444 19.1%	629 10.4%
	分からない	82 3.8%	86 10.1%	86 11.6%	449 19.4%	703 11.6%
	合計	2153 35.6%	844 14.0%	740 12.2%	2313 38.2%	6050 100.0%

上では、まず、「なし・その他」をまとめて1つのカテゴリーとして生きがい「あり」について検討したが、ここでは、「なし・その他」の内容を詳細に検討するために、「2.前は持っていたが、今は持っていない」、「3.持っていない」、「4.わからない」に戻して再検討することとした。

「2.前は持っていたが、今は持っていない」、「3.持っていない」、「4.わからない」の3つの選択肢に対する回答率は、いずれも対人特性低・行動特性低群が多く、順に11.6%、18.9%、19.1%となっている。それに対して対人特性高・対人特性高群は、2.9%、3.0%、3.8%といずれも非常に低い比率となっている。対人特性高・行動特性低群は、「2.前は持っていたが、今は持っていない」のみが8.9%と合計の7.5%を上回っていたが、他は合計%よりも低かった。対人特性低・行動特性高群では、「4.わからない」が合計%と同じ11.5%であったが、他はいずれも合計%よりも低かった。

したがって、生きがいを持っていない場合の3つのパターンと性格特性の間には、特に関連性はなく、一貫して対人特性低・行動特性低群の比率が高いということが明らかとなった。

(2) 生きがいの意味と性格特性

表Ⅱ-4-2-3 生きがいの意味と性格特性4群のクロス表(多重回答)

	対人高群・ 行動高群	対人高群・ 行動低群	対人低群・ 行動高群	対人低群・ 行動低群	合計
4群の該当人数	2179	855	745	2351	6130
1 生活の活力やはりあい	632 29.0%	274 32.0%	189 25.3%	724 30.8%	1819 29.7%
2 生活のリズムやメリハリ	188 8.6%	75 8.7%	48 6.4%	245 10.4%	556 9.1%
3 心の安らぎや気晴らし	408 18.7%	231 27.0%	165 22.1%	778 33.1%	1582 25.8%
4 生きる喜びや満足感	927 42.5%	403 47.1%	306 41.1%	1016 43.2%	2652 43.3%
5 人生観や価値観の形成	219 10.0%	61 7.1%	84 11.2%	157 6.7%	521 8.5%
6 生きる目標や目的	408 18.7%	150 17.5%	170 22.8%	479 20.3%	1207 19.7%
7 自分自身の向上	471 21.6%	138 16.1%	162 21.7%	376 16.0%	1147 18.7%
8 自分の可能性の実現や	465 21.3%	117 13.7%	181 24.2%	298 12.7%	1061 17.3%
9 他人や社会の役に	544 24.9%	208 24.3%	141 18.9%	361 15.3%	1254 20.5%
10 その他	7 0.3%	2 0.2%	5 0.7%	15 0.6%	29 0.5%

問9の多重回答(2つまで)による「生きがいの意味」の選択率を、性格特性の4群を比較検討すると、「4.生きる喜びや満足感」が4群すべてにおいて選択率が最も高く、4群の対象者全体(N=6,130)で43.3%、4群いずれにおいても40%台の選択率であった。4群全体の選択率が次に高かった「1.生活の活力やはりあい」の29.7%と比較しても10%以上多い選択率であった。しかし、多重回答であるにもかかわらず最大の選択率でも5割にも満たなかったということは、「生きがいの意味」は個人ごとに多様であることがわかる。

選択順位第1位は性格特性別4群で共通していたが、すでに第2位は異なっている。対人特性低・行動特性低群(N=2,351)だけが、他群では第2位の「1.生活の活力やはりあい」が3位で、「3.心の安らぎや気晴らし」が第2位となっていた。この群では、「1.生活の活力やはりあい」の選択率も30.8%なので、他群と比べてむしろ若干高いほどであったが、「3.心の安らぎや気晴らし」が33.1%とそれ以上の選択率であった。同時に、対人特性高・行動特性低群(N=855)の選択順位も第3位、選択率27.0%だったので、これは、行動特性の低いことと関連していることがわかる。「3.心の安らぎや気晴らし」に対する行動特性の高い残り2群の選択率をみると、対人特性低・行動特性高群(N=745)では選択順位第5位、選択率22.1%、対人特性高・行動特性高群(N=2,179)では第6位、選択率18.7%であった。

対人特性高・行動特性高群の選択順位第3位は、「9.他人や社会の役に立っていると感じること」で24.9%の選択率であった。対人特性高・行動特性低群でも選択順位第4位、24.3%とほぼ同程度の選択率であったことを考えると、この項目は対人特性の高いことと関連していると思われる。対人特性の低い2群では、対人特性低・行動特性低群が選択順位第6位の15.3%、対人特性低・行動特性高群は第7位、18.9%であった。

「8.自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること」の選択順位は、対人特性低・行動特性高群が第3位で選択率24.2%、対人特性高・行動特性高群では第4位で21.3%であった。行動特性の低い対人特性低・行動特性低群では選択順位第7位の選択率12.7%、対人特性高・行動特性低群では第8位で13.7%の選択率であったので、これは、行動特性が高いことと関連のある項目であると思われる。

(3)生きがい対象と性格特性

表Ⅱ-4-2-4 生きがいの対象と性格特性4群のクロス表(多重回答)

	対人高群・ 行動高群	対人高群・ 行動低群	対人低群・ 行動高群	対人低群・ 行動低群	合計
4群の該当人数	1309	432	392	790	2926
1 仕事	599 45.7%	177 40.9%	166 42.3%	269 34.0%	1211 41.4%
2 趣味	676 51.6%	162 37.5%	228 58.2%	349 44.2%	1415 48.4%
3 スポーツ	194 14.8%	53 12.3%	62 15.8%	120 15.2%	429 14.7%
4 学習活動	105 8.0%	14 3.2%	51 13.0%	26 3.3%	196 6.7%
5 社会活動	152 13.4%	38 8.8%	20 5.1%	33 4.2%	243 8.3%
6 自然とのふれあい	234 20.7%	97 22.5%	80 20.4%	165 20.9%	576 19.7%
7 配偶者・結婚生活	304 26.9%	102 23.6%	89 22.7%	191 24.2%	686 23.5%
8 子ども・孫・親などの家族・家庭	673 59.5%	242 56.0%	179 45.7%	415 52.5%	1509 51.6%
9 友人など家族以外の人との交流	243 21.5%	112 26.0%	49 12.5%	117 14.8%	521 17.8%
10 自分自身の健康づくり	260 23.00%	94 21.80%	57 14.50%	154 19.50%	565 19.30%
11 ひとりで気ままに過ごすこと	0.3% 5.20%	0.2% 6.20%	0.7% 8.20%	0.6% 13.80%	0.5% 7.80%
12 自分自身の内面の充実	172 15.20%	53 12.30%	52 13.30%	82 10.30%	359 12.30%
13 その他	11 0.80%	4 0.90%	3 0.80%	4 0.50%	22 0.80%

問9付問で生きがいがあると回答した対象者の考える生きがいの対象(問10)についての多重回答(3つまで)の結果が、性格特性4群間でどのような違いがあるかを検討する。なお、この設問は第2回調査と第3回調査で用いられており、第1回調査の対象者は含まれていない。

対人特性低・行動特性高群(N=392)を除く3群では、いずれも「8.子ども・孫・親などの家族・家庭」の選択順位が第1位で、この3群ではいずれも50%を超える対象者が選択していた。対人特性低・行動特性高群では、この項目の選択順位は第2位であったが、選択率は45.7%であった。

このように「生きがい対象」の選択率の最も高い項目でも4群の平均でも50%台であり、回答がさまざまな項目に分散している。このことは、「生きがい対象」もまた、「生きがいの意味」と同様に個人ごとに多様であることを示す結果だと考えられる。

対人特性低・行動特性高群の選択順位1位の項目は「2.趣味」で58.2%の選択率であった。また、この項目は対人特性高・行動特性高群(N=1,309)では第2位で51.6%の選択率、対人特性低・行動特性低群(N=790)でも第2位、44.2%の選択率であった。しかし、対人特性高・行動特性低群(N=432)では、選択順位は第3位だったが、選択率が37.5%と対人特性低・行動特性高群よりも約20%低かった。趣味の場は、友人関係の獲得と維持に大きな役割を果たすと思われるが、生きがいの対象としての役割は逆に対人特性低・行動特性高群の方が高く、対人特性高・行動特性低群の方が低いことがわかった。両特性の強度のバランスを考えると、趣味も生きがいと呼べるほどになるためには、行動特性の影響の方が強いのかもかもしれない。

「1.仕事」は、対人特性高・行動特性低群で選択順位第2位、他の3群で選択順位第3位となった。

しかし、他の4群の選択率が4割台であるのに対して、対人特性低・行動特性低群のみ3割台と低く、性格の両特性が低い場合には、相対的には仕事は生きがいになりにくいようである。

選択順位第3位までは、各性格特性群で若干変動があるというものの、従来からよく言われてきた「家族」、「趣味」、「仕事」が生きがい対象として選ばれた。

選択順位4位以下は選択率も2割台に落ちてしまうので、個人間の多様性は大きいとはいえ、この上位3項目が「生きがい対象」として共通して選択されることの多い項目であることは今回も確認された。

対人特性高・行動特性低群のみが選択率第5位で、他は第4位だったのが「7.配偶者・結婚生活」でいずれも20%台の選択率であった。

対人特性高・行動特性低群の第4位は「9.友人など家族以外の人との交流」で選択率26.0%、同様に対人特性の高い対人特性高・行動特性高群も選択順位は6位であったが20%を超える選択率を示した。一方、対人特性の低い2群の選択率はいずれも10%台であった。

3. 生活満足度

(1) 生活満足度尺度の記述統計と内的整合性

問4の12項目に対する満足度の素点の合計得点を生活満足度得点とする生活満足度尺度の記述統計と尺度の内的整合性を検討する。

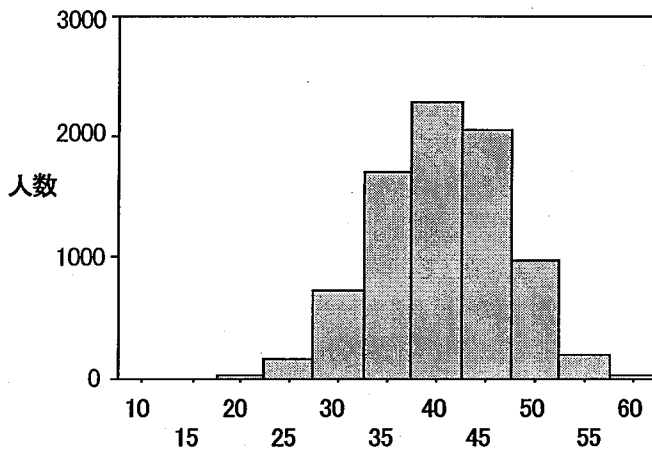
選択肢は「1.十分に満たされている」から「5.まったく欠けている」の双極5件法であったが、高得点ほど満足度が高くなるように得点を変更した。したがって、得点範囲は12~60点である。

中央値と最頻値は同じで41点、平均値は40.5だったのでわずかに低得点寄りではあるが、図を見てわかるように正規型の分布である。

表Ⅱ-4-3-1 生活満足度尺度の記述統計量

度数	有効	8202
	欠損値	998
平均値		40.5
中央値		41.0
最頻値		41.0
標準偏差		6.6
分散		43.9
範囲		48.0
最小値		12.0
最大値		60.0

図Ⅱ-4-3-1 生活満足度得点の頻度分布



内的整合性の信頼性の指標であるCronbachの α 係数は0.812と高く、また、内的整合性を低下させる項目はなかった。

(2)生活満足度の多面的分析

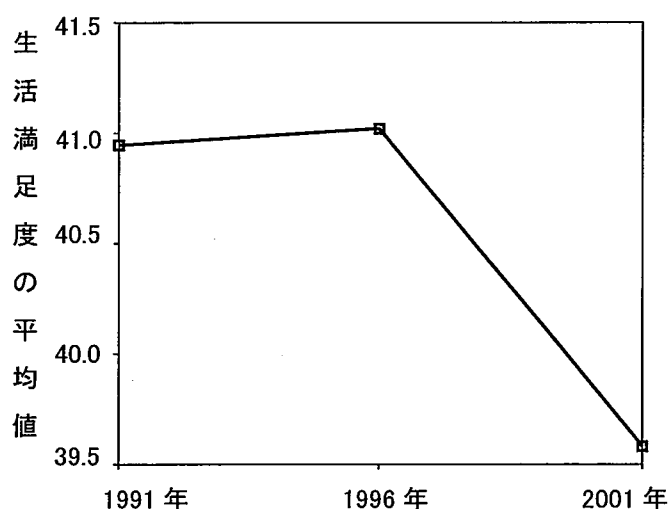
生活満足度得点を従属変数として、①測定時点別、②性別、③世代別、④現役/OB別、⑤生きがいの有無別および⑥性格特性格別の検討をする。

①測定時点別

表Ⅱ-4-3-2 実施回別の生活満足度の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差
1991年	2785	41.0	6.6
1996年	2617	41.0	6.6
2001年	2800	39.6	6.6
合計	8202	40.5	6.6

図Ⅱ-4-3-2 実施回別の生活満足度



測定時点別の生活満足度得点について分散分析を行った結果、3時点間の平均値に有意差があったので($F(2,8199)=41.737, p<.001$)、Scheffeの方法による多重比較を行った結果、1991年調査および1996年調査における生活満足度得点が、2001年調査の得点に比べていずれも0.1%水準で有意に得点が高かった。すなわち、1996年～2001年までの間に調査対象者の間に生活満足度が低下する何らかの要因があることが推定される。

②性別

表Ⅱ-4-3-3 性別による生活満足度の記述統計量

	性別	N	平均値	標準偏差
生活満足	男性	6478	40.8	6.5
	女性	1612	39.5	7.0

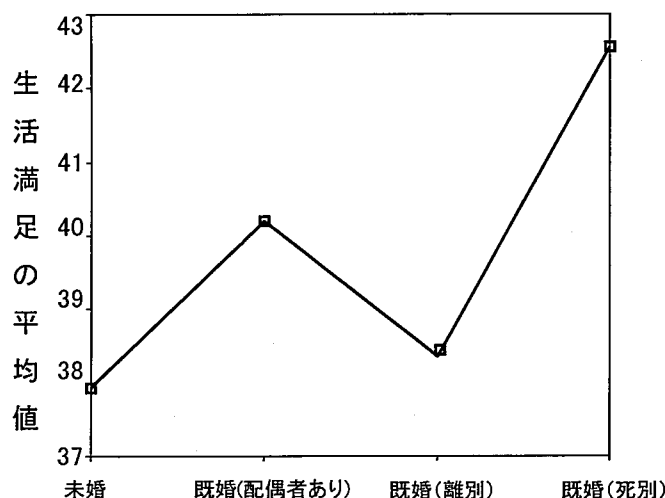
性別による生活満足度得点の差を検討するためにt検定を行った。Leveneの検定によって等分散性を検討したところ有意となったので、等分散を仮定しないt検定を行った。その結果、男性の得点の方が女性に比べて有意に高かった($t(2360.7)=6.595, p<.001$)。

女性の対象者において、婚姻状況が多様だったので婚姻状況別に生活満足度を比較した。

表Ⅱ-4-3-4 女性の婚姻状況別の生活満足度の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差
未婚	527	37.9	6.4
既婚(配偶者あり)	851	40.2	7.0
既婚(離別)	83	38.4	6.8
既婚(死別)	123	42.56	7.4

図Ⅱ-4-3-3 女性の婚姻状況別の生活満足度



未婚、既婚（配偶者あり）、離別、死別の4群間について生活満足度得点を従属変数とする分散分析を行ったところ、群間に有意差が認められた($F(3,1580)=21.279$ 、 $p<.001$)。各群間の比較をするためにScheffeの方法による多重比較をしたところ、死別群は他の3群に比べて0.1%水準で有意に生活満足度が高かった。また、既婚（配偶者あり）群は未婚群に比べて0.1%水準で有意に生活満足度が高かった。既婚（配偶者あり）と離別群および未婚群と離別群の間には有意差は認められなかった。

死別群で生活満足度が高かった理由としては、一つは年齢が他群に比べて高い可能性のあること、あるいは、死の悲しみを乗り越えた後には、配偶者がいたときの家庭維持活動に比べて、死別後の方が時間的にも精神的にもゆとりができ、そのことが有職の女性に対しては生活満足度の高さに現れたということが考えられる。

各群の平均年齢は、未婚群51.6歳($SD=10.5$)、既婚（配偶者あり）53.1歳($SD=10.3$)、既婚（離別）56.7歳($SD=11.2$)、既婚（死別）63.8歳($SD=7.0$)で、分散分析の結果、群間の平均年齢の差は有意であった($F(3,1828)=67.750$ 、 $P<.001$)。Scheffe法による多重比較の結果、未婚群と既婚（配偶者あり）群の間を除く他の群間には有意な差が認められた。したがって、平均年齢の最も高い既婚（死別）群で生活満足度が他の群に比べて高かったことには年齢の効果も含まれる可能性があるが、2番目に平均年齢が有意に高かった既婚（離別）群は、既婚（配偶者あり）群や未婚群と生活満足度に差は認められなかったため、年齢の要因だけでは説明がつかないことも明らかになった。

未婚女性の生活満足度が低いのは、家庭や近隣などとの関係における満足度の低さなどが影響していると予想される。

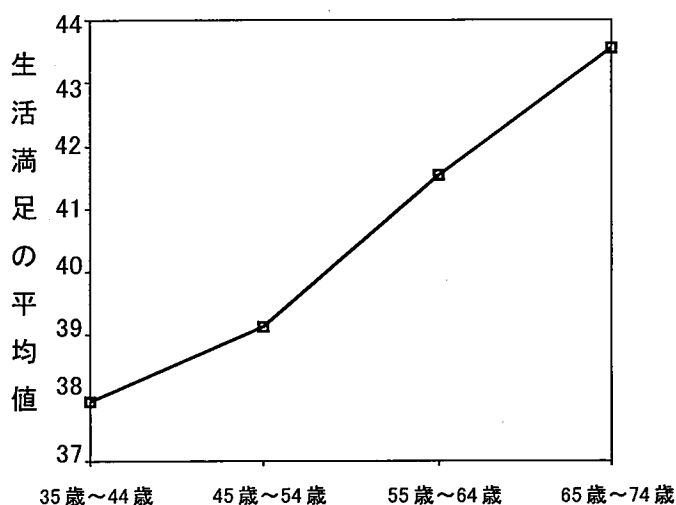
③世代別

表Ⅱ-4-3-5 世代別の生活満足度の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差
35歳～44歳	1909	38.0	6.1
45歳～54歳	2065	39.1	6.2
55歳～64歳	2263	41.5	6.3
65歳～74歳	1752	43.6	6.5
合計	7989	40.5	6.6

世代別の生活満足度得点について分散分析を行ったところ、4群間に有意な差があることがわかった($F(3,7985)=297.121, p<.001$)ので、Sheffeの方法による多重比較を行ったところ、すべての群間で0.1%水準の有意差があり、世代が高くなるほど生活満足度得点が高くなることが明らかとなった。

図Ⅱ-4-3-4 世代別の生活満足度



④現役/OB別

表Ⅱ-4-3-6 定年経験別の生活満足度の記述統計量

	定年経験	N	平均値	標準偏差
生活満足	現役	5273	39.3	6.3
	OB	2742	42.8	6.5

定年経験の有無の生活満足度に対する効果を検討するために、現役サラリーマンとサラリーマンOBの生活満足度得点についても検定を行ったところ、現役に比べてOBの生活満足度得点が有意に高かった($t(8013)=23.687, p<.001$)。

両群の平均年齢は、現役群が48.4歳(SD=8.0)、OB群が65.2歳(SD=4.6)であった。Leveneの検定によって等分散性を検討したところ有意となったので、等分散を仮定しないt検定を行った。その結果、両群の平均年齢に有意な差が認められた($t(8647.799)=123.798, p<.001$)。世代別の生活満足度得点でも年齢が高くなるほど生活満足度は高くなったので、この結果には年齢の効果も含まれると思われる。

⑤生きがいの有無別

表Ⅱ-4-3-7 生きがいの有無別の生活満足度の記述統計量

	定年経験	N	平均値	標準偏差
生活満足	あり	5729	42.2	6.1
	なし	2368	36.4	5.9

問9付問の生きがいの有無の項目について、「1.持っている」を「あり」群、「2.前は持っていたが、今はない」と「3.持っていない」および「4.わからない」を「なし」群として、生活満足度得点を従属変数とするt検定を行った。その結果、生きがいあり群の方が有意に生活満足度の高いことがわかった($t(8095)=39.599, p<.001$)。

生活満足度は、生きがいの指標として用いられることがあるが、通常は、生活上のことに関する質問文に回答する形で行われる。しかし、本調査では問4のような簡便な方法の結果でも生きがいと有意に関連することが明らかになった。

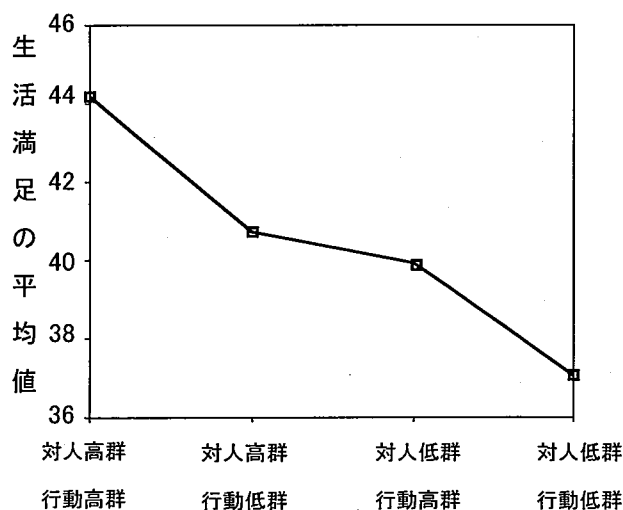
⑥性格特性別

表Ⅱ-4-3-8 性格特性別の生活満足度の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差
対人高群 行動高群	1943	44.2	6.3
対人高群 行動低群	752	40.7	6.1
対人低群 行動高群	684	39.9	6.0
対人低群 行動低群	2155	37.0	6.1
合計	5534	40.4	6.9

性格特性4群間の生活満足度の違いを検討するために分散分析を行った。その結果、有意な差があることがわかったので($F(3,5530)=457.941, p<.001$)、次いで、Scheffeの方法によって群間の差を検討した。

図Ⅱ-4-3-5 性格特性類型別の生活満足度



生活満足度得点は、図のように対人特性高・行動特性高群、対人特性高・行動特性低群、対人特性低・行動特性高群、対人特性低・行動特性低群の順で高くなっている。多重比較の結果、対人、行動の両特性とも高い対人特性高・行動特性高群と逆に両特性とも低い対人特性低・行動特性低群の両群は、すべての群との間で0.1%水準の有意な差があった。

対人特性高・行動特性低群と対人特性低・行動特性高群の間には有意が認められなかったため、どちらの性格特性の方が生活満足度に影響するかは明らかではなかった。

4. まとめ

性格項目の因子分析の結果、全3回の調査において対人特性因子と行動特性因子が安定して得られることが明らかとなった。

この2因子に含まれる各5項目の素点の合計値を尺度値とする2尺度得点の組合せによって、この項目に回答した全3回の対象者全員のうち、得点が中央値であった者と欠損値のある者を除く6130名を、両特性高群、両特性低群、対人特性高—行動特性低群および対人特性低—行動特性高群の4群に分類し、生きがいの有無との関連を検討した。

その結果、両特性高群のうち「生きがいあり」と回答した者が90.2%に達し、それに対して両特性低群で「生きがいあり」と回答した者は49.6%と半数に達しなかった。全体平均が70.3%であったことを考慮すれば、対人特性と行動特性が共に高い者は、明らかに生きがいを得やすい傾向にあるが、両特性が共に低い者は生きがいを得ることが困難であることがわかった。また、両特性のうちどちらか一方が高い2群の「生きがいあり」の比率に違いはほとんどなく、全体平均よりやや高い程度であったので、2特性の違いは明らかではなかった。

以上より、対人的な親和性が低く、他者と協調して何かを為すということが苦手で、また、目的に対して積極的な行動をとり、達成的になることの苦手な者は、生きがいを得ることが困難であることが示唆された。

ここで取り上げた個人の特徴は、それが性格として深く個人に内在するものと考えられるならば、他者がこのこと自体にアプローチすることは困難である。なぜなら、これらは個人的な資質や、長年の経験から生成された性格特性だからである。

これまでの調査から、生きがいの種類として他者との交流によって自分の価値を意識する「対人的生きがい」と自己の目標とするところを追求する「内面的生きがい（または、自己実現的生きがい）」とに分類することが提唱されてきた。しかし、後者の生きがいはその獲得が困難なところから、量的調査では十分に把握できないことが、面接などの質的調査から示唆された。

対人特性が低い者の中には、親和性が低くグループや団体に所属することが苦手なため、内面的生きがいに向かおうとする者が多いのかもしれない。しかし、これはその目標の高いことのために困難なことも多い。また、サラリーマンには、そうした目標を見つけ出すこと自体にも困難があるのかもしれない。

行動特性が低い場合には、趣味のグループやボランティア団体等、生きがいのきっかけ自体にアプローチすることが困難なこともあるであろう。積極性が低いために、生きがいの手掛かりとなる場に入ることすら困難なのである。

以上を鑑みるに、このような特徴を有する人々に対しては、生きがいの場の紹介や提供を含む生活全般を対象にしたカウンセリング機能が有効であろう。自分自身の性格的特徴や地域社会、家族関係、友人関係などに対する自覚を促し、かつ、本人の適性や志向性を明らかにしながら、アドバイスを提供することが必要であろう。行動特性が低いことへの対処として、目標へのアプローチに関する援助も必要になる。

さらに、対人特性と行動特性の低い者の他の特徴として、年代の低い層および健康度が低い者が多い傾向があった。年代の低い層に両特性低群が多い傾向にあったことを考慮すれば、現役サラリーマンとしての生きがいは、仕事や職務に対する自我関与が関連しているので、現役時代からのキャリアカウンセリングの一環として行うことが望ましいと思われる。

また、両特性低群には健康度の低い者が多い傾向にあったので、健康相談も含むカウンセリングが有効であろう。

性格特性4群の生活満足度を比較すると、他の3群に比べて両特性低群は有意に低かった。生活のさまざまな場面において、この群の者は多くの問題を抱えていることが示唆され、それが生きがい獲得の困難さにも影響しているであろう。生きがいは個人的な問題ではあるが、生活満足や生きがい獲得に関わる社会的システムとして、このような特性を有する人々にも有効に機能する援助システムを用意することは必要だと思われる。(明治学院大学文学部助教授 佐藤眞一)

第Ⅲ部 定年退職に向けて必要だと思うこと

はじめに

サラリーマンにとって仕事・会社は生活の中心の一つであり、そのあり方は他の生活面と生きがいに対しても大きな影響を及ぼす。その意味で定年退職は生活全般の面において大きな転換点である。それでは、サラリーマン自身は定年退職についてどのように備えるべきと考えているのであろうか。

問22では、定年に向けてどのようなことが必要だと思うかを回答してもらった。

設問は(1)個人として、定年前にどのようなことが必要だと思うか、(2)企業としては、どのような条件の整備が必要だと思うか、(3)社会としては、どのような条件の整備が必要だと思うか、の3点である。

1. 個人としての対応

個人としての対応については、「定年退職について必要と思うこと」を聞き、さらに「実際に準備したり心がけていること(定年後・退職後の場合は、準備したり心がけていたこと)」を聞いている。したがって以下では、その両方について見ていきたい。

(1)3時点における推移

①個人として定年退職に向けて必要だと思うこと

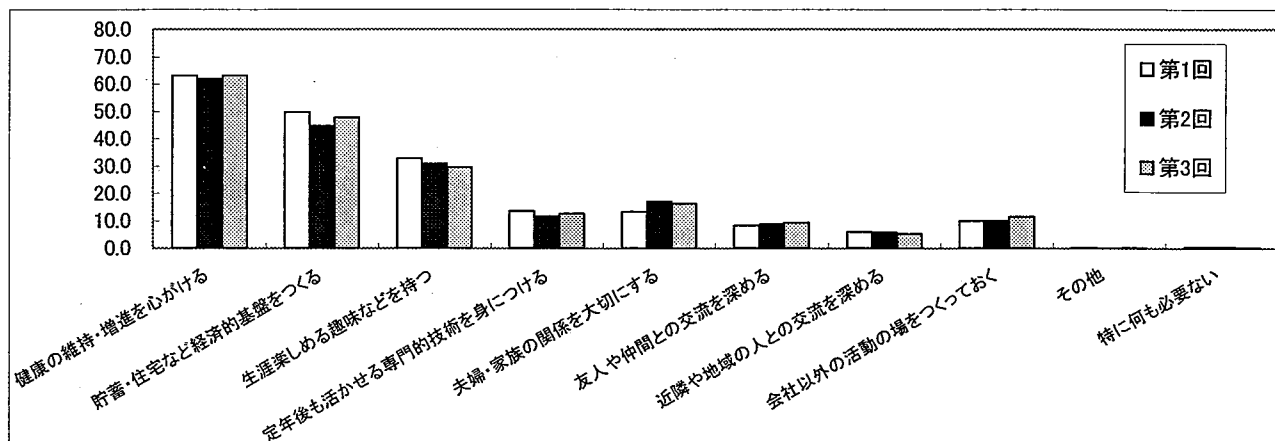
選択肢より2つまで回答してもらった。いずれの時点においても、「健康の維持・増進」「貯蓄・住宅などの経済的基盤」の選択傾向が高く、40～60%台の水準を示す。次に30%前後の「生涯楽しめる趣味を持つ」が来る。その次に「定年後も活かせる専門的技術を身につける」「夫婦・家族の関係」「会社以外の活動の場」が10%台で並び、「友人や仲間との交流」「近隣や地域との交流」は1桁台、「特に必要ない」「その他」は極めて稀である。3回の全体の構造は概ね同じである。

細かく見ると、「経済的基盤」は第2回で下がり、第3回で少し上がっている。「夫婦・家族」は第2回以降上がった。「友人・仲間」は時代とともに少しずつ上がる。

表Ⅲ-1 個人としては、定年退職に向けてどのようなことが必要だと思うか(2つまでの多重回答)(%)

	第1回調査	第2回調査	第3回調査
健康の維持・増進を心がける	63.2	61.9	63.1
貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	49.8	44.6	47.7
生涯楽しめる趣味などを持つ	32.8	30.8	29.6
定年後も活かせる専門的技術を身につける	13.6	11.7	12.7
夫婦・家族の関係を大切にする	13.4	17.1	16.4
友人や仲間との交流を深める	8.4	8.8	9.4
近隣や地域の人との交流を深める	6.0	5.9	5.3
会社以外の活動の場をつくっておく	10.0	10.0	11.5
その他	0.2	0.1	0.2
特に何も必要ない	0.5	0.5	0.2

図Ⅲ-1 個人としては、定年退職に向けてどのようなことが必要だと思うか(2つまでの多重回答)(%)



②実際に定年退職に向けて準備していること(していたこと)

選択肢より該当するものは、いくつでも回答してもらった。

いずれの時点においても、「健康の維持・増進」「貯蓄・住宅などの経済的基盤」の選択傾向が高く、50～60%台の水準を示す。次に、40%前後の「生涯楽しめる趣味を持つ」が来る。その次に「夫婦・家族の関係」「友人や仲間との交流」が30%台で続く。

その次が「定年後も活かせる専門的技術」「近隣や地域との交流」「会社以外の活動の場」であり、10%台で並ぶ。「特に何も必要ない」は少数ながら一定数ある。「その他」は殆どない。全体の構造は3回とも概ね同じである。

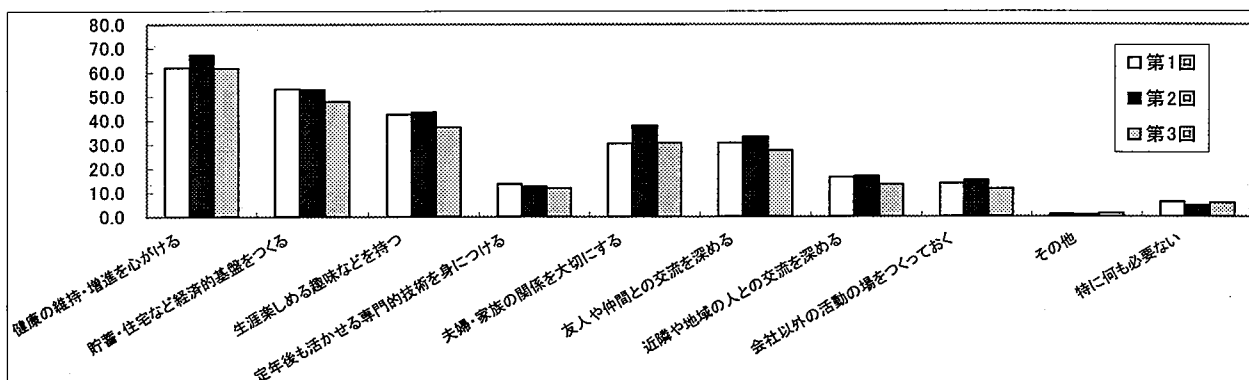
細かく見ると、「健康の維持・増進」「夫婦・家族」は第2回で上がり、第3回で元の水準まで下がる。「友人・仲間」も第2回で少し上げ、第3回で下がった。

「専門的技術」は毎回、少しずつ下がる。「経済的基盤」「趣味」「近隣・地域」「会社以外の場」は第3回で下がる。傾向として第3回で下がっているものが多い。

表Ⅲ-2 実際に定年退職に向けて準備していること(していたこと)(無制限の多重回答) (%)

	第1回調査	第2回調査	第3回調査
健康の維持・増進を心がける	62.0	67.3	61.7
貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	53.1	52.8	47.9
生涯楽しめる趣味などを持つ	42.5	43.5	37.3
定年後も活かせる専門的技術を身につける	13.5	12.6	11.9
夫婦・家族の関係を大切にする	30.4	37.9	30.7
友人や仲間との交流を深める	30.6	33.1	27.4
近隣や地域の人との交流を深める	16.3	16.7	13.3
会社以外の活動の場をつくっておく	13.7	15.0	11.5
その他	0.9	0.8	1.2
特に何も必要ない	6.0	4.5	5.7

図Ⅲ-2 実際に定年退職に向けて準備していること(していたこと)(無制限の多重回答) (%)



③「必要だと思うこと」と「準備していること(していたこと)」の比較

次に両者を比較してみよう。ともに多重回答ながら、「必要だと思う」(以下、必要)は2つまでの選択、「していること(していたこと)」(以下、している)はいくつでも選択できる。従って「している」の方の選択率が高くなるのは当たり前であるが、項目によって選択率の乖離幅が異なる。

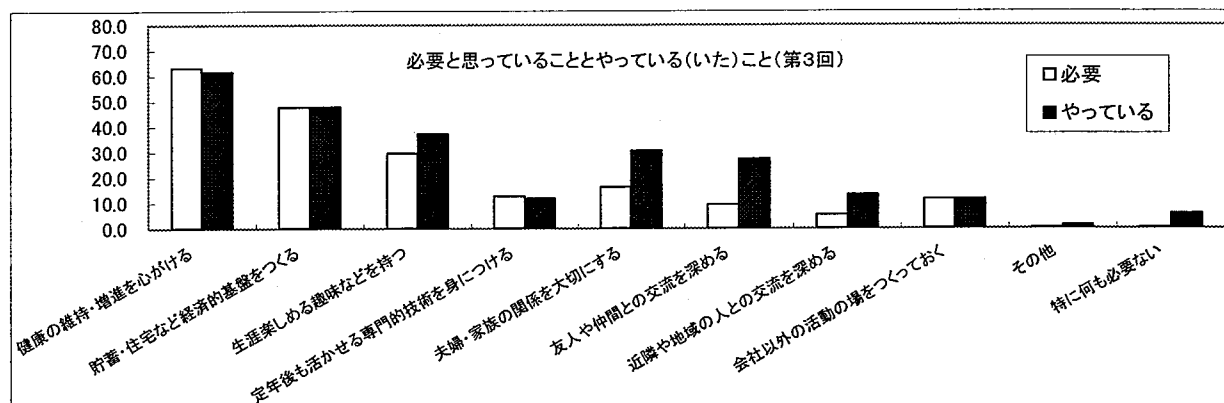
「している」が「必要」を一定程度上回っているのは、「夫婦・家族」「友人・仲間」、次いで「近隣・地域」「趣味」である。また、「特に何も必要ない」と思っている人はほとんどどいないが、特に何も準備していない人は数%のレベルで存在する。

この結果、「必要」と「している」の各々の回答を選択率順に並べると、その順位は異なる。第3回調査に基づき「必要」と「している」の順位を比較してみよう。「専門的技術」「会社以外の活動の場」は、「必要だと思う」場合の順位より「している」場合の順位は下位である。「友人・仲間」「近隣・地域」と順位が逆転している。ちなみに、他の順位は変わらない。

表Ⅲ-3 「必要」と「している」の順位を比較(第3回) (%)

順位	必要		している	
		選択率		選択率
1	健康の維持・増進を心がける	63.1	健康の維持・増進を心がける	61.7
2	貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	47.7	貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	47.9
3	生涯楽しめる趣味などを持つ	29.6	生涯楽しめる趣味などを持つ	37.3
4	夫婦・家族の関係を大切にする	16.4	夫婦・家族の関係を大切にする	30.7
5	定年後も活かせる専門的技術を身につける	12.7	友人や仲間との交流を深める	27.4
6	会社以外の活動の場をつくっておく	11.5	近隣や地域の人との交流を深める	13.3
7	友人や仲間との交流を深める	9.4	定年後も活かせる専門的技術を身につける	11.9
8	近隣や地域の人との交流を深める	5.3	会社以外の活動の場をつくっておく	11.5
9	特に何も必要ない	0.2	特に何も必要ない	5.7
10	その他	0.2	その他	1.2

図Ⅲ-3 「必要」と「している」の順位を比較(第3回) (%)



(2) 性別によるライフステージ推移

次に第3回調査に基づき、性別にライフステージによる推移を見てみたい。男女別に4つのライフステージ別に選択率をまとめると以下のようなになる。

表Ⅲ-4 個人としては、定年退職に向けてどのようなことが必要だと思うか(第3回) (%)

		35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	全体
男性	健康の維持・増進を心がける	57.6	63.7	64.3	68.8	63.8
	貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	62.1	53.9	41.1	40.0	48.2
	生涯楽しめる趣味などを持つ	21.9	24.3	34.6	34.1	29.3
	定年後も活かせる専門的技術を身につける	16.8	12.7	12.9	14.0	13.9
	夫婦・家族の関係を大切にする	20.3	16.5	16.1	19.4	18.0
	友人や仲間との交流を深める	4.3	6.3	9.4	10.4	7.8
	近隣や地域の人との交流を深める	2.7	4.7	6.7	6.4	5.2
	会社以外の活動の場をつくっておく	10.1	14.1	13.5	7.5	11.2
	その他	0.2	0.0	0.3	0.0	0.1
	特に何も必要ない	0.4	0.5	0.2	0.2	0.3
女性	健康の維持・増進を心がける	49.2	64.2	69.9	72.0	63.4
	貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	67.7	55.7	31.6	37.1	47.9
	生涯楽しめる趣味などを持つ	30.2	25.4	39.3	34.3	32.0
	定年後も活かせる専門的技術を身につける	13.2	9.0	11.2	6.9	9.9
	夫婦・家族の関係を大切にする	11.6	10.4	10.7	15.4	12.1
	友人や仲間との交流を深める	10.1	12.4	17.9	18.9	14.6
	近隣や地域の人との交流を深める	3.2	7.5	4.1	9.1	5.9
	会社以外の活動の場をつくっておく	12.7	14.9	14.3	10.3	13.0
	その他	0.0	0.5	0.5	0.0	0.3
	特に何も必要ない	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

表Ⅲ-5 実際に定年退職に向けて準備していること(していたこと)(第3回、無制限の多重回答) (%)

		35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	全体
男性	健康の維持・増進を心がける	45.3	60.5	69.2	69.4	62.1
	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	54.7	50.4	43.4	46.0	48.3
	生涯楽しめる趣味などを持つ	21.3	31.1	42.5	44.6	35.8
	定年後も活かせる専門的技術を身につける	14.1	12.7	12.6	12.6	12.8
	夫婦・家族の関係を大切にする	32.3	29.9	35.7	38.5	34.4
	友人や仲間との交流を深める	12.6	17.4	28.2	36.3	24.5
	近隣や地域の人との交流を深める	4.1	11.5	16.4	19.6	13.5
	会社以外の活動の場をつくっておく	7.7	9.9	15.6	12.3	11.8
	その他	1.4	0.9	1.1	1.1	1.2
	特に何も必要ない	9.5	7.7	3.8	3.7	5.8
女性	健康の維持・増進を心がける	47.6	59.2	74.5	72.6	63.0
	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	52.4	56.2	44.4	42.3	48.6
	生涯楽しめる趣味などを持つ	24.3	43.8	49.5	54.9	42.9
	定年後も活かせる専門的技術を身につける	9.0	11.4	9.2	6.9	9.3
	夫婦・家族の関係を大切にする	18.5	19.4	20.9	25.1	20.9
	友人や仲間との交流を深める	26.5	35.3	40.3	50.3	37.6
	近隣や地域の人との交流を深める	4.2	8.5	18.9	22.3	13.3
	会社以外の活動の場をつくっておく	6.3	10.0	17.9	10.3	11.2
	その他	2.6	0.5	2.0	0.6	1.4
	特に何も必要ない	8.5	7.0	5.6	1.7	5.8

次にそれぞれの選択肢の別に傾向をまとめてみよう。

①健康の維持・増進

「必要」「している」ともライフステージ推移とともに上がる。「必要」は低年齢層では男性が、高年齢層になると女性が高く、女性の中では未婚者が既婚者より高い。一方、「している」については男女差はあまりなく、女性の中では、低年齢層では既婚者、高年齢層では未婚者が高い。

表Ⅲ-6 選択肢「健康の維持・増進を心がける」の性別・年齢層別選択率

○必要だと思う(第3回調査)

(%)

		35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	全体
女性	未婚	51.6	65.4	68.3	80.0	63.1
	既婚	50.0	64.3	69.1	73.7	64.1
男性		57.6	63.7	64.3	68.8	63.8

○している(第3回調査)

(%)

		35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	全体
女性	未婚	44.0	51.9	73.3	82.5	58.4
	既婚	53.8	61.2	74.2	75.0	65.5
男性		45.3	60.5	69.2	69.4	62.1

②経済的基盤

低年齢層においては主要な課題であるが、ライフステージ推移とともに下がる。「必要」が下がるとともに「している」も下がる。55~64歳層以降は比較的フラットに推移する。この段階では経済的地位が確立するということが。男女差は大きくないが、女性では未婚者の35~44歳層で「必要」が非常に高い(第3回70.3%)。また、未婚者についてはライフステージを通じ「している」が平準的に高い。

表Ⅲ-7 選択肢「貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる」の性別・年齢層別選択率

○必要だと思う(第3回調査)

(%)

		35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	全体
女性	未婚	70.3	49.4	36.7	40.0	52.2
	既婚	62.5	60.2	32.0	31.6	46.5
男性		62.1	53.9	41.1	40.0	48.2

○している(第3回調査)

(%)

		35~44歳	45~54歳	55~64歳	65~74歳	全体
女性	未婚	52.7	58.0	51.7	52.5	54.0
	既婚	51.3	52.0	43.3	39.5	45.9
男性		54.7	50.4	43.4	46.0	48.3

③趣味

ライフステージとともに「必要」「している」ともに上がる。女性が男性より高い。女性の中でも未婚者に傾向が強く、特に「必要」はライフステージ全般を通じ 30～40%で平準的に推移する。「している」は低年齢層では未婚者、高年齢層では既婚者に多い。

表Ⅲ-8 選択肢「生涯楽しめる趣味などを持つ」の性別・年齢層別選択率

		○必要だと思う(第3回調査) (%)				
		35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	全体
女性	未婚	36.3	30.9	40.0	35.0	35.4
	既婚	23.8	21.4	36.1	32.9	28.3
男性		21.9	24.3	34.6	34.1	29.3

		○している(第3回調査) (%)				
		35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	全体
女性	未婚	30.8	43.2	46.7	55.0	41.6
	既婚	17.5	40.8	50.5	59.2	42.0
男性		21.3	31.1	42.5	44.6	35.8

④専門的技術

低年齢層で高い。また、男性に傾向が強い。特に男性の場合、65～74歳層においても「必要」「している」ともに水準が下がらない。「必要」について男女とも35～44歳層が一番高い(男性については「している」についても高い)。

⑤夫婦・家庭

「必要」においては男女とも45～64歳層でいったん選択傾向が下がる。「している」ではそれほど下がる。「必要」「している」ともに女性既婚者が男性よりわずかながら選択傾向が強い。

表Ⅲ-9 選択肢「夫婦・家族の関係を大切にする」の性別・年齢層別選択率

		○必要だと思う(第3回調査) (%)				
		35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	全体
女性	未婚	4.4	4.9	1.7	2.5	4.0
	既婚	22.5	17.3	19.6	23.7	20.4
男性		20.3	16.5	16.1	19.4	18.0

		○している(第3回調査) (%)				
		35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	全体
女性	未婚	5.5	3.7	10.0	2.5	5.8
	既婚	33.8	34.7	33.0	39.5	34.7
男性		32.3	29.9	35.7	38.5	34.4

⑥友人・仲間

ライフステージとともに上がる。女性が男性より、また女性の中では未婚者が既婚者より「必要」「している」ともに選択傾向が強い。

表Ⅲ-10 選択肢「友人や仲間との交流を深める」の性別・年齢層別選択率

		○必要だと思う(第3回調査) (%)				
		35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	全体
女性	未婚	11.0	19.8	21.7	20.0	17.5
	既婚	8.8	6.1	13.4	17.1	10.9
男性		4.3	6.3	9.4	10.4	7.8

		○している(第3回調査) (%)				
		35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳	全体
女性	未婚	29.7	44.4	40.0	52.5	39.8
	既婚	20.0	27.6	37.1	51.3	33.6
男性		12.6	17.4	28.2	36.3	24.5

⑦近隣・社会

ライフステージとともに上がる。特に「している」は55～74歳層で高い。傾向は女性が男性より少し強い。女性の中では低年齢層では既婚者、高年齢層で未婚者が強くなる。

⑧会社以外の活動の場

女性に「必要」が比較的多く、その傾向は未婚者に強い。しかし、「している」はあまり変わらない。必要と思う割には実行されていない。

⑨特に何も必要ない

「必要」では殆どないが、「している」では一定数存在する。しかしこれは低年齢層ほど高く、ライフステージ推移に伴い減っていく。

以上の選択傾向をまとめると次のような傾向が見られた。

表Ⅲ－11 個人としては定年退職に向けてどのようなことが必要だと思うか(第3回、2つまでの多重回答)

	選択傾向			
	選択割合	ライフステージ(上がる)	性別	未既婚
健康の維持・増進を心がける	63.1%	上がる	低年齢層では男性、高年齢層では女性が高い	未婚>既婚
貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	47.7%	下がる		未婚>既婚
生涯楽しめる趣味などを持つ	29.6%	上がる		未婚>既婚
定年後も活かせる専門的技術を身につける	12.7%		男性>女性	
夫婦・家族の関係を大切にする	16.4%	45～64歳層が低い	男性>女性	既婚>未婚
友人や仲間との交流を深める	9.4%	上がる	女性>男性	未婚>既婚
近隣や地域の人との交流を深める	5.3%	上がる	女性>男性	低年齢層では既婚、高年齢層では未婚が高い
会社以外の活動の場をつくっておく	11.5%	45～64歳層が高い	女性>男性	未婚>既婚
その他	0.2%			
特に何も必要ない	0.2%			

表Ⅲ－12 実際に定年退職に向けて準備していること(していたこと)(第3回、無制限の多重回答)

	選択傾向			
	選択割合	ライフステージ(上がる)	性別	未既婚
健康の維持・増進を心がける	61.7%	上がる		低年齢層では既婚、高年齢層では未婚が高い
貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	47.9%	下がる		未婚>既婚
生涯楽しめる趣味などを持つ	37.3%	上がる	女性>男性	低年齢層では未婚、高年齢層では既婚が高い
定年後も活かせる専門的技術を身につける	11.9%		男性>女性	未婚>既婚
夫婦・家族の関係を大切にする	30.7%	上がる	男性>女性	既婚>未婚
友人や仲間との交流を深める	27.4%	上がる	女性>男性	未婚>既婚
近隣や地域の人との交流を深める	13.3%	55～74歳層が高い	女性>男性(少し高い)	既婚>未婚(少し高い)
会社以外の活動の場をつくっておく	11.5%	55～64歳層が高い		
その他	1.2%			
特に何も必要ない	5.7%	下がる		未婚>既婚

(3) 現役とOBの比較

第3回調査に基づき検証してみたい。

「していること(していたこと)」については、現役の場合は「していること」、OBの場合は定年前、退職前に「していたこと」である。

「必要だと思うこと」では、「経済的基盤」(現役52.8%、OB40.1%)、「趣味」(現役26.6%、OB34.4%)に比較的大きな差が認められた。

「していること(していたこと)」では、「健康の維持・増進」(現役58.4%、OB67.0%)、「経済的基盤」(現役50.1%、OB44.8%)、「趣味」(現役31.9%、OB45.6%)、「友人・仲間」(現役21.4%、OB36.6%)、「近隣・地域」(現役9.1%、OB19.8%)に差が認められる。

「経済的基盤」は現役に選択傾向が強い。一方、OBに強いのが「健康の維持・増進」「趣味」「友人・仲間」「近隣・地域」である。

「健康の維持・増進」は定年というよりは、加齢に伴う老化を要因とするものであろう。また、「友人・仲間」は女性未婚者に選択傾向が強かったが、これも加齢とともに親等の家族との関係が希薄になることが大きいと考えられ定年効果よりもライフステージ効果が強いのではないか。

他のものも、一面において定年退職を意識して変化するという面は否めないが、ライフステージの推移に伴う変化と符合する。例えば、「経済的基盤」は低年齢層で強く、ライフステージの推移とともに下がる。「趣味」「近隣・地域」はライフステージ推移とともに徐々に上がる。この傾向による差が現役、OBの差として表れているようである。

これらは、定年により一朝に変わるものではなく、ライフステージ推移に伴ない徐々に変わっていくものと考えられる。

表Ⅲ-13 個人としては、定年退職に向けてどのようなことが必要だと思うか(第3回調査) (%)

	現役	OB
健康の維持・増進を心がける	62.9	63.6
貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	52.8	40.1
生涯楽しめる趣味などを持つ	26.6	34.4
定年後も活かせる専門的技術を身につける	12.8	12.8
夫婦・家族の関係を大切にす	15.8	17.5
友人や仲間との交流を深める	8.1	11.4
近隣や地域の人との交流を深める	4.3	7.0
会社以外の活動の場をつくっておく	12.7	9.9
その他	0.3	0.0
特に何も必要ない	0.3	0.1

表Ⅲ-14 実際に定年退職に向けて準備していること(していたこと)(第3回調査) (%)

	現役	OB
健康の維持・増進を心がける	58.4	67.0
貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	50.1	44.8
生涯楽しめる趣味などを持つ	31.9	45.6
定年後も活かせる専門的技術を身につける	12.2	11.4
夫婦・家族の関係を大切にす	28.6	34.0
友人や仲間との交流を深める	21.4	36.6
近隣や地域の人との交流を深める	9.1	19.8
会社以外の活動の場をつくっておく	10.2	13.4
その他	1.2	1.2
特に何も必要ない	7.1	3.7

2. 企業としての対応

(1) 3時点における推移

選択肢より2つまで回答してもらった。

いずれの時点においても、「企業年金などの経済的基盤充実」が圧倒的に多く40～50%台を占める。次に、30%前後の「再就職の場の用意」が来る。その次が、「定年年齢の延長」「退職準備教育・相談の充実」で20%台。

以下、「中高年者の能力再開発」「労働時間短縮」が10%台、「社会活動・余暇活動奨励支援」「定年前のならし運転のための休暇制度」「特に何も必要ない」が1桁台で続く。「その他」は極めて少ない。全体の構造は3回とも概ね同じである。

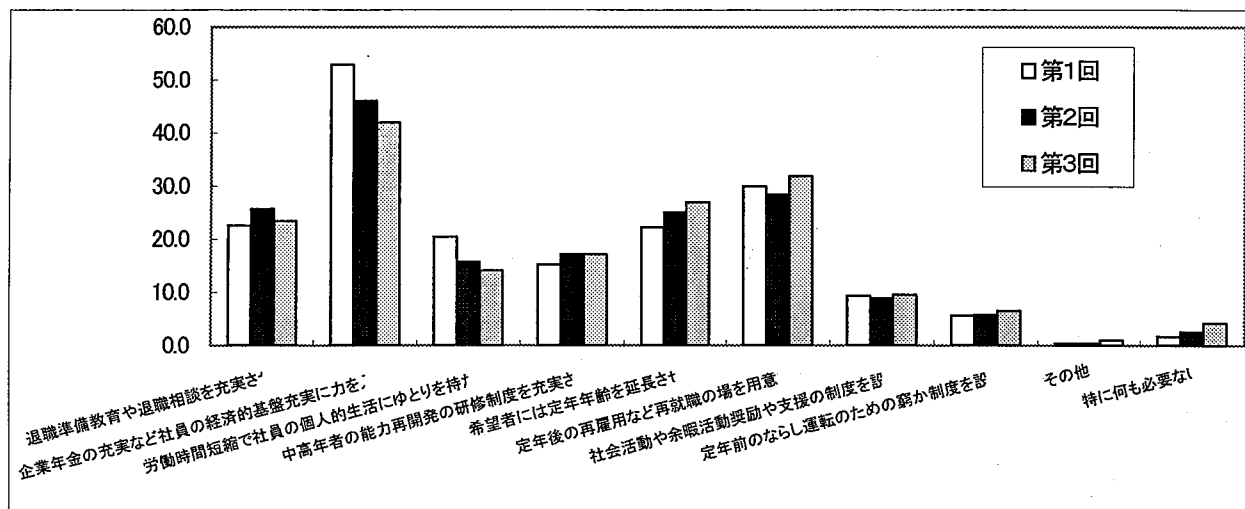
細かく見ると、「経済的基盤充実」は第2回で大きく下がり、第3回でもなお下がっている。「労働時間短縮」も2回目以降下がっている。逆に2回目以降上がっているのが「定年年齢の延長」「中高年者の能力再開発」である。いずれも第2回が一つの転換点になっているようだ。

「社会活動・余暇活動奨励支援」「定年前のならし運転のための休暇制度」は横ばい、「特に何も必要ない」は低水準ながら時代とともに着実に上がっている。

表Ⅲ-15 企業としては、どのような条件の整備が必要だと思うか(2つまでの多重回答) (%)

	第1回 調査	第2回 調査	第3回 調査
退職準備教育や退職相談を充実させる	22.5	25.7	23.4
企業年金の充実や持家取得の援助など社員の経済的基盤充実に力を入れる	53.0	46.1	42.0
労働時間短縮などで社員の個人的生活にゆとりを持たせる	20.4	15.7	14.0
中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	15.2	17.2	17.2
希望者には定年年齢を延長させる	22.3	25.0	26.9
定年後の再雇用など再就職の場を用意する	29.9	28.4	31.8
ボランティア休暇など社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	9.3	8.9	9.5
定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	5.6	5.8	6.5
その他	0.4	0.4	0.9
特に何も必要ない	1.7	2.6	4.2

図Ⅲ-4 企業としては、どのような条件の整備が必要だと思うか(2つまでの多重回答) (%)



(2) 性別によるライフステージ推移

次に第3回調査に基づき、性別にライフステージによる推移を見てみよう。男性と女性で傾向の違いが認められる。

表Ⅲ-16 企業としては、どのような条件の整備が必要だと思うか(第3回、2つまでの多重回答) (%)

		35～ 44 歳	45～ 54 歳	55～ 64 歳	65～ 74 歳	全体
男 性	退職準備教育や退職相談を充実させる	24.0	23.7	21.5	27.1	24.0
	企業年金の充実や持家取得の援助など社員の経済的基盤充実に力を入れる	45.5	40.5	39.5	49.8	43.6
	労働時間短縮などで社員の個人的生活にゆとりを持たせる	22.4	15.8	11.7	6.4	13.4
	中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	14.5	17.9	17.9	18.3	17.4
	希望者には定年年齢を延長させる	19.5	23.5	29.6	33.3	26.9
	定年後の再雇用など再就職の場を用意する	28.8	32.3	41.3	32.8	34.1
	ボランティア休暇など社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	7.2	9.6	10.9	7.6	8.9
	定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	7.0	10.6	7.0	3.7	7.0
	その他	1.2	0.7	1.2	0.5	0.9
特に何も必要ない	5.2	4.5	2.7	3.5	3.9	
女 性	退職準備教育や退職相談を充実させる	24.3	23.4	24.5	16.0	22.4
	企業年金の充実や持家取得の援助など社員の経済的基盤充実に力を入れる	45.0	39.3	29.1	43.4	38.9
	労働時間短縮などで社員の個人的生活にゆとりを持たせる	17.5	21.9	17.3	10.3	16.8
	中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	18.0	14.4	17.3	19.4	17.0
	希望者には定年年齢を延長させる	20.1	22.9	35.2	34.9	27.8
	定年後の再雇用など再就職の場を用意する	28.6	25.4	23.0	29.1	26.4
	ボランティア休暇など社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	15.3	14.4	8.2	9.1	11.6
	定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	5.3	6.5	7.1	2.9	5.5
	その他	1.6	0.0	2.0	0.6	1.0
特に何も必要ない	1.6	5.0	8.2	5.1	4.9	

それぞれの選択肢別に傾向をまとめると以下の通りである。

①退職準備教育・相談の充実

ライフステージ推移とともに平準的に推移する。ただし、男性は65～74歳層で上がる。この年齢層の女性は逆に下がる。選択傾向は男性がやや強い。

②企業年金など経済的基盤充実

ライフステージ推移とともに下がる。ただし、男女とも65～74歳層で上がる。特に女性未婚者にこの傾向が強い。男性が女性より選択傾向が強く、女性の中では、未婚者が既婚者より強い。

③労働時間短縮で個人的生活にゆとりを持たせる

ライフステージ推移とともに下がる。ただし、女性は45～54歳層がピークでその後、下がる。男性よりは女性、女性の中でも既婚者に選択傾向が強い。家庭生活の必要によるためか。

④中高年者の能力再開発の研修制度の充実

男性はライフステージ推移とともに上がる。女性は横ばい。女性の中では、未婚者の選択傾向が平準的に強い。また、既婚者の45～54歳層が低い。

⑤定年年齢の延長

ライフステージ推移とともに下がる。ただし、女性は45～54歳層がピークでその後、下がる。女性既婚者に選択傾向が強い。

⑥定年後の再雇用

ライフステージ推移とともに男性は上がり、女性は下がる。ただし、65～74 歳層において男性は下がり、女性は上がる。選択傾向は男性に強い。

⑦社会活動・余暇活動奨励や支援制度

ライフステージ推移とともに男性は上がり、女性は下がる。ただし、65～74 歳層において男性は下がり、女性は上がる。女性の中では未婚者にこの傾向が強い。既婚者は下がり調子である。選択傾向は女性が強く、中でも未婚者に強い。

⑧定年前のならし運転のための休暇制度

男性は 45～54 歳層、女性は 55～64 歳層がピーク。女性より男性、未婚者より既婚者に選択傾向が強い。

⑨特に何も必要ない

男性はライフステージ推移とともに下がるのに対し、女性は上がる。既婚者では 55～64 歳層、未婚者では 65～74 歳層がピーク。女性に選択傾向が強い。

以上の選択傾向をまとめると次のような傾向が認められた。

表Ⅲ-17 企業としては、どのような条件の整備が必要だと思うか(第3回、2つまでの多重回答)

	選択傾向			
	選択割合(%)	ライフステージ(上がると)	性別	未婚
退職準備教育や退職相談を充実させる	23.4	平準的	男性>女性(少し高い)	
企業年金の充実や持家取得の援助など社員の経済的基盤充実に力を入れる	42.0	下がる	女性>男性	未婚>既婚
労働時間短縮などで社員の個人的生活にゆとりを持たせる	14.0	下がる	女性>男性	既婚>未婚
中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	17.2	男性は上がる 女性は横ばい		未婚>既婚
希望者には定年年齢を延長させる	26.9	上がる		既婚>未婚
定年後の再雇用など再就職の場を用意する	31.8	男性は上がり、 女性は下がる	男性>女性	
ボランティア休暇など社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	9.5	男性は上がり、 女性は下がる	女性>男性	未婚>既婚
定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	6.5		男性>女性	既婚>未婚
その他	0.9			
特に何も必要ない	4.2	男性は下がり、 女性は上がる	女性>男性	

(3)現役とOBの比較

第3回調査に基づき、現役とOBで傾向に比較的大きな差があるものを見てみよう。現役に多いのが「労働時間短縮など」(現役17.4%、OB8.9%)、OBに多いのが「定年年齢の延長」(現役23.1%、OB32.1%)、「企業年金など経済的基盤の充実」(現役40.0%、OB45.3%)である。

ライフステージ推移との関係と重ねてみると、「労働時間短縮など」は、男性35～44歳層の選択傾向が高く、女性は既婚者35～44歳層、未婚者45～64歳層が高い。現役、OBの差というよりは当該ライフステージにおける家庭生活等の影響に基づく差であるようである。

「定年年齢の延長」は男女とも、55～64歳層で大きく伸びている。これについては、定年を目前にして、あるいは定年を経験したことが影響を与えているようである。

「企業年金など経済的基盤の充実」は男女とも、ライフステージとともに下がる傾向であるが、65～74歳層の選択傾向が急に高くなる。職業生活からの引退、年金生活に入ったことが影響しているようである。

これらの他にも、65～74歳層で、ライフステージのトレンドと違う動きをする現象が散見される(定年後の再雇用、退職準備教育・相談等)。企業対応に関しては、定年を境にした現役とOBの意識・態度の差がより顕著に現れるようだ。

表Ⅲ-18 企業としては、どのような条件の整備が必要だと思うか(第3回、2つまでの多重回答) (%)

	現役	OB
退職準備教育や退職相談を充実させる	23.7	23.1
企業年金の充実や持家取得の援助など社員の経済的基盤充実に力を入れる	40.0	45.3
労働時間短縮などで社員の個人的生活にゆとりを持たせる	17.4	8.9
中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	17.1	17.4
希望者には定年年齢を延長させる	23.1	32.8
定年後の再雇用など再就職の場を用意する	30.5	33.9
ボランティア休暇など社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	9.6	9.4
定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	7.9	4.5
その他	0.9	0.9
特に何も必要ない	4.7	3.3

3. 社会としての対応

(1)3時点における推移

選択肢より2つまで回答してもらった。

3時点とも、第1～7位までの順位に変動はない。

いずれの時点においても、「希望する年齢まで働ける雇用環境」「定年退職者の能力を活かす場」が圧倒的に多く40～50%台を占める。3位は25%前後を占める「趣味・学習や社会活動のための機会や情報提供」である。前述の企業対応では「社会活動・余暇活動奨励や支援」は1桁台であったが、決して無関心なわけではないようである。

次に、「中高年者の能力再開発の研修機会や施設」「退職後の生活をよくするための研究・提案」

「サラリーマンOBが出入りできる交流の場」が10～20%台で続く。

「特に何も必要ない」「その他」はごく僅かである。全体の構造は3回とも概ね同じである。

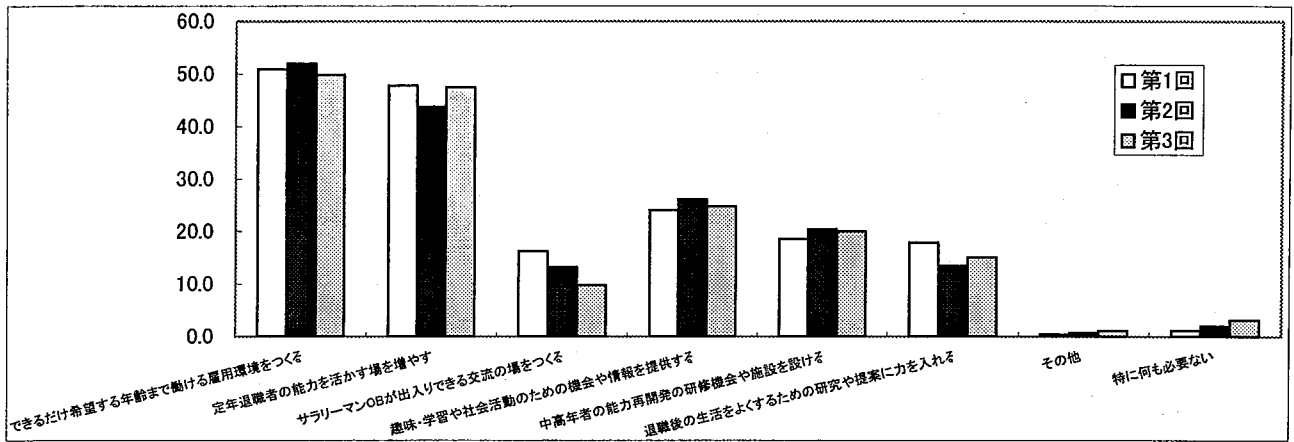
細かく見ると、「サラリーマンOBが出入りできる交流の場」が時代とともに大きく下がっている点が目立つ。

「特に何も必要ない」は少数ながら着実に増えている。前述の企業対応と同じ傾向である。個人的対応では、この選択肢を選ぶ人がほとんどいなかったことを考え合わせると興味深い。

表Ⅲ-19 社会としては、どのような条件の整備が必要だと思うか(2つまでの多重回答) (%)

	第1回調査	第2回調査	第3回調査
できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	50.9	52.0	49.9
定年退職者の能力を活かす場を増やす	47.8	43.8	47.5
サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の場をつくる	16.3	13.3	9.8
趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	24.1	26.2	24.8
中高年の能力再開発の研修機会や施設を設ける	18.6	20.5	20.0
退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる	17.9	13.5	15.1
その他	0.4	0.7	1.1
特に何も必要ない	1.1	2.0	3.1

図Ⅲ-5 社会としては、どのような条件の整備が必要だと思うか(2つまでの多重回答) (%)



(2) 性別によるライフステージ推移

次に第3回調査に基づき、性別にライフステージによる推移を見てみよう。

表Ⅲ-20 社会としては、どのような条件の整備が必要だと思うか(第3回、2つまでの多重回答) (%)

		35~ 44歳	45~ 54歳	55~ 64歳	65~ 74歳	全体
男 性	できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	45.1	44.2	55.5	60.8	51.9
	定年退職者の能力を活かす場を増やす	46.4	46.6	48.6	50.6	48.1
	サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の場をつくる	8.1	7.8	9.1	13.5	9.7
	趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	25.7	26.1	24.9	21.7	24.4
	中高年の能力再開発の研修機会や施設を設ける	18.8	23.7	21.4	19.6	21.0
	退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる	17.6	16.9	16.4	12.6	15.6
	その他	2.5	1.4	0.9	0.3	1.2
	特に何も必要ない	3.9	4.3	1.7	1.8	2.8
女 性	できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	43.4	38.8	48.5	53.7	45.9
	定年退職者の能力を活かす場を増やす	52.4	51.2	45.9	41.7	47.9
	サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の場をつくる	4.8	8.5	9.7	20.0	10.6
	趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	28.0	31.3	27.6	22.3	27.2
	中高年の能力再開発の研修機会や施設を設ける	18.0	17.4	19.4	16.6	17.7
	退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる	15.3	17.9	13.3	9.7	14.2
	その他	2.6	0.5	0.5	0.0	0.9
	特に何も必要ない	2.6	1.5	5.6	5.7	3.7

それぞれの選択肢別に傾向をまとめると以下の通りである。

①希望する年齢まで働ける雇用環境

ライフステージとともに上がる。特に55~64歳層以降で大きく上がる。男性に選択傾向が強く、女性では既婚者に選択傾向が強い。

②定年退職者の能力を活かす場

ライフステージを通じ男性は55～64歳層以降で上がる。女性は低年齢層に選択傾向が強く、このステージでは男性を大きく上回る。しかし、55～64歳層以降下がっていく。このステージでは男性の選択傾向の方が高くなる。

③サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の場

ライフステージとともに上がり、65～74歳層が特に高い。女性未婚者に選択傾向が強い。

④趣味・学習や社会活動のための機会や情報提供

ライフステージを通じ平準的に推移するが、男女とも45～54歳層が高い。また、65～74歳層では一般に下がるが女性未婚者はピークを維持する。

⑤中高年者の能力再開発の研修機会や施設

ライフステージを通じ平準的に推移する。男女とも65～74歳層で低くなるが、女性未婚者ではあまり下がらない。男性に選択傾向が強く、女性では未婚者が強い。

⑥退職後の生活をよりよくするための研究・提案

ライフステージを通じ平準的に推移し65～74歳層で下がる。男性にやや選択傾向が強い。女性の中では既婚者がやや強い。

⑦その他

男女とも低年齢層に偏り、ライフステージの推移とともに下がり高年齢層ではほとんどなくなる。女性未婚者の選択傾向が比較的強い。

⑧特に何も無い

男性は低年齢層、女性は高年齢層に偏る。女性既婚者では35～44歳も比較的多い。女性に選択傾向が強く、未婚者より既婚者に強い。

以上の選択傾向をまとめると次のような傾向が認められた。

表Ⅲ-21 社会としては、どのような条件の整備が必要だと思うか(第3回、2つまでの多重回答)

	選択傾向			
	選択割合 (%)	ライフステージ (上がると)	性別	未既婚
できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	49.9	上がる	男性>女性	既婚>未婚
定年退職者の能力を活かす場を増やす	47.5	男性は上がる、 女性は下がる		
サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の場をつくる	9.8	上がる		未婚>既婚
趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	24.8	平準的	女性>男性	
中高年の能力再開発の研修機会や施設を設ける	20.0	平準的	男性>女性	未婚>既婚
退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる	15.1	下がる	男性>女性 (少し高い)	既婚>未婚 (少し高い)
その他	1.1	下がる		未婚>既婚
特に何も必要ない	3.1	男性は下がる、 女性は上がる	女性>男性	既婚>未婚

(3) 現役とOBの比較

第3回調査に基づき、現役とOBで傾向に比較的差があるものを見てみたい。

現役が多いのが「趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する」(現役 26.8%、OB 21.9%)、OBが多いのが「希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる」(現役 46.3%、OB 55.6%)、「OBが気軽に出入りできる交流の場をつくる」(現役 7.9%、OB 12.8%)、である。

ライフステージ推移との関係と重ねると、「趣味・学習や社会活動のための機会・情報提供」は男女とも45～54歳層で高く、個人的対応で趣味を「している」が男女ともこの年齢層から上がることに符合する。その一方で、65～74歳で選択傾向が落ち、実際に引退して見るとそれ程必要ではなかったということか。

「希望する年齢まで働ける雇用環境」は男女とも55～64歳層で大きく伸びていた。これについては、定年を目前にして、あるいは定年を経験したことが影響を与えているようである。その点、企業対応の女性の「定年年齢の延長」、男性の「定年後の再雇用」の動きと符合する。

「OBが気軽に出入りできる交流の場」は男女とも、65～74歳層の選択傾向が大きかった。職業生活からの引退が影響しているようである。

「希望する年齢まで働ける雇用環境」「OBが気軽に出入りできる交流の場」などの就業生活あるいは、その引退と直接関わる部分については、定年の経験、職業生活からの引退が選択傾向に直接影響を与えている点があるようである。

表Ⅲ-22 企業としては、どのような条件の整備が必要だと思うか(第3回、2つまでの多重回答) (%)

	現役	OB
できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	46.3	55.6
定年退職者の能力を活かす場を増やす	46.8	48.9
サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の場をつくる	7.9	12.8
趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	26.8	21.9
中高年の能力再開の研修機会や施設を設ける	20.5	19.5
退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる	16.1	13.6
その他	1.5	0.5
特に何も必要ない	3.6	2.3

4. まとめ

定年退職に向けて必要と思っていることを、個人、企業、社会のそれぞれについて分析したが、ここではまとめとして横断的にそのニーズを整理してみたい。そうすることで個々のニーズを自助努力で解決しようとしているのか、企業に期待しているのか、社会システムに求めているのか、あるいはその複合でかの色分けができ、対応を考えるうえでも一助となろう。

また、それぞれの分析のなかで男女の差など、属性による傾向の違いが散見されたが、これについても横断的につながりを見てみたい。より木目細かい対応への示唆を与えるものとなるかもしれない。

また、現役、OBの差についても横断的に整理してみたい。定年前後あるいは職業生活の引退が意識・態度にどう投影するかは、定年・退職を考える上で重要な要素となるであろう。このような観点から見ていきたい。

(1)個人としての対応、企業としての対応、社会としての対応

個人、企業、社会のそれぞれにつき必要と思われる対応について横断的に見ていきたい。3時点における全体の構造は概ね同じであるため、第3回調査に基くこととする。まず、それぞれについて選択率順に並べてみる。

表Ⅲ-23 個人、企業、社会のそれぞれにつき必要と思われる対応(第3回、2つまでの多重回答)

順位	個人としての対応		企業としての対応		社会としての対応	
		選択率%		選択率%		選択率%
1	健康の維持・増進を心がける	63.1	企業年金の充実や持家取得の援助など社員の経済的基盤充実に力を入れる	42.0	できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	49.9
2	貯蓄・住宅などの経済的基盤をつくる	47.7	定年後の再雇用など再就職の場を用意する	31.8	定年退職者の能力を活かす場を増やす	47.5
3	生涯楽しめる趣味などを持つ	29.6	希望者には定年年齢を延長させる	26.9	趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	24.8
4	夫婦・家族の関係を大切にす	16.4	退職準備教育や退職相談を充実させる	23.4	中高年の能力再開発の研修機会や施設を設ける	20.0
5	定年後も活かせる専門的技術を身につける	12.7	中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	17.2	退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる	15.1
6	会社以外の活動の場をつくっておく	11.5	労働時間短縮などで社員の個人的生活にゆとりを持たせる	14.0	サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の場をつくる	9.8
7	友人や仲間との交流を深める	9.4	ボランティア休暇など社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	9.5	その他	1.1
8	近隣や地域の人との交流を深める	5.3	定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	6.5	特に何も必要ない	3.1
9	その他	0.2	その他	0.9		
10	特に何も必要ない	0.2	特に何も必要ない	4.2		

まず、個人としての対応を基準に見ていく。最大の関心事である「健康の維持・増進」はやはり個人で対応していくものであろう。

個人対応の2番目である「経済的基盤をつくる」については、企業に対しても期待が大きい事がわかる。企業に対する第1のニーズは「企業年金などの経済的基盤の充実」である。ただし、個人としての必要度が第2回から3回で上がっていたのに対し（第2回44.6%⇒第3回47.7%）、企業に対するそれは下がり基調である（第1回53.0%⇒第2回46.1%⇒第3回42.0%）。自助努力が一層求められるということであろうか。

3番目の「生涯楽しめる趣味」は、個人として必要性を高く感じている（29.6%）が、企業に対しては多くを期待していない（「社会活動・余暇活動の奨励や支援の制度」9.5%）。社会に対する期待が大きい（「趣味・学習や社会活動の機会・情報提供」24.8%）。

「夫婦・家族の関係を大切にする」は個人での対応の領域だが、企業に対する「労働時間の短縮などで個人的生活にゆとりを持たせる」ニーズと関係があるようだ。共に女性既婚者に選択傾向が強く、家庭へのコミット度と関係が感じられる。ところで、「夫婦・家族」は第2回以降上がった（第1回13.4⇒第2回17.1⇒第3回16.4%）が、「労働時間の短縮」は下がっている（第1回20.4⇒第2回15.7⇒第3回14.0%）。経済的基盤と同じく、自助努力が求められているということであろうか。

「定年後も活かせる専門的技術を身につける」は、「中高年者の能力再開発の研修」ニーズと関係するようである。これは企業、社会それぞれに対しニーズがある（企業としての対応17.2%、社会としての対応20.0%）。

「会社以外の活動の場をつくっておく」は、社会に対しての「サラリーマンOBの交流の場をつくる」ことへのニーズと同根か。男性、女性未婚者の高年齢層に選択傾向が強かった。ただし、「OBの交流の場」へのニーズは時代とともに下がっていた（第1回16.3%⇒第2回13.3%⇒第3回9.8%）。ここでも自助努力が求められるようだ。

「友人・仲間」「近隣・地域」なども家庭、会社以外の場という意味で同種のニーズと見られる。これらは個人での対応の領域であろう。

個人としての対応が生活面を中心としたものであるのに対し、仕事・就業面では企業に対するニーズが俄然大きくなる。

企業へのニーズの2番目以下には「定年後の再雇用など再就職の場を用意する」（31.8%）、「希望者の定年年齢を延長させる」（26.9%）、「退職準備教育や退職相談を充実させる」（23.4%）が並ぶ。制度的なニーズの他に教育・相談等へのニーズもあることがわかる。

再就職、定年延長については同時に社会に対するニーズにもあり、社会として必要と思う対応のトップは「本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる」（49.9%）である。

また、社会へのニーズの2番目は「定年退職者の能力を活かす場を増やす」（47.5%）であり、仕事に関わらず有用性を示す場へのニーズがあるようだ。

最後に「特に何も必要ない」は個人的対応ではほとんどないが、企業としての対応、社会としての対応では一定程度存在する。この傾向は時代とともに高くなっている。

仕事面、それ以外の生活面の要所要所において、個人としての対応を基調としつつも、企業としての対応、社会としての対応がそれぞれ連動し機能することが必要であろう。

(2)属性による傾向の違い

属性による傾向の差が顕著に見られるのが、企業に対するニーズである。

企業に対する主要なニーズは就業機会の提供であり、具体的には「定年年齢の延長」「定年後の再雇用など再就職の場を用意」を求めている。

女性既婚者は「定年延長」を選択する傾向が強いのにに対し、男性、女性未婚者は「再就職の場」を選択する傾向の方が強い。

また、「再就職の場」へのニーズは、男性はライフステージとともに上がる。しかし職業生活からの引退期である65～74歳層では下がる。一方、女性はライフステージとともに下がる。しかし65～74歳層では上がる、というように逆の傾向を示す。

企業に対する「社会活動・余暇活動奨励・支援」へのニーズも同じような動きをする。男性はライフステージとともに上がり、女性は下がる。65～74歳層で男性は下がり、女性が上がるのも同じである。女性では未婚者がこの傾向を引っ張る。ちなみに社会に対するニーズとして聞いている「趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する」はそれほど大きな差はない。

数は少ないが、「特に何も必要ない」は、男性はライフステージとともに下がり、65～74歳層で少し上がる。これに対し女性はライフステージとともに上がり、65～74歳層で少し下げる。社会へのニーズでも「特に何も必要ない」を聞いているが、男性はライフステージ後半で下がり、女性はその逆で、上がっている。

就業に関するニーズについて、引退期の65～74歳で傾向が変わるのは理解できるが、男女の傾向が逆になるのは興味深い。

表Ⅲ-24 定年後の再雇用など再就職の場を用意する(第3回) (%)

	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳
男性	28.8	32.3	41.3	32.8
女性	28.6	25.4	23.0	29.1

表Ⅲ-25 社会活動・余暇活動奨励や支援の制度を設ける(第3回) (%)

	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳
男性	7.2	9.6	10.9	7.6
女性	15.3	14.4	8.2	9.1
未婚者	14.3	17.3	8.3	17.5

表Ⅲ-26 特に何も必要ない(企業に対して)(第3回) (%)

	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳
男性	5.2	4.5	2.7	3.5
女性	1.6	5.0	8.2	5.1

表Ⅲ-27 特に何も必要ない(社会に対して)(第3回) (%)

	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳
男性	3.9	4.3	1.7	1.8
女性	2.6	1.5	5.6	5.7

その他、「経済的基盤づくり」「友人・仲間との交流」「社会活動」に女性未婚者のニーズが強い、あるいは「専門的技術の習得」「中高年の能力開発(社会対応)」に男性のニーズが強い、また、「夫婦・家族の関係」「労働時間短縮」「定年前のならし運転のための休暇制度」に女性既婚者のニーズが強い等、定量的傾向に関しても属性によるニーズの違いは大きい。またライフステージ推移に伴ないニーズの傾向は変化する。

支援策を考える上でもこのような多様性を念頭に置いた対応が必要であろう。

(3) 現役、OBによる傾向の違い

特に55～64歳層、65～74歳層で傾向に変化のあったものについては、定年を契機とした、あるいは職業生活からの引退を契機とした意識変化の影響が推測される。

定年期である55～64歳層で伸びるのが、企業に対する「定年年齢の延長」「再就職の場」(女性の場合は65～74歳層で伸びる)へのニーズ、社会に対する「希望する年齢まで働ける雇用環境」へのニーズである。定年に臨み、就業生活の再設計が余儀なくされるということであろう。

引退期・年金生活期である65～74歳層では、企業に対しては「企業年金など経済的基盤」、社会に対しては「OBの交流の場」のニーズが高くなる。

また、男性の65～74歳層で「退職準備教育・相談」ニーズが上がる。女性では逆に下がる。

逆に、個人的対応の「会社以外の活動の場を作っておく」、企業対応の「定年前のならし運転のための休暇制度」「労働時間短縮で社員の個人的生活にゆとり」は65～74歳層で男女とも下がる。休暇、時短によるゆとり志向は、むしろ現役の忙しい時ほど高く、引退して振り返ってみれば、定年に向けて必要と感じていたほどには、実際には必要でなかったようである。

定年退職に向けての条件整備においては、これを経験したOBの意見も重視する必要があるだろう。

表Ⅲ－28 55～64歳層、65～74歳層で上がるもの(第3回調査) (%)

	性別	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳
希望者には定年年齢を延長させる	男性	19.5	23.5	29.6	33.3
	女性	20.1	22.9	35.2	34.9
定年後の再雇用など再就職の場を用意する	男性	28.8	32.3	41.3	32.8
	女性	28.6	25.4	23.0	29.1
希望する年齢まで働ける雇用環境	男性	45.1	44.2	55.5	60.8
	女性	43.4	38.8	48.5	53.7
企業年金など経済的基盤充実	男性	45.5	40.5	39.5	49.8
	女性	45.0	39.3	29.1	43.4
サラリーマンOBが出入りできる交流の場	男性	8.1	7.8	9.1	13.5
	女性	4.8	8.5	9.7	20.0
退職準備教育・相談を充実させる	男性	24.0	23.7	21.5	27.1
	女性	24.3	23.4	24.5	16.0

表Ⅲ－29 65～74歳層で下がるもの(第3回) (%)

	性別	35～44歳	45～54歳	55～64歳	65～74歳
会社以外の活動の場を作っておく	男性	10.1	14.1	13.5	7.5
	女性	12.7	14.9	14.3	10.3
定年前のならし運転のための休暇制度	男性	7.0	10.6	7.0	3.7
	女性	5.3	6.5	7.1	2.9
労働時間短縮で社員の個人的生活にゆとり	男性	22.4	15.8	11.7	6.4
	女性	17.5	21.9	17.3	10.3

調査データ

1. 調査票(本人用および配偶者用)

2. 単純集計結果

3. 自由記述の回答の集計結果

4. 調査票質問項目一覧表

「サラリーマンの生きがい」に関する調査【本人用】

平成13年10月
財団法人 シニアプラン開発機構

調査のお願い

- 当財団では、豊かな人生経験を持ち、心身ともに活力あふれる企業退職者等を“シニア”と位置づけ、こうした方々が定年後も充実した生活を送るために必要なさまざまな社会システム“シニアプラン”を社会に提示しています。
その事業の一つとして、現在「サラリーマンの生きがい」に関する調査研究を進めています。
このアンケート調査は、その一環として、厚生年金基金の加入員・受給者の方々を対象に、ふだんの生活の実態や生きがい等のお考えをうかがい、それが定年退職後の生活にどう関連するのかを調べることを目的としています。
- 調査は「無記名式」で実施し、ご回答については細心の注意を持って取り扱い、結果はすべて統計的に処理いたしますので、個人名やひとりひとりの回答内容が公になることはありません。
また、ご回答いただいたものを、調査以外の目的に使用することもございません。
ご多忙中とは思いますが、ぜひご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
- 同封の【配偶者用】調査票につきましては、封筒の宛名の方の配偶者の方がご記入ください（配偶者がおられない場合は【配偶者用】調査票の記入・返送は不要です）。
調査票への記入が終了したら、【本人用】調査票は緑色の封筒に、【配偶者用】調査票は黄色の封筒にそれぞれ封入のうえ、緑色の封筒と黄色の封筒の両方（ただし配偶者がおられない場合は緑色の封筒のみ）を返信用封筒に封入し、ご投函願います。
- なお、この調査の実施は社団法人中央調査社に委託しました。内容や書き方など調査に関するお問い合わせは、以下にお願いいたします。

社団法人 中央調査社 管理部
東京都品川区西五反田7-1-1 住友五反田ビル
電話 03-5487-2314

記入上の注意

- 1) この調査のご回答は、封筒の宛名の方ご本人がご記入ください。
- 2) 回答は、すべてこの調査用紙に直接記入してください。
- 3) 問1から順にお答えください。回答は、あてはまる番号に○をつけるのと、記入していただくところがあります。

〔例1〕

1. はい	2. いいえ
-------	--------

〔例2〕

1	2	年
---	---	---

- 4) とくに断りがないときは、1問につき○は1つだけです。
- 5) 「その他」を選んだときは、番号に○をつけたうえで、() に具体的に記入してください。

11月7日（水）までにご投函ください。

■ふだんの生活についておうかがいします。

問1. あなたは日頃、近隣の人々と、どんなつきあいをしていますか。

1. ほとんどつきあいはない	6.0	4. 互いに訪問したり、何かを一緒にする	9.7
2. 顔が合えば挨拶をする	44.4	5. お互いの事情がわかり、困ったときに相談したり助け合う	6.1
3. たまには立ち話をする	32.7		NA 1.1

問2. あなたが現在所属して、実際に活動しているグループ・団体はどれですか。(○はいくつでも)

1. 趣味やスポーツのクラブ・サークル	37.3	7. 町内会・自治会や防災・防犯協会	19.9
2. 学習・研究の会や教養教室	10.0	8. 老人クラブや地域の同好会	6.1
3. 職場・職域関係の団体・グループ	19.9	9. 消費者団体やボランティア、NPOなどの社会活動団体	3.9
4. 定年退職者の会など、旧職場の集まり	17.0	10. 宗教団体・政治団体	3.6
5. PTA・父母会や子供会・青少年団体	4.7	11. その他 ()	4.3
6. 難病や障害児・者を持つ家族の会	0.6	12. いずれもない → 問3へお進みください	29.9
			NA 3.4

付問. その中で、あなたが役職や世話役、リーダーをしたことのあるのはどれですか。上で○をつけた中から、あてはまる番号を記入してください。(いくつでも)

現在しているもの	過去に経験のあるもの
----------	------------

問3. あなたは、地域活動やボランティアなど、何か社会に役立つ活動に参加していますか。団体活動でも個人の活動でもかまいません。

1. 定期的に参加している	12.4	3. 以前に参加したことがある	9.8
2. ときどき参加している	11.7	4. 参加していない	56.1
			NA 10.1

付問1. どのような分野の活動ですか。

(n = 767) (○はいくつでも)

1. 地域の生活環境を守る活動	37.5
2. 地域のイベントや“村おこし”の活動	29.1
3. 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	29.6
4. 児童や青少年活動の世話役としての活動	10.8
5. 地域の文化財や伝統を守る活動	7.6
6. 消費者活動や生活向上のための活動	3.3
7. 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	10.4
8. 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	10.8
9. 自然保護や環境保全の活動	12.3
10. 国際交流に関する活動	6.3
11. その他 ()	8.2
	NA 1.0

付問2. 活動に参加した理由は何ですか。

(n = 767) (○は3つまで)

1. 地域や社会に貢献したい	55.5
2. 自分の知識や経験を活かしたい	27.9
3. 社会への見聞を広げたい	15.3
4. 友人や仲間を増やしたい	30.8
5. 生活にはりあいを持たせたい	20.9
6. 身近な人に誘われた	15.9
7. 会社の勧めや命令	6.1
8. 社会人として当然と思った	24.6
9. 何となく	0.9
10. その他 ()	5.2
	NA 1.8

付問3. 現在参加していない理由は何ですか。

(n = 2,100) (○は3つまで)

1. 時間がない	53.0
2. 経済的余裕がない	8.2
3. 精神的なゆとりがない	18.5
4. 健康や体力に自信がない	10.0
5. 家族など周囲の理解や協力が得られない	1.0
6. 自分にあった活動の場がない	17.3
7. いっしょにやる仲間がない	9.4
8. 何から始めるか、きっかけがつかめない	34.7
9. 興味がない、関心がない	10.3
10. その他 ()	5.7
	NA 3.4

付問4. 今後参加したいと思いますか。

(n = 2,100) (○は1つ)

1. 積極的に参加したい	6.5
2. 条件によっては参加してもよい	60.1
3. 参加するつもりはない	9.7
4. わからない	22.1
	NA 1.5

問4. 現在のあなたの生活で、以下のことがどの程度満たされていると思いますか。(1)～(12)のそれぞれについてお答えください。

	十分に満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	NA
(1) 健康	12.9	57.5	12.9	13.9	1.6	1.2
(2) 時間的ゆとり	11.9	36.3	17.8	25.7	6.7	1.6
(3) 経済的ゆとり	4.4	43.4	28.2	18.4	3.6	1.9
(4) 精神的ゆとり	6.7	43.1	28.4	16.8	2.8	2.1
(5) 家族の理解・愛情	24.8	54.4	13.4	3.8	1.0	2.6
(6) 友人・仲間	12.0	55.4	22.4	7.1	1.2	1.8
(7) 熱中できる趣味	15.2	40.5	20.6	16.8	4.8	2.0
(8) 仕事のはりあい	7.5	41.6	28.7	10.9	4.9	6.4
(9) 社会的地位	3.7	33.1	41.0	9.9	7.3	4.9
(10) 自然とのふれあい	8.9	38.4	24.4	20.8	5.0	2.6
(11) 近隣との交流	3.1	24.0	30.8	27.9	12.4	1.8
(12) 社会の役に立つこと	1.9	15.5	35.7	30.6	14.0	2.3

問5. [自由時間についておうかがいします]

仕事や通勤や仕事上のつきあいの時間、睡眠時間、食事や入浴などの生活必需時間を除いて、あなたが日頃、自由に使える時間は十分にあると思いますか。

1. 十分にある 19.6 2. まあまあ 42.8 3. 不十分である 33.9 4. まったくない 2.3 NA 1.4

⇒ 問6へお進みください

付問. 日頃の自由時間を、主にどんなことに使っていますか。(○は3つまで)

(n = 3,072)

1. 仕事仲間とのプライベートなつきあい	9.8	9. 行楽・ドライブなど	28.0
2. 仕事に関する勉強や残務整理	12.2	10. 庭いじりや家事など家庭内のこと	36.0
3. テレビ・ゴロ寝やパチンコ、酒など	32.1	11. 家庭との団らんや家庭サービス	31.3
4. 考えごとやめい想	3.6	12. 近隣の人とのつきあいや地域の用事	6.2
5. ひとりで趣味・スポーツ・学習など	28.5	13. ボランティアなどの社会活動	4.0
6. 仲間と趣味・スポーツ・学習など	30.7	14. 宗教活動・政治活動	2.0
7. パソコン通信やインターネットなど	12.6	15. その他 ()	3.4
8. 個人的な友人・仲間とのつきあい	26.4	16. 特に何もしない	0.6
		NA	0.5

問6. 生活やつきあいの場を「家庭」、「仕事」などのようにいくつかに分けた場合、(1)～(9)にあてはまるものを、それぞれ2つまで選んでください。

	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	NA
(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	70.6	46.3	5.9	22.8	6.0	4.9	0.8	3.6
(2) 生活のどの場で、リズムやメリハリがきますか	48.1	55.9	6.5	15.8	8.7	5.3	1.7	6.1
(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	78.1	6.2	4.9	40.6	3.3	11.4	0.9	4.7
(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を感じる事が多いですか	65.6	38.0	5.9	21.9	6.5	8.8	1.4	5.7
(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どこの人ですか	34.6	39.9	5.5	29.0	26.5	7.1	2.8	6.7
(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	70.4	35.2	5.5	5.3	15.5	7.5	1.9	6.7
(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	21.7	58.5	8.7	15.4	29.0	7.2	1.8	6.7
(8) 自分の可能性を実現したり、何かをやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	22.9	63.8	9.9	5.7	19.3	10.0	3.5	6.0
(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	39.1	60.3	11.6	9.8	13.2	5.4	4.3	5.5

問7. 現在あなたは、以下の立場をどの程度重視していますか。(1)～(5)のそれぞれにお答えください。

	大変重視している	少し重視している	あまり重視していない	まったく重視していない	NA
(1) 親、夫または妻、一家の主など、家庭人の立場	66.1	24.4	5.7	1.7	2.0
(2) ○○会社員、○○の専門家(だった)など、職業人の立場	18.7	37.9	30.2	9.2	4.0
(3) ○○地域の住民、○○の隣人など、地域人の立場	5.6	30.4	46.9	13.5	3.5
(4) ○○のメンバー、○○の仲間など、グループ員の立場	10.9	37.9	36.2	11.8	3.2
(5) 社会の一員、地球に住む人間としての立場	19.0	46.6	27.0	4.7	2.7

問8. 以下の(1)～(13)は、あなたにどの程度あてはまりますか。(1)～(13)のそれぞれについてお答えください。

	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	NA
(1) 人との関係やつながりを大切にする	52.8	40.3	5.7	0.4	0.8
(2) 自分の世界や個性を大切にする	32.6	48.8	16.1	0.8	1.7
(3) いつも目標に向かってつき進む	18.7	48.8	28.3	2.4	1.9
(4) 無理をせずマイペースで進む	24.9	53.0	19.0	1.6	1.4
(5) 他人にはない自分なりの価値観を持っている	23.4	49.1	24.3	1.6	1.6
(6) 自分には他人にない優れたところがある	9.8	43.1	41.3	3.9	1.8
(7) いろいろなことに興味を持ちチャレンジする	16.0	41.5	36.6	4.4	1.5
(8) 一つのことにじっくり取り組む	15.7	43.5	35.9	3.1	1.8
(9) 指導者の立場に立とうとする	6.5	32.2	45.2	14.2	1.9
(10) 新しいグループの中に、わりと気軽に入れる	9.4	38.0	42.8	8.2	1.7
(11) いろいろな人の話や意見をよく聞く	22.2	59.9	15.2	1.2	1.5
(12) 上下の立場や関係を尊重する	25.0	54.1	17.1	2.4	1.5
(13) どんなところでも結構楽しみを見出す	14.9	50.4	30.7	2.6	1.4

■生きがいについておうかがいします。

問9. よく「生きがい」と言われますが、次の中で「生きがい」を表すのに最も適当なのはどれだと思いますか。
あなたのお考えに最も近いものから2つまで選んでください。

1. 生活の活力やはりあい	26.1	6. 生きる目標や目的	17.5
2. 生活のリズムやメリハリ	10.2	7. 自分自身の向上	18.3
3. 心の安らぎや気晴らし	26.7	8. 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる事	28.2
4. 生きる喜びや満足感	40.5	9. 他人や社会の役に立っていると感じる事	17.1
5. 人生観や価値観の形成	8.7	10. その他 ()	0.6
			NA 0.5

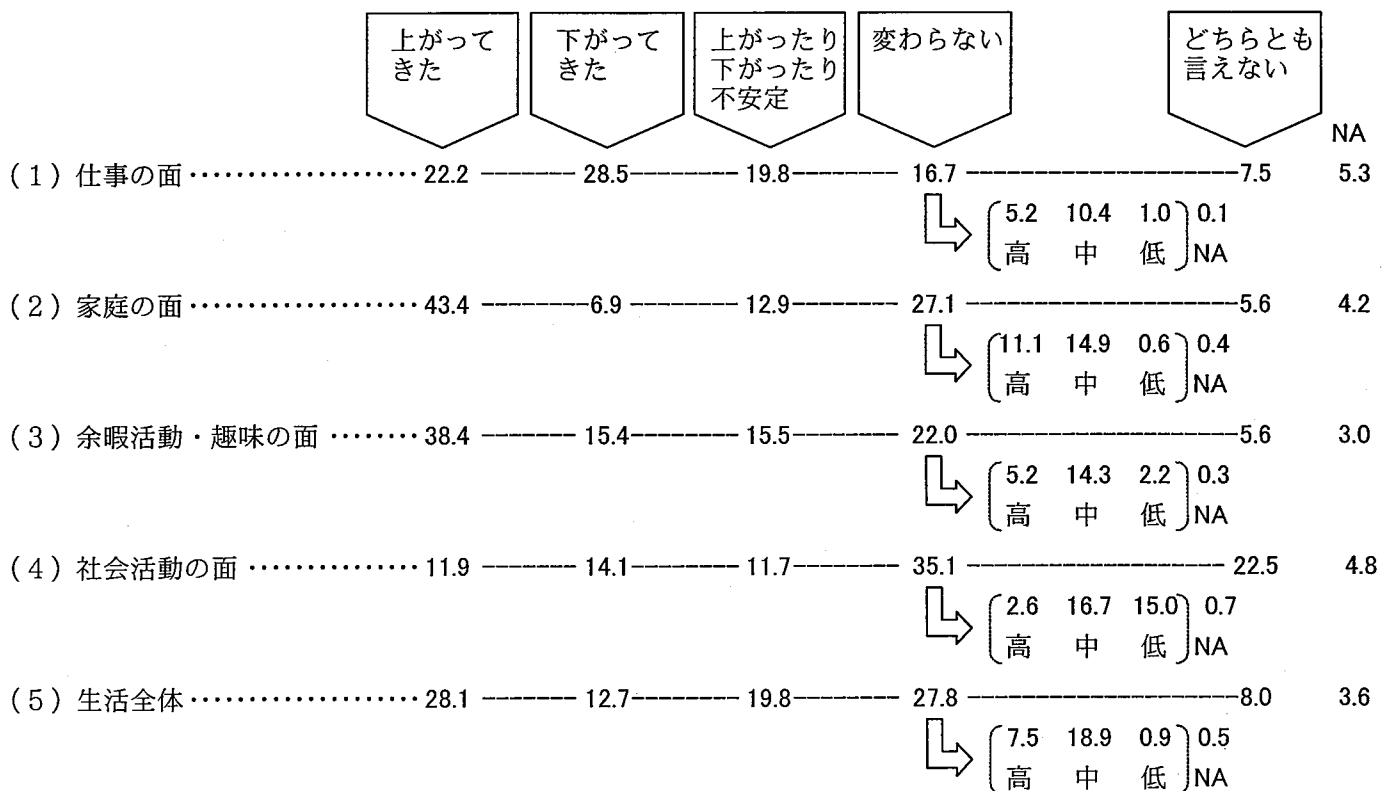
付問. そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか。

1. 持っている	67.3	3. 持っていない	8.4
2. 前は持っていたが、今は持っていない	7.1	4. わからない	15.6
			NA 1.7

問10. あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか。(○は3つまで)

1. 仕事	35.2	8. 子ども・孫・親などの家族・家庭	55.3
2. 趣味	43.9	9. 友人など家族以外の人との交流	18.7
3. スポーツ	14.6	10. 自分自身の健康づくり	18.3
4. 学習活動	5.7	11. ひとりで気ままに過ごすこと	10.8
5. 社会活動	5.8	12. 自分自身の内面の充実	12.6
6. 自然とのふれあい	18.4	13. その他 ()	1.0
7. 配偶者・結婚生活	23.0	NA 0.8	

問11. この10年間、あなたの生きがい度はどのように変化したと感じますか。(1)～(5)のそれぞれについて、あなたの感じ方に最も近いものを1つずつ選んでください。「4 変わらない」を選んだ場合には、その水準が高いか、中くらいか、低いか、いずれかに○をつけてください。



■友人や配偶者との関係についておうかがいします。

問12. あなたには、生涯を通じてつきあえる友人や仲間がいますか。

1. いる	84.5	2. いない	14.4	問13へお進みください	NA	1.0
-------	------	--------	------	-------------	----	-----

付問1. どのような関係で知り合った方々ですか。(〇はいくつでも)

(n = 2,696)

1. 幼なじみ・学生時代の友人・仲間	64.1
2. 職場や仕事を通じて知り合った友人・仲間	73.3
3. 近隣の人、地域で知り合った友人・仲間	22.4
4. 趣味・パソコン教室・スポーツや学習を通じて知り合った友人・仲間	26.5
5. 電子メール、パソコンネット、携帯電話などを通じて知り合った友人・仲間	0.9
6. 社会活動を通じて知り合った友人・仲間	10.0
7. 宗教活動を通じて知り合った友人・仲間	2.9
8. 家族や親戚・縁戚関係を通じて知り合った友人・仲間	18.9
9. 戦友	0.3
10. その他 ()	0.7
	NA 0.7

付問2. [定年退職を経験した方におうかがいします。]

この中に、あなたが定年後につきあうようになった友人・仲間がいますか。
あてはまる番号を記入してください。(いくつでも)

➡

問13. [配偶者がいらっしゃる方におうかがいします。]

話は変わりますが、日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。(1)～(11)のそれぞれについてお答えください。

(n = 2,597)

	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく 違う	NA
(1) 自分は配偶者を頼りにしている	55.1	36.5	5.9	0.4	2.1
(2) 自分は配偶者を理解している	32.3	55.4	9.8	0.5	2.0
(3) 自分は配偶者を愛している	49.4	41.9	5.6	0.6	2.5
(4) 配偶者と価値観・考え方が似ている	12.4	41.9	37.5	5.7	2.5
(5) 共通の趣味がある	11.2	28.8	42.7	14.6	2.6
(6) 対話がある	29.1	49.6	17.4	1.3	2.5
(7) よく一緒に出かける	34.2	37.4	22.8	3.0	2.6
(8) 配偶者の独自の趣味や行動を尊重している	41.1	46.9	8.5	1.2	2.4
(9) 自分は配偶者を助けている	22.0	51.8	22.4	1.2	2.5
(10) 配偶者は自分によりかかりすぎる	5.2	24.9	59.5	7.9	2.5
(11) 配偶者と家事を分担している	6.9	28.1	45.3	17.6	2.2

問14. それでは、配偶者との関係について、以下のことはあなたご自身にとってどの程度大切ですか。(1)～(10)のそれぞれについてお答えください。

(n = 2,597)

	とても 大切	やや大切	わから ない	あまり大切 ではない	NA
(1) 配偶者と互いに頼りにしあうこと	63.5	30.9	3.0	1.2	1.4
(2) 配偶者と互いに理解しあうこと	73.7	22.7	1.8	0.4	1.4
(3) 配偶者から愛情が感じられること	61.5	30.3	5.9	0.7	1.7
(4) 価値観や考え方を共有すること	32.8	47.6	12.7	4.9	1.9
(5) 共通の趣味を持つこと	19.8	44.5	20.2	13.8	1.8
(6) 対話を持つこと	60.8	34.2	2.6	0.7	1.7
(7) 一緒に行動すること	29.6	51.1	11.4	6.1	1.8
(8) 互いに独自の趣味や行動を尊重すること	49.8	41.8	5.1	1.5	1.8
(9) 配偶者と助け合うこと	67.8	28.2	2.0	0.6	1.5
(10) 配偶者と家事を分担し合うこと	19.1	49.9	19.0	10.6	1.5

■家族の介護等についておうかがいします。

問 15. 自分または家族が、寝たきりや痴呆（以下「寝たきり等」という）になった場合の対応について、あなたのお考えにもっとも近いものを、(1)～(4)のそれぞれについてお答えください。

(1) 「自分の親」が寝たきり等になった場合

1. 自分自身が中心になって介護する	27.9	4. 老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	15.8
2. 配偶者が中心になって介護する	20.3	5. その他 ()	11.1
3. 主にホームヘルパー等に介護をまかせる	11.0	NA	13.9

(2) 「配偶者の親」が寝たきり等になった場合

1. 自分自身が中心になって介護する	9.2	4. 老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	14.2
2. 配偶者が中心になって介護する	34.7	5. その他 ()	11.8
3. 主にホームヘルパー等に介護をまかせる	9.0	NA	21.1

(3) 配偶者が寝たきり等になった場合

1. 自分自身が中心になって介護する	66.8	4. 老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	4.7
2. 子ども等が中心になって介護する	1.9	5. 夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	4.8
3. 主にホームヘルパー等に介護をまかせる	6.4	6. その他 ()	2.4
			NA 13.0

(4) 自分が寝たきり等になった場合

1. 配偶者が中心になって介護する	46.1	4. 一人で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	25.9
2. 子ども等が中心になって介護する	2.5	5. 夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	7.5
3. 主にホームヘルパー等に介護をまかせる	10.4	6. その他 ()	2.9
			NA 4.6

付問. 高齢者介護の負担は、まだまだ重いと言われますが、家族の介護が必要になった場合、以下のことについてどう思いますか。一番近いものに○をつけてください。

(1) 介護の負担により、既存の自分の生活や人生の目的などを犠牲にしたくない

1. そう思う	17.5	2. どちらとも言えない	56.6	3. そうは思わない	23.4	NA	2.5
---------	------	--------------	------	------------	------	----	-----

(2) 介護し、共に生きていくことが、自分自身にとっても生きる喜びや目的になる

1. そう思う	33.8	2. どちらとも言えない	56.3	3. そうは思わない	7.3	NA	2.6
---------	------	--------------	------	------------	-----	----	-----

問 16. 長寿についておうかがいします。

(1) わが国は世界のトップレベルの長寿国ですが、長寿についてどのように受けとめていますか。

1. 生きられるなら、いつまでも生きたい	13.0
2. 生き長らえるのは健康なうちだけでよい	83.8
3. その他 ()	1.9
NA 1.3	

(2) いくつくらいまで生きたら、長生きをしたと思いますか。

	歳以上
平均 = 81.2 歳	(NA 1.9)

■仕事や定年後の生活についておうかがいします。

問 17. 「定年退職」と聞いてあなたがイメージするものを、次の中から選んでください。(○は3つまで)

1. わずらわしい人間関係から解放される	24.2	7. 接触する人や情報が減る	16.6
2. 所属する組織や肩書がなくなる	15.1	8. 新しい人生が開ける	34.8
3. 家庭サービスができる	14.1	9. 社会から取り残される	3.2
4. 経済的に苦しくなる	38.5	10. 決まりきった行動パターンから解放される	19.7
5. 自由な時間が増え、自分を取り戻す	51.5	11. 自己実現の場や機会がなくなる	2.8
6. 生活の目標や気持ちの張りがなくなる	15.7	12. 精神的に楽になる	33.3
			NA 2.4

問 18. 職業生活から引退する年齢について、どのように考えていますか。

1. 引退にふさわしい年齢がある	49.6	(引退にふさわしい年齢は <u>平均 = 63.4 才</u> くらい)	
2. 健康な限りは何才まででも働きたい	29.7		
3. 引退にふさわしい年齢はない	15.1		
4. その他 ()	2.7		
			NA 3.0

問 19. [全員におうかがいします]

あなたは定年を経験しましたか。定年は何才ですか。

(定年を2回以上経験した場合は最初の定年の年齢を記入してください)

1. まだ定年前………	60.2	定年は (平均=59.9) 才	問 20 へお進みください
2. 定年前に退職した・	7.1	退職は (平均=55.6) 才のとき	10 ^ハ -ジの問 21 へお進みください
3. 定年退職した……	32.4	定年は (平均=59.8) 才のとき	
			NA 0.3

問 20. [定年前の方にお聞きします]

(1) あなたは、定年退職後をどう過ごすかの生活設計(仕事、家庭生活、余暇など)を考えていますか。

(n = 1,920)

1. ほとんど設計ができています	1.9	4. 気にはしているが、あまり深く考えていない	55.2
2. ある程度設計ができています	9.7	5. まったく考えていない	18.0
3. 考えてはいる	13.8		NA 1.4

(2) 定年後の生活費を、主に何によってまかなおうと考えていますか。(○は3つまで)

(n = 1,920)

1. 公的年金	72.1	6. 就労による収入	30.3
2. 企業年金	52.4	7. 子ども等からの経済的支援	0.9
3. 退職金	41.3	8. その他 ()	1.9
4. 生命保険の保険金や個人年金	20.1	9. わからない・考えたことがない	3.5
5. 預貯金の取りくずし	25.6		NA 1.2

(3) 定年後の生活について不安に感じることはありますか。(○はいくつでも)

(n = 1,920)

1. 生計維持の困難	52.3	9. 所属や肩書がなくなる	1.9
2. 住宅の問題	13.1	10. 今までの人的交流や情報量が減る	12.6
3. 自分や配偶者の健康	55.6	11. 世の中の情報化の進展についていけない	4.4
4. 配偶者や親の介護	22.3	12. 社会から取り残される	3.6
5. 配偶者に先立たれる	15.8	13. 時間をもてあます	18.4
6. 再就職の問題	24.8	14. 地域社会にとけこめない	5.2
7. 家族との人間関係が悪くなる	0.8	15. その他 ()	1.0
8. 生活のほりや生きがいなくなる	16.2	16. 特に不安を感じない	10.0
			NA 1.6

(4) あなたが希望する定年後の生活は、どのような生活ですか。(○は3つまで)

(n = 1,920)

1. 健康に恵まれた生活	76.8	8. 好きな仕事を続ける生活	6.7
2. 時間的にゆとりのある生活	14.2	9. それまでの知識や経験を活かす生活	7.7
3. 経済的にゆとりのある生活	43.2	10. 自然とのふれあいのある生活	18.1
4. 精神的にゆとりのある生活	28.9	11. 社会のために役立つ生活	8.3
5. 夫婦関係や家族関係を大切にする生活	37.9	12. その他 ()	0.4
6. 友人や仲間とのつきあいを大切にする生活	17.2	13. 特にない	0.3
7. 好きな趣味にうち込む生活	25.8	NA	0.9

(5) 今の会社に定年まで勤めたいと思いますか。

(n = 1,920)

1. 定年まで勤めたい	78.4	2. 定年前に退職したい	18.6	⇒ (あと <u>平均 = 6.1 年</u> くらいで)
		NA	3.0	

(6) 定年退職後または定年前の退職後に、仕事をどのようにしたいと思いますか。(○は1つだけ)

(n = 1,920)

1. 退職とともに職業生活から引退したい	25.5
2. 退職後も再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤めたい	14.5
3. 退職後は出向先に移籍したい	2.6
4. 退職後は別の企業に再就職したい	14.6
5. 退職後は自分で事業や商売を始めたい (自由業を含む)	12.2
6. 退職後は家業を手伝いたい	1.3
7. 退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をしたい	12.2
8. その他 ()	2.8
9. わからない・考えたことがない	13.0
	NA 1.3

(7) それでは、実際には定年退職後 (または定年前の退職) の後、あなたの仕事のしかたはどのようになると
 思いますか。(○は1つだけ)

(n = 1,920)

1. 退職とともに職業生活から引退する	25.8
2. 退職後も再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤める	11.8
3. 退職後は出向先に移籍する	4.1
4. 退職後は別の企業に再就職する	14.9
5. 退職後は自分で事業や商売を始める (自由業を含む)	7.7
6. 退職後は家業を手伝う	1.7
7. 退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をする	8.4
8. その他 ()	2.1
9. わからない	21.8
	NA 1.7

⇒ 12 ページの問 22 へお進みください

問 21. [定年退職または定年前の退職を経験した人におうかがいします]

(1) 定年前・退職前のあなたの職種は次のどれでしたか。(○は1つだけ)

(n = 1,258)

1. 専門技術職 (研究職・技師等)	4.0	5. 技能職・技術補助・生産工程従事・作業員	12.8
2. 管理職 (役員・課長以上の管理職)	52.7	6. サービス職 (添乗員・ホテルマン等)	0.9
3. 事務職 (一般事務・営業・経理事務等)	20.7	7. その他 ()	4.0
4. 販売職 (店員・セールス等)	2.5		NA 2.5

(2) 定年前・退職前の勤務先の従業員数は会社全体でどれくらいでしたか。(支店や営業所を含めた合計)

(n = 1,258)

1. 1~29人	7.0	2. 30~99人	6.4	3. 100~299人	8.2	4. 300~999人	7.9	5. 1000人以上	68.0
NA 2.5									

(3) 定年・退職の直前の仕事や職場について、どのように感じていますか。1) ~7) のそれぞれについてお答えください。

	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である	NA
(n = 1,258)						
1) 仕事の内容	31.6	45.1	13.4	5.5	1.5	3.0
2) 就業形態	23.2	46.5	18.6	6.1	1.4	4.2
3) 職場での地位の高さ	20.7	41.3	24.1	6.7	2.8	4.5
4) 賃金	15.1	41.5	22.9	13.0	3.7	3.7
5) 福利厚生	20.2	44.4	21.1	8.2	2.5	3.7
6) 職場の人間関係・雰囲気	18.1	44.3	23.1	8.8	2.2	3.5
7) 全体として	19.6	48.2	19.4	7.6	1.7	3.7

(4) 定年後・退職後に仕事につきましたか。(○は1つだけ)

(n = 1,258)

1. 退職とともに職業生活から引退した	32.0
2. 退職後も再雇用や勤務延長制度等により、前の会社に勤めた	16.5
3. 退職後は出向先に移籍した	12.3
4. 退職後は別の企業に再就職した	23.8
5. 退職後は自分で事業や商売を始めた (自由業を含む)	3.3
6. 退職後は家業を手伝うようになった	1.0
7. 退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった	2.5
8. その他 ()	6.4
NA 2.1	

(5) あなたが50歳の頃に、定年後の仕事をどのようにしたいと思っていましたか。(○は1つだけ)

(n = 1,258)

1. 退職とともに職業生活から引退する	29.7
2. 退職後も再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤める	18.2
3. 退職後は出向先に移籍する	8.5
4. 退職後は別の企業に再就職する	17.6
5. 退職後は自分で事業や商売を始める (自由業を含む)	5.6
6. 退職後は家業を手伝う	0.9
7. 退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をする	3.7
8. その他 ()	2.3
9. わからない・考えたことがなかった	11.7
NA 1.7	

(6) あなたが50歳の頃に、定年退職後をどう過ごすかの生活設計(仕事、家庭生活、余暇など)を考えていましたか。

(n = 1,258)

1. ほとんど設計ができていた	4.3	4. 気にはしていたが、あまり深くは考えていなかった	49.4
2. ある程度設計ができていた	17.6	5. まったく考えていなかった	9.1
3. 考えてはいた	17.6	NA	2.0

(7) 50才頃に、定年後の生活について不安に感じていたことがありましたか。(○はい/×でも)

(n = 1,258)

1. 生計維持の困難	29.6	9. 所属や肩書きがなくなる	4.5
2. 住宅の問題	8.1	10. 今までの人的交流や情報量が減る	19.4
3. 自分や配偶者の健康	37.4	11. 世の中の情報化の進展についていけない	5.2
4. 配偶者や親の介護	11.0	12. 社会に取り残される	6.3
5. 配偶者に先立たれる	8.2	13. 時間をもてあます	17.5
6. 再就職の問題	23.3	14. 地域社会にとけこめない	4.7
7. 家族との人間関係が悪くなる	0.6	15. その他()	1.0
8. 生活のほりや生きがいなくなる	18.5	16. 特に不安を感じない	23.0
		NA	2.6

(8) では実際に定年から今までに次のようなことがありましたか。(○はい/×でも)

(n = 1,258)

1. 経済的に苦しくなった	30.7	9. 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	7.9
2. 住宅問題で困った	3.2	10. 今までの人的交流や情報量が減って困った	16.9
3. 自分や配偶者の健康や体力が衰えた	32.9	11. 世の中の情報化の進展についていけず困った	6.0
4. 配偶者や親の介護が必要になった	11.1	12. 社会から取り残されてしまった	1.9
5. 配偶者に先立たれた	3.5	13. 時間をもてあました	11.6
6. 再就職のことで困った	9.1	14. 地域社会にとけこめなかった	4.8
7. 家族との人間関係が悪くなった	1.7	15. その他()	3.1
8. 生活のほりや生きがいなくなった	9.6	16. 特に問題はなかった	27.9
		NA	4.5

付問. その中で、特に定年が契機になっておこったことはどれですか。上で○をつけた中から、あてはまる番号を記入してください。(3つまで)

定年が契機になっておこったこと	□	□	□
-----------------	---	---	---

(9) 50才頃にあなたが希望していた定年後の生活は、どのような生活ですか。(○は3つまで)

(n = 1,258)

1. 健康に恵まれた生活	65.3	8. 好きな仕事を続ける生活	9.5
2. 時間的にゆとりのある生活	23.8	9. それまでの知識や経験を活かす生活	12.9
3. 経済的にゆとりのある生活	32.4	10. 自然とのふれあいのある生活	15.4
4. 精神的にゆとりのある生活	24.4	11. 社会のために役立つ生活	11.2
5. 夫婦関係や家族関係を大切にする生活	28.2	12. その他()	0.5
6. 友人や仲間とのつきあいを大切にする生活	17.6	13. 特になかった	2.1
7. 好きな趣味にうち込む生活	35.9	NA	2.6

問 22.〔全員におうかがいします〕

定年退職に向けて、どのようなことが必要だと思いますか。(1)～(4)のそれぞれについてお答えください。

(1) 個人としては、定年前にどのようなことが必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 健康の維持・増進を心がける	63.1	6. 友人や仲間との交流を深める	9.4
2. 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	47.7	7. 近隣や地域の人との交流を深める	5.3
3. 生涯楽しめる趣味などを持つ	29.6	8. 会社以外の活動の場をつくっておく	11.5
4. 定年後も活かせる専門的技術を身につける	12.7	9. その他 ()	0.2
5. 夫婦・家族の関係を大切にする	16.4	10. 特に何も必要ない	0.2
		NA	1.9

付問. それでは、実際にあなた自身が準備したり心がけたりしている(した)ことがありますか。

〔定年前の方〕あなた自身が現在準備したり心がけていることをお答えください。

〔定年後・退職後の方〕あなた自身が定年前・退職前に準備したり心がけていたことをお答えください。

(○はいくつでも)

1. 健康の維持・増進を心がける	61.7	6. 友人や仲間との交流を深める	27.4
2. 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	47.9	7. 近隣や地域の人との交流を深める	13.3
3. 生涯楽しめる趣味などを持つ	37.3	8. 会社以外の活動の場をつくっておく	11.5
4. 定年後も活かせる専門的技術を身につける	11.9	9. その他 ()	1.2
5. 夫婦・家族の関係を大切にする	30.7	10. 特に何も必要ない	5.7
		NA	2.9

(2) 企業としては、どのような条件の整備が必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. 退職準備教育や退職相談を充実させる	23.4		
2. 企業年金の充実や持家取得の援助など、社員の経済的基盤充実に力を入れる	42.0		
3. 労働時間短縮などで、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	14.0		
4. 中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	17.2		
5. 希望者には定年年齢を延長させる	26.9		
6. 定年後の再雇用など、再就職の場を用意する	31.8		
7. ボランティア休暇など、社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	9.5		
8. 定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	6.5		
9. その他 ()	0.9		
10. 特に何も必要ない	4.2		
		NA	2.8

(3) 社会としては、どのような条件の整備が必要だと思いますか。(○は2つまで)

1. できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	49.9		
2. 定年退職者の能力を活かす場を増やす	47.5		
3. サラリーマンOBが気軽に入出りできる交流の場をつくる	9.8		
4. 趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	24.8		
5. 中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	20.0		
6. 退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる	15.1		
7. その他 ()	1.1		
8. 特に何も必要ない	3.1		
		NA	2.4

(4) 以上のほかに、定年退職に向けて、または定年後の生活をよりよくするためのご意見やご提案がありましたら、お書きください。個人、企業、社会のいずれに関することでも結構です。

問 23. [全員におうかがいします]

仕事や会社とのかかわりについて、どう感じていますか。(1)～(13)のそれぞれについてお答えください。

	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく 違う	NA
(1) 仕事の中でこそ自己実現が図れる……	9.7	44.7	37.4	3.8	4.4
(2) 仕事は生計を立てるための手段に過ぎない……	12.5	50.2	29.2	4.4	3.8
(3) どの会社でも十分通用する職業能力がある……	5.3	35.8	49.0	5.9	4.0
(4) 会社は自分を正当に評価している (していた) ……	4.6	54.5	33.6	3.4	3.9
(5) 自分の会社には尽くしたい……	15.4	59.6	17.7	2.7	4.5
(6) 脱サラを考えたことがある・脱サラしたい……	3.5	21.0	41.6	29.0	4.9
(7) 上司や同僚とは仕事を離れてもつき合いたい……	4.8	34.1	46.8	9.9	4.4
(8) 仕事のためには個人の生活を犠牲にすることがあっても やむを得ない……	4.9	44.5	37.1	9.2	4.4
(9) 仕事をするからには多少無理しても出世したい……	2.4	26.7	55.1	11.6	4.2
(10) 出世よりも興味のある仕事に専念したい……	11.8	51.1	28.9	3.7	4.5
(11) 定年まで会社に勤められるかどうか不安だ (だった) ……	7.6	29.2	41.9	17.0	4.3
(12) 会社は定年退職後の社員へのめんどうみもよい……	4.2	30.7	43.8	16.9	4.4
(13) 定年後は会社の世話になりたくない……	17.5	42.9	29.4	6.0	4.2

付問. [現在職業についている方におたずねします]

現在の仕事や職場について、どのように感じていますか。(1)～(7)のそれぞれについてお答えください。

	とても満足 している	やや満足 している	どちらとも いえない	やや不満 である	とても不満 である	NA
(n = 2,349)						
(1) 仕事の内容 ……	13.3	49.0	22.7	8.0	2.4	4.4
(2) 就業形態 ……	13.2	46.1	21.8	11.6	2.6	4.8
(3) 職場での地位の高さ ……	9.9	36.4	35.1	10.0	3.4	5.1
(4) 賃 金 ……	6.4	31.1	26.0	22.9	8.8	4.9
(5) 福利厚生 ……	6.5	33.0	31.8	17.2	6.2	5.2
(6) 職場の人間関係・雰囲気 ……	7.5	40.7	30.0	12.1	4.8	4.8
(7) 全体として ……	7.0	44.9	28.1	12.6	2.6	4.7

[フェイスシート]

最後に、今までお聞きしたことを分析する上で必要な事項についておうかがいします。

F 1. 性別

1. 男 74.4	2. 女 24.3
	NA 1.3

 年齢(平成13年11月1日現在)

 才
平均 = 54.9才 (NA 2.5)

F 2. 居住地

	都道府県		市区町村
--	------	--	------

F 3. 現在お住まいの地域(市区町村)に住んで何年になりますか。単身赴任等で一時離れた場合も、家族が継続して住んでいた期間は年数に含めてください。

1. 5年未満	10.3	3. 10年以上～20年未満	18.3	5. 30年以上	37.6
2. 5年以上～10年未満	11.0	4. 20年以上～30年未満	21.2	NA	1.7

F 4. あなたが最後に卒業された学校は、次のどれですか。

1. 小学校・高等小学校・新制中学校	9.0	4. 大学・大学院	40.0
2. 旧制中学校・旧制高等女学校・ 旧制実業学校・新制高等学校	36.4	5. 専門学校・専修学校	4.3
3. 旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	5.1	6. その他 (_____)	0.3
			NA 4.8

F 5. 未既婚 1. 未婚 11.6 2. 既婚(配偶者あり) 81.4 3. 既婚(離別) 2.2 4. 既婚(死別) 3.3
NA 1.5

F 6. 現在ごいっしょにお住まいの世帯の構成

1. ひとり暮らし	8.8
2. 自分たち夫婦だけ	23.8
3. 自分たち夫婦(または自分)と未婚の子	38.4
4. 自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦(ほかに孫や未婚の子がいる場合を含む)	4.5
5. 自分たち夫婦(または自分)と親(ほかに子や孫がいる場合を含む)	17.7
6. その他(具体的に _____)	2.3
	NA 4.5

F 7. 現在お住まいの住居は、次のどれですか。

1. 持ち家(一戸建て)	66.6	4. 公社・公団・公営の賃貸住宅	3.5
2. 持ち家(分譲マンション等)	14.8	5. 民間の借家・マンション・アパート	6.3
3. 社宅・会社の寮	3.9	6. その他(具体的に _____)	0.4
			NA 4.5

付問. 住宅ローンを支払っていますか。

1. 払っている 32.0 (残りはあと <u>平均 = 15.4</u> 年)	2. 払っていない 61.5
	NA 6.5

F 8. 現在のあなたの健康状態

1. 非常に健康	10.6	4. 注意する点があり、日常生活に制限がある	3.4
2. まあ健康	51.5	5. 病気がち・療養中	1.7
3. 注意する点はあるが、日常生活に支障はない	28.4		NA 4.4

F 9. 過去5年間に、次のようなできごとがありましたか。(○はいくつでも)

1. 子どもや孫の誕生	26.8	8. 配偶者の死	1.1
2. 子どもの成人・就職	17.4	9. その他の家族の死	20.5
3. 子どもや孫との別居	7.6	10. 昇進・昇格	22.0
4. 子どもの結婚	19.0	11. 出向・転職・退職	20.4
5. 自分自身の入院	16.1	12. 災害等による資産の減少・経済的困難	1.7
6. 配偶者の入院	11.8	13. 自宅の購入・建て替え	16.0
7. その他の家族の入院	22.0	14. いずれもない	10.6
			NA 5.1

F 10. 昨年1年間のあなたの世帯の年収（年金や副業等も含めて、税込でお答えください）

1. 200万円未満	2.8	6. 600万円以上～800万円未満	19.1
2. 200万円以上～300万円未満	6.1	7. 800万円以上～1000万円未満	14.8
3. 300万円以上～400万円未満	9.6	8. 1000万円以上～1500万円未満	17.8
4. 400万円以上～500万円未満	10.6	9. 1500万円以上	3.3
5. 500万円以上～600万円未満	10.1		NA 5.9

付問1. 主たる収入源は何ですか。（○は1つだけ）

1. 給与	68.4	4. 利息・配当金収入	0.0
2. 年金収入（公的・企業・個人年金）	25.8	5. その他	0.5
3. 不動産収入	0.7		NA 4.5

付問2. それは生活する上で十分な収入ですか。

1. 十分で余裕がある	6.8	2. ほぼ十分である	50.8	3. やや不足する	31.5	4. 非常に不足する	6.1
							NA 4.7

F 11. 現在の経済的な暮らしについてどのように感じていますか。

1. とても楽だ	6.3	2. 少し楽だ	54.3	3. 苦しい	30.9	4. とても苦しい	2.9
							NA 5.5

F 12. あなたの現在の就業形態（正規の社員、嘱託、自営業など）は、次のどれですか。

1. 正規の社員・従業員	60.1	5. シルバー人材センター（高齢者事業団）	0.8
2. 派遣・嘱託・パートタイマーなど	10.4	6. 無職⇨（最後に職を離れてから平均 = 4.8年）	17.4
3. 自営業・自由業・家族従業員	2.1	7. その他（_____）	0.1
4. 内職	0.2		NA 8.8

F 13. [現在職業についている方におうかがいします。]

(1) あなたの職種は次のどれですか。

(n = 2,349)

1. 専門技術職（研究職・技師等）	6.3	5. 技能職・技術補助・生産工程従事・作業員	9.8
2. 管理職（役員・課長以上の管理職）	39.2	6. サービス職（添乗員・ホテルマン等）	2.3
3. 事務職（一般事務・営業・経理事務等）	37.0	7. その他（_____）	0.9
4. 販売職（店員・セールス等）	2.6		NA 1.8

(2) 勤務先の従業員数は会社全体でどのくらいですか。（支店や営業所がある場合は合計）

(n = 2,349)

1. 1～29人	16.3	2. 30～99人	10.9	3. 100～299人	9.9	4. 300～999人	10.7	5. 1000人以上	49.4
									NA 2.8

(3) あなたの1週間の勤務日数 日 (n = 2,349)
 (週によって異なる場合は平均を四捨五入してください)

平均 = 5.0 日

(4) あなたの1日の勤務時間（所定の拘束時間） 時間 (n = 2,349)
 (日によって異なる場合は平均を四捨五入してください)

平均 = 8.3 時間

この調査全体についてのご感想やご意見がありましたら、お書きください。

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。記入もれがないかどうかお確かめの上、緑色の回収用封筒に封入のうえ、配偶者の方の調査票を封入した黄色の封筒とともに（ただし配偶者のおられない方は黄色の封筒は不要で、緑色の封筒のみ）、返信用封筒にてご返送ください。

- ※ なおのちに、この調査に関連して、別途ご意見をうかがう機会を設けたいと考えております。
これに応じてもよいと思われる方は、お名前、ご住所、電話番号をお書きください。

〔別の意見聴取に応じてもよい方〕

お名前		電話番号	()
ご住所	都道府県		

特にことわりのない場合 n = 2,525。 NAは無回答。

「サラリーマンの生きがい」に関する調査【配偶者用】

平成13年10月
財団法人 シニアプラン開発機構

記入上の注意

- 1) この調査のご回答は、封筒の宛名の方の配偶者の方がご記入ください。
- 2) 回答は、すべてこの調査用紙に直接記入してください。
- 3) 問1から順にお答えください。回答は、あてはまる番号に○をつけるところと、記入していただくところがあります。

〔例1〕

①	はい	2. いいえ
---	----	--------

〔例2〕

1	2	年
---	---	---

- 4) とくに断りがないときは、1問につき○は1つだけです。
- 5) 「その他」を選んだときは、番号に○をつけたうえで、() に具体的に記入してください。

11月7日(水)までにご投函ください。

問1. あなたは日頃、近隣の人々と、どんなつきあいをしていますか。

1. ほとんどつきあいはない	2.4	4. 互いに訪問したり、何かを一緒にする	15.9
2. 顔が合えば挨拶をする	23.7	5. お互いの事情がわかり、困ったときに相談したり助け合う	13.0
3. たまには立ち話をする	43.8		NA 1.1

問2. あなたが現在所属して、実際に活動しているグループ・団体はどれですか。(○はいくつでも)

1. 趣味やスポーツのクラブ・サークル	43.4	7. 町内会・自治会や防災・防犯協会	19.7
2. 学習・研究の会や教養教室	13.3	8. 老人クラブや地域の同好会	4.4
3. 職場・職域関係の団体・グループ	10.6	9. 消費者団体やボランティア、NPOなど社会活動団体	6.1
4. 定年退職者の会など、旧職場の集まり	3.6	10. 宗教団体・政治団体	4.5
5. PTA・父母会や子供会・青少年団体	15.8	11. その他 ()	2.5
6. 難病や障害児・者を持つ家族の会	1.3	12. いずれもない → 問3へお進みください	23.0
			NA 4.7

付問. その中で、あなたが役職や世話役、リーダーをしたことのあるのはどれですか。上で○をつけた中から、あてはまる番号を記入してください。(いくつでも)

現在しているもの	過去に経験のあるもの
----------	------------

問3. あなたは、地域活動やボランティアなど、何か社会に役立つ活動に参加していますか。団体活動でも個人の活動でもかまいません。

1. 定期的に参加している	14.9	3. 以前に参加したことがある	12.7
2. ときどき参加している	12.2	4. 参加していない	49.9
		NA	10.3

付問1. どのような分野の活動ですか。

(n = 683) (○はいくつでも)

1. 地域の生活環境を守る活動	31.0
2. 地域のイベントや“村おこし”の活動	21.8
3. 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	24.3
4. 児童や青少年活動の世話役としての活動	15.4
5. 地域の文化財や伝統を守る活動	4.0
6. 消費者活動や生活向上のための活動	8.9
7. 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	23.4
8. 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	6.0
9. 自然保護や環境保全の活動	4.5
10. 国際交流に関する活動	3.8
11. その他 ()	7.0
NA	0.7

付問3. 現在参加していない理由は何ですか。

(n = 1,582) (○は3つまで)

1. 時間がない	45.4
2. 経済的余裕がない	7.1
3. 精神的なゆとりがない	17.9
4. 健康や体力に自信がない	20.2
5. 家族など周囲の理解や協力が得られない	1.4
6. 自分にあった活動の場がない	17.6
7. いっしょにやる仲間がない	9.1
8. 何から始めるか、きっかけがつかめない	28.1
9. 興味がない、関心がない	11.6
10. その他 ()	5.8
NA	3.2

付問2. 活動に参加した理由は何ですか。

(n = 683) (○は3つまで)

1. 地域や社会に貢献したい	51.7
2. 自分の知識や経験を活かしたい	24.6
3. 社会への見聞を広げたい	17.7
4. 友人や仲間を増やしたい	29.4
5. 生活にはりあいを持たせたい	24.0
6. 身近な人に誘われた	21.2
7. 会社の勧めや命令	1.8
8. 社会人として当然と思った	18.0
9. 何となく	0.9
10. その他 ()	7.0
NA	0.6

付問4. 今後参加したいと思いますか。(○は1つ)

(n = 1,582)

1. 積極的に参加したい	5.0
2. 条件によっては参加してもよい	54.8
3. 参加するつもりはない	11.6
4. わからない	27.0
NA	1.6

問4. 生活やつきあいの場を「家庭」、「仕事」などのようにいくつかに分けた場合、(1)～(9)にあてはまるものを、それぞれ2つまで選んでください。

	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	NA
(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか	76.4	24.0	9.6	33.9	5.4	6.6	1.0	4.4
(2) 生活のどの場で、リズムやメリハリがつかますか	55.6	33.6	11.8	22.3	8.5	7.2	1.7	7.4
(3) 心の安らぎや気晴らしを感じるのは、どこが多いですか	74.7	4.5	5.5	48.9	2.6	11.3	1.1	5.5
(4) 生活のどの場で、喜びや満足感を感じる人が多いですか	73.2	18.5	7.0	27.3	6.0	10.6	1.6	7.2
(5) あなたの人生観や価値観に影響を与えているのは、どの人ですか	49.8	16.9	8.5	35.3	21.3	9.1	2.1	8.8
(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか	72.2	17.0	6.5	6.8	16.1	8.4	1.1	10.5
(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか	34.2	30.9	14.2	18.8	24.8	9.7	3.8	10.1
(8) 自分の可能性を実現したり、何かをやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか	39.9	34.5	14.2	8.0	16.0	11.4	5.7	8.8
(9) 自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのは、どの場でのことが多いですか	61.9	31.5	15.9	12.1	8.5	6.9	4.1	6.0

問5. よく「生きがい」と言われますが、次の中で「生きがい」を表すのに最も適当なのはどれだと思いますか。あなたのお考えに最も近いものから2つまで選んでください。

1. 生活の活力やはりあい	26.0	6. 生きる目標や目的	18.0
2. 生活のリズムやメリハリ	9.6	7. 自分自身の向上	21.2
3. 心の安らぎや気晴らし	26.7	8. 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること	26.0
4. 生きる喜びや満足感	40.2	9. 他人や社会の役に立っていると感じる事	13.5
5. 人生観や価値観の形成	6.6	10. その他 ()	0.8
		NA	1.8

付問. そのような生きがいを、あなたは現在持っていますか。

1. 持っている	71.4	3. 持っていない	7.1
2. 前は持っていたが、今は持っていない	5.1	4. わからない	14.3
		NA	2.1

問6. あなたは現在、どのようなことに生きがいを感じますか。(○は3つまで)

1. 仕事	18.0	6. 自然とのふれあい	18.5	11. ひとりで気ままに過ごすこと	10.9
2. 趣味	42.2	7. 配偶者・結婚生活	29.6	12. 自分自身の内面の充実	16.2
3. スポーツ	9.0	8. 子ども・孫・親などの家族・家庭	56.1	13. その他 ()	1.6
4. 学習活動	5.3	9. 友人など家族以外の人との交流	25.8		
5. 社会活動	5.1	10. 自分自身の健康づくり	16.3	NA	2.0

問7. 話は変わりますが、日頃の配偶者との関係について、どう感じていますか。(1)～(11)のそれぞれについてお答えください。

	まったく そのとおり	まあ そのとおり	あまり そうでない	まったく 違う	NA
(1) 配偶者は私を頼りにしてくれている	34.2	50.2	12.4	1.1	2.1
(2) 配偶者は私を理解している	25.0	50.3	20.1	2.0	2.6
(3) 配偶者は私を愛している	31.4	50.7	12.8	1.9	3.2
(4) 配偶者と価値観・考え方が似ている	12.4	40.3	35.4	9.1	2.7
(5) 共通の趣味がある	12.8	28.0	37.1	19.3	2.7
(6) 対話がある	27.8	48.0	19.0	2.7	2.5
(7) よく一緒に出かける	32.6	36.2	24.0	4.5	2.8
(8) 配偶者は私の趣味や行動を尊重している	32.6	49.7	12.9	2.1	2.7
(9) 配偶者は私を助けてくれる	35.4	45.3	14.1	2.1	3.0
(10) 配偶者は私によりかかりすぎる	6.6	21.3	55.2	14.0	3.0
(11) 配偶者と家事を分担している	7.5	25.8	43.6	20.8	2.2

問8. それでは、配偶者との関係について、以下のことはあなたご自身にとってどの程度大切ですか。(1)～(10)のそれぞれについてお答えください。

	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切 ではない	NA
(1) 配偶者と互いに頼りにしあうこと	58.0	34.7	3.7	1.5	2.1
(2) 配偶者と互いに理解しあうこと	70.8	23.6	3.0	0.4	2.2
(3) 配偶者からの愛情が感じられること	58.9	31.4	6.4	0.8	2.5
(4) 価値観や考え方を共有すること	36.0	46.7	11.3	3.4	2.6
(5) 共通の趣味を持つこと	19.1	49.4	15.2	13.6	2.7
(6) 対話を持つこと	65.0	29.5	2.6	0.5	2.4
(7) 一緒に行動すること	25.2	54.5	10.5	7.0	2.8
(8) 互いに独自の趣味や行動を尊重すること	51.2	40.8	4.3	1.3	2.4
(9) 配偶者と助け合うこと	69.7	25.7	2.1	0.5	2.0
(10) 配偶者と家事を分担し合うこと	22.8	52.4	13.3	9.3	2.2

問9. 自分または家族が、寝たきりや痴呆(以下「寝たきり等」という)になった場合の対応について、あなたのお考えにもっとも近いものを、(1)～(4)のそれぞれについてお答えください。

(1)「自分の親」が寝たきり等になった場合

1. 自分自身が中心になって介護する	42.9	4. 老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	12.4
2. 配偶者が中心になって介護する	7.7	5. その他 ()	17.6
3. 主にホームヘルパー等に介護をまかせる	9.4	NA	10.1

(2)「配偶者の親」が寝たきり等になった場合

1. 自分自身が中心になって介護する	30.5	4. 老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	13.2
2. 配偶者が中心になって介護する	16.0	5. その他 ()	16.7
3. 主にホームヘルパー等に介護をまかせる	10.2	NA	13.4

(3) 配偶者が寝たきり等になった場合

1. 自分自身が中心になって介護する	74.8	4. 老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	5.0
2. 子ども等が中心になって介護する	1.0	5. 夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	7.4
3. 主にホームヘルパー等に介護をまかせる	5.5	6. その他 ()	3.5
		NA	2.8

(4) 自分が寝たきり等になった場合

1. 配偶者が中心になって介護する	37.6	4. 一人で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	22.3
2. 子ども等が中心になって介護する	5.3	5. 夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	12.6
3. 主にホームヘルパー等に介護をまかせる	14.5	6. その他 ()	3.7
		NA	3.9

付問. 高齢者介護の負担は、まだまだ重いと言われるますが、家族の介護が必要になった場合、以下のことについてどう思いますか。一番近いものに○をつけてください。

(1) 介護の負担により、既存の自分の生活や人生の目的などを犠牲にしたくない

1. そう思う	20.0	2. どちらとも言えない	60.9	3. そうは思わない	17.8	NA	1.3
---------	------	--------------	------	------------	------	----	-----

(2) 介護し、共に生きていくことが、自分自身にとっても生きる喜びや目的になる

1. そう思う	30.9	2. どちらとも言えない	57.9	3. そうは思わない	10.1	NA	1.2
---------	------	--------------	------	------------	------	----	-----

問 10. 長寿についておうかがいします。

(1) わが国は世界のトップレベルの長寿国ですが、長寿についてどのように受けとめていますか。

1. 生きられるなら、いつまでも生きたい	10.9
2. 生き長らえるのは健康なうちだけでよい	84.2
3. その他 ()	3.4
	NA 1.5

(2) いくつくらいまで生きたら、長生きをしたと思いますか。

歳以上

平均 = 81.2 歳 (NA 2.3)

問 11. 配偶者が職業生活から引退する年齢について、どのように考えていますか。

1. 引退にふさわしい年齢がある	40.6	⇒ (引退にふさわしい年齢は 平均 = 64.2 才くらい)
2. 健康な限りは何才まででも働いてほしい	35.5	
3. 引退にふさわしい年齢はない	17.8	
4. その他 ()	4.1	
	NA 2.0	

問 12. [配偶者が定年前の方におうかがいします]

(1) お宅では、配偶者の方の定年退職後の生活設計（仕事、家庭生活、余暇など）について、ご夫婦で話し合うことがありますか。

(n = 1,495)						
1. よくある	6.7	2. たまにある	45.8	3. まったくない	40.1	NA 7.4

(2) 配偶者の定年後の生活について、不安に感じることがありますか。(〇はいくつでも)

(n = 1,495)			
1. 生計維持の困難	46.8	9. 所属や肩書がなくなる	0.7
2. 住宅の問題	10.6	10. 今までの人的交流や情報量が減る	6.6
3. 自分や配偶者の健康	56.6	11. 世の中の情報化の進展についていけない	3.5
4. 配偶者や親の介護	28.0	12. 社会から取り残される	3.2
5. 配偶者に先立たれる	22.5	13. 時間をもてあます	22.9
6. 再就職の問題	19.8	14. 地域社会にとけこめない	6.2
7. 家族との人間関係が悪くなる	2.8	15. その他 ()	0.9
8. 生活のほりや生きがいなくなる	16.4	16. 特に不安を感じない	8.9
			NA 6.6

問 13. [配偶者が定年退職または定年前の退職を経験した方におうかがいします]

(1) お宅では、配偶者の方の定年前に、定年後をどうすごすかの生活設計（仕事、家庭生活、余暇など）について、ご夫婦で話し合ったことがありますか。

(n = 1,012)				
1. よくあった	15.6	2. たまにあった	59.0	3. まったくなかった 16.8 NA 8.6

(2) あなたから見て、配偶者の方には定年から今までに、次のようなことがありましたか。(〇はいくつでも)

(n = 1,012)			
1. 経済的に苦しくなった	23.7	9. 所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	5.5
2. 住宅問題で困った	2.9	10. 今までの人的交流や情報量が減って困った	7.2
3. 自分や配偶者の健康や体力が衰えた	37.2	11. 世の中の情報化の進展についていけず困った	2.2
4. 配偶者や親の介護が必要になった	11.7	12. 社会から取り残されてしまった	1.1
5. 配偶者に先立たれた	1.5	13. 時間をもてあました	12.5
6. 再就職のことで困った	5.8	14. 地域社会にとけこめなかった	5.3
7. 家族との人間関係が悪くなった	2.4	15. その他 ()	1.4
8. 生活のほりや生きがいなくなった	8.9	16. 特に問題はなかった	30.7
			NA 7.6

問 14. あなたの性別

1. 男 13.2	2. 女 85.0
NA 1.9	

年齢(平成 13 年 11 月 1 日現在)

--	--	--

才

平均 = 53.0 才 (NA 2.4)

問 15. あなたの現在の就業形態（正規の社員、嘱託、自営業など）は、次のどれですか。

1. 正規の社員・従業員	14.2	5. シルバー人材センター（高齢者事業団）	0.2
2. 派遣・嘱託・パートタイマーなど	23.6	6. 無職 ⇨ (最後に職を離れてから 平均 14.7 年)	40.6
3. 自営業・自由業・家族従業員	4.5	7. その他 ()	6.8
4. 内職	2.3		NA 7.8

以上で終了です。ご協力ありがとうございました。記入もれがないかどうかお確かめの上、黄色の回収用封筒に入れて、配偶者の方にお渡してください。

2. 単純集計結果

【本人調査】

問1. 近所づきあいの程度

	総数	ほとんどつきあいはない	顔が合えば挨拶をする	たまには立ち話をします	互いに訪問したり、何かを一緒にする	お互いの事情がわかり困ったときに相談したり助け合う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	190.0	1415.0	1042.0	310.0	196.0	36.0
(%)	100	6.0	44.4	32.7	9.7	6.1	1.1
《第2回調査(平成8年)》	2909	133.0	1153.0	1069.0	330.0	186.0	38.0
(%)	100	4.6	39.6	36.7	11.3	6.4	1.3
《第1回調査(平成3年)》	3051	108.0	1266.0	1056.0	331.0	199.0	91.0
(%)	100	3.5	41.5	34.6	10.8	6.5	3.0

問2. 所属・活動団体

	総数	趣味やスポーツのクラブ・サークル	学習・研究会や教養教室	職場・職域関係の団体・グループ	定年退職者の会など、旧職場の集まり	PTA・父母会や子供会・青少年団体	難病や障害児・者を持つ家族の会	町内会・自治会や防災・防犯協会	老人クラブや地域の同好会	消費者団体やボランティア、NPOなどの社会活動団体	宗教団体・政治団体	その他	いずれもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1189.0	320.0	636.0	543.0	149.0	19.0	636.0	193.0	125.0	114.0	138.0	952.0	110.0
(%)	100	37.3	10.0	19.9	17.0	4.7	0.6	19.9	6.1	3.9	3.6	4.3	29.9	3.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	1174.0	302.0	883.0	485.0	149.0	18.0	534.0	174.0	106.0	150.0	75.0	724.0	215.0
(%)	100	38.5	9.9	28.9	15.9	4.9	0.6	17.5	5.7	3.5	4.9	2.5	23.7	7.0

問2付問. リーダー経験(現在)

	該当数	趣味やスポーツのクラブ・サークル	学習・研究会や教養教室	職場・職域関係の団体・グループ	定年退職者の会など、旧職場の集まり	PTA・父母会や子供会・青少年団体	難病や障害児・者を持つ家族の会	町内会・自治会や防災・防犯協会	老人クラブや地域の同好会	消費者団体やボランティア、NPOなどの社会活動団体	宗教団体・政治団体	その他	リーダーをしている所属・活動団体がある(計)	無回答
《今回調査(平成13年)》	2127	348.0	57.0	177.0	137.0	50.0	9.0	239.0	61.0	38.0	43.0	59.0	914.0	1213.0
(%)	100	16.4	2.7	8.3	6.4	2.4	0.4	11.2	2.9	1.8	2.0	2.8	43.0	57.0
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2112	353.0	85.0	335.0	173.0	60.0	8.0	195.0	56.0	50.0	62.0	42.0	1026.0	1086.0
(%)	100	16.7	4.0	15.9	8.2	2.8	0.4	9.2	2.7	2.4	2.9	2.0	48.6	51.4

問2付問. リーダー経験(過去)

	総数	趣味やスポーツのクラブ・サークル	学習・研究会や教養教室	職場・職域関係の団体・グループ	定年退職者の会など、旧職場の集まり	PTA・父母会や子供会・青少年団体	難病や障害児・者を持つ家族の会	町内会・自治会や防災・防犯協会	老人クラブや地域の同好会	消費者団体やボランティア、NPOなどの社会活動団体	宗教団体・政治団体	その他	リーダーをしたことのある団体がある(計)	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	213.0	32.0	142.0	68.0	97.0	2.0	295.0	22.0	18.0	12.0	16.0	739.0	2450.0
(%)	100	6.7	1.0	4.5	2.1	3.0	0.1	9.3	0.7	0.6	0.4	0.5	23.2	76.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	281.0	80.0	333.0	62.0	135.0	6.0	314.0	16.0	28.0	39.0	16.0	952.0	2099.0
(%)	100	9.2	2.6	10.9	2.0	4.4	0.2	10.3	0.5	0.9	1.3	0.5	31.2	68.8

問3. 社会活動参加状況

	総数	定期的に参加している	ときどき参加している	以前に参加したことがある	参加していない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	395.0	372.0	311.0	1789.0	322.0
(%)	100	12.4	11.7	9.8	56.1	10.1
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	372.0	383.0	301.0	1918.0	77.0
(%)	100	12.2	12.6	9.9	62.9	2.5

問3付問1. 社会活動参加分野

	該当数	地域の生活環境を守る活動	地域のイベントや"村おこし"の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動の世話役としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	767	288.0	223.0	227.0	83.0	58.0	25.0	80.0	83.0	94.0	48.0	63.0	8.0
(%)	100	37.5	29.1	29.6	10.8	7.6	3.3	10.4	10.8	12.3	6.3	8.2	1.0
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	755	321.0	177.0	256.0	128.0	82.0	38.0	96.0	-	93.0	44.0	40.0	22.0
(%)	100	42.5	23.4	33.9	17.0	8.2	5.0	12.7	-	12.3	5.8	5.3	2.9

問3付問2. 社会活動参加理由

	該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを持たせたい	身近な人に誘われた	会社の勤めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	767	426.0	214.0	117.0	236.0	160.0	122.0	47.0	189.0	7.0	40.0	14.0
(%)	100	55.5	27.9	15.3	30.8	20.9	15.9	6.1	24.6	0.9	5.2	1.8
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	755	398.0	245.0	149.0	192.0	173.0	138.0	35.0	264.0	7.0	21.0	14.0
(%)	100	52.7	32.5	19.7	25.4	22.9	18.3	4.6	35.0	0.9	2.8	1.9

問3付問3. 社会活動不参加理由

	該当数	時間がない	経済的余裕がない	精神的なゆとりがない	健康や体力に自信がない	家族など周囲の理解や協力が得られない	自分にあつた活動の場や仲間がない	いっしょにやる仲間がない	何から始めるか、きっかけがつかめない	興味がなない、関心がない	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	2100	1114.0	172.0	389.0	211.0	20.0	363.0	197.0	728.0	216.0	119.0	71.0
(%)	100	53.0	8.2	18.5	10.0	1.0	17.3	9.4	34.7	10.3	5.7	3.4
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2219	986.0	214.0	363.0	258.0	31.0	572.0	281.0	799.0	397.0	70.0	98.0
(%)	100	44.4	9.6	16.4	11.6	1.4	25.8	12.7	36.0	17.9	3.2	4.4

問3付問4. 社会活動不参加者の今後の活動意向

	該当数	積極的に参加したい	条件によっては参加してもよい	参加するつもりはない	わからない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2100	137.0	1282.0	204.0	465.0	32.0
(%)	100	6.5	60.1	9.7	22.1	1.5
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2219	159.0	1332.0	254.0	440.0	34.0
(%)	100	7.2	60.0	11.4	19.8	1.5

問4. 生活充足感
(1)健康

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	411.0	1834.0	412.0	444.0	51.0	37.0
(%)	100	12.9	57.5	12.9	13.9	1.6	1.2
《第2回調査(平成8年)》	2909	488.0	1708.0	325.0	324.0	38.0	26.0
(%)	100	16.8	58.7	11.2	11.1	1.3	0.9
《第1回調査(平成3年)》	3051	473.0	1819.0	314.0	386.0	32.0	27.0
(%)	100	15.5	59.6	10.3	12.7	1.0	0.9

問4. 生活充足感
(2)時間的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	381.0	1157.0	567.0	821.0	213.0	50.0
(%)	100	11.9	36.3	17.8	25.7	6.7	1.6
《第2回調査(平成8年)》	2909	426.0	1297.0	440.0	578.0	132.0	36.0
(%)	100	14.6	44.6	15.1	19.9	4.5	1.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	452.0	1275.0	499.0	655.0	135.0	35.0
(%)	100	14.8	41.8	16.4	21.5	4.4	1.1

問4. 生活充足感
(3)経済的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	141.0	1384.0	900.0	587.0	116.0	61.0
(%)	100	4.4	43.4	28.2	18.4	3.6	1.9
《第2回調査(平成8年)》	2909	146.0	1398.0	750.0	493.0	85.0	37.0
(%)	100	5.0	48.1	25.8	16.9	2.9	1.3
《第1回調査(平成3年)》	3051	142.0	1421.0	812.0	535.0	98.0	43.0
(%)	100	4.7	46.6	26.6	17.5	3.2	1.4

問4. 生活充足感
(4)精神的ゆとり

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	214.0	1376.0	906.0	537.0	88.0	68.0
(%)	100	6.7	43.1	28.4	16.8	2.8	2.1
《第2回調査(平成8年)》	2909	240.0	1465.0	689.0	396.0	64.0	55.0
(%)	100	8.3	50.4	23.7	13.6	2.2	1.9
《第1回調査(平成3年)》	3051	236.0	1505.0	754.0	451.0	56.0	49.0
(%)	100	7.7	49.3	24.7	14.8	1.8	1.6

問4. 生活充足感
(5)家族の理解・愛情

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	792.0	1736.0	426.0	122.0	31.0	82.0
(%)	100	24.8	54.4	13.4	3.8	1.0	2.6
《第2回調査(平成8年)》	2909	700.0	1639.0	382.0	102.0	24.0	62.0
(%)	100	24.1	56.3	13.1	3.5	0.8	2.1
《第1回調査(平成3年)》	3051	751.0	1821.0	313.0	88.0	20.0	58.0
(%)	100	24.6	59.7	10.3	2.9	0.7	1.9

問4. 生活充足感
(6)友人・仲間

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	383.0	1768.0	715.0	227.0	38.0	58.0
(%)	100	12.0	55.4	22.4	7.1	1.2	1.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	411.0	1665.0	569.0	202.0	33.0	29.0
(%)	100	14.1	57.2	19.6	6.9	1.1	1.0
《第1回調査(平成3年)》	3051	373.0	1762.0	631.0	214.0	32.0	39.0
(%)	100	12.2	57.8	20.7	7.0	1.0	1.3

問4. 生活充足感
(7)熱中できる趣味

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	486.0	1293.0	657.0	536.0	153.0	64.0
(%)	100	15.2	40.5	20.6	16.8	4.8	2.0
《第2回調査(平成8年)》	2909	515.0	1222.0	557.0	475.0	109.0	31.0
(%)	100	17.7	42.0	19.1	16.3	3.7	1.1
《第1回調査(平成3年)》	3051	477.0	1254.0	546.0	585.0	147.0	42.0
(%)	100	15.6	41.1	17.9	19.2	4.8	1.4

問4. 生活充足感
(8)仕事のほりあい

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	240.0	1326.0	914.0	349.0	157.0	203.0
(%)	100	7.5	41.6	28.7	10.9	4.9	6.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	293.0	1333.0	738.0	271.0	122.0	152.0
(%)	100	10.1	45.8	25.4	9.3	4.2	5.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	336.0	1439.0	779.0	255.0	115.0	127.0
(%)	100	11.0	47.2	25.5	8.4	3.8	4.2

問4. 生活充足感
(9)社会的地位

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	118.0	1057.0	1309.0	317.0	232.0	156.0
(%)	100	3.7	33.1	41.0	9.9	7.3	4.9
《第2回調査(平成8年)》	2909	139.0	1049.0	1132.0	303.0	180.0	106.0
(%)	100	4.8	36.1	38.9	10.4	6.2	3.6
《第1回調査(平成3年)》	3051	132.0	1154.0	1127.0	329.0	198.0	111.0
(%)	100	4.3	37.8	36.9	10.8	6.5	3.6

問4. 生活充足感
(10)自然とのふれあい

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	285.0	1223.0	777.0	662.0	158.0	84.0
(%)	100	8.9	38.4	24.4	20.8	5.0	2.6
《第2回調査(平成8年)》	2909	319.0	1243.0	631.0	547.0	131.0	38.0
(%)	100	11.0	42.7	21.7	18.8	4.5	1.3
《第1回調査(平成3年)》	3051	296.0	1241.0	635.0	704.0	128.0	47.0
(%)	100	9.7	40.7	20.8	23.1	4.2	1.5

問4. 生活充足感
(11)近隣との交流

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	100.0	765.0	981.0	890.0	396.0	57.0
(%)	100	3.1	24.0	30.8	27.9	12.4	1.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	115.0	835.0	838.0	758.0	327.0	36.0
(%)	100	4.0	28.7	28.8	26.1	11.2	1.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	130.0	930.0	830.0	865.0	262.0	34.0
(%)	100	4.3	30.5	27.2	28.4	8.6	1.1

問4. 生活充足感
(12)社会の役に立つこと

	総数	十分満たされている	まあ満たされている	どちらともいえない	やや欠けている	まったく欠けている	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	60.0	493.0	1138.0	976.0	448.0	74.0
(%)	100	1.9	15.5	35.7	30.6	14.0	2.3
《第2回調査(平成8年)》	2909	85.0	601.0	1121.0	755.0	306.0	41.0
(%)	100	2.9	20.7	38.5	26.0	10.5	1.4
《第1回調査(平成3年)》	3051	89.0	679.0	1113.0	790.0	315.0	65.0
(%)	100	2.9	22.3	36.5	25.9	10.3	2.1

問5. 自由時間の有無

	総数	十分にある	まあまあ	不十分である	まったくない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	626.0	1365.0	1081.0	72.0	45.0
(%)	100	19.6	42.8	33.9	2.3	1.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	646.0	1374.0	811.0	46.0	32.0
(%)	100	22.2	47.2	27.9	1.6	1.1
《第1回調査(平成3年)》	3051	575.0	1234.0	1053.0	146.0	43.0
(%)	100	18.8	40.4	34.5	4.8	1.4

問5付問. 自由時間の過ごし方

	該当数	仕事仲間とのプライベートなつきあい	仕事に関する勉強や残務整理	テレビ・ゴロツキやパチンコ、酒など	考えごとやめい想	ひとり趣味・スポーツ・学習など	仲間と趣味・スポーツ・学習など	パソコン通信やインターネットなど	個人的な友人・仲間とのつきあい	行楽・ドライブなど	庭いじりや家事など家庭内のこと	家庭との団らんや家庭サービス	近隣の人のつきあいや地域の用事	ボランティアなどの社会活動
《今回調査(平成13年)》	3072	302.0	374.0	986.0	110.0	874.0	944.0	388.0	811.0	861.0	1106.0	962.0	191.0	123.0
(%)	100	9.8	12.2	32.1	3.6	28.5	30.7	12.6	26.4	28.0	36.0	31.3	6.2	4.0
《第2回調査(平成8年)》	2831	280.0	317.0	909.0	86.0	839.0	829.0	72.0	754.0	827.0	1083.0	936.0	198.0	126.0
(%)	100	9.9	11.2	32.1	3.0	29.6	29.3	2.5	26.6	29.2	38.3	33.1	7.0	4.5
《第1回調査(平成3年)》	2862	535.0	483.0	1239.0	193.0	904.0	477.0	-	602.0	335.0	961.0	1014.0	190.0	100.0
(%)	100	18.7	16.9	43.3	6.7	31.6	16.7	-	21.0	11.7	33.6	35.4	6.6	3.5

問5付問. 自由時間の過ごし方

	宗教活動・政治活動	その他	特に何もしない	無回答
《今回調査(平成13年)》	62.0	105.0	18.0	16.0
(%)	2.0	3.4	0.6	0.5
《第2回調査(平成8年)》	46.0	82.0	17.0	21.0
(%)	1.6	2.9	0.6	0.7
《第1回調査(平成3年)》	54.0	70.0	51.0	15.0
(%)	1.9	2.4	1.8	0.5

問6. 生きがい構成要素取得の場
(1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは...

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	2252.0	1477.0	188.0	728.0	192.0	155.0	26.0	115.0
(%)	100	70.6	46.3	5.9	22.8	6.0	4.9	0.8	3.6
《第2回調査(平成8年)》	2909	1970.0	1372.0	170.0	558.0	162.0	118.0	28.0	207.0
(%)	100	67.7	47.2	5.8	19.2	5.6	4.1	1.0	7.1
《第1回調査(平成3年)》	3051	2087.0	1750.0	136.0	477.0	214.0	87.0	26.0	135.0
(%)	100	68.4	57.4	4.5	15.6	7.0	2.9	0.9	4.4

問6. 生きがい構成要素取得の場
(2)生活のどの場で、リズムやメリハリがつかますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1535.0	1782.0	208.0	505.0	276.0	170.0	54.0	196.0
(%)	100	48.1	55.9	6.5	15.8	8.7	5.3	1.7	6.1
《第2回調査(平成8年)》	2909	1316.0	1605.0	189.0	386.0	292.0	148.0	45.0	330.0
(%)	100	45.2	55.2	6.5	13.3	10.0	5.1	1.5	11.3
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-

問6. 生きがい構成要素取得の場
(3)心の安らぎや素晴らしさを感じるのは...

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
◀今回調査(平成13年)▶	3189	2492.0	198.0	157.0	1295.0	104.0	364.0	29.0	149.0
(%)	100	78.1	6.2	4.9	40.6	3.3	11.4	0.9	4.7
◀第2回調査(平成8年)▶	2909	2280.0	167.0	159.0	1037.0	131.0	314.0	16.0	211.0
(%)	100	78.4	5.7	5.5	35.6	4.5	10.8	0.6	7.3
◀第1回調査(平成3年)▶	3051	2487.0	273.0	154.0	1138.0	132.0	308.0	16.0	148.0
(%)	100	81.5	8.9	5.0	37.3	4.3	10.1	0.5	4.9

問6. 生きがい構成要素取得の場
(4)どの場で喜びや満足感を感じることが多いですか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
◀今回調査(平成13年)▶	3189	2093.0	1213.0	188.0	699.0	206.0	280.0	44.0	182.0
(%)	100	65.6	38.0	5.9	21.9	6.5	8.8	1.4	5.7
◀第2回調査(平成8年)▶	2909	1828.0	1096.0	171.0	525.0	182.0	238.0	36.0	305.0
(%)	100	62.8	37.7	5.9	18.0	6.3	8.2	1.2	10.5
◀第1回調査(平成3年)▶	3051	1818.0	1516.0	156.0	392.0	250.0	210.0	55.0	242.0
(%)	100	59.6	49.7	5.1	12.8	8.2	6.9	1.8	7.9

問6. 生きがい構成要素取得の場
(5)人生観や価値観に影響を与えているのは...

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
◀今回調査(平成13年)▶	3189	1102.0	1274.0	174.0	924.0	845.0	228.0	89.0	214.0
(%)	100	34.6	39.9	5.5	29.0	26.5	7.1	2.8	6.7
◀第2回調査(平成8年)▶	2909	912.0	1095.0	181.0	809.0	766.0	179.0	87.0	316.0
(%)	100	31.4	37.6	6.2	27.8	26.3	6.2	3.0	10.9
◀第1回調査(平成3年)▶	3051	707.0	1355.0	190.0	865.0	992.0	192.0	78.0	267.0
(%)	100	23.2	44.4	6.2	28.4	32.5	6.3	2.6	8.8

問6. 生きがい構成要素取得の場
(6)生活の目標や目的は、どこにあると感じますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
◀今回調査(平成13年)▶	3189	2245.0	1121.0	176.0	169.0	493.0	240.0	59.0	213.0
(%)	100	70.4	35.2	5.5	5.3	15.5	7.5	1.9	6.7
◀第2回調査(平成8年)▶	2909	1970.0	995.0	183.0	124.0	481.0	168.0	42.0	307.0
(%)	100	67.7	34.2	6.3	4.3	16.5	5.8	1.4	10.6
◀第1回調査(平成3年)▶	3051	2095.0	1221.0	151.0	86.0	538.0	156.0	41.0	271.0
(%)	100	68.7	40.0	4.9	2.8	17.6	5.1	1.3	8.9

問6. 生きがい構成要素取得の場
(7)どの場で生活が自分自身を向上させていると...

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
◀今回調査(平成13年)▶	3189	691.0	1865.0	279.0	490.0	925.0	231.0	58.0	213.0
(%)	100	21.7	58.5	8.7	15.4	29.0	7.2	1.8	6.7
◀第2回調査(平成8年)▶	2909	583.0	1642.0	255.0	394.0	852.0	173.0	62.0	326.0
(%)	100	20.0	56.4	8.8	13.5	29.3	5.9	2.1	11.2
◀第1回調査(平成3年)▶	3051	434.0	1908.0	263.0	404.0	1117.0	153.0	52.0	266.0
(%)	100	14.2	62.5	8.6	13.2	36.6	5.0	1.7	8.7

問6. 生きがい構成要素取得の場
(8)可能性を實現したり、やりとげたと感じるのは...

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
◀今回調査(平成13年)▶	3189	730.0	2036.0	316.0	183.0	616.0	320.0	111.0	191.0
(%)	100	22.9	63.8	9.9	5.7	19.3	10.0	3.5	6.0
◀第2回調査(平成8年)▶	2909	649.0	1854.0	262.0	126.0	551.0	240.0	97.0	318.0
(%)	100	22.3	63.7	9.0	4.3	18.9	8.3	3.3	10.9
◀第1回調査(平成3年)▶	3051	572.0	2109.0	280.0	129.0	624.0	230.0	127.0	261.0
(%)	100	18.7	69.1	9.2	4.2	20.5	7.5	4.2	8.6

問6. 生きがい構成要素取得の場
(9)役に立っていると感じたり評価を得ているのは...

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
◀今回調査(平成13年)▶	3189	1248.0	1922.0	370.0	313.0	421.0	173.0	136.0	174.0
(%)	100	39.1	60.3	11.6	9.8	13.2	5.4	4.3	5.5
◀第2回調査(平成8年)▶	2909	1077.0	1789.0	328.0	217.0	383.0	144.0	111.0	256.0
(%)	100	37.0	61.5	11.3	7.5	13.2	5.0	3.8	8.8
◀第1回調査(平成3年)▶	3051	962.0	2079.0	346.0	254.0	471.0	132.0	106.0	219.0
(%)	100	31.5	68.1	11.3	8.3	15.4	4.3	3.5	7.2

問7. 重視している立場
(1)親、夫または妻、一家の主など、家庭人の立場

	総数	大変重視している	少し重視している	あまり重視していない	まったく重視していない	無回答
◀今回調査(平成13年)▶	3189	2109.0	779.0	182.0	54.0	65.0
(%)	100	66.1	24.4	5.7	1.7	2.0
◀第2回調査(平成8年)▶	2909	1913.0	751.0	154.0	30.0	61.0
(%)	100	65.8	25.8	5.3	1.0	2.1
◀第1回調査(平成3年)▶	3051	2149.0	665.0	123.0	18.0	96.0
(%)	100	70.4	21.8	4.0	0.6	3.1

問7. 重視している立場
(2)〇〇会社員、〇〇の専門家など、職業人の立場

	総数	大変重視している	少し重視している	あまり重視していない	まったく重視していない	無回答
◀今回調査(平成13年)▶	3189	597.0	1208.0	962.0	294.0	128.0
(%)	100	18.7	37.9	30.2	9.2	4.0
◀第2回調査(平成8年)▶	2909	528.0	1140.0	910.0	208.0	123.0
(%)	100	18.2	39.2	31.3	7.2	4.2
◀第1回調査(平成3年)▶	3051	699.0	1195.0	809.0	177.0	171.0
(%)	100	22.9	39.2	26.5	5.8	5.6

問7. 重視している立場

(3)○○地域の住民、○○の隣人など、地域人の立場

	総数	大変重視している	少し重視している	あまり重視していない	まったく重視していない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	177.0	971.0	1497.0	431.0	113.0
(%)	100	5.6	30.4	46.9	13.5	3.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	215.0	924.0	1340.0	330.0	100.0
(%)	100	7.4	31.8	46.1	11.3	3.4
《第1回調査(平成3年)》	3051	276.0	1085.0	1295.0	247.0	148.0
(%)	100	9.0	35.6	42.4	8.1	4.9

問7. 重視している立場

(4)○○のメンバー、仲間など、グループ員の立場

	総数	大変重視している	少し重視している	あまり重視していない	まったく重視していない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	348.0	1210.0	1153.0	376.0	102.0
(%)	100	10.9	37.9	36.2	11.8	3.2
《第2回調査(平成8年)》	2909	389.0	1151.0	977.0	286.0	96.0
(%)	100	13.4	39.6	33.6	10.2	3.3
《第1回調査(平成3年)》	3051	401.0	1168.0	1085.0	244.0	153.0
(%)	100	13.1	38.3	35.6	8.0	5.0

問7. 重視している立場

(5)社会の一員、地球に住む人間としての立場

	総数	大変重視している	少し重視している	あまり重視していない	まったく重視していない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	607.0	1486.0	860.0	151.0	85.0
(%)	100	19.0	46.6	27.0	4.7	2.7
《第2回調査(平成8年)》	2909	564.0	1410.0	731.0	127.0	77.0
(%)	100	19.4	48.5	25.1	4.4	2.6
《第1回調査(平成3年)》	3051	657.0	1380.0	755.0	120.0	139.0
(%)	100	21.5	45.2	24.7	3.9	4.6

問8. 性格

(1)人との関係やつながりを大切にする

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1685.0	1286.0	181.0	13.0	24.0
(%)	100	52.8	40.3	5.7	0.4	0.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	1608.0	1110.0	151.0	10.0	30.0
(%)	100	55.3	38.2	5.2	0.3	1.0
《第1回調査(平成3年)》	3051	1534.0	1249.0	179.0	8.0	81.0
(%)	100	50.3	40.9	5.9	0.3	2.7

問8. 性格

(2)自分の世界や個性を大切にする

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1041.0	1556.0	514.0	25.0	53.0
(%)	100	32.6	48.8	16.1	0.8	1.7
《第2回調査(平成8年)》	2909	968.0	1408.0	468.0	22.0	43.0
(%)	100	33.3	48.4	16.1	0.8	1.5
《第1回調査(平成3年)》	3051	870.0	1487.0	506.0	23.0	165.0
(%)	100	28.5	48.7	16.6	0.8	5.4

問8. 性格

(3)いつも目標に向かってつき進む

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	596.0	1556.0	901.0	77.0	59.0
(%)	100	18.7	48.8	28.3	2.4	1.9
《第2回調査(平成8年)》	2909	584.0	1429.0	804.0	46.0	46.0
(%)	100	20.1	49.1	27.6	1.6	1.6
《第1回調査(平成3年)》	3051	623.0	1414.0	802.0	53.0	159.0
(%)	100	20.4	46.3	26.3	1.7	5.2

問8. 性格

(4)無理をせずマイペースで進む

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	795.0	1691.0	607.0	52.0	44.0
(%)	100	24.9	53.0	19.0	1.6	1.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	740.0	1541.0	545.0	50.0	33.0
(%)	100	25.4	53.0	18.7	1.7	1.1
《第1回調査(平成3年)》	3051	885.0	1548.0	468.0	36.0	114.0
(%)	100	29.0	50.7	15.3	1.2	3.7

問8. 性格

(5)他人にはない自分なりの価値観を持っている

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	746.0	1567.0	775.0	51.0	50.0
(%)	100	23.4	49.1	24.3	1.6	1.6
《第2回調査(平成8年)》	2909	729.0	1514.0	588.0	36.0	42.0
(%)	100	25.1	52.0	20.2	1.2	1.4
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 性格

(6)自分には他人にない優れたところがある

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	314.0	1375.0	1318.0	125.0	57.0
(%)	100	9.8	43.1	41.3	3.9	1.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	364.0	1346.0	1058.0	98.0	43.0
(%)	100	12.5	46.3	36.4	3.4	1.5
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 性格

(7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	511.0	1323.0	1167.0	139.0	49.0
(%)	100	16.0	41.5	36.6	4.4	1.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	512.0	1187.0	1064.0	110.0	36.0
(%)	100	17.6	40.8	36.6	3.8	1.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	501.0	1172.0	1092.0	134.0	152.0
(%)	100	16.4	38.4	35.8	4.4	5.0

問8. 性格

(8)一つのことじじく取り組む

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	500.0	1387.0	1144.0	100.0	58.0
(%)	100	15.7	43.5	35.9	3.1	1.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	468.0	1283.0	1034.0	86.0	38.0
(%)	100	16.1	44.1	35.5	3.0	1.3
《第1回調査(平成3年)》	3051	521.0	1335.0	954.0	90.0	151.0
(%)	100	17.1	43.8	31.3	2.9	4.9

問8. 性格

(9)指導者的立場に立とうとする

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	207.0	1027.0	1443.0	453.0	59.0
(%)	100	6.5	32.2	45.2	14.2	1.9
《第2回調査(平成8年)》	2909	257.0	1093.0	1171.0	343.0	45.0
(%)	100	8.8	37.6	40.3	11.8	1.5
《第1回調査(平成3年)》	3051	269.0	1039.0	1192.0	388.0	163.0
(%)	100	8.8	34.1	39.1	12.7	5.3

問8. 性格

(10)新しいグループの中に、わりと気軽に入れる

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	299.0	1211.0	1365.0	261.0	53.0
(%)	100	9.4	38.0	42.8	8.2	1.7
《第2回調査(平成8年)》	2909	349.0	1177.0	1123.0	225.0	35.0
(%)	100	12.0	40.5	38.6	7.7	1.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	310.0	1084.0	1251.0	256.0	150.0
(%)	100	10.2	35.5	41.0	8.4	4.9

問8. 性格

(11)いろいろな人の話や意見をよく聞く

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	708.0	1911.0	485.0	37.0	48.0
(%)	100	22.2	59.9	15.2	1.2	1.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	778.0	1655.0	410.0	31.0	35.0
(%)	100	26.7	56.9	14.1	1.1	1.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	805.0	1720.0	349.0	42.0	135.0
(%)	100	26.4	56.4	11.4	1.4	4.4

問8. 性格

(12)上下の立場や関係を尊重する

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	796.0	1725.0	544.0	76.0	48.0
(%)	100	25.0	54.1	17.1	2.4	1.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	810.0	1512.0	502.0	45.0	40.0
(%)	100	27.8	52.0	17.3	1.5	1.4
《第1回調査(平成3年)》	3051	993.0	1450.0	399.0	55.0	154.0
(%)	100	32.5	47.5	13.1	1.8	5.0

問8. 性格

(13)どんなところでも結構楽しみを見出す

	総数	よくあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	476.0	1606.0	980.0	83.0	44.0
(%)	100	14.9	50.4	30.7	2.6	1.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	478.0	1413.0	904.0	74.0	40.0
(%)	100	16.4	48.6	31.1	2.5	1.4
《第1回調査(平成3年)》	3051	459.0	1462.0	915.0	72.0	143.0
(%)	100	15.0	47.9	30.0	2.4	4.7

問9. 生きがいの意味

	総数	生活の活 力やばりあ い	生活のリズ ムやメリ リ	心の安らぎ や気晴らし	生きる喜び や満足感	人生観や 価値観の 形成	生きる目標 や目的	自分自身 の向上	自分の可 能性の実 現や何かを やりとげた と感じるこ と	他人や社 会の役に 立っている と感じるこ と	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	831.0	325.0	851.0	1291.0	277.0	559.0	582.0	898.0	544.0	20.0	16.0
(%)	100	26.1	10.2	26.7	40.5	8.7	17.5	18.3	28.2	17.1	0.6	0.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	761.0	281.0	723.0	1270.0	230.0	592.0	459.0	719.0	557.0	9.0	33.0
(%)	100	26.2	9.7	24.9	43.7	7.9	20.4	15.8	24.7	19.1	0.3	1.1
《第1回調査(平成3年)》	3051	1073.0	217.0	760.0	1433.0	297.0	597.0	679.0	-	777.0	8.0	30.0
(%)	100	35.2	7.1	24.9	47.0	9.7	19.6	22.3	-	25.5	0.3	1.0

問9付問. 生きがいの有無

	総数	持っている	前は持って いたが、今 は持ってい ない	持ってい ない	わからない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	2145.0	228.0	267.0	496.0	53.0
(%)	100	67.3	7.1	8.4	15.6	1.7
《第2回調査(平成8年)》	2909	2280.0	151.0	194.0	248.0	36.0
(%)	100	78.4	5.2	6.7	8.5	1.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	2021.0	282.0	400.0	297.0	51.0
(%)	100	66.2	9.2	13.1	9.7	1.7

問10. 生きがいの内容

	総数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然とのふ れあい	配偶者・結 婚生活	子ども・孫 親などの家 族・家庭	友人など家 族以外の 人との交流	自分自身 の健康づ くり	ひとりで 気ままに 過ごすこ と	自分自身 の内面の 充実	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1124.0	1400.0	466.0	182.0	185.0	588.0	733.0	1762.0	595.0	584.0	345.0	403.0	33.0	27.0
(%)	100	35.2	43.9	14.6	5.7	5.8	18.4	23.0	55.3	18.7	18.3	10.8	12.6	1.0	0.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	944.0	1094.0	352.0	136.0	205.0	516.0	498.0	1051.0	401.0	463.0	204.0	310.0	16.0	5.0
(%)	100	32.5	37.6	12.1	4.7	7.0	17.7	17.1	36.1	13.8	15.9	7.0	10.7	0.6	0.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問11. 生きがい度の変化

(1) 仕事の面

	総数	上がってき た	下がってき た	上がった り下が ったり 不安定	変わらない	*高	*中	*低	*無回答	どちらとも 言えない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	708.0	910.0	632.0	533.0	165.0	333.0	31.0	4.0	238.0	168.0
(%)	100	22.2	28.5	19.8	16.7	5.2	10.4	1.0	0.1	7.5	5.3
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問11. 生きがい度の変化

(2) 家庭の面

	総数	上がってき た	下がってき た	上がった り下が ったり 不安定	変わらない	*高	*中	*低	*無回答	どちらとも 言えない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1383.0	219.0	412.0	863.0	355.0	476.0	19.0	13.0	177.0	135.0
(%)	100	43.4	6.9	12.9	27.1	11.1	14.9	0.6	0.4	5.6	4.2
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問11. 生きがい度の変化

(3) 余暇活動・趣味の面

	総数	上がってき た	下がってき た	上がった り下が ったり 不安定	変わらない	*高	*中	*低	*無回答	どちらとも 言えない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1225.0	492.0	493.0	703.0	165.0	456.0	71.0	11.0	179.0	97.0
(%)	100	38.4	15.4	15.5	22.0	5.2	14.3	2.2	0.3	5.6	3.0
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問11. 生きがい度の変化

(4) 社会活動の面

	総数	上がってき た	下がってき た	上がった り下が ったり 不安定	変わらない	*高	*中	*低	*無回答	どちらとも 言えない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	378.0	450.0	373.0	1119.0	84.0	534.0	478.0	23.0	716.0	153.0
(%)	100	11.9	14.1	11.7	35.1	2.6	16.7	15.0	0.7	22.5	4.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問11. 生きがい度の変化

(5) 生活全体

	総数	上がってき た	下がってき た	上がった り下が ったり 不安定	変わらない	*高	*中	*低	*無回答	どちらとも 言えない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	895.0	405.0	631.0	887.0	238.0	603.0	29.0	17.0	256.0	115.0
(%)	100	28.1	12.7	19.8	27.8	7.5	18.9	0.9	0.5	8.0	3.6
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問12. 友人・仲間の有無

	総数	いる	いない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	2696.0	460.0	33.0
(%)	100	84.5	14.4	1.0
《第2回調査(平成8年)》	2909	2467.0	429.0	13.0
(%)	100	84.8	14.7	0.4
《第1回調査(平成3年)》	3051	2559.0	472.0	20.0
(%)	100	83.9	15.5	0.7

問12付問1. 友人・仲間を知り合った関係

該当数	幼なじみ・学生時代の友人・仲間	職場や仕事を通じて知り合った友人・仲間	近隣の人、地域で知り合った友人・仲間	趣味・パソコン教室などを通して知り合った友人・仲間	電子メールなどを通して知り合った友人・仲間	社会活動を通して知り合った友人・仲間	宗教活動を通して知り合った友人・仲間	家族や親戚・縁戚関係を通して知り合った友人・仲間	戦友	その他	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2696	1729.0	1975.0	605.0	715.0	23.0	269.0	77.0	510.0	7.0	18.0	18.0
(%)	100	64.1	73.3	22.4	26.5	0.9	10.0	2.9	18.9	0.3	0.7	0.7
《第2回調査(平成8年)》	2467	1615.0	1903.0	624.0	692.0	-	270.0	92.0	543.0	54.0	24.0	12.0
(%)	100	65.5	77.1	25.3	28.1	-	10.9	3.7	22.0	2.2	1.0	0.5
《第1回調査(平成3年)》	2559	1557.0	1975.0	612.0	960.0	-	273.0	126.0	626.0	178.0	20.0	7.0
(%)	100	60.8	77.2	23.9	37.5	-	10.7	4.9	24.5	7.0	0.8	0.3

問12付問2. 定年後に知り合った友人・仲間の関係

該当数	幼なじみ・学生時代の友人・仲間	職場や仕事を通じて知り合った友人・仲間	近隣の人、地域で知り合った友人・仲間	趣味・パソコン教室などを通して知り合った友人・仲間	電子メールなどを通して知り合った友人・仲間	社会活動を通して知り合った友人・仲間	宗教活動を通して知り合った友人・仲間	家族や親戚・縁戚関係を通して知り合った友人・仲間	戦友	その他	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1095	145.0	325.0	243.0	318.0	11.0	137.0	23.0	84.0	3.0	10.0	349.0
(%)	100	13.2	29.7	22.2	29.0	1.0	12.5	2.1	7.7	0.3	0.9	31.9
《第2回調査(平成8年)》	893	94.0	234.0	145.0	209.0	-	72.0	19.0	37.0	9.0	5.0	317.0
(%)	100	10.5	26.2	16.2	23.4	-	8.1	2.1	4.1	1.0	0.6	35.5
《第1回調査(平成3年)》	913	95.0	244.0	113.0	206.0	-	70.0	27.0	44.0	26.0	8.0	383.0
(%)	100	10.4	26.7	12.4	22.6	-	7.7	3.0	4.8	2.8	0.9	41.9

問13. 夫婦関係の現状

(1) 自分は配偶者を頼りにしている

該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2597	1431.0	949.0	152.0	11.0	54.0
(%)	100	55.1	36.5	5.9	0.4	2.1
《第2回調査(平成8年)》	2477	1438.0	866.0	110.0	11.0	52.0
(%)	100	58.1	35.0	4.4	0.4	2.1
《第1回調査(平成3年)》	2737	1475.0	963.0	149.0	14.0	136.0
(%)	100	53.9	35.2	5.4	0.5	5.0

問13. 夫婦関係の現状

(2) 自分は配偶者を理解している

該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2597	839.0	1439.0	255.0	12.0	52.0
(%)	100	32.3	55.4	9.8	0.5	2.0
《第2回調査(平成8年)》	2477	863.0	1318.0	239.0	4.0	53.0
(%)	100	34.8	53.2	9.6	0.2	2.1
《第1回調査(平成3年)》	2737	934.0	1414.0	225.0	6.0	158.0
(%)	100	34.1	51.7	8.2	0.2	5.8

問13. 夫婦関係の現状

(3) 自分は配偶者を愛している

該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2597	1284.0	1089.0	145.0	15.0	64.0
(%)	100	49.4	41.9	5.6	0.6	2.5
《第2回調査(平成8年)》	2477	1230.0	1061.0	119.0	10.0	57.0
(%)	100	49.7	42.8	4.8	0.4	2.3
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問13. 夫婦関係の現状

(4) 配偶者と価値観・考え方が似ている

該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2597	321.0	1089.0	974.0	148.0	65.0
(%)	100	12.4	41.9	37.5	5.7	2.5
《第2回調査(平成8年)》	2477	301.0	1044.0	944.0	127.0	61.0
(%)	100	12.2	42.1	38.1	5.1	2.5
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問13. 夫婦関係の現状

(5) 共通の趣味がある

該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2597	292.0	749.0	1108.0	380.0	68.0
(%)	100	11.2	28.8	42.7	14.6	2.6
《第2回調査(平成8年)》	2477	245.0	691.0	1154.0	326.0	61.0
(%)	100	9.9	27.9	46.6	13.2	2.5
《第1回調査(平成3年)》	2737	259.0	638.0	1330.0	339.0	171.0
(%)	100	9.5	23.3	48.6	12.4	6.2

問13. 夫婦関係の現状

(6) 対話がある

該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2597	756.0	1289.0	452.0	34.0	66.0
(%)	100	29.1	49.6	17.4	1.3	2.5
《第2回調査(平成8年)》	2477	678.0	1308.0	413.0	22.0	56.0
(%)	100	27.4	52.8	16.7	0.9	2.3
《第1回調査(平成3年)》	2737	675.0	1412.0	459.0	24.0	167.0
(%)	100	24.7	51.6	16.8	0.9	6.1

問13. 夫婦関係の現状
(7)よく一緒に出かける

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	889.0	971.0	593.0	77.0	67.0
(%)	100	34.2	37.4	22.8	3.0	2.6
《第2回調査(平成8年)》	2477	776.0	984.0	584.0	70.0	63.0
(%)	100	31.3	39.7	23.6	2.8	2.5
《第1回調査(平成3年)》	2737	704.0	1030.0	767.0	71.0	165.0
(%)	100	25.7	37.6	28.0	2.6	6.0

問13. 夫婦関係の現状
(8)配偶者の独自の趣味や行動を尊重している

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	1067.0	1217.0	221.0	30.0	62.0
(%)	100	41.1	46.9	8.5	1.2	2.4
《第2回調査(平成8年)》	2477	949.0	1218.0	237.0	14.0	59.0
(%)	100	38.3	49.2	9.6	0.6	2.4
《第1回調査(平成3年)》	2737	923.0	1350.0	284.0	16.0	164.0
(%)	100	33.7	49.3	10.4	0.6	6.0

問13. 夫婦関係の現状
(9)自分は配偶者を助けている

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	572.0	1345.0	582.0	32.0	66.0
(%)	100	22.0	51.8	22.4	1.2	2.5
《第2回調査(平成8年)》	2477	541.0	1311.0	557.0	13.0	55.0
(%)	100	21.8	52.9	22.5	0.5	2.2
《第1回調査(平成3年)》	2737	497.0	1336.0	719.0	32.0	153.0
(%)	100	18.2	48.8	26.3	1.2	5.6

問13. 夫婦関係の現状
(10)配偶者は自分によりかかりすぎる

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	136.0	646.0	1545.0	204.0	66.0
(%)	100	5.2	24.9	59.5	7.9	2.5
《第2回調査(平成8年)》	2477	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2737	161.0	779.0	1478.0	156.0	163.0
(%)	100	5.9	28.5	54.0	5.7	6.0

問13. 夫婦関係の現状
(11)配偶者と家事を分担している

	該当数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	178.0	729.0	1177.0	457.0	56.0
(%)	100	6.9	28.1	45.3	17.6	2.2
《第2回調査(平成8年)》	2477	268.0	663.0	1109.0	382.0	55.0
(%)	100	10.8	26.8	44.8	15.4	2.2
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問14. 夫婦関係で大切なこと
(1)配偶者と互いに頼りこしあうこと

	該当数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	1649.0	803.0	79.0	30.0	36.0
(%)	100	63.5	30.9	3.0	1.2	1.4
《第2回調査(平成8年)》	2477	1744.0	645.0	54.0	16.0	18.0
(%)	100	70.4	26.0	2.2	0.6	0.7
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問14. 夫婦関係で大切なこと
(2)配偶者と互いに理解しあうこと

	該当数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	1913.0	590.0	48.0	10.0	36.0
(%)	100	73.7	22.7	1.8	0.4	1.4
《第2回調査(平成8年)》	2477	1818.0	593.0	44.0	3.0	19.0
(%)	100	73.4	23.9	1.8	0.1	0.8
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問14. 夫婦関係で大切なこと
(3)配偶者から愛情が感じられること

	該当数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	1597.0	787.0	153.0	17.0	43.0
(%)	100	61.5	30.3	5.9	0.7	1.7
《第2回調査(平成8年)》	2477	1460.0	843.0	145.0	7.0	22.0
(%)	100	58.9	34.0	5.9	0.3	0.9
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問14. 夫婦関係で大切なこと
(4)価値観や考え方を共有すること

	該当数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	852.0	1236.0	331.0	128.0	50.0
(%)	100	32.8	47.6	12.7	4.9	1.9
《第2回調査(平成8年)》	2477	748.0	1259.0	355.0	88.0	27.0
(%)	100	30.2	50.8	14.3	3.6	1.1
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問14. 夫婦関係で大切なこと
(5) 共通の趣味を持つこと

	該当数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	513.0	1155.0	525.0	358.0	46.0
(%)	100	19.8	44.5	20.2	13.8	1.8
《第2回調査(平成8年)》	2477	503.0	1158.0	513.0	281.0	22.0
(%)	100	20.3	46.8	20.7	11.3	0.9
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問14. 夫婦関係で大切なこと
(6) 対話を持つこと

	該当数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	1580.0	887.0	68.0	19.0	43.0
(%)	100	60.8	34.2	2.6	0.7	1.7
《第2回調査(平成8年)》	2477	1543.0	834.0	66.0	9.0	25.0
(%)	100	62.3	33.7	2.7	0.4	1.0
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問14. 夫婦関係で大切なこと
(7) 一緒に行動すること

	該当数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	768.0	1328.0	295.0	158.0	48.0
(%)	100	29.6	51.1	11.4	6.1	1.8
《第2回調査(平成8年)》	2477	762.0	1302.0	254.0	132.0	27.0
(%)	100	30.8	52.6	10.3	5.3	1.1
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問14. 夫婦関係で大切なこと
(8) 互いに独自の趣味や行動を尊重すること

	該当数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	1293.0	1086.0	132.0	40.0	46.0
(%)	100	49.8	41.8	5.1	1.5	1.8
《第2回調査(平成8年)》	2477	1212.0	1080.0	138.0	25.0	22.0
(%)	100	48.9	43.6	5.6	1.0	0.9
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問14. 夫婦関係で大切なこと
(9) 配偶者と助け合うこと

	該当数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	1761.0	732.0	51.0	15.0	38.0
(%)	100	67.8	28.2	2.0	0.6	1.5
《第2回調査(平成8年)》	2477	1732.0	678.0	42.0	5.0	20.0
(%)	100	69.9	27.4	1.7	0.2	0.8
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問14. 夫婦関係で大切なこと
(10) 配偶者と家事を分担し合うこと

	該当数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2597	495.0	1295.0	494.0	275.0	38.0
(%)	100	19.1	49.9	19.0	10.6	1.5
《第2回調査(平成8年)》	2477	462.0	1188.0	573.0	234.0	20.0
(%)	100	18.7	48.0	23.1	9.4	0.8
《第1回調査(平成3年)》	2737	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問15(1). 自分の親が寝たきり等になった場合の対応

	総数	自分自身が中心になって介護する	配偶者が中心になって介護する	主にホームヘルパー等に介護をまかせる	老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	890.0	646.0	352.0	504.0	353.0	444.0
(%)	100	27.9	20.3	11.0	15.8	11.1	13.9
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問15(2). 配偶者の親が寝たきり等になった場合の対応

	総数	自分自身が中心になって介護する	配偶者が中心になって介護する	主にホームヘルパー等に介護をまかせる	老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	292.0	1108.0	288.0	454.0	375.0	672.0
(%)	100	9.2	34.7	9.0	14.2	11.8	21.1
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問15(3). 配偶者が寝たきり等になった場合の対応

	総数	自分自身が中心になって介護する	子ども等が中心になって介護する	主にホームヘルパー等に介護をまかせる	老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	2129.0	62.0	203.0	150.0	152.0	78.0	415.0
(%)	100	66.8	1.9	6.4	4.7	4.8	2.4	13.0
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-

問15(4). 自分が寝たきり等になった場合

	総数	配偶者が中心になって介護する	子ども等が中心になって介護する	主にホームヘルパー等に介護をまかせる	一人で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1471.0	79.0	333.0	827.0	240.0	93.0	146.0
(%)	100	46.1	2.5	10.4	25.9	7.5	2.9	4.6
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-

問15付問(1). 介護の負担と自分の生活

	総数	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	559.0	1804.0	747.0	79.0
(%)	100	17.5	56.6	23.4	2.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-

問15付問(2). 介護と共生

	総数	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1079.0	1794.0	233.0	83.0
(%)	100	33.8	56.3	7.3	2.6
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-

問16(1). 長生きについての受けとめ方

	総数	生きられるなら、いつまでも生きたい	生き長らえるのは健康なうちだけでよい	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	416.0	2673.0	59.0	41.0
(%)	100	13.0	83.8	1.9	1.3
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-

問16(2). 長生きの年齢

	総数	60歳未満	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90~99歳	100歳以上	無回答	平均(歳)
《今回調査(平成13年)》	3189	3.0	33.0	646.0	1922.0	417.0	107.0	61.0	81.2
(%)	100	0.1	1.0	20.3	60.3	13.1	3.4	1.9	81.2
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-

問17. 定年のイメージ

	総数	わずらわしい人間関係から解放される	所属する組織や肩書がなくなる	家庭サービスができる	経済的に苦しくなる	自由な時間が増え、自分をとり戻す	生活の目標や気持ちがなくなる	接触する人や情報が減る	新しい人生が開ける	社会から取り残される	決まりきった行動パターンから解放される	自己実現の場や機会がなくなる	精神的に楽になる	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	772.0	481.0	449.0	1227.0	1641.0	502.0	529.0	1111.0	102.0	629.0	89.0	1061.0	78.0
(%)	100	24.2	15.1	14.1	38.5	51.5	15.7	16.6	34.8	3.2	19.7	2.8	33.3	2.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	742.0	506.0	429.0	1023.0	1452.0	490.0	660.0	954.0	84.0	586.0	89.0	884.0	48.0
(%)	100	25.5	17.4	14.7	35.2	49.9	16.8	22.7	32.8	2.9	20.1	3.1	30.4	1.7
《第1回調査(平成3年)》	3051	797.0	570.0	497.0	1012.0	1386.0	566.0	635.0	971.0	136.0	662.0	124.0	945.0	69.0
(%)	100	26.1	18.7	16.3	33.2	45.4	18.6	20.8	31.8	4.5	21.7	4.1	31.0	2.3

問18. 職業生活からの引退時期についての年齢規範

	総数	引退にふさわしい年齢がある	健康な限りは何才まででも働きたい	引退にふさわしい年齢はない	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1581.0	946.0	480.0	87.0	95.0
(%)	100	49.6	29.7	15.1	2.7	3.0
《第2回調査(平成8年)》	2909	1401.0	965.0	418.0	67.0	58.0
(%)	100	48.2	33.2	14.4	2.3	2.0
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

※問18. 職業生活からの引退時期についての年齢規範(年齢)

	該当数	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
《今回調査(平成13年)》	1581	2.0	20.0	98.0	484.0	812.0	153.0	9.0	3.0	63.4
(%)	100	0.1	1.3	6.2	30.6	51.4	9.7	0.6	0.2	63.4
《第2回調査(平成8年)》	1401	3.0	18.0	64.0	481.0	726.0	86.0	12.0	11.0	63.2
(%)	100	0.2	1.3	4.6	34.3	51.8	6.1	0.9	0.8	63.2
《第1回調査(平成3年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問19. 定年経験の有無・定年・退職年齢

	総数	まだ定年前	定年前に退職した	定年退職した	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1920.0	226.0	1032.0	11.0
(%)	100	60.2	7.1	32.4	0.3
《第2回調査(平成8年)》	2909	1832.0	184.0	860.0	33.0
(%)	100	63.0	6.3	29.6	1.1
《第1回調査(平成3年)》	3051	1778.0	198.0	877.0	198.0
(%)	100	58.3	6.5	28.7	6.5

※問19. 定年経験の有無、定年・退職年齢(「定年前」の定年)

	該当数	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
《今回調査(平成13年)》	1920	5.0	11.0	125.0	1476.0	81.0	11.0	1.0	210.0	59.9
(%)	100	0.3	0.6	6.5	76.9	4.2	0.6	0.1	10.9	59.9
《第2回調査(平成8年)》	1832	5.0	5.0	136.0	1382.0	62.0	4.0	3.0	235.0	59.9
(%)	100	0.3	0.3	7.4	75.4	3.4	0.2	0.2	12.8	59.9
《第1回調査(平成3年)》	1778	0.0	1.0	299.0	1320.0	79.0	0.0	0.0	79.0	59.6
(%)	100	0.0	0.1	16.8	74.2	4.4	0.0	0.0	4.4	59.6

※問19. 定年経験の有無、定年・退職年齢(「定年前に退職」の退職年齢)

	該当数	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
《今回調査(平成13年)》	226	16.0	54.0	120.0	25.0	4.0	0.0	0.0	7.0	55.6
(%)	100	7.1	23.9	53.1	11.1	1.8	0.0	0.0	3.1	55.6
《第2回調査(平成8年)》	184	8.0	42.0	89.0	34.0	9.0	1.0	0.0	1.0	56.5
(%)	100	4.3	22.8	48.4	18.5	4.9	0.5	0.0	0.5	56.5
《第1回調査(平成3年)》	198	0.0	52.0	102.0	31.0	2.0	0.0	0.0	11.0	56.3
(%)	100	0.0	26.3	51.5	15.7	1.0	0.0	0.0	5.6	56.3

※問19. 定年経験の有無、定年・退職年齢(「定年退職」の定年)

	該当数	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
《今回調査(平成13年)》	1032	1.0	16.0	181.0	725.0	69.0	6.0	0.0	34.0	59.8
(%)	100	0.1	1.6	17.5	70.3	6.7	0.6	0.0	3.3	59.8
《第2回調査(平成8年)》	860	1.0	5.0	210.0	557.0	74.0	7.0	0.0	6.0	59.7
(%)	100	0.1	0.6	24.4	64.8	8.6	0.8	0.0	0.7	59.7
《第1回調査(平成3年)》	877	0.0	20.0	367.0	423.0	56.0	0.0	0.0	11.0	58.7
(%)	100	0.0	2.3	41.8	48.2	6.4	0.0	0.0	1.3	58.7

問20(1). 定年後の生活設計の有無(現役)

	該当数	ほとんど設計ができていない	ある程度設計ができていない	考えてはいない	気にはしているが、あまり深く考えていない	まったく考えていない	無回答
《今回調査(平成13年)》	1920	36.0	187.0	265.0	1059.0	346.0	27.0
(%)	100	1.9	9.7	13.8	55.2	18.0	1.4
《第2回調査(平成8年)》	1832	46.0	228.0	298.0	916.0	290.0	54.0
(%)	100	2.5	12.4	16.3	50.0	15.8	2.9
《第1回調査(平成3年)》	1778	47.0	188.0	354.0	896.0	288.0	5.0
(%)	100	2.6	10.6	19.9	50.4	16.2	0.3

問20(2). 定年後の経済基盤として重視するもの(現役)

	該当数	公的年金	企業年金	退職金	生命保険の保険金や個人年金	預貯金の取りぐずし	就労による収入	子ども等からの経済的支援	その他	わからない・考えたことがない	無回答
《今回調査(平成13年)》	1920	1385.0	1007.0	793.0	385.0	491.0	582.0	17.0	37.0	68.0	23.0
(%)	100	72.1	52.4	41.3	20.1	25.6	30.3	0.9	1.9	3.5	1.2
《第2回調査(平成8年)》	1832	1426.0	979.0	708.0	470.0	321.0	573.0	12.0	44.0	72.0	23.0
(%)	100	77.8	53.4	38.6	25.7	17.5	31.3	0.7	2.4	3.9	1.3
《第1回調査(平成3年)》	1778	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問20(3). 定年後の不安(現役)

	該当数	生計維持の困難	住宅の問題	自分や配偶者の健康	配偶者や親の介護	配偶者に先立たれる	再就職の問題	家族との人間関係が悪くなる	生活のほりや生きがいがなくなる	所属や肩書がなくなる	今までの人的交流や情報量が減る	世の中の情報化の進展についていけない	社会から取り残される	時間をもてあます	無回答
《今回調査(平成13年)》	1920	1004.0	251.0	1067.0	429.0	303.0	477.0	15.0	311.0	36.0	242.0	85.0	70.0	353.0	
(%)	100	52.3	13.1	55.6	22.3	15.8	24.8	0.8	16.2	1.9	12.6	4.4	3.6	18.4	
《第2回調査(平成8年)》	1832	762.0	223.0	1009.0	359.0	301.0	451.0	24.0	356.0	59.0	371.0	92.0	83.0	341.0	
(%)	100	41.6	12.2	55.1	19.6	16.4	24.6	1.3	19.4	3.2	20.3	5.0	4.5	18.6	
《第1回調査(平成3年)》	1778	704.0	216.0	909.0	-	251.0	517.0	17.0	398.0	95.0	407.0	-	85.0	396.0	
(%)	100	39.6	12.1	51.1	-	14.1	29.1	1.0	22.4	5.3	22.9	-	4.8	22.3	

問20(3). 定年後の不安(現役)

	該当数	地域社会にとけこめない	その他	特に不安を感じない	無回答
《今回調査(平成13年)》	99.0	20.0	192.0	30.0	
(%)	5.2	1.0	10.0	1.6	
《第2回調査(平成8年)》	84.0	21.0	203.0	29.0	
(%)	4.6	1.1	11.1	1.6	
《第1回調査(平成3年)》	101.0	17.0	239.0	16.0	
(%)	5.7	1.0	13.4	0.9	

問20(4). 希望する定年後の生活(現役)

	該当数	健康に恵まれた生活	時間的にゆとりのある生活	経済的にゆとりのある生活	精神的にゆとりのある生活	夫婦関係や家族関係を大切にしたい生活	友人や仲間とのつきあいを大切にする生活	好きな趣味に打ち込む生活	好きな仕事を続ける生活	それまでの知識や経験を活かす生活	自然とのふれあいのある生活	社会のために役立つ生活	その他	特になし	無回答
《今回調査(平成13年)》	1920	1474.0	273.0	830.0	555.0	728.0	331.0	496.0	129.0	147.0	347.0	160.0	7.0	5.0	18.0
(%)	100	76.8	14.2	43.2	28.9	37.9	17.2	25.8	6.7	7.7	18.1	8.3	0.4	0.3	0.9
《第2回調査(平成8年)》	1832	1439.0	213.0	757.0	522.0	699.0	332.0	462.0	165.0	133.0	302.0	186.0	7.0	6.0	15.0
(%)	100	78.5	11.6	41.3	28.5	38.2	18.1	25.2	9.0	7.3	16.5	10.2	0.4	0.3	0.8
《第1回調査(平成3年)》	1778	1375.0	225.0	807.0	444.0	690.0	315.0	609.0	-	210.0	249.0	168.0	4.0	3.0	5.0
(%)	100	77.3	12.7	45.4	25.0	38.8	17.7	34.3	-	11.8	14.0	9.4	0.2	0.2	0.3

問20(5). 定年までの勤務希望(現役)

	該当数	定年まで勤めたい	定年前に退職したい	無回答
《今回調査(平成13年)》	1920	1506.0	357.0	57.0
(%)	100	78.4	18.6	3.0
《第2回調査(平成8年)》	1832	1465.0	264.0	103.0
(%)	100	80.0	14.4	5.6
《第1回調査(平成3年)》	1778	1440.0	303.0	35.0
(%)	100	81.0	17.0	2.0

※問20(5). 定年までの勤務希望(退職までの希望年数)(現役)

該当数	5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	0年	無回答	平均(年) *0年含む	
《今回調査(平成13年)》	357	125.0	93.0	78.0	15.0	5.0	0.0	41.0	6.1
(%)	100	35.0	26.1	21.8	4.2	1.4	0.0	11.5	6.1
《第2回調査(平成8年)》	264	97.0	81.0	45.0	13.0	2.0	5.0	21.0	5.6
(%)	100	36.7	30.7	17.0	4.9	0.8	1.9	8.0	5.6
《第1回調査(平成3年)》	303	94.0	94.0	55.0	12.0	3.0	0.0	45.0	5.8
(%)	100	31.0	31.0	18.2	4.0	1.0	0.0	14.9	5.8

問20(6). 退職後の就業希望(現役)

該当数	退職とともに職業生活から引退したい	再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤めたい	退職後は出向先に移籍したい	退職後は別の企業に再就職したい	退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む)	退職後は家族を手伝いたい	退職後はシルバー人材センターで簡単な仕事をしたい	その他	わからない	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1920	490.0	279.0	50.0	281.0	235.0	24.0	234.0	53.0	250.0	24.0
(%)	100	25.5	14.5	2.6	14.6	12.2	1.3	12.2	2.8	13.0	1.3
《第2回調査(平成8年)》	1832	452.0	321.0	47.0	283.0	189.0	25.0	184.0	46.0	238.0	47.0
(%)	100	24.7	17.5	2.6	15.4	10.3	1.4	10.0	2.5	13.0	2.6
《第1回調査(平成3年)》	1778	442.0	252.0	55.0	295.0	262.0	24.0	149.0	39.0	232.0	28.0
(%)	100	24.9	14.2	3.1	16.6	14.7	1.3	8.4	2.2	13.0	1.6

問20(7). 退職後の就業予想(現役)

該当数	退職とともに職業生活から引退する	再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤める	退職後は出向先に移籍する	退職後は別の企業に再就職する	退職後は自分で事業や商売を始める(自由業を含む)	退職後は家族を手伝う	退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をする	その他	わからない	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1920	495.0	226.0	79.0	287.0	147.0	33.0	162.0	40.0	419.0	32.0
(%)	100	25.8	11.8	4.1	14.9	7.7	1.7	8.4	2.1	21.8	1.7
《第2回調査(平成8年)》	1832	495.0	218.0	63.0	306.0	117.0	31.0	135.0	35.0	368.0	64.0
(%)	100	27.0	11.9	3.4	16.7	6.4	1.7	7.4	1.9	20.1	3.5
《第1回調査(平成3年)》	1778	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問21(1). 退職前の職種(OB)

該当数	専門技術職(研究職・技師等)	管理職(役員・課長以上の管理職)	事務職(一般事務・営業・経理事務等)	販売職(店員・セールス等)	技能職・技術補助・生産工程従事・作業者	サービス職(添乗員・ホテルマン等)	その他	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	50.0	663.0	260.0	32.0	161.0	11.0	50.0	31.0
(%)	100	4.0	52.7	20.7	2.5	12.8	0.9	4.0	2.5
《第2回調査(平成8年)》	1044	48.0	573.0	174.0	14.0	132.0	12.0	33.0	58.0
(%)	100	4.6	54.9	16.7	1.3	12.6	1.1	3.2	5.6
《第1回調査(平成3年)》	1075	39.0	606.0	173.0	13.0	157.0	5.0	19.0	63.0
(%)	100	3.6	56.4	16.1	1.2	14.6	0.5	1.8	5.9

問21(2). 退職前の勤務先の企業規模(OB)

該当数	1~29人	30~99人	100~299人	300~999人	1000人以上	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	88.0	81.0	103.0	99.0	856.0	31.0
(%)	100	7.0	6.4	8.2	7.9	68.0	2.5
《第2回調査(平成8年)》	1044	55.0	76.0	91.0	110.0	661.0	51.0
(%)	100	5.3	7.3	8.7	10.5	63.3	4.9
《第1回調査(平成3年)》	1075	60.0	81.0	103.0	130.0	665.0	36.0
(%)	100	5.6	7.5	9.6	12.1	61.9	3.3

問21(3). 定年前の就業状況についての満足度(OB)

1) 仕事の内容

該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	397.0	567.0	168.0	69.0	19.0	38.0
(%)	100	31.6	45.1	13.4	5.5	1.5	3.0
《第2回調査(平成8年)》	1044	336.0	452.0	137.0	53.0	12.0	54.0
(%)	100	32.2	43.3	13.1	5.1	1.1	5.2
《第1回調査(平成3年)》	1075	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問21(3). 定年前の就業状況についての満足度(OB)

2) 就業形態

該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	292.0	585.0	234.0	77.0	17.0	53.0
(%)	100	23.2	46.5	18.6	6.1	1.4	4.2
《第2回調査(平成8年)》	1044	255.0	494.0	160.0	50.0	13.0	72.0
(%)	100	24.4	47.3	15.3	4.8	1.2	6.9
《第1回調査(平成3年)》	1075	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問21(3). 定年前の就業状況についての満足度(OB)

3) 職場での地位の高さ

該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	261.0	519.0	303.0	84.0	35.0	56.0
(%)	100	20.7	41.3	24.1	6.7	2.8	4.5
《第2回調査(平成8年)》	1044	216.0	445.0	214.0	83.0	22.0	64.0
(%)	100	20.7	42.6	20.5	8.0	2.1	6.1
《第1回調査(平成3年)》	1075	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問21(3). 定年前の就業状況についての満足度(OB)

4) 賃金

該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	190.0	522.0	288.0	164.0	47.0	47.0
(%)	100	15.1	41.5	22.9	13.0	3.7	3.7
《第2回調査(平成8年)》	1044	164.0	407.0	228.0	148.0	37.0	60.0
(%)	100	15.7	39.0	21.8	14.2	3.5	5.7
《第1回調査(平成3年)》	1075	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問21(3). 定年前の就業状況についての満足度(OB)

5) 福利厚生

該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	254.0	558.0	265.0	103.0	31.0	47.0
(%)	100	20.2	44.4	21.1	8.2	2.5	3.7
《第2回調査(平成8年)》	1044	206.0	470.0	208.0	72.0	22.0	66.0
(%)	100	19.7	45.0	19.9	6.9	2.1	6.3
《第1回調査(平成3年)》	1075	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問21(3). 定年前の就業状況についての満足度(OB)

6) 職場の人間関係・雰囲気

該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	228.0	557.0	290.0	111.0	28.0	44.0
(%)	100	18.1	44.3	23.1	8.8	2.2	3.5
《第2回調査(平成8年)》	1044	191.0	487.0	209.0	82.0	16.0	59.0
(%)	100	18.3	46.6	20.0	7.9	1.5	5.7
《第1回調査(平成3年)》	1075	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問21(3). 定年前の就業状況についての満足度(OB)

7) 全体として

該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	246.0	606.0	244.0	95.0	21.0	46.0
(%)	100	19.6	48.2	19.4	7.6	1.7	3.7
《第2回調査(平成8年)》	1044	195.0	524.0	189.0	63.0	15.0	58.0
(%)	100	18.7	50.2	18.1	6.0	1.4	5.6
《第1回調査(平成3年)》	1075	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問21(4). 退職後の就業の有無・形態(OB)

該当数	退職とともに職業生活から引退した	再雇用や勤務延長制度等により、前の会社に勤めた	退職後は出向先に移籍した	退職後は別の企業に再就職した	退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む)	退職後は家業を手伝うようになった	退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった	その他	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	402.0	208.0	155.0	300.0	42.0	13.0	31.0	80.0	27.0
(%)	100	32.0	16.5	12.3	23.8	3.3	1.0	2.5	6.4	2.1
《第2回調査(平成8年)》	1044	290.0	182.0	108.0	272.0	42.0	20.0	22.0	60.0	48.0
(%)	100	27.8	17.4	10.3	26.1	4.0	1.9	2.1	5.7	4.6
《第1回調査(平成3年)》	1075	237.0	220.0	113.0	328.0	37.0	19.0	13.0	34.0	74.0
(%)	100	22.0	20.5	10.5	30.5	3.4	1.8	1.2	3.2	6.9

問21(5). 希望していた定年後の就業(OB)

該当数	退職とともに職業生活から引退する	再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤める	退職後は出向先に移籍する	退職後は別の企業に再就職する	退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む)	退職後は家業を手伝う	退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をする	その他	わからない・考えたことがなかった	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	374.0	229.0	107.0	221.0	71.0	11.0	47.0	29.0	147.0	22.0
(%)	100	29.7	18.2	8.5	17.6	5.6	0.9	3.7	2.3	11.7	1.7
《第2回調査(平成8年)》	1044	256.0	229.0	72.0	211.0	68.0	10.0	39.0	22.0	103.0	34.0
(%)	100	24.5	21.9	6.9	20.2	6.5	1.0	3.7	2.1	9.9	3.3
《第1回調査(平成3年)》	1075	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問21(6). 定年後の生活設計の有無(OB)

該当数	ほとんど設計ができていた	ある程度設計ができていた	考えてはいた	気にはしていたが、あまり深くは考えていなかった	まったく考えていなかった	無回答	
《今回調査(平成13年)》	1258	54.0	222.0	222.0	621.0	114.0	25.0
(%)	100	4.3	17.6	17.6	49.4	9.1	2.0
《第2回調査(平成8年)》	1044	50.0	169.0	207.0	491.0	94.0	33.0
(%)	100	4.8	16.2	19.8	47.0	9.0	3.2
《第1回調査(平成3年)》	1075	55.0	175.0	244.0	463.0	115.0	23.0
(%)	100	5.1	16.3	22.7	43.1	10.7	2.1

問21(7). 定年後の不安(OB)

該当数	生計維持の困難	住宅の問題	自分や配偶者の健康	配偶者や親の介護	配偶者に先立たれる	再就職の問題	家族との人間関係が悪くなる	生活のほりや生きがいがなくなる	所属や肩書きがなくなる	今までの人的交流や情報量が減る	世の中の情報化の進展についていけない	社会に残される	時間をもてあます	
《今回調査(平成13年)》	1258	372.0	102.0	470.0	139.0	103.0	293.0	7.0	233.0	56.0	244.0	65.0	79.0	220.0
(%)	100	29.6	8.1	37.4	11.0	8.2	23.3	0.6	18.5	4.5	19.4	5.2	6.3	17.5
《第2回調査(平成8年)》	1044	295.0	89.0	427.0	115.0	80.0	281.0	15.0	178.0	63.0	230.0	58.0	46.0	146.0
(%)	100	28.3	8.5	40.9	11.0	7.7	26.9	1.4	17.0	6.0	22.0	5.4	4.4	14.0
《第1回調査(平成3年)》	1075	330.0	112.0	381.0	-	78.0	360.0	10.0	205.0	85.0	204.0	-	88.0	156.0
(%)	100	30.7	10.4	35.4	-	7.3	33.5	0.9	19.1	7.9	19.0	-	8.2	14.5

問21(7). 定年後の不安(OB)

該当数	地域社会にとけこめない	その他	特に不安を感じない	無回答
《今回調査(平成13年)》	59.0	13.0	289.0	33.0
(%)	4.7	1.0	23.0	2.6
《第2回調査(平成8年)》	41.0	7.0	227.0	44.0
(%)	3.9	0.7	21.7	4.2
《第1回調査(平成3年)》	38.0	11.0	251.0	34.0
(%)	3.5	1.0	23.3	3.2

問21(8). 定年後の生活問題(OB)

	該当数	経済的に苦しくなった	住宅問題で困った	自分や配偶者の健康や体力が衰えた	配偶者や親の介護が必要になった	配偶者に先立たれた	再就職のことで困った	家族との人間関係が悪くなった	生活のはりや生きがいやなくなつた	所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	今までの人的交流や情報量が減つて困つた	世の中の情報化の進展についていけず困つた	社会から取り残されてしまった	時間をもてあました
《今回調査(平成13年)》	1258	386.0	40.0	414.0	140.0	44.0	115.0	22.0	121.0	100.0	213.0	75.0	24.0	146.0
(%)	100	30.7	3.2	32.9	11.1	3.5	9.1	1.7	9.6	7.9	16.9	6.0	1.9	11.6
《第2回調査(平成8年)》	1044	247.0	28.0	341.0	103.0	40.0	86.0	17.0	80.0	86.0	148.0	43.0	16.0	100.0
(%)	100	23.7	2.7	32.7	9.9	3.8	8.2	1.6	7.7	8.2	14.2	4.1	1.5	9.6
《第1回調査(平成3年)》	1075	258.0	26.0	313.0	-	44.0	82.0	21.0	75.0	115.0	174.0	-	25.0	106.0
(%)	100	24.0	2.4	29.1	-	4.1	7.6	2.0	7.0	10.7	16.2	-	2.3	9.9

問21(8). 定年後の生活問題(OB)

	該当数	地域社会にとけこめなかつた	その他	特に問題はなかつた	無回答
《今回調査(平成13年)》		60.0	39.0	351.0	56.0
(%)		4.8	3.1	27.9	4.5
《第2回調査(平成8年)》		43.0	10.0	296.0	65.0
(%)		4.1	1.0	28.4	6.2
《第1回調査(平成3年)》		39.0	14.0	357.0	61.0
(%)		3.6	1.3	33.2	5.7

問21(8)付問. 定年が契機になって起こつた不安

	該当数	経済的に苦しくなった	住宅問題で困った	自分や配偶者の健康や体力が衰えた	配偶者や親の介護が必要になった	配偶者に先立たれた	再就職のことで困った	家族との人間関係が悪くなった	生活のはりや生きがいやなくなつた	所属や肩書がなくなり、淋しい思いをした	今までの人的交流や情報量が減つて困つた	世の中の情報化の進展についていけず困つた	社会から取り残されてしまった	時間をもてあました
《今回調査(平成13年)》	851	291.0	34.0	217.0	76.0	20.0	90.0	16.0	72.0	63.0	148.0	54.0	13.0	104.0
(%)	100	34.2	4.0	25.5	8.9	2.4	10.6	1.9	8.5	7.4	17.4	6.3	1.5	12.2
《第2回調査(平成8年)》	683	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	657	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問21(8)付問. 定年が契機になって起こつた不安

	該当数	地域社会にとけこめなかつた	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》		36.0	24.0	187.0
(%)		4.2	2.8	22.0
《第2回調査(平成8年)》		-	-	-
(%)		-	-	-
《第1回調査(平成3年)》		-	-	-
(%)		-	-	-

問21(9). 希望していた定年後の生活(OB)

	該当数	健康に恵まれた生活	時間的にゆとりのある生活	経済的にゆとりのある生活	精神的にゆとりのある生活	夫婦関係や家族関係を大切に生活	友人や仲間とのつきあいを大切に生活	好きな趣味にうち込む生活	好きな仕事を生活	それまでの知識や経験を活かす生活	自然とのふれあいのある生活	社会のために役立つ生活	その他	特になかつた	無回答
《今回調査(平成13年)》	1258	822.0	300.0	408.0	307.0	355.0	221.0	452.0	119.0	162.0	194.0	141.0	6.0	26.0	33.0
(%)	100	65.3	23.8	32.4	24.4	28.2	17.6	35.9	9.5	12.9	15.4	11.2	0.5	2.1	2.6
《第2回調査(平成8年)》	1044	705.0	211.0	348.0	211.0	296.0	167.0	353.0	116.0	139.0	131.0	93.0	6.0	31.0	38.0
(%)	100	67.5	20.2	33.3	20.2	28.4	16.0	33.8	11.1	13.3	12.5	8.9	0.6	3.0	3.6
《第1回調査(平成3年)》	1075	699.0	210.0	401.0	239.0	313.0	144.0	428.0	-	176.0	121.0	121.0	5.0	38.0	32.0
(%)	100	65.0	19.5	37.3	22.2	29.1	13.4	39.8	-	16.4	11.3	11.3	0.5	3.5	3.0

問22(1). 定年退職へ向けて必要な個人的対応

	総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味を持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にする	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域のひととの交流を深める	会社以外の活動の場をつつておく	その他	特に何も必要ない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	2012.0	1520.0	945.0	406.0	524.0	299.0	170.0	367.0	5.0	7.0	59.0
(%)	100	63.1	47.7	29.6	12.7	16.4	9.4	5.3	11.5	0.2	0.2	1.9
《第2回調査(平成8年)》	2909	1800.0	1297.0	895.0	340.0	498.0	257.0	173.0	291.0	2.0	15.0	73.0
(%)	100	61.9	44.6	30.8	11.7	17.1	8.8	5.9	10.0	0.1	0.5	2.5
《第1回調査(平成3年)》	3051	1929.0	1518.0	1002.0	414.0	409.0	256.0	182.0	305.0	6.0	15.0	46.0
(%)	100	63.2	49.8	32.8	13.6	13.4	8.4	6.0	10.0	0.2	0.5	1.5

問22(1)付問. 定年退職へ向けて準備している(していた)こと

	総数	健康の維持・増進を心がける	貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる	生涯楽しめる趣味を持つ	定年後も活かせる専門的技術を身につける	夫婦・家族の関係を大切にする	友人や仲間との交流を深める	近隣や地域のひととの交流を深める	会社以外の活動の場をつつておく	その他	特に何も必要ない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1969.0	1527.0	1189.0	379.0	978.0	874.0	425.0	366.0	39.0	183.0	94.0
(%)	100	61.7	47.9	37.3	11.9	30.7	27.4	13.3	11.5	1.2	5.7	2.9
《第2回調査(平成8年)》	2909	1957.0	1536.0	1265.0	367.0	1102.0	964.0	487.0	436.0	22.0	130.0	86.0
(%)	100	67.3	52.8	43.5	12.6	37.9	33.1	16.7	15.0	0.8	4.5	3.0
《第1回調査(平成3年)》	3051	1891.0	1621.0	1297.0	411.0	929.0	933.0	496.0	419.0	27.0	184.0	148.0
(%)	100	62.0	53.1	42.5	13.5	30.4	30.6	16.3	13.7	0.9	6.0	4.9

問22(2). 定年退職へ向けて必要な企業の対応

	総数	退職準備教育や退職相談を充実させる	企業年金の充実など社員の経済的基盤を充実させる	労働時間の短縮で、社員の個人的生活にゆとりを持たせる	中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる	希望者には定年年齢を延長させる	定年後の再雇用などの場を用意する	社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける	定年前の“ならし運転”のための休暇制度を設ける	その他	特に何も必要ない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	747.0	1339.0	447.0	547.0	858.0	1015.0	302.0	208.0	29.0	133.0	88.0
(%)	100	23.4	42.0	14.0	17.2	26.9	31.8	9.5	6.5	0.9	4.2	2.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	747.0	1342.0	457.0	500.0	728.0	827.0	258.0	169.0	11.0	76.0	149.0
(%)	100	25.7	46.1	15.7	17.2	25.0	28.4	8.9	5.8	0.4	2.6	5.1
《第1回調査(平成3年)》	3051	687.0	1617.0	622.0	464.0	681.0	911.0	285.0	170.0	13.0	51.0	119.0
(%)	100	22.5	53.0	20.4	15.2	22.3	29.9	9.3	5.6	0.4	1.7	3.9

問22(3). 定年退職へ向けて必要な社会的対応

	総数	できるだけ希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる	定年退職者の能力を活かす場を増やす	サラリーマンOBが入り得る交流の場をつくる	趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する	中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける	退職後の生活をよくするための研究や提案に力を入れる	その他	特に何も必要ない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1592.0	1516.0	313.0	790.0	638.0	481.0	35.0	98.0	76.0
(%)	100	49.9	47.5	9.8	24.8	20.0	15.1	1.1	3.1	2.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	1514.0	1275.0	387.0	761.0	595.0	393.0	20.0	59.0	142.0
(%)	100	52.0	43.8	13.3	26.2	20.5	13.5	0.7	2.0	4.9
《第1回調査(平成3年)》	3051	1554.0	1457.0	497.0	734.0	567.0	547.0	11.0	33.0	117.0
(%)	100	50.9	47.8	16.3	24.1	18.6	17.9	0.4	1.1	3.8

問22(4). 定年に関する意見・提案

	総数	回答あり	回答なし
《今回調査(平成13年)》	3189	401.0	2788.0
(%)	100	12.6	87.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-
(%)	100	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-
(%)	100	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方

(1) 仕事の中でこそ自己実現が図れる

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	308.0	1425.0	1193.0	122.0	141.0
(%)	100	9.7	44.7	37.4	3.8	4.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	358.0	1279.0	1027.0	105.0	140.0
(%)	100	12.3	44.0	35.3	3.6	4.8
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方

(2) 仕事は生計を立てるための手段に過ぎない

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	398.0	1601.0	931.0	139.0	120.0
(%)	100	12.5	50.2	29.2	4.4	3.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	355.0	1491.0	834.0	115.0	114.0
(%)	100	12.2	51.3	28.7	4.0	3.9
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方

(3) どの会社でも十分通用する職業能力がある

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	169.0	1141.0	1562.0	188.0	129.0
(%)	100	5.3	35.8	49.0	5.9	4.0
《第2回調査(平成8年)》	2909	160.0	1191.0	1312.0	124.0	122.0
(%)	100	5.5	40.9	45.1	4.3	4.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方

(4) 会社は自分を正当に評価している(していた)

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	148.0	1738.0	1070.0	110.0	123.0
(%)	100	4.6	54.5	33.6	3.4	3.9
《第2回調査(平成8年)》	2909	178.0	1532.0	1002.0	89.0	108.0
(%)	100	6.1	52.7	34.4	3.1	3.7
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方

(5) 自分の会社には尽くしたい

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	491.0	1902.0	564.0	87.0	145.0
(%)	100	15.4	59.6	17.7	2.7	4.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	477.0	1739.0	513.0	67.0	113.0
(%)	100	16.4	59.8	17.6	2.3	3.9
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方

(6) 脱サラを考えたことがある・脱サラしたい

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	112.0	669.0	1328.0	925.0	155.0
(%)	100	3.5	21.0	41.6	29.0	4.9
《第2回調査(平成8年)》	2909	133.0	542.0	1084.0	1012.0	138.0
(%)	100	4.6	18.6	37.3	34.8	4.7
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方

(7) 上司や同僚とは仕事を離れてもつき合いたい

	総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	154.0	1086.0	1494.0	315.0	140.0
(%)	100	4.8	34.1	46.8	9.9	4.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	198.0	1071.0	1266.0	260.0	114.0
(%)	100	6.8	36.8	43.5	8.9	3.9
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方
(8) 仕事のためには個人を犠牲してもやむを得ない

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	155.0	1418.0	1183.0	292.0	141.0
(%)	100	4.9	44.5	37.1	9.2	4.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	166.0	1238.0	1099.0	292.0	114.0
(%)	100	5.7	42.6	37.8	10.0	3.9
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方
(9) 仕事をするからには多少無理しても出世したい

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	77.0	850.0	1757.0	371.0	134.0
(%)	100	2.4	26.7	55.1	11.6	4.2
《第2回調査(平成8年)》	2909	92.0	852.0	1515.0	333.0	117.0
(%)	100	3.2	29.3	52.1	11.4	4.0
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方
(10) 出世よりも興味のある仕事に専念したい

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	375.0	1631.0	923.0	117.0	143.0
(%)	100	11.8	51.1	28.9	3.7	4.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	330.0	1468.0	880.0	102.0	129.0
(%)	100	11.3	50.5	30.3	3.5	4.4
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方
(11) 定年まで会社に勤められるかどうか不安だ

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	243.0	931.0	1335.0	542.0	138.0
(%)	100	7.6	29.2	41.9	17.0	4.3
《第2回調査(平成8年)》	2909	148.0	670.0	1294.0	666.0	131.0
(%)	100	5.1	23.0	44.5	22.9	4.5
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方
(12) 会社は定年退職後の社員へのめんどうみもよい

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	135.0	978.0	1397.0	539.0	140.0
(%)	100	4.2	30.7	43.8	16.9	4.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	154.0	857.0	1259.0	508.0	131.0
(%)	100	5.3	29.5	43.3	17.5	4.5
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23. 会社とのかかわりについての考え方
(13) 定年後は会社の世話になりたくない

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	558.0	1369.0	939.0	190.0	133.0
(%)	100	17.5	42.9	29.4	6.0	4.2
《第2回調査(平成8年)》	2909	486.0	1153.0	915.0	234.0	121.0
(%)	100	16.7	39.6	31.5	8.0	4.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問23付問. 現在の就業状況についての満足度
(1) 仕事の内容

	該当数	とても満足 している	やや満足し ている	どちらとも いえない	やや不満で ある	とても不満 である	無回答
《今回調査(平成13年)》	2349	313.0	1152.0	534.0	189.0	57.0	104.0
(%)	100	13.3	49.0	22.7	8.0	2.4	4.4
《第2回調査(平成8年)》	2250	398.0	1098.0	484.0	171.0	50.0	49.0
(%)	100	17.7	48.8	21.5	7.6	2.2	2.2
《第1回調査(平成3年)》	2461	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問23付問. 現在の就業状況についての満足度
(2) 就業形態

	該当数	とても満足 している	やや満足し ている	どちらとも いえない	やや不満で ある	とても不満 である	無回答
《今回調査(平成13年)》	2349	309.0	1083.0	511.0	272.0	62.0	112.0
(%)	100	13.2	46.1	21.8	11.6	2.6	4.8
《第2回調査(平成8年)》	2250	356.0	1052.0	498.0	240.0	44.0	60.0
(%)	100	15.8	46.8	22.1	10.7	2.0	2.7
《第1回調査(平成3年)》	2461	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問23付問. 現在の就業状況についての満足度
(3) 職場での地位の高さ

	該当数	とても満足 している	やや満足し ている	どちらとも いえない	やや不満で ある	とても不満 である	無回答
《今回調査(平成13年)》	2349	232.0	856.0	824.0	236.0	81.0	120.0
(%)	100	9.9	36.4	35.1	10.0	3.4	5.1
《第2回調査(平成8年)》	2250	259.0	833.0	813.0	211.0	60.0	74.0
(%)	100	11.5	37.0	36.1	9.4	2.7	3.3
《第1回調査(平成3年)》	2461	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問23付問.現在の就業状況についての満足度
(4)賃金

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答
《今回調査(平成13年)》	2349	151.0	730.0	610.0	537.0	207.0	114.0
(%)	100	6.4	31.1	26.0	22.9	8.8	4.9
《第2回調査(平成8年)》	2250	144.0	690.0	653.0	529.0	170.0	64.0
(%)	100	6.4	30.7	29.0	23.5	7.6	2.8
《第1回調査(平成3年)》	2461	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問23付問.現在の就業状況についての満足度
(5)福利厚生

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答
《今回調査(平成13年)》	2349	153.0	776.0	747.0	405.0	145.0	123.0
(%)	100	6.5	33.0	31.8	17.2	6.2	5.2
《第2回調査(平成8年)》	2250	175.0	737.0	688.0	408.0	163.0	79.0
(%)	100	7.8	32.8	30.6	18.1	7.2	3.5
《第1回調査(平成3年)》	2461	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問23付問.現在の就業状況についての満足度
(6)職場の人間関係・雰囲気

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答
《今回調査(平成13年)》	2349	177.0	956.0	705.0	285.0	113.0	113.0
(%)	100	7.5	40.7	30.0	12.1	4.8	4.8
《第2回調査(平成8年)》	2250	244.0	913.0	657.0	272.0	104.0	60.0
(%)	100	10.8	40.6	29.2	12.1	4.6	2.7
《第1回調査(平成3年)》	2461	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問23付問.現在の就業状況についての満足度
(7)全体として

	該当数	とても満足している	やや満足している	どちらともいえない	やや不満である	とても不満である	無回答
《今回調査(平成13年)》	2349	164.0	1055.0	661.0	297.0	62.0	110.0
(%)	100	7.0	44.9	28.1	12.6	2.6	4.7
《第2回調査(平成8年)》	2250	190.0	1089.0	603.0	255.0	57.0	56.0
(%)	100	8.4	48.4	26.8	11.3	2.5	2.5
《第1回調査(平成3年)》	2461	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

フェイスシート

F1. 性別・年齢(性別)

	総数	男	女	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	2372.0	776.0	41.0
(%)	100	74.4	24.3	1.3
《第2回調査(平成8年)》	2909	2296.0	547.0	66.0
(%)	100	78.9	18.8	2.3
《第1回調査(平成3年)》	3051	2440.0	578.0	33.0
(%)	100	80.0	18.9	1.1

F1. 性別・年齢(年齢)

	総数	35歳未満	35~39歳	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
《今回調査(平成13年)》	3189	0.0	341.0	331.0	358.0	419.0	448.0	407.0	556.0	248.0	0.0	81.0	54.9
(%)	100	0.0	10.7	10.4	11.2	13.1	14.0	12.8	17.4	7.8	0.0	2.5	54.9
《第2回調査(平成8年)》	2909	0.0	262.0	336.0	348.0	314.0	405.0	399.0	521.0	214.0	0.0	110.0	55.2
(%)	100	0.0	9.0	11.6	12.0	10.8	13.9	13.7	17.9	7.4	0.0	3.8	55.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	0.0	265.0	426.0	362.0	360.0	425.0	439.0	472.0	230.0	0.0	72.0	54.6
(%)	100	0.0	8.7	14.0	11.9	11.8	13.9	14.4	15.5	7.5	0.0	2.4	54.6

F2. 居住地(都道府県)

	総数	北海道・東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	248.0	1322.0	484.0	574.0	236.0	252.0	73.0
(%)	100	7.8	41.5	15.2	18.0	7.4	7.9	2.3
《第2回調査(平成8年)》	2909	195.0	796.0	825.0	580.0	221.0	176.0	116.0
(%)	100	6.7	27.4	28.4	19.9	7.6	6.1	4.0
《第1回調査(平成3年)》	3051	271.0	1131.0	436.0	589.0	316.0	234.0	74.0
(%)	100	8.9	37.1	14.3	19.3	10.4	7.7	2.4

F2. 居住地(市町村)

	総数	東京23区・政令指定都市	その他の市	郡部	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	879.0	1942.0	256.0	112.0
(%)	100	27.6	60.9	8.0	3.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	804.0	1661.0	274.0	170.0
(%)	100	27.6	57.1	9.4	5.8
《第1回調査(平成3年)》	3051	865.0	1780.0	300.0	106.0
(%)	100	28.4	58.3	9.8	3.5

F3. 居住年数

	総数	5年未満	5年以上~10年未満	10年以上~20年未満	20年以上~30年未満	30年以上	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	328.0	350.0	584.0	675.0	1198.0	54.0
(%)	100	10.3	11.0	18.3	21.2	37.6	1.7
《第2回調査(平成8年)》	2909	304.0	244.0	660.0	636.0	968.0	97.0
(%)	100	10.5	8.4	22.7	21.9	33.3	3.3
《第1回調査(平成3年)》	3051	347.0	313.0	818.0	548.0	992.0	33.0
(%)	100	11.4	10.3	26.8	18.0	32.5	1.1

F4. 最終学歴

	総数	小学校・高等小学校・新制中学校	旧制中学校・高等女学校・実業学校・新制高等学校	旧制高等学校・高等師範学校・新制短大	大学・大学院	専門学校・専修学校	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	287.0	1162.0	164.0	1276.0	138.0	10.0	152.0
(%)	100	9.0	36.4	5.1	40.0	4.3	0.3	4.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	346.0	1193.0	170.0	952.0	103.0	44.0	101.0
(%)	100	11.9	41.0	5.8	32.7	3.5	1.5	3.5
《第1回調査(平成3年)》	3051	449.0	1336.0	222.0	843.0	116.0	23.0	62.0
(%)	100	14.7	43.8	7.3	27.6	3.8	0.8	2.0

F5. 未既婚

	総数	未婚	既婚(配偶者あり)	既婚(離別)	既婚(死別)	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	370.0	2597.0	70.0	105.0	47.0
(%)	100	11.6	81.4	2.2	3.3	1.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	248.0	2477.0	43.0	99.0	42.0
(%)	100	8.5	85.1	1.5	3.4	1.4
《第1回調査(平成3年)》	3051	176.0	2737.0	41.0	65.0	32.0
(%)	100	5.8	89.7	1.3	2.1	1.0

F6. 世帯構成

	総数	ひとり暮らし	自分たち夫婦だけ	自分たち夫婦(または自分)と未婚の子	自分たち夫婦(または自分)と子ども夫婦	自分たち夫婦(または自分)と親	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	281.0	759.0	1226.0	143.0	564.0	72.0	144.0
(%)	100	8.8	23.8	38.4	4.5	17.7	2.3	4.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	191.0	701.0	1136.0	148.0	461.0	171.0	101.0
(%)	100	6.6	24.1	39.1	5.1	15.8	5.9	3.5
《第1回調査(平成3年)》	3051	174.0	780.0	1282.0	194.0	411.0	84.0	126.0
(%)	100	5.7	25.6	42.0	6.4	13.5	2.8	4.1

F7. 住居形態

	総数	持ち家(一戸建て)	持ち家(分譲マンション等)	社宅・会社の寮	公社・公団・公営の賃貸住宅	民間の借家・マンション・アパート	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	2125.0	471.0	123.0	113.0	201.0	12.0	144.0
(%)	100	66.6	14.8	3.9	3.5	6.3	0.4	4.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	2057.0	338.0	100.0	102.0	187.0	30.0	95.0
(%)	100	70.7	11.6	3.4	3.5	6.4	1.0	3.3
《第1回調査(平成3年)》	3051	2210.0	283.0	140.0	114.0	229.0	27.0	48.0
(%)	100	72.4	9.3	4.6	3.7	7.5	0.9	1.6

F7付問. 住宅ローンの有無

	総数	払っている	払っていない	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1019.0	1962.0	208.0
(%)	100	32.0	61.5	6.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-
(%)	100	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	1041.0	1373.0	79.0
(%)	100	34.1	45.0	2.6

※F7付問. 住宅ローンの有無(残り支払年数)

	該当数	5年未満	5~10年未満	10~15年未満	15~20年未満	20年以上	0年	無回答	平均(年)*0年含む
《今回調査(平成13年)》	1019	96.0	164.0	213.0	152.0	333.0	0.0	61.0	15.4
(%)	100	9.4	16.1	20.9	14.9	32.7	0.0	6.0	15.4
《第2回調査(平成8年)》	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	1041	154.0	209.0	203.0	176.0	255.0	7.0	37.0	12.8
(%)	100	14.8	20.1	19.5	16.9	24.5	0.7	3.6	12.8

F8. 現在の健康状態

	総数	非常に健康	まあ健康	注意する点はあるが、日常生活に支障はない	注意する点があり、日常生活に制限がある	病気がち・療養中	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	339.0	1642.0	907.0	108.0	53.0	140.0
(%)	100	10.6	51.5	28.4	3.4	1.7	4.4
《第2回調査(平成8年)》	2909	410.0	1455.0	841.0	71.0	38.0	94.0
(%)	100	14.1	50.0	28.9	2.4	1.3	3.2
《第1回調査(平成3年)》	3051	388.0	1514.0	950.0	89.0	54.0	56.0
(%)	100	12.7	49.6	31.1	2.9	1.8	1.8

F9. 過去5年間に経験したライフイベント

	総数	子どもや孫の誕生	子どもの成人・就職	子どもや孫との別居	子どもの結婚	自分自身の入院	配偶者の入院	その他の家族の入院	配偶者の死	その他の家族の死	昇進・昇格	出向・転職・退職	災害等による資産の減少・経済的困難	自宅の購入・建て替え
《今回調査(平成13年)》	3189	854.0	556.0	243.0	605.0	515.0	376.0	703.0	36.0	653.0	702.0	651.0	55.0	511.0
(%)	100	26.8	17.4	7.6	19.0	16.1	11.8	22.0	1.1	20.5	22.0	20.4	1.7	16.0
《第2回調査(平成8年)》	2909	795.0	561.0	218.0	558.0	489.0	353.0	536.0	43.0	500.0	604.0	544.0	70.0	449.0
(%)	100	27.3	19.3	7.5	19.2	16.8	12.1	18.4	1.5	17.2	20.8	18.7	2.4	15.4
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

F9. 過去5年間に経験したライフイベント

	いずれもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	338.0	164.0
(%)	10.6	5.1
《第2回調査(平成8年)》	304.0	125.0
(%)	10.5	4.3
《第1回調査(平成3年)》	-	-
(%)	-	-

F10. 世帯年収

単純集計 20/28ページ

	総数	200万円未満	200万円以上～300万円未満	300万円以上～400万円未満	400万円以上～500万円未満	500万円以上～600万円未満	600万円以上～800万円未満	800万円以上～1000万円未満	1000万円以上～1500万円未満	1500万円以上	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	88.0	195.0	305.0	337.0	322.0	610.0	471.0	569.0	105.0	187.0
(%)	100	2.8	6.1	9.6	10.6	10.1	19.1	14.8	17.8	3.3	5.9
《第2回調査(平成8年)》	2909	42.0	144.0	273.0	277.0	297.0	605.0	466.0	555.0	121.0	129.0
(%)	100	1.4	5.0	9.4	9.5	10.2	20.8	16.0	19.1	4.2	4.4
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

F10付問1. 主な収入源

	総数	給与	年金収入(公的・企業・個人年金)	不動産収入	利息・配当金収入	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	2182.0	823.0	23.0	0.0	16.0	145.0
(%)	100	68.4	25.8	0.7	0.0	0.5	4.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

F10付問2. 収入の充足程度

	総数	十分で余裕がある	ほぼ十分である	やや不足する	非常に不足する	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	217.0	1621.0	1004.0	196.0	151.0
(%)	100	6.8	50.8	31.5	6.1	4.7
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

F11. 現在の経済的な暮らし向き

	総数	とても楽だ	少し楽だ	苦しい	とても苦しい	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	202.0	1733.0	984.0	94.0	176.0
(%)	100	6.3	54.3	30.9	2.9	5.5
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

F12. 現在の就業形態

	総数	正規の社員・従業員	派遣・嘱託・パート・タイマーなど	自営業・自由業・家族従業員	内職	シルバー人材センター(高齢者事業団)	無職	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	3189	1917.0	333.0	67.0	6.0	26.0	554.0	4.0	282.0
(%)	100	60.1	10.4	2.1	0.2	0.8	17.4	0.1	8.8
《第2回調査(平成8年)》	2909	1853.0	274.0	80.0	13.0	30.0	509.0	55.0	95.0
(%)	100	63.7	9.4	2.8	0.4	1.0	17.5	1.9	3.3
《第1回調査(平成3年)》	3051	2047.0	303.0	80.0	8.0	23.0	506.0	-	84.0
(%)	100	67.1	9.9	2.6	0.3	0.8	16.6	-	2.8

※F12. 現在の就業形態(退職後経過年数)

	該当数	5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	0年	無回答	平均(年)*0年含む
《今回調査(平成13年)》	554	284.0	188.0	45.0	15.0	2.0	1.0	19.0	4.8
(%)	100	51.3	33.9	8.1	2.7	0.4	0.2	3.4	4.8
《第2回調査(平成8年)》	509	279.0	130.0	60.0	9.0	2.0	4.0	25.0	4.7
(%)	100	54.8	25.5	11.8	1.8	0.4	0.8	4.9	4.7
《第1回調査(平成3年)》	506	207.0	141.0	62.0	10.0	0.0	19.0	67.0	5.0
(%)	100	40.9	27.9	12.3	2.0	0.0	3.8	13.2	5.0

F13(1). 現在の職種

	該当数	専門技術職(研究職・技師等)	管理職(役員・課長以上の管理職)	事務職(一般事務・営業事務等)	販売職(店員・セールス等)	技能職・技術補助・生産工程従事・作業者	サービス職(添乗員・ホテルマン等)	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	2349	149.0	920.0	869.0	62.0	231.0	54.0	21.0	43.0
(%)	100	6.3	39.2	37.0	2.6	9.8	2.3	0.9	1.8
《第2回調査(平成8年)》	2250	100.0	923.0	747.0	49.0	224.0	36.0	105.0	66.0
(%)	100	4.4	41.0	33.2	2.2	10.0	1.6	4.7	2.9
《第1回調査(平成3年)》	2461	119.0	1126.0	700.0	56.0	245.0	35.0	79.0	101.0
(%)	100	4.8	45.8	28.4	2.3	10.0	1.4	3.2	4.1

F13(2). 現在の勤務先の企業規模

	該当数	1～29人	30～99人	100～299人	300～999人	1000人以上	無回答
《今回調査(平成13年)》	2349	383.0	256.0	232.0	252.0	1161.0	65.0
(%)	100	16.3	10.9	9.9	10.7	49.4	2.8
《第2回調査(平成8年)》	2250	342.0	274.0	254.0	250.0	1059.0	71.0
(%)	100	15.2	12.2	11.3	11.1	47.1	3.2
《第1回調査(平成3年)》	2461	395.0	272.0	328.0	316.0	1060.0	90.0
(%)	100	16.1	11.1	13.3	12.8	43.1	3.7

F13(3). 現在の1週間の勤務日数

	該当数	1日未満	1～2日未満	2～3日未満	3～4日未満	4～5日未満	5～6日未満	6～7日未満	7日以上	0日	無回答	平均(日)*0日含む
《今回調査(平成13年)》	2349	0.0	19.0	36.0	60.0	52.0	1884.0	228.0	20.0	0.0	50.0	5.0
(%)	100	0.0	0.8	1.5	2.6	2.2	80.2	9.7	0.9	0.0	2.1	5.0
《第2回調査(平成8年)》	2250	1.0	13.0	22.0	44.0	36.0	1787.0	267.0	10.0	1.0	69.0	5.0
(%)	100	0.0	0.6	1.0	2.0	1.6	79.4	11.9	0.4	0.0	3.1	5.0
《第1回調査(平成3年)》	2461	0.0	20.0	30.0	40.0	38.0	1520.0	687.0	22.0	0.0	104.0	5.2
(%)	100	0.0	0.8	1.2	1.6	1.5	61.8	27.9	0.9	0.0	4.2	5.2

F13(4). 現在の1日の勤務時間

	該当数	1時間未満	1~2時間 未満	2~3時間 未満	3~4時間 未満	4~5時間 未満	5~6時間 未満	6~7時間 未満	7~8時間 未満	8~9時間 未満	9~10時 間未満	10~12 時間未満	12~15時 間未満	15時間以 上
《今回調査(平成13年)》	2349	0.0	0.0	9.0	19.0	25.0	34.0	53.0	191.0	1328.0	255.0	254.0	112.0	12.0
(%)	100	0.0	0.0	0.4	0.8	1.1	1.4	2.3	8.1	56.5	10.9	10.8	4.8	0.5
《第2回調査(平成8年)》	2250	1.0	2.0	3.0	15.0	25.0	34.0	48.0	451.0	1141.0	195.0	160.0	65.0	8.0
(%)	100	0.0	0.1	0.1	0.7	1.1	1.5	2.1	20.0	50.7	8.7	7.1	2.9	0.4
《第1回調査(平成3年)》	2461	0.0	2.0	5.0	19.0	15.0	28.0	48.0	278.0	1330.0	285.0	208.0	62.0	97.0
(%)	100	0.0	0.1	0.2	0.8	0.6	1.1	2.0	11.3	54.0	11.6	8.5	2.5	3.9

F13(4). 現在の1日の勤務時間

	0時間	無回答	平均(時 間)*0時 間含む
《今回調査(平成13年)》	0.0	57.0	8.3
(%)	0.0	2.4	8.3
《第2回調査(平成8年)》	1.0	101.0	8.1
(%)	0.0	4.5	8.1
《第1回調査(平成3年)》	1.0	83.0	9.4
(%)	0.0	3.4	9.4

調査についての自由回答

	総数	回答あり	回答なし
《今回調査(平成13年)》	3189	397.0	2792.0
(%)	100	12.4	87.6
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-
(%)	100	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-
(%)	100	-	-

別の意見聴取に応じてよい方

	総数	回答あり	回答なし
《今回調査(平成13年)》	3189	573.0	2616.0
(%)	100	18.0	82.0
《第2回調査(平成8年)》	2909	-	-
(%)	100	-	-
《第1回調査(平成3年)》	3051	-	-
(%)	100	-	-

【配偶者調査】

問1. 近所づきあいの程度

	総数	ほとんどつきあいはない	顔が合えば挨拶をする	たまには立ち話をする	互いに訪問したり、何かを一緒にする	お互いの事情がわかり困ったときに相談したり助け合う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	60	598	1107	402	329	29
(%)	100	2.4	23.7	43.8	15.9	13	1.1
《第2回調査(平成8年)》	2430	41	465	1057	517	336	14
(%)	100	1.7	19.1	43.5	21.3	13.8	0.6
《第1回調査(平成3年)》	2573	36	458	1041	568	365	105
(%)	100	1.4	17.8	40.5	22.1	14.2	4.1

問2. 所属・活動団体

	総数	趣味やスポーツのクラブ・サークル	学習・研究会や教室	職場・職域関係の団体・グループ	定年退職者の会など、旧職場の集まり	PTA・父母会や子供会・青少年団体	難病や障害児・者を持つ家族の会	町内会・自治会や防災・防犯協会	老人クラブや地域の同好会	消費者団体やボランティア、NPOなど社会活動団体	宗教団体・政治団体	その他	いずれもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1097	337	268	92	399	32	498	111	154	113	63	581	119
(%)	100	43.4	13.3	10.6	3.6	15.8	1.3	19.7	4.4	6.1	4.5	2.5	23	4.7
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	1097	396	293	205	378	25	468	135	179	175	58	551	97
(%)	100	42.6	15.4	11.4	8	14.7	1	18.2	5.2	7	6.8	2.3	21.4	3.8

問2付問. リーダー経験(現在)

	該当数	趣味やスポーツのクラブ・サークル	学習・研究会や教室	職場・職域関係の団体・グループ	定年退職者の会など、旧職場の集まり	PTA・父母会や子供会・青少年団体	難病や障害児・者を持つ家族の会	町内会・自治会や防災・防犯協会	老人クラブや地域の同好会	消費者団体やボランティア、NPOなど社会活動団体	宗教団体・政治団体	その他	リーダーをしている所属・活動団体がある(計)	無回答
《今回調査(平成13年)》	1825	222	66	44	14	135	6	132	14	44	34	14	564	1261
(%)	100	12.2	3.6	2.4	0.8	7.4	0.3	7.2	0.8	2.4	1.9	0.8	30.9	69.1
《第2回調査(平成8年)》	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	1925	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問2付問. リーダー経験(過去)

	総数	趣味やスポーツのクラブ・サークル	学習・研究会や教室	職場・職域関係の団体・グループ	定年退職者の会など、旧職場の集まり	PTA・父母会や子供会・青少年団体	難病や障害児・者を持つ家族の会	町内会・自治会や防災・防犯協会	老人クラブや地域の同好会	消費者団体やボランティア、NPOなど社会活動団体	宗教団体・政治団体	その他	リーダーをしたことのある団体がある(計)	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	190	46	40	9	324	6	237	13	28	16	12	696	1829
(%)	100	7.5	1.8	1.6	0.4	12.8	0.2	9.4	0.5	1.1	0.6	0.5	27.6	72.4
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問3. 社会活動参加状況

	総数	定期的に参加している	ときどき参加している	以前に参加したことがある	参加していない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	376	307	321	1261	260
(%)	100	14.9	12.2	12.7	49.9	10.3
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	283	437	398	1360	95
(%)	100	11	17	15.5	52.9	3.7

問3付問1. 社会活動参加分野

	該当数	地域の生活環境を守る活動	地域のイベントや「村おこし」の活動	趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動	児童や青少年活動としての活動	地域の文化財や伝統を守る活動	消費者活動や生活向上のための活動	障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動	行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動	自然保護や環境保全の活動	国際交流に関する活動	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	683	212	149	166	105	27	61	160	41	31	26	48	5
(%)	100	31	21.8	24.3	15.4	4	8.9	23.4	6	4.5	3.8	7	0.7
《第2回調査(平成8年)》	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	720	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問3付問2. 社会活動参加理由

	該当数	地域や社会に貢献したい	自分の知識や経験を活かしたい	社会への見聞を広げたい	友人や仲間を増やしたい	生活にはりあいを持たせたい	身近な人に誘われた	会社の勤めや命令	社会人として当然と思った	何となく	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	683	353	168	121	201	164	145	12	123	6	48	4
(%)	100	51.7	24.6	17.7	29.4	24	21.2	1.8	18	0.9	7	0.6
《第2回調査(平成8年)》	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	720	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問3付問3. 社会活動不参加理由

	該当数	時間がない	経済的余裕がない	精神的なゆとりがない	健康や体力に自信がない	家族など周囲の理解や協力が得られない	自分にあつた活動の場がない	いっしょにやる仲間がない	何から始めるか、きっかけがつかめない	興味がない、関心がない	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	1582	718	112	283	320	22	278	144	445	183	91	51
(%)	100	45.4	7.1	17.9	20.2	1.4	17.6	9.1	28.1	11.6	5.8	3.2
《第2回調査(平成8年)》	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	1758	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問3付問4. 社会活動不参加者の今後の活動意向

	該当数	積極的に参加したい	条件によっては参加してもよい	参加するつもりはない	わからない	無回答
《今回調査(平成13年)》	1582	79	867	183	427	26
(%)	100	5	54.8	11.6	27	1.6
《第2回調査(平成8年)》	0	-	-	-	-	-
(%)	0	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	1758	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問4. 生きがい構成要素取得の場

(1) 生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは...

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1930	605	243	855	136	167	26	111
(%)	100	76.4	24	9.6	33.9	5.4	6.6	1	4.4
《第2回調査(平成8年)》	2430	1872	620	235	695	134	129	10	106
(%)	100	77	25.5	9.7	28.6	5.5	5.3	0.4	4.4
《第1回調査(平成3年)》	2573	1959	678	313	671	143	152	18	106
(%)	100	76.1	26.4	12.2	26.1	5.6	5.9	0.7	4.1

問4. 生きがい構成要素取得の場

(2) 生活のどの場で、リズムやメリハリがつかますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1404	849	299	563	215	183	43	186
(%)	100	55.6	33.6	11.8	22.3	8.5	7.2	1.7	7.4
《第2回調査(平成8年)》	2430	1359	770	310	485	219	159	37	213
(%)	100	55.9	31.7	12.8	20	9	6.5	1.5	8.8
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-

問4. 生きがい構成要素取得の場

(3) 心の安らぎや気持ちよさを感じるのは...

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1885	113	138	1234	65	286	27	140
(%)	100	74.7	4.5	5.5	48.9	2.6	11.3	1.1	5.5
《第2回調査(平成8年)》	2430	1824	116	177	1029	98	225	20	138
(%)	100	75.1	4.8	7.3	42.3	4	9.3	0.8	5.7
《第1回調査(平成3年)》	2573	1959	164	242	1051	113	286	12	119
(%)	100	76.1	6.4	9.4	40.8	4.4	11.1	0.5	4.6

問4. 生きがい構成要素取得の場

(4) どの場で喜びや満足感を感じる事が多いですか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1849	466	178	689	152	267	41	181
(%)	100	73.2	18.5	7	27.3	6	10.6	1.6	7.2
《第2回調査(平成8年)》	2430	1786	440	199	546	137	229	29	195
(%)	100	73.5	18.1	8.2	22.5	5.6	9.4	1.2	8
《第1回調査(平成3年)》	2573	1791	513	253	495	143	232	55	226
(%)	100	69.6	19.9	9.8	19.2	5.6	9	2.1	8.8

問4. 生きがい構成要素取得の場

(5) 人生観や価値観に影響を与えているのは...

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1257	427	214	892	539	231	53	221
(%)	100	49.8	16.9	8.5	35.3	21.3	9.1	2.1	8.8
《第2回調査(平成8年)》	2430	1175	386	264	864	469	185	59	202
(%)	100	48.4	15.9	10.9	35.6	19.3	7.6	2.4	8.3
《第1回調査(平成3年)》	2573	1089	440	326	854	629	197	55	217
(%)	100	42.3	17.1	12.7	33.2	24.4	7.7	2.1	8.4

問4. 生きがい構成要素取得の場

(6) 生活の目標や目的は、どこにあると感じますか

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1823	430	165	171	406	211	27	266
(%)	100	72.2	17	6.5	6.8	16.1	8.4	1.1	10.5
《第2回調査(平成8年)》	2430	1830	441	190	142	344	199	30	200
(%)	100	75.3	18.1	7.8	5.8	14.2	8.2	1.2	8.2
《第1回調査(平成3年)》	2573	1974	436	223	124	428	176	30	211
(%)	100	76.7	16.9	8.7	4.8	16.6	6.8	1.2	8.2

問4. 生きがい構成要素取得の場

(7) どの場での生活が自分自身を向上させていると...

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	864	779	358	474	625	246	97	254
(%)	100	34.2	30.9	14.2	18.8	24.8	9.7	3.8	10.1
《第2回調査(平成8年)》	2430	797	720	423	478	612	221	61	226
(%)	100	32.8	29.6	17.4	19.7	25.2	9.1	2.5	9.3
《第1回調査(平成3年)》	2573	656	744	524	479	786	223	66	242
(%)	100	25.5	28.9	20.4	18.6	30.5	8.7	2.6	9.4

問4. 生きがい構成要素取得の場

(8) 可能性を実現したり、やりとげたと感じるのは...

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1008	872	358	202	405	289	143	223
(%)	100	39.9	34.5	14.2	8	16	11.4	5.7	8.8
《第2回調査(平成8年)》	2430	970	830	415	152	378	289	131	219
(%)	100	39.9	34.2	17.1	6.3	15.6	11.9	5.4	9
《第1回調査(平成3年)》	2573	986	853	439	182	402	295	178	237
(%)	100	38.3	33.2	17.1	7.1	15.6	11.5	6.9	9.2

問4. 生きがい構成要素取得の場

(9) 役に立っていると感じたり評価を得ているのは…

	総数	家庭	仕事・会社	地域・近隣	個人的友人	世間・社会	その他	どこにもない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1584	795	401	306	214	175	104	152
(%)	100	61.9	31.5	15.9	12.1	8.5	6.9	4.1	6
《第2回調査(平成8年)》	2430	1511	760	423	218	218	149	93	165
(%)	100	62.2	31.3	17.4	9	9	6.1	3.8	6.8
《第1回調査(平成3年)》	2573	1460	813	487	270	236	147	121	186
(%)	100	56.7	31.6	18.9	10.5	9.2	5.7	4.7	7.2

問5. 生きがいの意味

総数	生活の活力がはやりある	生活のリズムやメリハリ	心の安らぎや気晴らし	生きる喜びや満足感	人生観や価値観の形成	生きる目標や目的	自分自身の向上	自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じる	他人や社会の役に立っていると感じること	その他	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2525	657	242	673	1015	167	454	535	656	341	21	45
(%)	100	26	9.6	26.7	40.2	6.6	18	21.2	26	13.5	0.8	1.8
《第2回調査(平成8年)》	2430	632	212	686	949	149	438	503	632	381	12	40
(%)	100	26	8.7	28.2	39.1	6.1	18	20.7	26	15.7	0.5	1.6
《第1回調査(平成3年)》	2573	934	209	814	1079	155	434	679	-	413	7	49
(%)	100	36.3	8.1	31.6	41.9	6	16.9	26.4	-	16.1	0.3	1.9

問5付問. 生きがいの有無

総数	持っている	前は持っていたが、今は持っていない	持っていない	わからない	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2525	1804	130	179	360	52
(%)	100	71.4	5.1	7.1	14.3	2.1
《第2回調査(平成8年)》	2430	1982	107	96	208	39
(%)	100	81.6	4.4	4	8.5	1.6
《第1回調査(平成3年)》	2573	1670	203	344	285	71
(%)	100	64.9	7.9	13.4	11.1	2.8

問6. 生きがいの内容

総数	仕事	趣味	スポーツ	学習活動	社会活動	自然とのふれあい	配偶者・結婚生活	子ども・孫・親などの家族・家庭	友人など家族以外の人の交流	自分自身の健康づくり	ひとりで気ままに過ごすこと	自分自身の内面の充実	その他	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2525	454	1066	227	135	130	467	748	1416	651	412	275	410	40	50
(%)	100	18	42.2	9	5.3	5.1	18.5	29.6	56.1	25.8	16.3	10.9	16.2	1.6	2
《第2回調査(平成8年)》	2430	442	950	171	96	144	377	589	1096	562	388	179	328	14	8
(%)	100	18.2	39.1	7	4	5.9	15.5	24.2	45.1	23.1	16	7.4	13.5	0.6	0.3
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問7. 夫婦関係の現状

(1) 配偶者は私を頼りにしてくれている

総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2525	863	1267	313	28	54
(%)	100	34.2	50.2	12.4	1.1	2.1
《第2回調査(平成8年)》	2430	920	1173	255	18	64
(%)	100	37.9	48.3	10.5	0.7	2.6
《第1回調査(平成3年)》	2573	1015	1166	278	25	89
(%)	100	39.4	45.3	10.8	1	3.5

問7. 夫婦関係の現状

(2) 配偶者は私を理解している

総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2525	631	1271	508	50	65
(%)	100	25	50.3	20.1	2	2.6
《第2回調査(平成8年)》	2430	675	1294	381	23	57
(%)	100	27.8	53.3	15.7	0.9	2.3
《第1回調査(平成3年)》	2573	843	1257	359	30	84
(%)	100	32.8	48.9	14	1.2	3.3

問7. 夫婦関係の現状

(3) 配偶者は私を愛している

総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2525	792	1279	324	48	82
(%)	100	31.4	50.7	12.8	1.9	3.2
《第2回調査(平成8年)》	2430	804	1234	293	27	72
(%)	100	33.1	50.8	12.1	1.1	3
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問7. 夫婦関係の現状

(4) 配偶者と価値観・考え方が似ている

総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2525	312	1018	895	231	69
(%)	100	12.4	40.3	35.4	9.1	2.7
《第2回調査(平成8年)》	2430	303	1033	849	174	71
(%)	100	12.5	42.5	34.9	7.2	2.9
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問7. 夫婦関係の現状

(5) 共通の趣味がある

総数	まったくそのとおり	まあそのとおり	あまりそうでない	まったく違う	無回答	
《今回調査(平成13年)》	2525	324	707	938	487	69
(%)	100	12.8	28	37.1	19.3	2.7
《第2回調査(平成8年)》	2430	287	598	1032	436	77
(%)	100	11.8	24.6	42.5	17.9	3.2
《第1回調査(平成3年)》	2573	317	571	1048	518	119
(%)	100	12.3	22.2	40.7	20.1	4.6

問7. 夫婦関係の現状
(6) 対話がある

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	701	1212	479	69	64
(%)	100	27.8	48	19	2.7	2.5
《第2回調査(平成8年)》	2430	721	1169	433	37	70
(%)	100	29.7	48.1	17.8	1.5	2.9
《第1回調査(平成3年)》	2573	758	1162	513	42	98
(%)	100	29.5	45.2	19.9	1.6	3.8

問7. 夫婦関係の現状
(7) よく一緒に出かける

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	822	914	605	114	70
(%)	100	32.6	36.2	24	4.5	2.8
《第2回調査(平成8年)》	2430	747	945	587	77	74
(%)	100	30.7	38.9	24.2	3.2	3
《第1回調査(平成3年)》	2573	815	870	686	103	99
(%)	100	31.7	33.8	26.7	4	3.8

問7. 夫婦関係の現状
(8) 配偶者は私の趣味や行動を尊重している

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	824	1255	326	53	67
(%)	100	32.6	49.7	12.9	2.1	2.7
《第2回調査(平成8年)》	2430	757	1192	366	45	70
(%)	100	31.2	49.1	15.1	1.9	2.9
《第1回調査(平成3年)》	2573	827	1229	360	54	103
(%)	100	32.1	47.8	14	2.1	4

問7. 夫婦関係の現状
(9) 配偶者は私を助けてくれる

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	894	1144	356	54	77
(%)	100	35.4	45.3	14.1	2.1	3
《第2回調査(平成8年)》	2430	865	1134	340	29	62
(%)	100	35.6	46.7	14	1.2	2.6
《第1回調査(平成3年)》	2573	975	1117	358	32	91
(%)	100	37.9	43.4	13.9	1.2	3.5

問7. 夫婦関係の現状
(10) 配偶者は私によりかかりすぎる

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	166	538	1393	353	75
(%)	100	6.6	21.3	55.2	14	3
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	177	591	1375	328	102
(%)	100	6.9	23	53.4	12.7	4

問7. 夫婦関係の現状
(11) 配偶者と家事を分担している

	総数	まったくそ のとおり	まあそのと おり	あまりそう でない	まったく違う	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	190	651	1102	526	56
(%)	100	7.5	25.8	43.6	20.8	2.2
《第2回調査(平成8年)》	2430	248	659	1012	454	57
(%)	100	10.2	27.1	41.6	18.7	2.3
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 夫婦関係で大切なこと
(1) 配偶者と互いに頼りにしあうこと

	総数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切 ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1465	876	93	38	53
(%)	100	58	34.7	3.7	1.5	2.1
《第2回調査(平成8年)》	2430	1616	671	71	20	52
(%)	100	66.5	27.6	2.9	0.8	2.1
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 夫婦関係で大切なこと
(2) 配偶者と互いに理解しあうこと

	総数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切 ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1787	596	76	11	55
(%)	100	70.8	23.6	3	0.4	2.2
《第2回調査(平成8年)》	2430	1761	556	57	7	49
(%)	100	72.5	22.9	2.3	0.3	2
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 夫婦関係で大切なこと
(3) 配偶者からの愛情が感じられること

	総数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切 ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1487	792	162	21	63
(%)	100	58.9	31.4	6.4	0.8	2.5
《第2回調査(平成8年)》	2430	1430	753	160	19	68
(%)	100	58.8	31	6.6	0.8	2.8
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 夫婦関係で大切なこと
(4) 価値観や考え方を共有すること

	総数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	910	1179	285	85	66
(%)	100	36	46.7	11.3	3.4	2.6
《第2回調査(平成8年)》	2430	900	1096	298	62	74
(%)	100	37	45.1	12.3	2.6	3
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 夫婦関係で大切なこと
(5) 共通の趣味を持つこと

	総数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	483	1248	384	343	67
(%)	100	19.1	49.4	15.2	13.6	2.7
《第2回調査(平成8年)》	2430	537	1162	409	258	64
(%)	100	22.1	47.8	16.8	10.6	2.6
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 夫婦関係で大切なこと
(6) 対話を持つこと

	総数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1640	746	66	13	60
(%)	100	65	29.5	2.6	0.5	2.4
《第2回調査(平成8年)》	2430	1581	731	51	12	55
(%)	100	65.1	30.1	2.1	0.5	2.3
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 夫婦関係で大切なこと
(7) 一緒に行動すること

	総数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	636	1377	264	177	71
(%)	100	25.2	54.5	10.5	7	2.8
《第2回調査(平成8年)》	2430	731	1296	211	120	72
(%)	100	30.1	53.3	8.7	4.9	3
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 夫婦関係で大切なこと
(8) 互いに独自の趣味や行動を尊重すること

	総数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1294	1029	108	34	60
(%)	100	51.2	40.8	4.3	1.3	2.4
《第2回調査(平成8年)》	2430	1262	962	115	29	62
(%)	100	51.9	39.6	4.7	1.2	2.6
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 夫婦関係で大切なこと
(9) 配偶者と助け合うこと

	総数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1759	650	53	13	50
(%)	100	69.7	25.7	2.1	0.5	2
《第2回調査(平成8年)》	2430	1785	544	35	9	57
(%)	100	73.5	22.4	1.4	0.4	2.3
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問8. 夫婦関係で大切なこと
(10) 配偶者と家事を分担し合うこと

	総数	とても大切	やや大切	わからない	あまり大切ではない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	575	1322	337	236	55
(%)	100	22.8	52.4	13.3	9.3	2.2
《第2回調査(平成8年)》	2430	573	1261	343	191	62
(%)	100	23.6	51.9	14.1	7.9	2.6
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

問9(1). 自分の親が寝たきり等になった場合

	総数	自分自身が中心になって介護する	配偶者が中心になって介護する	主にホームヘルパー等に介護をまかせる	老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1082	194	238	313	444	254
(%)	100	42.9	7.7	9.4	12.4	17.6	10.1
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問9(2). 配偶者の親が寝たきり等になった場合

	総数	自分自身が中心になって介護する	配偶者が中心になって介護する	主にホームヘルパー等に介護をまかせる	老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	769	404	258	334	422	338
(%)	100	30.5	16	10.2	13.2	16.7	13.4
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-

問9(3). 配偶者が寝たきり等になった場合

	総数	自分自身が中心になつて介護する	子ども等が中心になつて介護する	主にホームヘルパー等に介護をまかせる	老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる	夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1888	25	140	127	186	88	71
(%)	100	74.8	1	5.5	5	7.4	3.5	2.8
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-

問9(4). 自分が寝たきり等になった場合

	総数	配偶者が中心になつて介護する	子ども等が中心になつて介護する	主にホームヘルパー等に介護をまかせる	一人で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	950	135	366	564	319	93	98
(%)	100	37.6	5.3	14.5	22.3	12.6	3.7	3.9
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-

問9付問(1). 介護の負担と自分の生活

	総数	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	506	1538	449	32
(%)	100	20	60.9	17.8	1.3
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-

問9付問(2). 介護と共生

	総数	そう思う	どちらとも言えない	そうは思わない	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	779	1462	254	30
(%)	100	30.9	57.9	10.1	1.2
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-

問10(1). 長寿についての受けとめ方

	総数	生きられるなら、いつまでも生きたい	生き長らえるのは健康なうちだけでよい	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	276	2127	85	37
(%)	100	10.9	84.2	3.4	1.5
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-

問10(2). 長生きの年齢

	総数	60歳未満	60~69歳	70~79歳	80~89歳	90~99歳	100歳以上	無回答	平均(歳)
《今回調査(平成13年)》	2525	0	24	475	1553	349	66	58	81.2
(%)	100	0	1	18.8	61.5	13.8	2.6	2.3	81.2
《第2回調査(平成8年)》	2430	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-	-	-	-

問11. 配偶者の職業生活からの引退時期についての年齢規範

	総数	引退にふさわしい年齢がある	健康な限りは何才まででも働いてほしい	引退にふさわしい年齢はない	その他	無回答
《今回調査(平成13年)》	2525	1025	896	450	103	51
(%)	100	40.6	35.5	17.8	4.1	2
《第2回調査(平成8年)》	2430	832	1038	384	60	116
(%)	100	34.2	42.7	15.8	2.5	4.8
《第1回調査(平成3年)》	2573	-	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-	-

※問11. 配偶者の職業生活からの引退時期についての年齢規範(年齢)

	該当数	50歳未満	50~54歳	55~59歳	60~64歳	65~69歳	70~74歳	75歳以上	無回答	平均(歳)
《今回調査(平成13年)》	1025	0	11	31	270	553	141	9	10	64.2
(%)	100	0	1.1	3	26.3	54	13.8	0.9	1	64.2
《第2回調査(平成8年)》	832	2	14	29	226	453	88	6	14	63.7
(%)	100	0.2	1.7	3.5	27.2	54.4	10.6	0.7	1.7	63.7
《第1回調査(平成3年)》	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(%)	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-

問12(1). 定年後の生活設計と夫婦の話し合い(現役)

	該当数	よくある	たまにある	まったくない	無回答
《今回調査(平成13年)》	1495	100	684	600	111
(%)	100	6.7	45.8	40.1	7.4
《第2回調査(平成8年)》	1516	-	-	-	-
(%)	100	-	-	-	-
《第1回調査(平成3年)》	1493	149	752	429	163
(%)	100	10	50.4	28.7	10.9

問12(2). 配偶者の定年後の不安(現役)

Table with 15 columns: 該当数, 生計維持の困難, 住宅の問題, 自分や配偶者の健康, 配偶者や親の介護, 配偶者に先立たれる, 再就職の問題, 家族との人間関係が悪くなる, 生活のはりや生きがい, 所属や肩書がなくなる, 今までの人的交流や情報量が減る, 世の中の情報化の進展についていけない, 社会から取り残される, 時間をもてあます. Rows include data for 平成13年, 平成8年, and 平成3年 surveys.

問12(2). 配偶者の定年後の不安(現役)

Table with 5 columns: 該当数, 地域社会にとけこめなかった, その他, 特に不安を感じない, 無回答. Rows include data for 平成13年, 平成8年, and 平成3年 surveys.

問13(1). 定年後の生活設計と夫婦の話し合い(OB)

Table with 5 columns: 該当数, よくあった, たまにあつた, まったくなかつた, 無回答. Rows include data for 平成13年, 平成8年, and 平成3年 surveys.

問13(2). 配偶者の定年後の生活問題(OB)

Table with 15 columns: 該当数, 経済的に苦しくなった, 住宅問題で困った, 自分や配偶者の健康や体力が衰えた, 配偶者や親の介護が必要になった, 配偶者に先立たれた, 再就職のことで困った, 家族との人間関係が悪くなった, 生活のはりや生きがい, 所属や肩書がなくなり, 今までの人的交流や情報量が減った, 世の中の情報化の進展についていけなかつた, 社会から取り残されてしまった, 時間をもてあました. Rows include data for 平成13年, 平成8年, and 平成3年 surveys.

問13(2). 配偶者の定年後の生活問題(OB)

Table with 5 columns: 該当数, 地域社会にとけこめなかつた, その他, 特に問題はなかつた, 無回答. Rows include data for 平成13年, 平成8年, and 平成3年 surveys.

問14. 性別・年齢(性別)

Table with 4 columns: 総数, 男, 女, 無回答. Rows include data for 平成13年, 平成8年, and 平成3年 surveys.

問14. 性別・年齢(年齢)

Table with 13 columns: 総数, ~34歳, 35~39歳, 40~44歳, 45~49歳, 50~54歳, 55~59歳, 60~64歳, 65~69歳, 70~74歳, 75歳以上, 無回答, 平均(歳). Rows include data for 平成13年, 平成8年, and 平成3年 surveys.

問15. 現在の就業形態

Table with 9 columns: 総数, 正規の社員・従業員, 派遣・嘱託・パートタイマーなど, 自営業・自由業・家族従業員, 内職, シルバー人材センター(高齢者事業団), 無職, その他, 無回答. Rows include data for 平成13年, 平成8年, and 平成3年 surveys.

※問15. 現在の就業形態(退職後経過年数)

Table with 9 columns: 該当数, 5年未満, 5~10年未満, 10~15年未満, 15~20年未満, 20年以上, 0年, 無回答, 平均(年)*0年含む. Rows include data for 平成13年, 平成8年, and 平成3年 surveys.

3. 自由記述の回答の集計結果

本調査では、調査票の問22の(4)において、定年退職に向けて、または定年後の生活をよりよくするための意見、提案等を自由記述形式で回答してもらった。今回の自由記述回答について、テーマ毎に分類すると「雇用」に関するコメントが最も多く、以下、「自立・自助」、「年金」、「定年」等に関する意見が続いた。

〔テーマごとの件数〕

(単位:件)

テーマ	件数	多数意見	件数
雇用	113	高齢者雇用の充実を求めるもの	86
		労働条件その他の改善を求めるもの	27
自立・自助	93	自立への自覚を求めるもの	37
年金	71	制度の充実を求めるもの	25
		生活の不安について	12
定年	59	定年延長すべきとの意見	21
		定年延長すべきでないとの意見	12
健康	43	健康維持・管理の必要性	14
		施設の充実を求めるもの	9
情報・教育	40	定年退職者への教育・情報提供の必要性	23
		経験を生かせる場の提供の必要性	12
社会保障	23	社会福祉の充実を求めるもの	17
能力	23	自己研鑽の必要性	11
		高齢者の能力活用を求めるもの	5
趣味	22	趣味を持つ必要性	11
		施設・活動の場の充実を求めるもの	10
友人	20	友人との交流の必要性	9
社会貢献	18	社会活動の環境づくりの必要性	9
不安	13	将来の不安を訴えるもの	12
その他	42		
合計	580		

(回答者 401人)

また、自由記述の内容については、「将来の不安」の軽減、「生活の安定」を求めるものが多く、さらに「健康の維持」に関するもの、定年に向けての「充実した生活」「心の持ち方」「在り方」といったコメントも多く寄せられた。

以上の意見の中から、その内容について、経済的基盤や健康の維持、心の安定等といった生計面、心理面の安定についての意見を「安全・安定した生活」、また、引退期に心豊かな充実した生活を送るための意見を「充足感の追及」、さらに定年に関する意見を「定年」、および「その他」の4つの項目に分類し、次ページにライフステージごとに、事例として記載する。

	1. サラリーマンシニア前期(35～44 歳)	2. 定年準備期(45～54 歳)
安全・安定した生活	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年金に対する不安が大きすぎる。生活していけるかどうか不安。(男性、39 歳) ○ 定年後の自分自身の生活がどうなるのか、未来のビジョンが描けない。(男性、41 歳) ○ 自分自身が家族や友人と協力して、より良くしていくという取り組みが一番重要。(男性、43 歳) ○ 政治は将来の年金がどうなるのか明確にしてほしい。個人は、社会や周りに関係なく、自分でプランの設計を行う。(男性、44 歳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 働くことで生きがい、健康や精神力などが安定すると思う。企業の役割と社会の役割の中で場所を用意していただきたい。(男性、45 歳) ○ 55 歳を過ぎた人を対象に老後生活を考える機会を国が与える制度を(研修、実体験等)。(男性、49 歳) ○ 医療費負担のない社会構造を望む。(男性、50 歳) ○ 60 歳定年といっても体力・気力・知力もあり、定年でもって働く場所を奪われるのは理不尽。定年後も働ける環境、社会が受け入れる仕組みづくりが必要。中高年、老人と若人が共存できる働く環境がほしい。(男性、50 歳)
充足感の追求	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「生きがいや目標が会社だけではない」「個人だけでなく会社でもメリハリがつけられる」社会を実現する。(男性、38 歳) ○ 会社人間からの脱皮をいかに早く気付かせるかがポイント。(男性、38 歳) ○ 仕事以外の趣味を持たせるよう心がける。(男性、39 歳) ○ 高齢者、特にやる気・技能のある人を職場と巡り合わせる場が必要。(男性、39 歳) ○ 生涯教育のシステムを整備すると同時に、個人のゆとり活用法を教示する機会の提供を求む。(男性、42 歳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢社会になるのだから、求人広告の年齢制限をなくして個人の経験と実力を重視し、個人の人生を尊重する社会づくりを考えてほしい。高齢者が生きがいを感じれる情報、自分を生かせる情報を提供してほしい。(女性、49 歳) ○ 健康で働く気力がある人はいつまでも働いていいと思う。(女性、50 歳) ○ 定年退職者はそれなりの経験と見識を持っており、収入が減ってもよいので、むしろ経験が生かせる場を創設する。(男性、50 歳)
定年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定年年齢の延長、再就職などは論外。これから一番痛みを受けていかななくてはならないのは高齢者ではなく、現役世代なのだから。(男性、39 歳) ○ 定年年齢を撤廃し、本人が希望するまで働ける職場環境をつくる必要があると思う。(男性、40 歳) ○ 定年という考え方をなくすこと。高齢者がこれまでに養った技術を生かせる場を作る。(男性、43 歳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事をしていると、会社が一つの社会となっている場合があるので、定年退職後も何らかの形で勤めた会社に関わっていききたい。(女性、46 歳) ○ 景気が良くない状況で、雇用年齢を延ばすことには反対。逆に定年年齢を下げて、若者に働く場を提供したらどうか。(男性、47 歳) ○ 定年は一定年齢としているが、実際は各人の健康度等による年齢ではないかと考える。(男性、53 歳)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職業人一色とならないような意識づけ、企業・社会の受け入れ、理解が必要。(女性、41 歳) ○ 退職後は自分なりに生活設計を立てる方がよいと思う。企業で働いているうちは飼い犬と思い妥協している。(男性、44 歳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 40 歳以上の世代は、年金掛金を上回る年金受給ができるという試算もなされている。これ以上、中高年に対して何もする必要はない。すべて自己責任で対応すべき世代である。(男性、47 歳) ○ 若い頃に働かなくなったものが、年をとったからという理由だけで、頑張った人間と同一の処遇を受けるのはどうかと思う。(男性、54 歳)

	3. 定年期(55～64 歳)	4. 年金生活期(65～74 歳)
安全・安定した生活	<ul style="list-style-type: none"> ○ 50 歳を過ぎたら会社以外の人と付き合える場所を確保しておく。(OB、男性、55 歳) ○ 第一に安定した経済基盤が必要。第二に夫婦とも健康であること。(OB、男性、56 歳) ○ 定年退職後の生活で経済的に不安にならないような年金制度の充実があつて、はじめて社会に奉仕できると思う。(現役、男性、59 歳) ○ 個人として自分の「生きがい」を早く見つける。(OB、男性、62 歳) ○ 健康第一。健康であつての定年後の生活。(OB、男性、63 歳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会保障制度を大改革して、もっと定年退職者が安心して生き生きと暮らせるような制度を世論として取り上げ、法制化してほしい。(OB、男性、65 歳) ○ 第一に健康。体を動かし、ボランティア等に参加する。(現役、女性、65 歳) ○ 健康であれば、第二の職場も趣味も思う通りのことができる。(OB、女性、67 歳) ○ 定年後の不安をなくすために年金・医療制度をより確実なものとする社会であつてほしい。(OB、男性、69 歳)
充足感の追求	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定年といつても、つい昨日まで現役だった人の能力を役立てる社会的システムが必要。(現役、男性、55 歳) ○ 定年前の専門知識、技能をもっと生かせる場がほしい。就労とボランティアの中間位の報酬があるような職場を。(現役、男性、57 歳) ○ 社会奉仕の義務を制度化する。学生等にボランティアを課す動きがあるが、中高年にも同じ制度を。高齢者はただ旅行ばかりしていればよいという風潮が濃い。(現役、男性、58 歳) ○ 市単位で趣味のクラブを作ること。(OB、男性、58 歳) ○ シルバーによる専門的な活動ができる公的グループを。(現役、男性、60 歳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近隣や地域の人との交流、または友人や仲間との交流を深め、外に出ることが大切である。(OB、男性、66 歳) ○ 他企業の人間と付き合い、定年後も付き合いのような友人を作っておく。企業は、先輩達の定年後の実生活情報を収集し、定年前の人たちにいろいろな面のお話を聞かせる。(OB、男性、66 歳) ○ 現在の 60 歳、70 歳はまだまだ社会に貢献できる年と思う。定年退職者の社会活動の場を作ることを提案。(OB、女性、68 歳) ○ 在職中に自分の専門分野の資格を取る。広く友人や知人との交流を深める。在職中、退職後を問わず、自分を磨く場は社会が作っている。(OB、男性、69 歳)
定年	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定年後の生活設計を個人として確立すること。経済的基盤がある程度のレベルであれば就労せず、雇用の場を若い人に与え、社会活動を実践すべし。(OB、男性、56 歳) ○ 一定の年齢を設定して、全ての人に方向づけをすることは無理がある。可能性は年齢には関係ないと思う。意欲があればそれを発揮できる社会、制度が必要であると思う。(OB、男性、59 歳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いつまでも会社人間でなく、若者に職を譲る(優秀な若者が3～4人採用できる)。(OB、男性、65 歳) ○ 今の若い人は就職難です。60 歳を過ぎた人が、いつまでも企業にしがみつくとはいえないと思う。(OB、女性、65 歳) ○ 定年間際に準備するのではなく、日常の生活態度が肝心。常に何が大事なのか、責任を持った行動を心掛けているようにすれば、周りの人が放っておかない。(OB、男性、67 歳)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定年後は、年金生活者となれば夫婦は平等であり、家事を含めて平等に行う。権利、主張も平等であり、夫婦円満に必要である。(OB、男性、60 歳) ○ 社会、会社に頼ることなく、自分のことは自分でしっかり考えておく。(OB、女性、61 歳) ○ 高齢者の負担はタダでは駄目。若者といえども就職難の時代。生活保護者は良いが、取れる老人からは、それなりの負担を。(OB、男性、62 歳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ サラリーマンにとって、定年退職後の人生こそバラ色だとの思いで、残りの人生を前向きに悔いのない生き方をしたいと常日頃から願っている。(OB、男性、67 歳) ○ 地位、肩書にこだわらないで、体を動かし汗を流すことをいとわない本人の心構えが大切。(OB、男性、72 歳)

4. 調査票質問項目一覧表

今回(第3回調査)		前回(第2回調査)		前々回(第1回調査)	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
本人調査票					
問1 近所づきあいの程度	1 ほとんどつきあいはない 2 顔が合えば挨拶をする 3 たまには立ち話を 4 互いに訪問したり、何かを一緒にする 5 お互いの事情がわかり、困ったときに相談したり助け合う	問1	1 2 3 4 5	問1	1 2 3 4 5
問2 所属・活動団体	1 趣味やスポーツのクラブ・サークル 2 学習・研究会や教養教室 3 職場・職域関係の団体・グループ 4 定年退職者の会など、旧職場の集まり 5 PTA・父母会や子供会・青少年団体 6 難病や障害児・者を持つ家族の会 7 町内会・自治会や防災・防犯協会 8 老人クラブや地域の同好会 9 消費者団体やボランティア、NPOなどの社会活動団体 10 宗教団体・政治団体 11 その他 12 いずれもない			問14	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
付問	世話役・リーダー経験	現在しているもの(問2で丸をつけたものの中から該当番号を記入) 過去に経験のあるもの(問2で丸をつけたものの中から該当番号を記入)		付問	同左 同左
問3 社会活動参加状況	1 定期的に参加している 2 とときどき参加している 3 以前に参加したことがある 4 参加していない			問15	1 2 3 4
付問1	社会活動参加分野	1 地域の生活環境を守る活動 2 地域のイベントや“村おこし”の活動 3 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動 4 児童や青少年活動の世話役としての活動 5 地域の文化財や伝統を守る活動 6 消費者活動や生活向上のための活動 7 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動 8 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動 9 自然保護や環境保全の活動 10 国際交流に関する活動 11 その他		付問1	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
付問2	社会活動参加理由	1 地域や社会に貢献したい 2 自分の知識や経験を活かしたい 3 社会への見聞を広げたい 4 友人や仲間を増やしたい 5 生活にほろあいをもちたい 6 身近な人に誘われた 7 会社の勧めや命令 8 社会人として当然と思った 9 何となく 10 その他		付問2	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
付問3	社会活動不参加理由	1 時間がない 2 経済的余裕がない 3 精神的なゆとりがない 4 健康や体力に自信がない 5 家族など周囲の理解や協力が得られない 6 自分にあつた活動の場がない 7 いっしょにやる仲間がいない 8 何から始めるか、きかけがつかめない 9 興味がない、関心がない 10 その他		付問3	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
付問4	社会活動不参加者の今後の参加意向	1 積極的に参加したい 2 条件によっては参加してもよい 3 参加するつもりはない 4 わからない		付問4	1 2 3 4
問4 生活充足感	(1)健康 (2)時間的ゆとり (3)経済的ゆとり (4)精神的ゆとり (5)家族の理解・愛情 (6)友人・仲間 (7)熱中できる趣味 (8)仕事のほろあい (9)社会的地位 (10)自然とのふれあい (11)近隣との交流 (12)社会の役に立つこと	問3	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)	問2	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12)
問5 自由時間の有無	1 十分にある 2 まあまあ 3 不十分である 4 まったくない	問4	1 2 3 4	問4	1 2 3 4
付問	自由時間の過ごし方	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16

今回(第3回調査)			前回(第2回調査)		前々回(第1回調査)	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	
問6 生きがい構成要素取得の場	(1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは (2)生活のどの場でリズムやメリハリがきますか (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのどこ... (4)生活のどの場で喜びや満足感を感じる... (5)あなたの人生観や価値観に影響を与えている... (6)生活の目標や目的はどこにあると感じますか (7)どの場での生活が自分自身を向上させている... (8)自分の可能性を実現したり、何かをやりとげた... (9)自分が役に立っていると感じたり、評価を得て...	問5 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	同左	問10 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	同左	
問7 重視している立場	(1)家庭人の立場 (2)職業人の立場 (3)地域人の立場 (4)グループ員の立場 (5)地球に住む人間としての立場	問6 (1) (2) (3) (4) (5)	同左	問12 (1) (2) (3) (4) (5)	同左	
問8 性格	(1)人との関係やつながりを大切に (2)自分の世界や個性を大切に (3)いつも目標に向かってつき進む (4)無理をせずマイペースで進む (5)他人にはない自分なりの価値観を持っている (6)自分には他人にない優れたところがある (7)いろいろなことに興味を持ちチャレンジする (8)一つのことじっく取り組む (9)指導者の立場に立とうとする (10)新しいグループの中に、わりと気軽に入れる (11)いろいろな人の話や意見をよく聞く (12)上下の立場や関係を尊重する (13)どんなところでも結構楽しみを見出す	問7 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)	同左	問18 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11)	同左	
問9 生きがいの意味	1 生活の活力やほりあいや 2 生活のリズムやメリハリ 3 心の安らぎや気晴らし 4 生きる喜びや満足感 5 人生観や価値観の形成 6 生きる目標や目的 7 自分自身の向上 8 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること 9 他人や社会の役に立っていると感じること 10 その他	問11 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問 1 2 3 4	問11 1 2 3 4 5 6 7 8 9	付問 1 2 3 4	
付問 生きがいの有無。	1 持っている 2 前は持っていたが、今は持っていない 3 持っていない 4 わからない	付問 1 2 3 4	付問 1 2 3 4	付問 1 2 3 4	付問 1 2 3 4	
問10 生きがいの内容	1 仕事 2 趣味 3 スポーツ 4 学習活動 5 社会活動 6 自然とのふれあい 7 配偶者・結婚生活 8 子ども・孫・親などの家族・家庭 9 友人など家族以外の人との交流 10 自分自身の健康づくり 11 ひとりで気ままに過ごすこと 12 自分自身の内面の充実 13 その他	問12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	問12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	問12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	問12 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	
問11 生きがい度の変化	(1)仕事の面 (2)家庭の面 (3)余暇活動・趣味の面 (4)社会活動の面 (5)生活全体	1 上がった 2 下がった 3 上がったりが不安定 4 変わらない 5 どちらとも言えない	1 高 2 中 3 低	問11 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	問11 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	
問12 友人・仲間の有無	1 いる 2 いない	問8 1 2	問13 1 2	問13 1 2	問13 1 2	
付問1 友人・仲間に知り合った関係	1 幼なじみ・学生時代の友人・仲間 2 職場や仕事を通じて知り合った友人・仲間 3 近隣の人、地域で知り合った友人・仲間 4 趣味・パソコン教室・スポーツや学習を通じて知り合った友人・仲間 5 電子メール、パソコンネット、携帯電話などを通じて知り合った友人・仲間 6 社会活動を通じて知り合った友人・仲間 7 宗教活動を通じて知り合った友人・仲間 8 家族や親戚・縁戚関係を通じて知り合った友人・仲間 9 戦友 10 その他	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9	
付問2 定年後知り合った友人・仲間の関係	問12で丸をつけたものの中から該当番号を記入	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9	付問 1 2 3 4 5 6 7 8 9	
問13 夫婦関係の現状	(1)自分は配偶者を頼りにしている (2)自分は配偶者を理解している (3)自分は配偶者を愛している (4)配偶者と価値観・考え方が似ている (5)共通の趣味がある (6)対話がある (7)よく一緒に出かける (8)配偶者の独自の趣味や行動を尊重している (9)自分は配偶者を助けている (10)配偶者は自分によりかかりすぎる (11)配偶者と家事を分担している	問9 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	同左	問21 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)	同左	
問14 夫婦関係で大切なこと	(1)配偶者と互いに頼りあうこと (2)配偶者と互いに理解しあうこと (3)配偶者から愛情が感じられること (4)価値観や考え方を共有すること (5)共通の趣味を持つこと (6)対話を持つこと (7)一緒に行動すること (8)互いに独自の趣味や行動を尊重すること (9)配偶者と助け合うこと (10)配偶者と家事を分担し合うこと	問10 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	同左	問10 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	同左	

今回(第3回調査)		前回(第2回調査)		前々回(第1回調査)	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問15 家族の介護等	(1)「自分の親」が寝たきり等になった場合 (2)「配偶者の親」が寝たきり等になった場合 (3)配偶者が寝たきり等になった場合 (4)自分が寝たきり等になった場合				
付問1	介護の負担と自分の生活				
付問2	介護と共生				
問16 長寿に対する意識	(1)長寿についての受けとめ方 (2)長生きの年齢				
問17 定年のイメージ		問19		問19	
問18 職業生活からの引退年齢		問20			
問19 定年経験の有無、定年・退職年齢		問23		問24	
問20 定年前(現役)の方に対する質問	(1)定年後の生活設計の有無 (2)定年後の経済基盤として重視するもの (3)定年後の不安 (4)希望する定年後の生活 (5)定年までの勤務希望 (6)退職後の就業希望	問24 (1)		問25 (1)	
		(2)			
		(3)		(2)	
		(4)		(3)	
		(5)		(4)	
		(6)		(5)	

今回(第3回調査)		前回(第2回調査)		前々回(第1回調査)		
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	
(7)退職後の就業予想	1 退職とともに職業生活から引退する 2 退職後も再雇用や勤務延長制度等により、今の会社に勤める 3 退職後は出向先に移籍する 4 退職後は別の企業に再就職する 5 退職後は自分で事業や商売を始める(自由業を含む) 6 退職後は家業を手伝う 7 退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をする 8 その他 9 わからない	(7)	1 2 3 4 5 6 7 8 9			
問21 定年退職または定年前退職を経験した方(OB)に対する質問	(1)退職前の職種	1 専門技術職(研究職・技師等) 2 管理職(役員・課長以上の管理職) 3 事務職(一般事務・営業・経理事務等) 4 販売職(店員・セールス等) 5 技能職・技術補助・生産工程従事・作業者 6 サービス職(添乗員・ホテルマン等) 7 その他	問25 (1) 1 2 3 4 5 6 7	問26 (1)	1 2 3 4 5 6 7	
	(2)退職前の勤務先の企業規模	1 1~29人 2 30~99人 3 100~299人 4 300~999人 5 1000人以上	(2) 1 2 3 4 5	(2)	1 2 3 4 5	
	(3)退職前の就業状況についての満足度 ①仕事の内容 ②就業形態 ③職場での地位の高さ ④賃金 ⑤福利厚生 ⑥職場の人間関係・雰囲気 ⑦全体として	1 とても満足している 2 やや満足している 3 どちらともいえない 4 やや不満である 5 とても不満である	(3) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	同左		
	(4)退職後の就業の有無	1 退職とともに職業生活から引退した 2 退職後も再雇用や勤務延長制度等により、前の会社に勤めた 3 退職後は出向先に移籍した 4 退職後は別の企業に再就職した 5 退職後は自分で事業や商売を始めた(自由業を含む) 6 退職後は家業を手伝うようになった 7 退職後はシルバー人材センターで仕事するようになった 8 その他	(4) 1 2 3 4 5 6 7 8	(3)	1 2 3 4 5 6 7 8	
問21 定年退職または定年前退職を経験した方(OB)に対する質問(続き)	(5)希望していた定年後の就業	1 退職とともに職業生活から引退する 2 退職後も再雇用や勤務延長制度等により、前の会社に勤める 3 退職後は出向先に移籍する 4 退職後は別の企業に再就職する 5 退職後は自分で事業や商売を始める(自由業を含む) 6 退職後は家業を手伝う 7 退職後はシルバー人材センターなどで簡単な仕事をする 8 その他 9 わからない・考えたことがなかった	(5) 1 2 3 4 5 6 7 8 9			
	(6)定年後の生活設計の有無	1 ほとんど設計ができていた 2 ある程度設計ができていた 3 考えてはいた 4 気にはしていたが、あまり深くは考えていなかった 5 まったく考えていなかった	(6) 1 2 3 4 5	(4)	1 2 3 4 5	
	(7)定年後の不安	1 生計維持の困難 2 住宅の問題 3 自分や配偶者の健康 4 配偶者や親の介護 5 配偶者に先立たれる 6 再就職の問題 7 家族との人間関係が悪くなる 8 生活のほりや生きがいなくなる 9 所属や肩書なくなる 10 今までの人的交流や情報量が減る 11 世の中の情報化の進展についていけない 12 社会に取り残される 13 時間をもてあます 14 地域社会にとけこめない 15 その他 16 特に不安を感じない	(7) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	(5)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	
	(8)定年後の生活問題	1 経済的に苦しくなった 2 住宅問題で困った 3 自分や配偶者の健康や体力が衰えた 4 配偶者や親の介護が必要になった 5 配偶者に先立たれた 6 再就職のことで困った 7 家族との人間関係が悪くなった 8 生活のほりや生きがいなくなった 9 所属や肩書なくなり、淋しい思いをした 10 今までの人的交流や情報量が減って困った 11 世の中の情報化の進展についていけず困った 12 社会から取り残されてしまった 13 時間をもてあました 14 地域社会にとけこめなかった 15 その他 16 特に問題はなかった	(8) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16	(6)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14	
付問 定年が契機となったもの	問21 (8)で丸をつけたものの中で、定年が契機となったものの該当番号を記入	(9)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	(7)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	
(9)希望していた定年後の生活	1 健康に恵まれた生活 2 時間的にゆとりのある生活 3 経済的にゆとりのある生活 4 精神的にゆとりのある生活 5 夫婦関係や家族関係を大切に生活 6 友人や仲間とのつきあいを大切に生活 7 好きな趣味にうち込む生活 8 好きな仕事を続ける生活 9 それまでの知識や経験を活かす生活 10 自然とのふれあいのある生活 11 社会のために役立つ生活 12 その他 13 特になかった	(9)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13	(7)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	

今回(第3回調査)		前回(第2回調査)		前々回(第1回調査)	
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問22 定年退職に向けて必要な対応	(1) 個人的対応 1 健康の維持・増進を心がける 2 貯蓄・住宅など、経済的基盤をつくる 3 生涯楽しめる趣味などを持つ 4 定年後も活かせる専門的技術を身につける 5 夫婦・家族の関係を大切にする 6 友人や仲間との交流を深める 7 近隣や地域のひととの交流を深める 8 会社以外の活動の場をつくっておく 9 その他 10 特に何も必要ない	問27 (1)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問27 (1)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
	付問 実際に準備している(した)こと	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	付問	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
	(2) 企業の対応 1 退職準備教育や退職相談を充実させる 2 企業年金の充実や持家取得の援助など、社員の経済的基盤充実に力を入れる 3 労働時間短縮などで、社員の個人的生活にゆとりを持たせる 4 中高年者の能力再開発の研修制度を充実させる 5 希望者には定年年齢を延長させる 6 定年後の再雇用など、再就職の場を用意する 7 ボランティア休暇など、社会活動や余暇活動奨励や支援の制度を設ける 8 定年前の"ならし運転"のための休暇制度を設ける 9 その他 10 特に何も必要ない	(2)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	(2)	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
	(3) 社会的対応 1 できるだけ本人の希望する年齢まで働ける雇用環境をつくる 2 定年退職者の能力を活かす場を増やす 3 サラリーマンOBが気軽に出入りできる交流の場をつくる 4 趣味・学習や社会活動のための機会や情報を提供する 5 中高年者の能力再開発の研修機会や施設を設ける 6 退職後の生活をよりよくするための研究や提案に力を入れる 7 その他 8 特に何も必要ない	(3)	1 2 3 4 5 6 7 8	(3)	1 2 3 4 5 6 7 8
	(4) 自由記述欄 定年退職・定年後の生活に関する意見・提案を自由に記述。	(4)	同左	(4)	同左
問23 仕事や会社とのかわりについて	(1) 仕事の中でこそ自己実現が図れる (2) 仕事は生計を立てるための手段に過ぎない (3) どの会社でも十分通用する職業能力がある (4) 会社は自分を正当に評価している(していた) (5) 自分の会社には尽くしたい (6) 脱サラを考えたことがある・脱サラしたい (7) 上司や同僚とは仕事を離れてもつき合いたい (8) 仕事のためには個人の生活を犠牲にする... (9) 仕事をやるからには多少無理しても出世したい (10) 出世よりも興味のある仕事に専念したい (11) 定年まで会社に勤められるかどうか不安 (12) 会社は定年退職後の社員へのめんどうもよい (13) 定年後は会社の世話になりたくない	問26 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)	同左		
問23 付問 現在の就業状況についての満足度	(1) 仕事の内容 (2) 就業形態 (3) 職場での地位の高さ (4) 賃金 (5) 福利厚生 (6) 職場の人間関係・雰囲気 (7) 全体として	問22(5) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)	同左		
フェイスシート項目					
F1 性別・年齢	性別 1 男 2 女	F1 同左	1 2	F1 同左	1 2
	年齢		年齢を実数で記入		
F2 居住地	都道府県 市区町村	F2 同左	同左	F2 同左	同左
			都道府県名を記入		
			市区町村名を記入		
F3 居住年数	1 5年未満 2 5年以上～10年未満 3 10年以上～20年未満 4 20年以上～30年未満 5 30年以上	F3 同左	1 2 3 4 5	F3 同左	1 2 3 4 5
F4 最終学歴	1 小学校・高等小学校・新制中学校 2 旧制中学校・旧制高等女学校・旧制実業学校・新制高等学校 3 旧制高等学校・高等師範学校・新制短大 4 大学・大学院 5 専門学校・専修学校 6 その他	F4 同左	1 2 3 4 5 6	F4 同左	1 2 3 4 5 6
F5 未既婚	1 未婚 2 既婚(配偶者あり) 3 既婚(離別) 4 既婚(死別)	F5 同左	1 2 3 4	F5 同左	1 2 3 4
F6 世帯構成	1 ひとり暮らし 2 自分たち夫婦だけ 3 自分たち夫婦(または自分)と未婚の子 4 自分たち夫婦(または自分)と子供夫婦(ほかに孫や未婚の子がいる場合を含む) 5 自分たち夫婦(または自分)と親(ほかに子や孫がいる場合を含む) 6 その他	F6 同左	1 2 3 4 5 6	F6 同左	1 2 3 4 5 6
F7 住居形態	1 持ち家(一戸建て) 2 持ち家(分譲マンション等) 3 社宅・会社の寮 4 公社・公団・公営の賃貸住宅 5 民間の借家・マンション・アパート 6 その他	F7 同左	1 2 3 4 5 6	F7 同左	1 2 3 4 5 6
	付問 住宅ローンの有無		1 払っている(残りはあと ____年) 2 払っていない	付問	1 2
F8 現在の健康状態	1 非常に健康 2 まあ健康 3 注意する点はあるが、日常生活に支障はない 4 注意する点があり、日常生活に制限がある 5 病気がち・療養中	F8 同左	1 2 3 4 5	F9 同左	1 2 3 4 5

今回(第3回調査)		前回(第2回調査)		前々回(第1回調査)		
質問番号・質問内容(略記)		回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
F9	過去5年間に経験したライフイベント	1 子どもや孫の誕生 2 子どもの成人・就職 3 子どもや孫との別居 4 子どもの結婚 5 自分自身の入院 6 配偶者の入院 7 その他の家族の入院 8 配偶者の死 9 その他の家族の死 10 昇進・昇格 11 出向・転職・退職 12 災害等による資産の減少・経済的困難 13 自宅の購入・建て替え 14 いずれもない	F10	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14		
F10	世帯年収	1 200万円未満 2 200万円以上～300万円未満 3 300万円以上～400万円未満 4 400万円以上～500万円未満 5 500万円以上～600万円未満 6 600万円以上～800万円未満 7 800万円以上～1000万円未満 8 1000万円以上～1500万円未満 9 1500万円以上	F11	1 2 3 4 5 6 7 8 9		
	付問1 主な収入源	1 給与 2 年金収入(公的・企業・個人年金) 3 不動産収入 4 利息・配当金収入 5 その他				
	付問2 収入の充足程度	1 十分で余裕がある 2 ほぼ十分である 3 やや不足する 4 非常に不足する				
F11	現在の経済的な暮らし向き	1 とても楽だ 2 少し楽だ 3 苦しい 4 とても苦しい				
F12	現在の就業形態	1 正規の社員・従業員 2 派遣・嘱託・パートタイマーなど 3 自営業・自由業・家族従業員 4 内職 5 シルバー人材センター(高齢者事業団) 6 無職 ⇒ (最後に職を離れてから____年) 7 その他	問21	1 2 3 4 5 6 7	問22	1 2 3 4 5 6
F13	現在の職種等	(1)現在の職種 1 専門技術職(研究職・技師等) 2 管理職(役員・課長以上の管理職) 3 事務職(一般事務・営業・経理事務等) 4 販売職(店員・セールス等) 5 技能職・技術補助・生産工程従事・作業員 6 サービス職(添乗員・ホテルマン等) 7 その他 (2)勤務先の従業員数 1 1～29人 2 30～99人 3 100～299人 4 300～999人 5 1000人以上 (3)現在の1週間の勤務日数 現在の1週間の勤務日数を実数で記入。 (4)現在の1日の勤務時間 現在の1日の勤務時間を実数で記入。	問22 (1)	1 2 3 4 5 6 7	問23 (1)	1 2 3 4 5 6 7
			(2)	1 2 3 4 5	(2)	1 2 3 4 5
			(3)	同左	(3)	同左
			(4)	同左	(4)	同左
	調査全体についての感想・意見(自由記述)	調査全体についての感想・意見を自由に記入。	同左	同左	同左	同左
	別の意見聴取に応じてよい方	別の意見聴取に応じてよい方は氏名・住所・電話番号を記入。	同左	同左	同左	同左

今回(第3回調査)		前回(第2回調査)	前々回(第1回調査)		
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
配偶者調査票					
問1 近所づきあいの程度	1 ほとんどつきあいはない 2 顔が合えば挨拶をする 3 たまには立ち話をする 4 互いに訪問したり、何かを一緒にする 5 お互いの事情がわかり、困ったときに相談したり助け合う	問1	1 2 3 4 5	問1	1 2 3 4 5
問2 所属・活動団体	1 趣味やスポーツのクラブ・サークル 2 学習・研究会や教養教室 3 職場・職域関係の団体・グループ 4 定年退職者の会など、旧職場の集まり 5 PTA・父母会や子供会・青少年団体 6 難病や障害児・者を持つ家族の会 7 町内会・自治会や防災・防犯協会 8 老人クラブや地域の同好会 9 消費者団体やボランティア、NPOなどの社会活動団体 10 宗教団体・政治団体 11 その他 12 いずれもない			問6	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12
付問	世話役・リーダー経験	現在しているもの(問2で丸をつけたものの中から該当番号を記入) 過去に経験のあるもの(問2で丸をつけたものの中から該当番号を記入)			
問3 社会活動参加状況	1 定期的に参加している 2 とときどき参加している 3 以前に参加したことがある 4 参加していない			問7	1 2 3 4
付問1	社会活動参加分野	1 地域の生活環境を守る活動 2 地域のイベントや“村おこし”の活動 3 趣味・スポーツや学習グループのリーダーとしての活動 4 児童や青少年活動の世話役としての活動 5 地域の文化財や伝統を守る活動 6 消費者活動や生活向上のための活動 7 障害者・老人の手助けなどの社会福祉活動 8 行政の委員、民生委員、保護司、人権擁護委員等の活動 9 自然保護や環境保全の活動 10 国際交流に関する活動 11 その他			
付問2	社会活動参加理由	1 地域や社会に貢献したい 2 自分の知識や経験を活かしたい 3 社会への見聞を広げたい 4 友人や仲間を増やしたい 5 生活にはりあいを持たせたい 6 身近な人に誘われた 7 会社の勧めや命令 8 社会人として当然と思った 9 何となく 10 その他			
付問3	社会活動不参加理由	1 時間がない 2 経済的余裕がない 3 精神的なゆとりがない 4 健康や体力に自信がない 5 家族など周囲の理解や協力が得られない 6 自分にあった活動の場がない 7 いっしょにやる仲間がいない 8 何から始めるか、きかけがつかめない 9 興味がない、関心がない 10 その他			
付問4	社会活動不参加者の今後の参加意向	1 積極的に参加したい 2 条件によっては参加してもよい 3 参加するつもりはない 4 わからない			
問4 生きがい構成要素取得の場	(1)生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのは… (2)生活のどの場でリズムやメリハリがきますか (3)心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこ… (4)生活のどの場で喜びや満足感を感じる… (5)あなたの人生観や価値観に影響を与えている… (6)生活の目標や目的はどこにあると感じますか (7)どの場での生活が自分自身を向上させている… (8)自分の可能性を実現したり、何かをやりとげた… (9)自分が役に立っていると感じたり、評価を得て…	問5	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9)	問4	(1) (2) (3) (4) (6) (7) (9) (10)
問5 生きがいの意味	1 生活の活力やはりあ 2 生活のリズムやメリハリ 3 心の安らぎや気晴らし 4 生きる喜びや満足感 5 人生観や価値観の形成 6 生きる目標や目的 7 自分自身の向上 8 自分の可能性の実現や何かをやりとげたと感じること 9 他人や社会の役に立っていると感じる 10 その他	問6	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	問9	1 2 6 3 8 4 5 7 9
付問	生きがいの有無。		付問	付問	1 2 3 4
問6 生きがいの内容	1 仕事 2 趣味 3 スポーツ 4 学習活動 5 社会活動 6 自然とのふれあい 7 配偶者・結婚生活 8 子ども・孫・親などの家族・家庭 9 友人など家族以外の人との交流 10 自分自身の健康づくり 11 ひとりで気ままに過ごすこと 12 自分自身の内面の充実 13 その他	問7	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13		

今回(第3回調査)		前回(第2回調査)	前々回(第1回調査)
質問番号・質問内容(略記)	回答選択肢	質問番号	回答選択肢
問7 夫婦関係の現状	(1)配偶者は私を頼りにしてくれている (2)配偶者は私を理解している (3)配偶者は私を愛している (4)配偶者と価値観・考え方が似ている (5)共通の趣味がある (6)対話がある (7)よく一緒に出かける (8)配偶者は私の趣味や行動を尊重している (9)配偶者は私を助けてくれる (10)配偶者は私によりかかりすぎる (11)配偶者と家事を分担している	問3 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	問10 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)
問8 夫婦関係で大切なこと	(1)配偶者と互いに頼りにしあうこと (2)配偶者と互いに理解しあうこと (3)配偶者から愛情が感じられること (4)価値観や考え方を共有すること (5)共通の趣味を持つこと (6)対話を持つこと (7)一緒に行動すること (8)互いに独自の趣味や行動を尊重すること (9)配偶者と助け合うこと (10)配偶者と家事を分担し合うこと	問4 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)	
問9 家族の介護等	(1)「自分の親」が寝たきり等になった場合 (2)「配偶者の親」が寝たきり等になった場合 (3)配偶者が寝たきり等になった場合 (4)自分が寝たきり等になった場合	1 自分自身が中心になって介護する 2 配偶者が中心になって介護する 3 主にホームヘルパー等に介護をまかせる 4 老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる 5 その他 1 自分自身が中心になって介護する 2 子ども等が中心になって介護する 3 主にホームヘルパー等に介護をまかせる 4 老人ホーム等の施設に入れて、介護をまかせる 5 夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける 6 その他 1 配偶者が中心になって介護する 2 子ども等が中心になって介護する 3 主にホームヘルパー等に介護をまかせる 4 一人で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける 5 夫婦で老人ホーム等の施設に入り、介護を受ける 6 その他	
付問1	介護の負担と自分の生活	1 そう思う 2 どちらとも言えない 3 そうは思わない	
付問2	介護と共生	1 そう思う 2 どちらとも言えない 3 そうは思わない	
問10 長寿に対する意識	(1)長寿についての受けとめ方 (2)長生きの年齢	1 生きられるなら、いつまでも生きたい 2 生き長らえるのは健康なうらだけでよい 3 その他 長生きと思う年齢を実数で記入	
問11 配偶者が職業生活から引退する年齢		1 引退にふさわしい年齢がある ⇒(引退にふさわしい年齢は 才()くらい) 2 健康な限りは何才までも働いてほしい 3 引退にふさわしい年齢はない 4 その他	問8 1 2 3 4
問12 配偶者が定年前の方に質問	(1)定年後の生活設計に関する夫婦の話し合い (2)配偶者の定年後の生活についての不安	1 よくある 2 たまにある 3 まったくない 1 生計維持の困難 2 住宅の問題 3 自分や配偶者の健康 4 配偶者や親の介護 5 配偶者に先立たれる 6 再就職の問題 7 家族との人間関係が悪くなる 8 生活のほりや生きがいなくなる 9 所屬や肩書がなくなる 10 今までの人的交流や情報量が減る 11 世の中の情報化の進展についていけない 12 社会から取り残される 13 時間をもてあます 14 地域社会にとけこめない 15 その他 16 特に不安を感じない	問11 (1) 1 2 3 問9 (2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
問13 配偶者が定年退職または定年前の退職を経験した方に対する質問	(1)定年後の生活設計に関する夫婦の話し合い (2)配偶者の定年後の生活問題	1 よくあった 2 たまにあった 3 まったくなかった 1 経済的に苦しくなった 2 住宅問題で困った 3 自分や配偶者の健康や体力が衰えた 4 配偶者や親の介護が必要になった 5 配偶者に先立たれた 6 再就職のことで困った 7 家族との人間関係が悪くなった 8 生活のほりや生きがいなくなった 9 所屬や肩書がなくなり、淋しい思いをした 10 今までの人的交流や情報量が減って困った 11 世の中の情報化の進展についていけず困った 12 社会から取り残されてしまった 13 時間をもてあました 14 地域社会にとけこめなかった 15 その他 16 特に問題はなかった	問12 (1) 1 2 3 問10 (2) 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16
問14 性別・年齢	性別 年齢	1 男 2 女 年齢を実数で記入	問11 同左 1 2 同左 同左 同左
問15 現在の就業形態		1 正規の社員・従業員 2 派遣・嘱託・パートタイマーなど 3 自営業・自由業・家族従業員 4 内職 5 シルバー人材センター(高齢者事業団) 6 無職 ⇒ (最後に職を離れてから 年) 7 その他	問12 同左 同左 同左 問14 同左 同左

財団法人シニアプラン開発機構は…

厚生労働省、厚生年金基金連合会および民間企業の協力により昭和62年11月に設立された財団です。当財団では、おおむね50歳以上の企業在職者および企業退職者の方々を<シニア>と位置付け、豊かな人生経験を持ち、広範な分野で活躍できるこの年代の方々がその持てる力を活かして、充実したシニア生活を送るためのシステム<シニアプラン>を企画開発し、社会に提案しています。

【主な事業】

- サラリーマンの生きがい、社会活動、生涯学習等の研究
- 年金生活設計(PLP)セミナーの研究開発
- 企業福祉に関する調査研究
- シニアプランフォーラム等、豊かなシニアライフに向けた啓発活動

この調査研究事業は、社会福祉・医療事業団<長寿社会福祉基金>の交付金により財団法人長寿社会開発センターが助成したものです。

第3回

サラリーマンの生活と生きがいに関する調査

～サラリーマンシニアを中心として～

平成14年9月

財団法人 シニアプラン開発機構

東京都新宿区西新宿 4-34-1 東京年金基金センター2階

TEL: 03-5371-2022(代表)

FAX: 03-5371-2100